

# 平安京右京六条四坊七町跡

## ・西京極遺跡

京都市右京区西院月双町 115、114 の一部の発掘調査

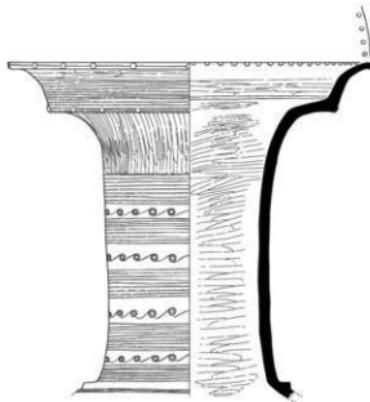
2019

株式会社 四門



# 平安京右京六条四坊七町跡 ・西京極遺跡

京都市右京区西院月双町 115、114 の一部の発掘調査



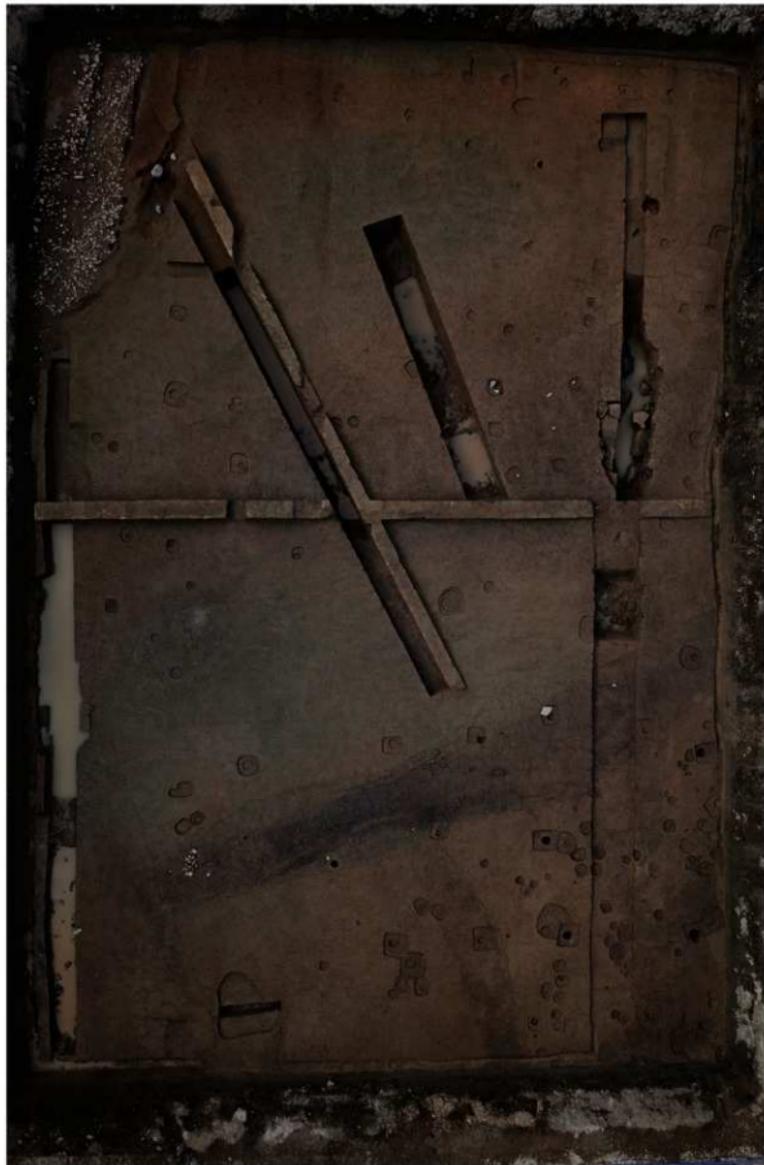
2019 年

株式会社 四門





1-1 裝飾壺（溝 03 出土土器 209）



2-1 飛鳥時代～奈良時代遺構面 完掘状況全景（上空から）



3-1 弥生時代遺構面 完掘状況全景（上空から）



4-1 弥生時代遺構面 完掘状況全景（南西上空から）



4-2 玉作関係石器

## 例　　言

1. 本書は、京都市右京区西院月双町 115、114 の一部における、平安京右京六条四坊七町跡・西京極遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、近藤ヨシエ氏（京都市右京区西院坪町 123）の計画する、老健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査である。文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 92 条の規定により、平成 30 年 4 月 4 日付で届出し、平成 30 年 5 月 2 日付け、0 教文第 5 号の 6 で許可を得た、受付番号 17H509 にあたる。
3. 調査の体制は、京都府教育庁指導部文化財保護課並びに京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課の指導のもとに、株式会社四門 西日本・中部支社 京都支店が契約し実施した。
4. 発掘調査の面積は、約 420m<sup>2</sup>である。
5. 発掘（現地）調査の期間は、平成 30（2018）年 4 月 23 日～平成 30（2018）年 7 月 17 日まで実施した。整理調査は、平成 31（2019）年 3 月 31 日まで行い、報告書を刊行した。
6. 発掘調査及び本報告書作成は、下記の体制にて行った。

株式会社四門 西日本・中部支社 京都支店

文化財事業部長（取締役専務） 山内伸治

西日本・中部支社長 後藤修

京都支店長 五十嵐 大

文化財担当課長 齋 広志

主任調査員 千喜良 淳

調査員 小谷亮二

補助員 山中慶太、浅野広美

整理員 浜修、入江正則、佐々木英二、森直美、菟場育美

中原尚正、木村靖子、中村真波、東山華

作業員 株式会社 アート

7. 発掘調査は千喜良、小谷が、遺構測量は山中が、遺構の写真撮影は小谷、山中が、遺構番号の管理と遺物の取り上げは浅野が主に行った。
8. 整理調査は洗浄は浅野、森、菟場が、土器実測を千喜良、浜、佐々木が、土器の接合復元は中原、木村が、拓本は千喜良、木村が、石器実測は公益財団法人古代学協会に委託し、遺物のデジタルトレースは一般社団法人歴史文化研究所、ナカシャクリエイティブ株式会社に大部分を委託により行い、一部を中村、菟場が、挿図・観察表の作成を中村が、遺物の写真撮影は入江が主に担当した。
9. 本書の執筆は、第 1 章は第 1 節を辻が、第 2 節を千喜良・辻が、第 2 章は第 1 節を中原が、第 2・3 節を佐々木が、第 3 章は第 1 節を千喜良・辻が、第 2 節を浜が、第 4 章は第 1 節を辻が、第 2 節を浜が、第 3・4 節を佐々木が、第 5 節を竹原（パレオ・ラボ）が、第 5 章は第 1 節を浜が、第 2 節を佐々木が、第 3・4 節を辻が執筆した。編集は、辻の指示の下に東山が行った。
10. 遺構図に使用した基準点の設置（座標・水準測量）及び遺構平面図・立面図の作成は、山中が行った。
11. 使用石材の岩種等の鑑定については、検証委員会委員をお願いした橋本清一氏（同志社女子大学・京都府立大学非常勤講師）の調査指導と助言を得た。

12. ガラスの蛍光X線分析については、株式会社パレオ・ラボ東海支店に委託し、竹原弘展が行った。  
分析結果については、本書の第4章第5節に掲載した。

13. 発掘調査及び整理調査、報告書作成にあたっては、下記の方々及び関係機関のご指導、ご協力を得ること  
ことができた。ご芳名を記して感謝の意を表します。

麻森敦子、馬瀬智光、加藤あずみ、黒須亜希子、清水早織、鈴木忠司、園田和洋、竹内千津、新田智子、  
橋本清一、日比猛、森岡秀人、山田邦和（五十音順）

京都府教育庁指導部文化財保護課、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課、  
公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、公益財団法人古代学協会、積水ハウス株式会社西日本特建支店、  
株式会社吉川工務店、株式会社アート、一般社団法人歴史文化研究所、ナカシャクリエイティブ株式会社、  
三星商事印刷株式会社

## 凡例

- 遺構に使用した座標値は、世界測地系平面直角座標系VI（測量成果 2011）に基づいており、方位は座標北を北として表記し、本文中では単位の「m」を省略した。標高は、海拔高（東京湾平均海面高度）を使用し、本文中では「T.P.」を省略した。
  - 色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（小山忠正・竹原秀雄 2016）に準拠した。
  - 使用地図は、2,500 分の 1 は「山ノ内」「西京極」（京都市都市計画局発行）を、50,000 分の 1 は「京都西南部」「京都西北部」（国土交通省国土地理院発行）を調整して用いた。
  - 遺構図は、各図にスケールを掲載し、原則として縮尺を 10・20・40・50・60・100・200・300・400・1,000・5,000・50,000 分の 1 とした。
  - 遺物実測図は各図スケールを掲載し、土器・瓦は原則として縮尺を 4 分の 1 とし、石器（未完成品を含む）・ガラス等は 3 分の 1 とした。
  - 本書に収録した各資料の図は、本書の体裁に合わせて整えるために、それぞれ縮小拡大し加筆した。
  - 本書に収録した図・資料等の引用・参考文献・索引は、各章の本文末に纏めて掲載した。
  - 遺構番号は全て「環濠」「溝」「自然流路」「柵」「掘立柱建物」「道路」「土器棺墓」「土坑」「SP（柱穴）」「集石遺構」の属性と、01 に始まる 2 桁の通し番号とした。
  - 遺構の撮影方向の表示は、トレンチの方向を基準として表示した。
  - 出土遺物には通し番号を付した。実測図・写真図版共に一致している。
  - 出土遺物の年代については、下記の文献を主に使用した。なお、下記の小森俊寛氏の編年を使用する場合は「京〇期」と記載し、相対年代は下記の表に基づいた。
    - 寺沢薫・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年』（近畿編 I・II）木耳社 1989 年・1990 年
    - 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995 年
    - 小森俊寛監修・編『京から出土する土器の編年的研究』京都編集工房 2005 年

## 本文目次

卷頭図版

例言 / 凡例

目次

|                  |    |
|------------------|----|
| 第1章 はじめに         | 1  |
| 第1節 調査に至る経過      | 1  |
| 第2節 調査の経過        | 1  |
| 第2章 地理的環境と歴史的環境  | 7  |
| 第1節 地理的環境と調査地の位置 | 7  |
| 第2節 歴史的環境        | 9  |
| 第3節 周辺の調査        | 10 |
| 第3章 遺構           | 17 |
| 第1節 基本層序と遺構面     | 17 |
| 1. 基本層序          | 17 |
| 2. 遺構面           | 19 |
| 第2節 遺構           | 19 |
| 1. 遺構            | 19 |
| 弥生時代中期           | 19 |
| 弥生時代後期～古墳時代      | 23 |
| 飛鳥～奈良時代          | 26 |
| 平安時代             | 29 |
| 中世               | 33 |
| 第3節 遺物           | 35 |
| 第1節 遺物の概要        | 35 |
| 第2節 土器           | 35 |
| 弥生時代中期           | 35 |
| 弥生時代後期           | 54 |
| 弥生時代後期～古墳時代      | 62 |
| 飛鳥～奈良時代          | 64 |
| 平安時代             | 69 |
| 中世               | 70 |
| 第3節 石器           | 74 |
| 弥生時代中期           | 74 |
| 弥生時代後期           | 84 |

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 第4節 ガラス                         | 96  |
| 第5節 西京極遺跡出土ガラス製品の蛍光X線分析         | 97  |
| 1.はじめに                          | 97  |
| 2.試料と方法                         | 97  |
| 3.分析結果                          | 97  |
| 4.考察                            | 98  |
| 第5章 総括                          | 99  |
| 第1節 西京極遺跡の弥生土器                  | 99  |
| 1.出土弥生土器の概要                     | 99  |
| 1) 弥生時代中期の遺構と土器                 | 99  |
| 2) 弥生時代後期の遺構と土器                 | 100 |
| 2.搬入系の土器群                       | 100 |
| 第2節 出土石器からみた集落の特徴               | 103 |
| 1) 石器の特徴と工房の位置                  | 103 |
| 2) 石材の特徴と地域間交流                  | 104 |
| 第3節 調査地周辺の奈良時代後葉・末と平安時代前期の掘立柱建物 | 106 |
| 1) 条坊制の施工                       | 106 |
| 2) 宅地の班給区画と建物方位                 | 106 |
| 第4節まとめ                          | 110 |
| 弥生時代中期                          | 110 |
| 弥生時代後期～古墳時代                     | 110 |
| 飛鳥～奈良時代                         | 111 |
| 平安時代                            | 111 |
| 中世                              | 112 |

遺物観察表

図版

抄録 / 奥付

## 挿 図 目 次

|                                                                                                                                                                                                           |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 図 1 位置図(1:50,000).....                                                                                                                                                                                    | 1   |
| 図 2 調査位置図(1:2500) .....                                                                                                                                                                                   | 2   |
| 図 3 調査区割付図(1:400) .....                                                                                                                                                                                   | 3   |
| 図 4 调査地盤の地形図(大日本帝国陸地測量部「京都市北部・南部」明治42年版に一部加筆) .....                                                                                                                                                       | 8   |
| 図 5 周辺の主要調査位置図(1:4000) .....                                                                                                                                                                              | 11  |
| 図 6 調査区・南壁・西壁断面図(1:150) .....                                                                                                                                                                             | 18  |
| 図 7 弘生時代中期遺構面 全体図 .....                                                                                                                                                                                   | 20  |
| 図 8 溝 01・02 南壁断面図、環濠 01 中央断面図 .....                                                                                                                                                                       | 21  |
| 図 9 環濠 01 遺物出土状況図 .....                                                                                                                                                                                   | 22  |
| 図 10 上器棺墓 01 遺物出土状況図 .....                                                                                                                                                                                | 22  |
| 図 11 弘生時代後期・古墳時代遺構面 全体図 .....                                                                                                                                                                             | 24  |
| 図 12 溝 03 南壁断面図、自然流路 01 東壁断面図 .....                                                                                                                                                                       | 25  |
| 図 13 自然流路 01 遺物出土状況図 .....                                                                                                                                                                                | 26  |
| 図 14 上坑 01 遺物出土状況図 .....                                                                                                                                                                                  | 26  |
| 図 15 飛鳥～奈良時代遺構面 全体図 .....                                                                                                                                                                                 | 27  |
| 図 16 集石遺構 01、上坑 02、溝 04・05<br>平面図・北壁断面図 .....                                                                                                                                                             | 28  |
| 図 17 平安時代遺構面 全体図 .....                                                                                                                                                                                    | 30  |
| 図 18 振立柱建物 01 平面図・断面図 .....                                                                                                                                                                               | 31  |
| 図 19 溝 06～08 断面図 .....                                                                                                                                                                                    | 32  |
| 図 20 檻 01～03 平面図・断面図 .....                                                                                                                                                                                | 33  |
| 図 21 中世道構面 全体図 .....                                                                                                                                                                                      | 34  |
| 図 22 溝 01(1～14)、溝 02(15～20) .....                                                                                                                                                                         | 37  |
| 図 23 溝 02(21～22)、環濠 01(23～38) .....                                                                                                                                                                       | 39  |
| 図 24 環濠 01(39～53) .....                                                                                                                                                                                   | 41  |
| 図 25 環濠 01(54～67) .....                                                                                                                                                                                   | 45  |
| 図 26 環濠 01(68～93) .....                                                                                                                                                                                   | 48  |
| 図 27 環濠 01(94～116) .....                                                                                                                                                                                  | 50  |
| 図 28 環濠 01(117～141) .....                                                                                                                                                                                 | 52  |
| 図 29 環濠 01(142～163) .....                                                                                                                                                                                 | 53  |
| 図 30 環濠 01(164～190) .....                                                                                                                                                                                 | 55  |
| 図 31 環濠 01(191～206)、溝 03(207～209) .....                                                                                                                                                                   | 56  |
| 図 32 自然流路 01 下層(210～230) .....                                                                                                                                                                            | 58  |
| 図 33 自然流路 01 下層(231～261) .....                                                                                                                                                                            | 59  |
| 図 34 上坑 01(278～280)、4 層・A・2 /<br>包含層(281～287) .....                                                                                                                                                       | 61  |
| 図 35 集石遺構 01(288～325) .....                                                                                                                                                                               | 63  |
| 図 36 集石遺構 01(326～335)、溝 04(336～352),<br>自然流路 01 上層(353～362) .....                                                                                                                                         | 65  |
| 図 37 自然流路 01 上層(363～364・400)、上坑 02(365),<br>上坑 03(366)、振立柱建物 01・03SP(367),<br>振立柱建物 01・04SP(368)、溝 06(369～371),<br>溝 07(372～374)、素振り溝群(375～381),<br>2～1 層 / 包含層(382～392),<br>1.5～7 层 / 包含層(393～399) ..... | 72  |
| 図 38 溝 01(401～404)、溝 02(405～412),<br>環濠 01(413～420) .....                                                                                                                                                 | 75  |
| 図 39 環濠 01(421～442) .....                                                                                                                                                                                 | 79  |
| 図 40 環濠 01(443～456) .....                                                                                                                                                                                 | 81  |
| 図 41 環濠 01(457～471)、02SP(472)、上器棺墓 01(473) .....                                                                                                                                                          | 83  |
| 図 42 溝 03(474～481)、自然流路 01(482～494) .....                                                                                                                                                                 | 87  |
| 図 43 自然流路 01(495～510) .....                                                                                                                                                                               | 89  |
| 図 44 自然流路 01(511～520)、集石遺構 01(521) .....                                                                                                                                                                  | 91  |
| 図 45 集石遺構 01(522～526),<br>4.1～2 层 / 包含層(527～543) .....                                                                                                                                                    | 95  |
| 図 46 調査地周辺の奈良～平安時代の主要遺構 .....                                                                                                                                                                             | 107 |
| 図 47 遺構変遷図 .....                                                                                                                                                                                          | 111 |

## 表 目 次

|                           |     |
|---------------------------|-----|
| 表 1 周辺の調査地一覧 .....        | 12  |
| 表 2 出土遺物概表 .....          | 35  |
| 表 3 半定量分析結果 (mass%) ..... | 97  |
| 表 4 上器窓表 .....            | 113 |
| 表 5 石器窓表 .....            | 122 |

## 写 真 目 次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 写真 1 重機等の搬入 .....             | 3  |
| 写真 2 新規入場者講習 .....            | 3  |
| 写真 3 平安時代道構面の全景撮影 .....       | 4  |
| 写真 4 上器棺墓の検出 .....            | 4  |
| 写真 5 集石遺構 01 の掘削 .....        | 4  |
| 写真 6 山田委員の来訪 .....            | 4  |
| 写真 7 地権者への現況説明 .....          | 4  |
| 写真 8 自然流路 01 の掘削 .....        | 5  |
| 写真 9 自然流路 01 武の上器出土状況 .....   | 5  |
| 写真 10 南東側の柱穴掘り込み作業 .....      | 5  |
| 写真 11 環濠 01 等の掘削作業 .....      | 5  |
| 写真 12 森岡委員の来訪 .....           | 5  |
| 写真 13 自然流路 01 の完掘撮影 .....     | 6  |
| 写真 14 弘生時代道構面の全景撮影 .....      | 6  |
| 写真 15 自然流路 01 武の遺物取上げ状況 ..... | 6  |
| 写真 16 分析対象のガラス製品 .....        | 98 |

## 卷頭図版目次

### 卷頭図版 1

- 1-1 装飾壺（溝 03 出土土器 209）  
1-2 環濠 01 及び溝 01～03 完掘状況（上空から）  
2-1 飛鳥時代～奈良時代遺構面 完掘状況全景（上空から）

### 卷頭図版 3

- 3-1 弥生時代遺構面 完掘状況全景（上空から）  
3-2 環濠 01 及び溝 01～03 完掘状況（南西上空から）  
4-1 玉作關係石器

## 図版目次

### 図版 1

- 1-1 弥生時代検出遺構 全景（南上空から）  
1-2 環濠 01 及び溝 01～03 完掘状況（北上空から）

### 図版 2

- 2-1 環濠 01 上層断面（北東から）  
2-2 環濠 01 遺物出土状況 1  
2-3 環濠 01 遺物出土状況 2  
2-4 環濠 01 遺物出土状況 3  
2-5 環濠 01 遺物出土状況 4

### 図版 3

- 3-1 環濠 01 遺物出土状況 1  
3-2 環濠 01 遺物出土状況 2

### 図版 4

- 4-1 環濠 01 完掘状況全景（北東から）  
4-2 環濠 01 完掘状況全景（南西から）

### 図版 5

- 5-1 溝 01 完掘状況全景（北から）  
5-2 溝 01 土層断面（北から）

### 図版 6

- 6-1 溝 02 完掘状況全景（北から）  
6-2 溝 02 土層断面（北から）

### 図版 7

- 7-1 溝 02 遺物出土状況 1

- 7-2 溝 02 遺物出土状況 2

- 7-3 溝 02 遺物出土状況 3

- 7-4 溝 02 遺物出土状況 4

- 7-5 溝 02 遺物出土状況 5

### 図版 8

- 8-1 上器棺墓 01 出土状況（東から）  
8-2 上器棺墓 01 出土状況（西から）

### 図版 9

- 9-1 溝 03 土層断面（北から）

- 9-2 溝 03 遺物出土状況 1

- 9-3 溝 03 遺物出土状況 2

- 9-4 溝 03 遺物出土状況 3

- 9-5 溝 03 遺物出土状況 4

### 図版 10

- 10-1 自然流路 01 完掘状況全景（北東から）

- 10-2 自然流路 01 上層断面（西から）

### 図版 11

- 11-1 集石遺構 01 完掘状況全景（上空より）

### 図版 12

- 12-1 集石遺構 01 完掘状況（北西から）

- 12-2 調査区北西側柱穴 完掘状況（南西から）

### 図版 13

- 13-1 振立柱建物 01 検出状況（北東から）

- 13-2 振立柱建物 01 完掘状況（南東から）

### 図版 14

- 14-1 種 01～03 完掘状況（北西から）

- 14-2 種 01～02 完掘状況（東から）

### 図版 15

- 15-1 道路 01、溝 06・07 完掘状況（南東から）

- 15-2 素掘り溝群 完掘状況（南東から）

### 図版 16

- 16-1 溝 01（1・3）、溝 02（15・16・18）、環濠 01（44・46・

- 49・66）

### 図版 17

- 17-1 環濠 01（93・103・144・167・180）、溝 03（207～209）

### 図版 18

- 18-1 自然流路 01 下層（217）、自然流路 01 上層（355・360）、上器棺墓 01（277）、上坑 01（278）、集石遺構 01（314・318）、上坑 02（365）、4-1・2層／包含層（墨書き土器 386）

### 図版 19

- 19-1 溝 01（4・7・8・11・12）、溝 02（19～22）、環濠 01（54）

### 図版 20

- 20-1 環濠 01（23・26・28・36・52・57・61・65）

### 図版 21

- 21-1 環濠 01（47・64・68・69・75・78・80・84・85・118）

### 図版 22

- 22-1 環濠 01（88・97・108・111・116・123・131・143・145・150）

### 図版 23

- 23-1 環濠 01（81・154～156・162・163・178）、溝 02（17）、自然流路 01 下層（212・214・223）

### 図版 24

- 24-1 自然流路 01 下層（218・224・227・228・231・234～237・249・251・252・256～259）

### 図版 25

- 25-1 自然流路 01 下層（253・266・268～271）、集石遺構 01（288～290・293・298・301・305・306・312）

### 図版 26

- 26-1 集石遺構 01（319～321・323・324・326・327・331・332・334）、自然流路 01 下層（265）、自然流路 01 上層（354・356・358・363・364）

### 図版 27

- 27-1 溝 01（403・404）、溝 02（406・407・410・411）、4-1・2層／包含層（527・532・535・536・537）

### 図版 28

- 28-1 環濠 01（413～422）

### 図版 29

- 29-1 環濠 01（432～436・446・448・471）

### 図版 30

- 30-1 環濠 01（439・440～442・450）

### 図版 31

- 31-1 環濠 01（451～453・458～462）

### 図版 32

- 32-1 溝 03（474・476～481）

### 図版 33

- 33-1 自然流路 01 下層（482～485・490・501～503・506）

### 図版 34

- 34-1 自然流路 01 下層（495～500・504・507・508）、集石遺構 01（522・523）

### 図版 35

- 35-1 自然流路 01 下層（492～494・509～511）

### 図版 36

- 36-1 環濠 01（445）、上器棺墓 01（473）、4-1・2層／包含層（528～531・534・538・539）

## 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

今回の発掘調査に至る経緯は、京都市右京区西院月双町115、114の一部（図1・2）にて近藤ヨシエ氏が計画し、積水ハウス株式会社西日本特建支店が設計施工する老健施設建設が予定されたことを発端とする。計画された建物は、1,021m<sup>2</sup>の敷地内に、建築面積約512m<sup>2</sup>、5階建ての構造物である。

試掘調査は平成30年2月27日に、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「市文化財保護課」という。）が、これまでの周辺の調査成果を踏まえて、建築予定範囲内の遺構・遺物の有無、その残存状況等を把握するために行った。実施にあたっては、1本の南北トレレンチが設定（図3）され、表土下約0.8～1mの盛土の下に旧耕作土があり、この耕作土の下層で平安時代～中世の溝や柱穴、弥生時代の住居跡及び環濠とおもわれる溝、柱穴が良好な状態で残存していることが判明した。

これらの試掘調査の成果から、発掘調査の必要性が生じたため、老健施設を計画する近藤ヨシエ氏並びに代理人と市文化財保護課との間において調査の事前協議がもたれた。この結果、建物が計画されている敷地範囲に、東西 16.5m × 南北 25.5m = 面積 420.75m<sup>2</sup> の要調査範囲が設定された。

発掘調査は、京都府教育庁指導部文化財保護課、市文化財保護課の指導を受け、近藤ヨシエ氏より委託を受けた株式会社四門京都支店が発掘調査を行うことになった。

このように今回の調査は、この老健施設建設に伴う埋蔵文化財の記録保存を目的とした発掘調査で、周知の埋蔵文化財包蔵地である「平安京右京六条四坊七町跡」・「西京極遺跡」を対象とするものである。さらに調査により、遺跡の性格をより詳しく知り得る成果の確保と、歴史的な位置付けを行うと共に、当地の歴史教育の一助とすることを目的とした。

## 第2節 調査の経過

発掘調査の調査範囲は図2の位置で、以前には何らかの建物が建ち、その後は駐車場に利用されていたと考えられるが、調査前では平坦な更地となっていた。

本調査に先立ち、調査範囲の掘削深度から敷地内に掘削土を全て置くことが困難であると



図 1 位置図 (1:50,000)

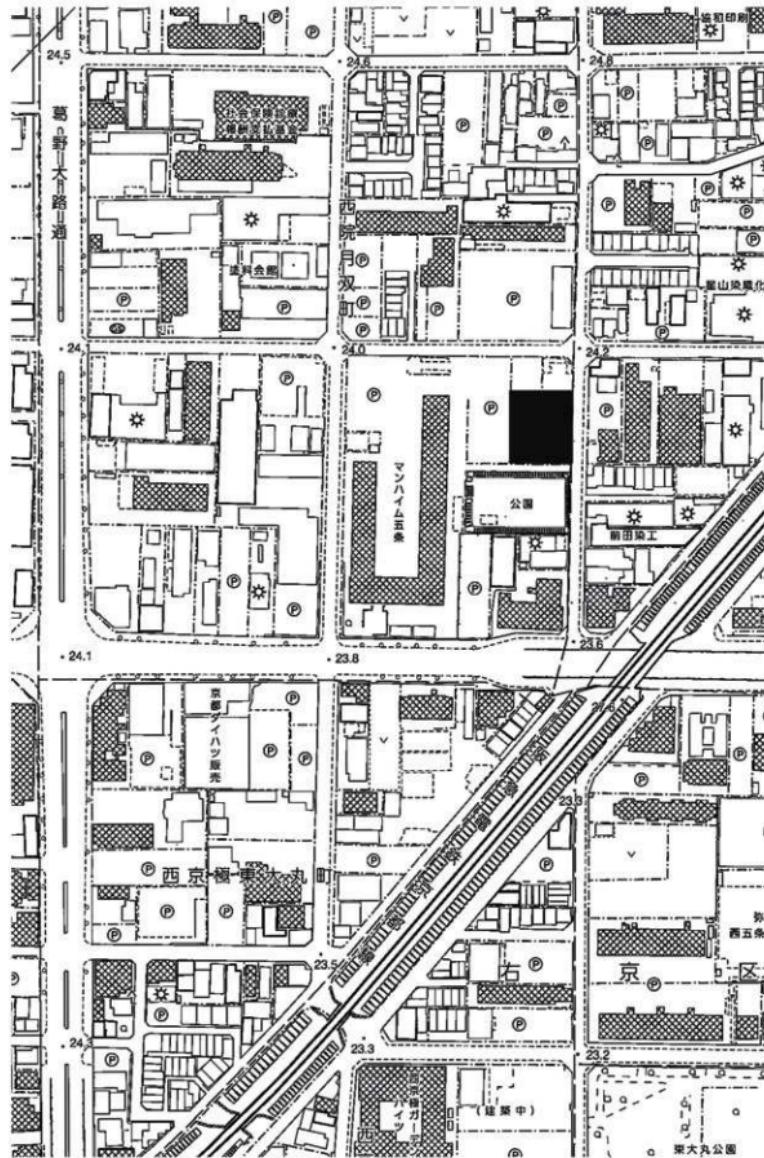


図2 調査地位置図(1:2500)

推測されたため、事前に調査範囲の表土を深さ70cmまで機械掘削により撤出した。

調査区内の遺物取り上げ方法は、北端から南端への5m毎の任意のA～F、西端から東端への5m毎の任意の1～5のグリッドを、図3のように設けて行った。

調査体制としては主任調査員1名、調査員1名、調査補助員1名、作業員5名、重機オペレータ1名、遺物洗浄作業員数名の配置を行った。また、市文化財保護課の指導により、調査検証委員会を設置し、同志社女子大学現代社会学部教授山田邦和氏と関西大学大学院非常勤講師森岡秀人氏、京都府立大学非常勤講師藤本清一氏に委員を委託した。

以下、発掘調査の経過の概要を記す。

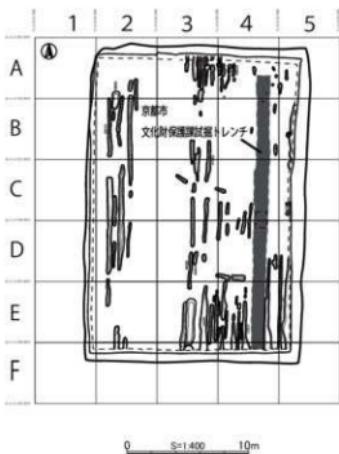


図3 調査区割付図 (1:400)

平成30年4月23～25日

GL下0.7mまでの盛土を掘削し搬出。浅野が立会。

4月23・24日

アスファルト・コンクリートの搬出作業と調査トレーニング打ち。

4月25日

市文化財保護課による、調査範囲の位置決め段階確認終了。

5月7・8日

現場事務所プレハブ・トイレ・ベルコン・重機等の搬入、仮囲い・仮設電気の工事。作業員・補助員への新規入場者講習実施。調査範囲内に基準点の設置。排水溝の掘削時に、サヌキトイド片を含む弥生時代～近世の遺物を採集。

5月9・10日

南側より重機掘削及び人力掘削を開始。近世の遺物が出土した下層で、鏽溝が検出された面を第1面とする。旧耕作土を除去しながら、中世素掘り溝群の検出を行う。調査範囲の計測及びグリッドの設定。

5月11日

中世素掘り溝群の検出を人力掘削にて実施。

5月14日

仮設水道の設置。調査区北東隅の重機掘削を終了し、遺構検出継続。



写真1 重機等の搬入



写真2 新規入場者講習

5月 15日

中世素掘り溝群の検出を終了し検出写真撮影。市文化財保護課の段階確認終了。

5月 16日

中世の素掘り溝群の人力掘削を開始。ほぼ同一面で平安時代と思われる区画溝や柱穴等も確認できることが判明。本日より遺物洗浄を開始。

5月 17日

中世の素掘り溝群の掘削をほぼ終了し、市文化財保護課による段階確認終了。

5月 18日

中世遺構面の全景写真撮影を実施。撮影後に平安時代の区画溝の人力掘削開始。

5月 21日

遺構の掘削継続。下層の弥生時代の遺構を確認するためサブトレンチを入れる。

5月 22日

人力掘削終了。平安時代遺構面の全景写真撮影。

5月 23～31日

南側から弥生時代遺構面まで掘削を開始。以後継続して、北側の掘削開始。平安時代の遺構の追加確認を行う。環濠と思われる遺構も確認し、弥生土器も出土し始める。

6月 1日

市文化財保護課による平安時代遺構面の段階確認終了。

6月 4日

弥生時代の検出面の全景写真撮影。撮影後、自然流路01内にサブトレンチを設定し下層確認のための掘削を開始。調査区北西で飛鳥時代と思われる环濠の関係品が多数出土。周辺にも疊、半円形のプランが見えることから精査を進める。

6月 5～8日

飛鳥時代から奈良時代にかけての集石遺構01の検出を行い、範囲を確認。

6月 9～11日

平安時代の柱穴及び井戸の可能性のある土坑を人力掘削。その結果、井戸ではないことが判明。集石遺構01の掘削を開始。

6月 12・13日

試掘トレンチの掘下げ時に、下層から土器棺墓01と思われる弥生時代中期の完形の甕形土器1個を検出。



写真3 平安時代遺構面の全景撮影



写真4 土器棺墓の検出



写真5 集石遺構 01 の掘削



写真6 山田委員の来跡



写真7 地権者への現況説明

6月 14日

集石遺構 01 の洲浜状礫群が現れる。調査区南の掘立柱建物柱穴の半蔵、写真撮影実施。

6月 18日

午前 7:58 頃に大阪府北部地震（M6.1）が発生したが、既に作業員等は現場到着して作業前準備をしていたため、午前中は作業を実施。帰宅困難者がいる可能性が明らかとなったので、午前中で作業を終了。市文化財保護課試掘トレンチと南北トレンチの間に新たに南北のトレンチ 1 本を設定し、断割りを開始。

6月 19日

平安時代の掘立柱建物及び集石遺構 01 をほぼ完掘したため、全景写真及びドローンによる空撮を実施。

6月 21日

辻が全面の再遺構検出を行い、今後の調査方針を指示。市文化財保護課による段階確認を終了。全景写真撮影とドローン撮影を実施。市担当者より現地説明会の開催方法について、余りの残土量の多さに安全面の確保が困難であるとの指摘あり。その後、現地説明会については、工事期間と安全面確保が困難なため、実施しないことで確認。積水ハウス㈱日比氏が来跡。

6月 22日

集石遺構 01 の礫の除去開始。環濠の掘削を開始。積水ハウス㈱日比氏・吉本氏、吉川工務店中辻氏が来跡。

6月 25日

同志社女子大学山田邦和氏が来跡され、調査状況の説明を行う。集石遺構 01 については、その性格は不明であるとのことであった。しかしながら、平安京内から飛鳥時代の土器がまとめて出土するのは貴重な成果であるという御歎言を頂いた。

6月 26日

北側の完掘写真撮影。集石遺構 01 の壁面分層。吉川工務店中辻氏 2 名が来跡。

6月 27日

南側の完掘写真撮影。調査依頼者の近藤氏とご家族、積水ハウス㈱日比氏 2 名が来跡され、調査状況を説明。

6月 28・29日

弥生時代の環濠 01 及び溝 03 の掘削を開始する。溝 03 からは弥生時代後期の壺型土器がほぼ完形で出土。

7月 2日

サブトレンチで確認していた自然流路 01 の掘削を実施。下層からは弥生時代後期の甕、高壺、壺がまとめて出土。



写真 8 自然流路 01 の掘削



写真 9 自然流路 01 底の土器出土状況



写真 10 南東側の柱穴掘り込み作業



写真 11 環濠 01 等の掘削作業



写真 12 森岡委員の来跡

7月3日

自然流路01の下層の精査を行った。流路の最下層から礫、木材、土器が出土した。環濠01の西端で、完形の広口壺及びミニチュアの手づくねの壺が出土。

7月8・10日

環濠01の掘削を行なながら溝01の掘削を行う。この際、溝01から緑色凝灰岩が出土し、環濠01内出土の広口壺内から石包丁が出土。10日には、関西大学大学院森岡秀人氏が来跡され、環濠01の時期はIV様式末までであるというご助言を頂いた。安全大会を開催。

7月11日

溝03完掘。自然流路01溝底に多量の石器素材、未成品の廃棄されているのを確認。他の環濠や溝の掘削を継続。積水ハウス㈱日吉氏、吉川工務店中辻氏他1名の3名が来跡。

7月12日

自然流路01下層遺物を除き、全ての遺構掘削を終了。市文化財保護課による最終の段階確認を受け終了。その後、全景写真撮影とドローンによる空撮を実施。

7月13日

自然流路01下層の石器・石器素材等を上げ、完掘写真撮影。埋め戻し開始。

7月14日

埋戻作業終了。事務所プレハブ・重機・トイレ等の撤出、仮設電気設備・仮囲い等の撤去搬出作業を終了。

7月17日

施工側の確認を得て現地を引き渡し、現地調査を全て完了した。



写真13 自然流路01の完掘撮影



写真14 弥生時代遺構面の全景撮影



写真15 自然流路01底の遺物取上げ状況

## 第2章 地理的環境と歴史的環境

### 第1節 地理的環境と調査地の位置

本調査地である西京極遺跡は、京都盆地の西側を南流する桂川の左岸に位置している。桂川は鴨川と共に京都盆地を代表する河川であるが、桂川は流域面積や延長など、鴨川をはるかに上回る規模の河川である。京都盆地は鴨川・高野川の扇状地が、盆地北部から南西方に向かって大きく展開し、右京ではこれに御室川、天神川、紙屋川をはじめとした、小河川による扇状地が連続した複合扇状地となっている。桂川は大きな河川ではあるが、上流の亀岡盆地で砂礫が堆積されるため、京都盆地では明瞭な扇状地の発達は見られない。本調査地は御室川などによって形成された堆積物などが開析された結果できた地形であり、比較的高乾な場所に位置している。平安京は北に高く南に低く、また東に高く西および南西に向かって緩やかに傾斜する形状である。これを図4の明治42年測図の標高で見ると、北部が標高約50～60m程で、南部は標高約20～23m程であり、本調査地南部の南西端は平安京では最も低く、標高約20m程である。西京極遺跡で最も高い場所は野々宮神社（西院日照町）に置かれている三角点の標高26.2m付近であり、この周辺から北および北東方向に向かって、北部の山地および東山の麓まで緩やかな起伏を作りながら、徐々に高度を上げる地形となっている。一方、南の方向へは平安京南西端の標高20mのレベルまで高度を下げ、更に緩やかに下降していく。本調査地は標高23～24m程であり、低い丘陵状の地形の末端付近に位置することになる。本調査地の1km程西方を流れる桂川は、それまで東流していた流れが京都盆地に入った付近から南流へと転じ、その流路の左岸にあたる平安京側が攻撃面となるため、東方および東北方への拡大傾向があったことが指摘されている。従って桂川の平安時代の旧流路は、平安京南西端の右京九条四坊付近では現河道とほぼ同様なところを流れているが、本調査地の右京六条四坊付近では、現在より西へ2km程の位置を流れていたと考えられている。

今回の調査地は平安京の西端に位置し、天元5年（982）頃に記された『池亭記』などにより、平安時代の早い時期から市街地としては衰退の見られた地域とされている。特に平安京の南西端地域は、見解の分かれるところではあるが、平安京の条坊制も未完の状態にあったともいわれている。平安京右京の衰退は桂川の洪水や湿地帯との関連で説明されることが多いが、縄文時代～古墳時代の地形環境と、歴史時代の水害等との関係を同じ視点で評価することはできない。地形環境は一度の洪水で激変することもあり、僅かずつ絶えず変化することも考慮しておかなければならない。

このように本調査地は桂川や御室川・天神川・紙屋川、あるいは間接的には鴨川などの堆積作用や浸食作用、またこれらの河川の洪水や流路変更などの影響があったと考えられる。しかし本調査地においては、弥生時代後期以降の堆積厚は薄く、比較的安定した土地であったと思われる。

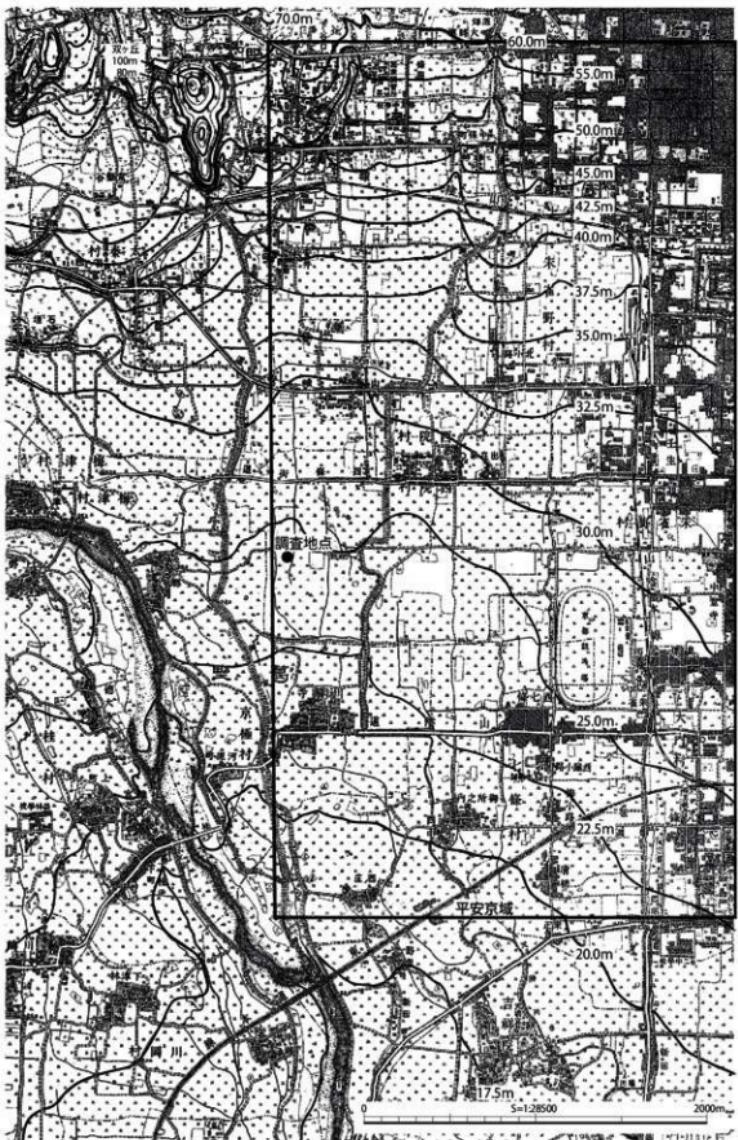


図4 調査地周辺の地形図（大日本帝国陸地測量部「京都市北部・南部」明治42年側図に一部加筆）

## 第2節 歴史的環境

京都盆地とその周辺で発見された先土器時代の石器は、いずれも後期旧石器時代をさかのぼらず、ナイフ形石器と、細石刃、有舌尖頭器が大半を占める。また、石器以外の遺物や遺構は、未だ発見されていない。石器はケシ山、朱雀第六小学校内、沢ノ池、菖蒲谷、広沢池、大枝、京都大学農学部構内の7カ所で発見されている。石材はいずれもサヌカイトである。

縄文時代草創期の土器は、未だ発見されていない。遺物では吉田本町で検出された有茎尖頭器2点であるが、縄文時代の包含層から出土しておらず、その性格は不明である。

早期以降の遺跡は、北白川遺跡群が位置する北東部と、桂川と鴨川に挟まれた京都盆地中央部に焦点をあてて記述していく。早期の遺跡は、主に北白川遺跡群でみられ、石器とともに住居跡も検出されている。前期になると、北白川小倉町に代表されるように、扇状地上での本格的な集落形成が始まる。主な遺跡はやはり北白川遺跡群であるが、盆地中央部には高倉宮下層がある。しかし、遺物は二次的な堆積層からの出土であり、その性格は不明である。中期に入ると、盆地全体に遺跡が分布するようになる。北白川遺跡群のほかに、京都御苑・春日町・西七條市部町、鴻臚館下層などがあり、盆地中央部でも遺跡がみられるようになる。後期に入ると、初頭は中期末に栄えた様子とは対照的に、一転して遺物の出土がみられなくなる。こうした衰退期を挟んで、後期前葉に再び拡大期を迎える、広い範囲で痕跡が認められるようになる。北白川遺跡群内でも広い範囲で遺跡がみられるようになり、京都盆地中央部では、坊城町、上鳥羽などがある。また、後期は遺物の内容も質・量ともに多彩になる時期である。土器の各器形、各種石器のほかに、耳栓状耳飾などの装身具、石棒などの祭祀用品も出土している。晚期は北白川遺跡群のほかに、盆地中央部でも、内膳町、二条城町、高倉宮下層、坊城町、東九条西山王町で遺構がみられるようになる。西京極遺跡でも中津式に比定される土器を伴う埋甕遺構が検出されている。

弥生時代になると、遺跡は盆地全域にわたって急速に広がる。桂川流域の自然堤防上、盆地平野部の湿地に臨む扇状地上、山科盆地の低位段丘上などを中心に集落が営まれる。また、弥生前期の遺跡に関して注目すべき点は、弥生時代前期の土器と縄文晩期の土器が共存している事実である。そのような遺跡は、盆地中央部では高倉宮下層、烏丸綾小路、坊城町、唐橋、内膳町、藻屋町などの遺跡がある。中期になると、住居跡検出遺跡が増え始める。西京極遺跡と同様に弥生時代中期から古墳時代の集落遺跡は、聚楽、二条城北、法性寺跡下層、鳥羽、烏丸綾小路がある。西京極遺跡に隣接する山ノ内は弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡である。後期に入ると遺跡数は減少するが、後期中葉ごろから再び増加する傾向にある。西京極遺跡周辺の遺跡に限れば、同様の傾向を見せる遺跡は烏丸御池、鳥羽がある。後期後半に盛期を迎える遺跡は、中期に集落が平野部に存在した遺跡が復活した形で展開するケースが多くみられるようである。

古墳時代に入ると、遺跡数は倍増し、前期には既存の集落に加えて新しい集落が京都盆地北側と鴨川右岸に形成される。代表的な遺跡として、岩倉忠在地、植物園北がある。しかし、中期に

入ると平野部の集落が衰退し、遺跡数が激減する。大型古墳の造営が、北部の桂川右岸の乙訓古墳群や南部の木津川左岸の久津川古墳群で活発に行われるのと対照的な様相を呈している。これは、京都盆地全体の傾向といえる。古墳時代後期から奈良時代までの遺構は各地で確認されているが、遺跡としてまとまった形での報告は少ない。西京極遺跡では、金環や三輪玉、子持勾玉が出土しており周辺に古墳の存在を想起させる。

奈良時代には、西京極遺跡においても8世紀代の建物跡や蒸籠組の井戸などが確認されており、井戸から墨書き器や大型の円面鏡、小型素文鏡が出土している。さらに、桂川水上交通の拠点として機能したと考えられる梅津があり、立地的観点からみても都衝に適した地であり、奈良時代の山城国葛野郡衙の有力候補地となっている。

平安時代になると西京極遺跡周辺は、平安京造営期の五条大路に面する地点であり、路面に轍や足跡が多数検出されている。このことから、この周辺にも区画割が実施され住宅供給が行われていたと考えられる。しかし、『池亭記』によれば平安時代中期中頃より右京から人家が極めて少なくなっていたこと、『兵範記』によれば、道路は機能を失い、空閑地となり、さらに宅地や田地となって巷所とよばれるところが多数みられたとしている。

本調査地は、平安京の条坊制では右京六条四坊七町北東部分にあたり、周辺一帯は『拾芥抄』収録の「西京図」によれば、平安時代後期には周辺部一帯は「小泉莊」が広がっていたようである。今回の調査でも、平安時代中期から後期にかけてのまとまった遺物は検出されておらず、第1遺構面では平安時代中期から中世と思われる素掘り溝を多数検出している。西京極遺跡内の他の調査地でも同様であることから、畠地が広がっていたものと考えられる。

### 第3節 周辺の調査

本調査地は、西京極遺跡の南に位置し、平安京の条坊では平安京右京六条四坊七町跡にあたる。東は菖蒲小路、北は樋口小路、西は山小路、南は六条坊小路に面する。西京極遺跡は、1978年西院月双町の発掘調査によって、弥生時代の遺物が大量に出土したことで周知された遺跡である。調査地周辺には、西院月双町遺跡・山ノ内遺跡などの弥生時代～古墳時代の遺跡が分布しており、西京極遺跡との関連を想起させる。

図5及び表1により、周辺の調査状況を概観しておく。

#### 【周辺調査地点の概要】

##### No.①

京都市右京区西院清水町155で、調査地の東側に位置する。

弥生時代から平安時代の遺構を検出した。弥生時代の遺構には、竪穴住居や調査地全域で多くの柱穴がある。ただし、出土遺物が少ないと時期は特定されていない。平安時代の遺構では、樋口小路南側溝を比定できる東西溝を検出している。

出土遺物は、土器・石製品・土製品などがあり、大半は弥生土器である。

No. 2

京都市右京区西院月双町 119 で、調査地の南側に位置する。

第1～3トレンチで中世から近世にかけての耕作溝・土坑・柱穴・溝・木棺墓1基を検出した。また、第1トレンチで弥生時代から平安時代以前の竪穴住居・環濠・溝・土坑などを検出している。

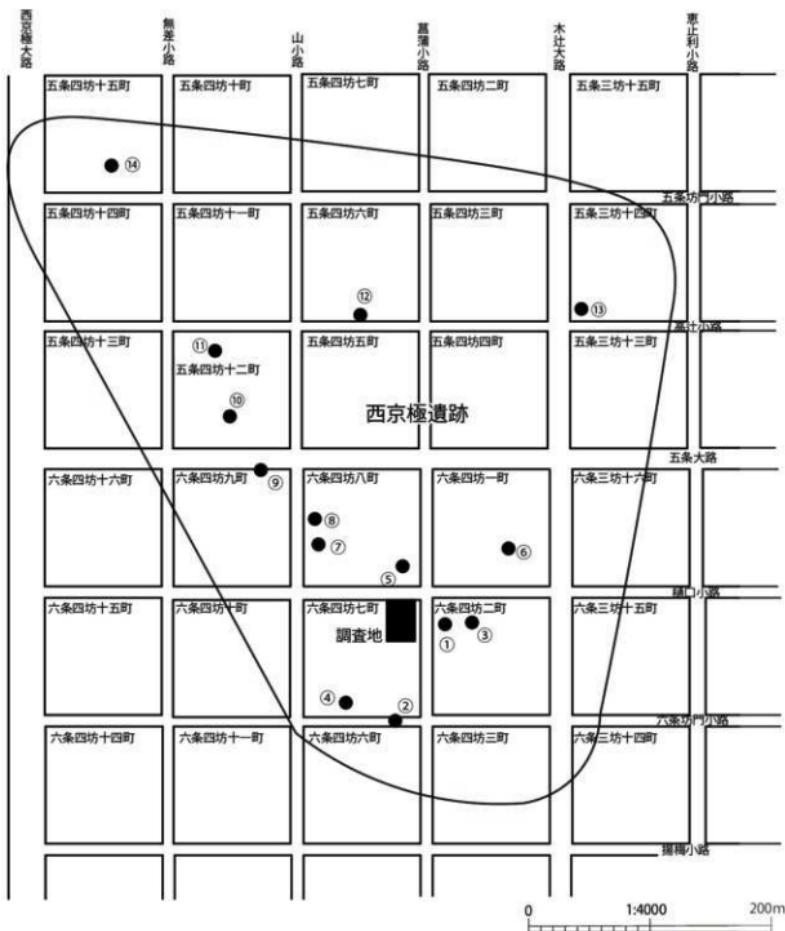


図5 周辺の主要調査地位置図(1:4000)

表1 周辺の調査地一覧

| 所在地        | 条坊名     | 調査法 | 検出遺構                                                | 出土遺物                                                                                         | 引用文献                                                               |
|------------|---------|-----|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| ① 西院清水町155 | 六条内坊二町  | 発掘  | 後生時代～平安時代の遺構。堅穴住居・柱穴・東・西・北。                         | 後生時代の土器・石製品・土製品。平安時代以降の土器類・陶器。                                                               | 「平安京右京六条内坊二町跡」西京発掘調査、平成2年春、京都府埋蔵文化財調査報告書第1号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、1994年。 |
| ② 西院月坂町119 | 六条内坊七町  | 発掘  | 後生時代～平安時代の遺構。堅穴住居・壁・道・土坑。                           | 後生時代の土器・石製品。平安時代の土器類・陶器・石器等。平安時代以降の三脚脚器等・土器類・瓦・瓦葺。                                           | 「平安京右京六条内坊七町跡」平安京右京内坊遺跡 平成2年春発掘調査報告書第三編、財团法人古代学協会、2009年。           |
| ③ 西院清水町10  | 六条内坊二町  | 発掘  | 後生中期～近世の遺構。獨立建物・井戸・堅穴住居。                            | 後生時代の土器類・石器。平安時代の土器類・陶器・石器等。平安時代の瓦器・瓦・瓦葺。平安時代以降の三脚脚器等・土器類。縄文陶器・縦入器器。                         | 「平安京右京六条内坊二町跡」平安京右京内坊遺跡 平成2年春発掘調査報告書第2号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、2007年。     |
| ④ 西院月坂町111 | 六条内坊七町  | 発掘  | 後生時代～近世の遺構。土坑・道・柱穴・深井。                              | 後生土器・石器。                                                                                     | 「22 平安京右京六条内坊七町」『京和50年作 京都府埋蔵文化財調査報告書』財团法人京都府埋蔵文化財研究所、2014年。       |
| ⑤ 西院月坂町84  | 六条内坊八町  | 発掘  | 古墳時代～中世以前の遺構。堅穴住居・壁・道・堅穴住居・土坑・壁。                    | 後生土器・土器類・陶器・灰陶器・石製品。                                                                         | 「平安京右京六条内坊八町跡」西京発掘調査、イビソフ京都府内蔵発掘報告第6報、株式会社イビソフ、2014年。              |
| ⑥ 西院清水町131 | 六条内坊一町  | 発掘  | 後生時代～平安時代の遺構。堅穴住居・土坑・柱穴・柱穴・堅穴住居・耕作跡。                | 後生土器・土器類・陶器・輪入器器・瓦質土器・石器。                                                                    | 「平安京右京内坊一町跡」西京発掘調査、京都府埋蔵文化財調査報告書第16号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、2016年。        |
| ⑦ 西院月坂町81  | 六条内坊九町  | 発掘  | 古墳時代～中世の遺構。獨立建物・土坑・堅穴住居。                            | 後生時代の土器・石器・陶器・瓦器（平安時代の瓦器）・井戸・柱穴・堅穴（廻舟形堅穴）・石器・瓦器・瓦（廻舟形堅穴）・土坑・土器・堅穴・柱穴・瓦器・瓦質土器・輪入器器・縄文陶器・縦入器器。 | 「B 平安京右京六条内坊九町跡・西京発掘調査」京都府内蔵発掘調査報告書 平成25年度、京都府文化市民局、2014年。         |
| ⑧ 西院月坂町82  | 六条内坊九町  | 発掘  | 古墳時代～平安時代の遺構。堅穴住居物・壁・土坑・堅穴住居。                       | 漢文時代の土器・石製品。後生時代の土器・石器・陶器・瓦器。                                                                | 「平安京右京六条内坊九町跡」京都府埋蔵文化財調査報告書第8号、京都府立京都文化博物館、2006年。                  |
| ⑨ 西院月坂町20  | 六条内坊九町  | 発掘  | 漢文時代の土器・堅穴住居以降の遺構・堅穴・道・土坑・壁・瓦器。                     | 漢文時代の土器・堅穴住居以降の土器・石器・瓦器・平安時代の土器・石器・瓦器・瓦・瓦質土器・輪入器器・縄文時代以降の土器・陶器・瓦器・瓦質土器・輪入器器。                 | 「平安京右京六条内坊九町跡・西京発掘調査」京都府埋蔵文化財調査報告書第10号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、1991年。      |
| ⑩ 西院月坂町6   | 五条内坊十二町 | 発掘  | 漢文時代後期～平安時代の遺構・堅穴住居物・土坑・柱穴・道・土坑・壁・瓦器。               | 漢文時代の土器・堅穴住居以降の土器・石器・瓦器・瓦質土器・輪入器器・縄文時代以降の土器・陶器・瓦器・瓦質土器・輪入器器。                                 | 「平安京右京五条内坊十二町跡・西京発掘調査」古代文化遺産会、2010年。                               |
| ⑪ 西院月坂町3   | 五条内坊十二町 | 発掘  | 後生時代後期～中世の遺構・堅穴住居物・方柱・柱穴・土坑・柱穴・道・土坑。                | 後生土器・瓦器・土坑器・土坑器・石器・輪入器器・灰陶器・平瓦・陶器・白磁・青磁・青磁。                                                  | 「14 平安京右京四町」『平成2年春 宝都小埋蔵文化財調査報告書』財团法人京都府埋蔵文化財研究所、1996年。            |
| ⑫ 西院安徳町100 | 五条内坊六町  | 発掘  | 後生時代～中世の遺構。小鹿戸・柱穴・堅穴住居物・壁・柱穴・堅穴住居物・堅穴住居・土坑。         | 後生土器・石器・土器・土器22・陶衣器・内式土器・輪入器器・灰陶器・輪入器器・瓦質土器・瓦・瓦質土器。                                          | 「平安京右京五条内坊六町跡・西京発掘調査」京都府埋蔵文化財調査報告書第2号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、2008年。       |
| ⑬ 西院日照町112 | 五条三坊十四町 | 発掘  | 後生時代～室町時代の遺構・方柱・柱穴・堅穴住居物・方柱・柱穴・土坑・柱穴・道・土坑・柱穴・柱穴・土坑。 | 後生土器・土器類・灰陶器・輪入器器・灰陶器・瓦器・瓦質土器・瓦・土器・石器・石製品・石器・瓦・瓦質土器。                                         | 「平安京右京五条三坊十四町跡・西京発掘調査」京都府埋蔵文化財調査報告書第6号、財团法人京都府埋蔵文化財研究所、2006年。      |
| ⑭ 西院東日川町卯番 | 五条内坊十三町 | 発掘  | 古墳時代～中世の遺構・堅穴住居・土坑・土坑・小鹿戸。                          | 後生土器・古墳時代の土器類・陶器・瓦器・瓦質土器・瓦器・瓦・瓦質土器・瓦・土器・土器。                                                  | 「平安京右京五条内坊十三町跡・西京発掘調査」イビソフ京都府内蔵発掘報告第5報、株式会社イビソフ、2012年。             |

出土遺物は、古墳時代・弥生時代の遺物を中心に出土している。弥生時代の遺物としては、弥生土器・石器・石製品がある。特に、石器・石製品は未製品、剥片などが多数認められ、石器製作にかかる工房の存在を想定している。弥生時代の環濠や石器工房の存在は、今回の調査地との類似性を想起させる。古墳時代の遺物として、須恵器・土師器・石器・勾玉・管玉・白玉などがある。

No.③

京都市右京区西院清水町 15 で、調査地の東側に位置する。

弥生時代から近世の遺構を検出した。遺構は 2 時期に分けられる。第 1 面として奈良時代の掘立柱建物・井戸、平安時代の土坑・柱列、近世の土坑を検出している。第 2 面として弥生時代の竪穴住居・土坑・溝、古墳時代の竪穴住居・土坑を検出している。

出土遺物は、主に縄文時代から近世までのもので、弥生時代の遺物が半数以上である。弥生時代では、弥生土器・石器・土製品・ガラス玉が出土している。

No.④

京都市右京区西院月双町 111 で、調査地の西側に接する。

弥生時代から近世の土坑・溝・柱穴・流路などの遺構を検出した。

出土遺物は、弥生土器・石器などがある。

No.⑤

京都市右京区西院月双町 84 で、調査地の北側に位置する。

平安京条坊制の樋口小路を挟んで、すぐ北側にある。古墳時代から中世以降とみられる遺構を検出している。第 1 遺構面として中世以降とみられる耕作溝、奈良時代末から平安時代の掘立柱建物、土坑、平安時代以降の柵、掘立柱建物、溝を検出している。第 2 遺構面として飛鳥時代から奈良時代にかけての竪穴住居・溝を検出している。第 3 遺構面として古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居・溝・土坑を検出している。

出土遺物は、弥生時代から平安時代までのものがあり、飛鳥時代から奈良時代の土師器・須恵器が多数を占める。

No.⑥

京都市右京区西院清水町 131 に位置し、調査地の北東に位置する。

弥生時代から平安時代の遺構を、検出している。第 1 期として、平安時代の掘立柱建物・柱穴列・柱穴・溝・土坑を検出している。第 2 期として、弥生時代から飛鳥時代の掘立柱建物・柵・竈・竪穴住居・土坑を検出している。

出土遺物は、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代、平安時代、中世にわたるが、ほとんどが古墳時代の土師器・須恵器・石器である。弥生時代の遺物としては、弥生土器がある。

No.⑦

京都市右京区西院月双町 88-1 で、調査地の北西側に位置する。

弥生時代から室町時代までの遺構を、検出している。第 1 面として奈良時代末～平安時代の

掘立柱建物・柱列・溝の遺構を検出している。第2面として古墳時代から奈良時代中頃の竪穴建物の遺構を検出している。

出土遺物は、弥生時代から室町時代までのものがある。古墳時代の遺物が約7割を占め、次いで奈良時代のものが多い。弥生時代の遺物として、弥生土器があり、後期の甕が出土している。古墳時代の土師器・須恵器・土製品・石器・ガラス玉を含む玉類が出土している。平安時代の遺物として、土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器などが出土した。

#### No.⑧

京都市右京区西院月双町82で、調査地の北西側に位置する。

古墳時代から近世の遺構を検出した。遺構は3時に分けられる。第1面として、平安時代から近世の掘立柱建物・柵・土坑を検出している。第2面として古墳時代後期から奈良時代の掘立柱建物・竪穴住居を検出している。第3面として、古墳時代中期の竪穴住居を検出した。

出土遺物は、縄文時代から近世のものが出土している。そのうち、古墳時代後期から奈良時代が約9割を占める。縄文時代から弥生時代の遺物は包含層より出土している。古墳時代の遺物として、土師器・須恵器・製塙土器・石製品がある。奈良時代の遺物として、土師器・須恵器・製塙土器・平瓦・金属製品がある。平安時代の遺物として、土師器・須恵器などがある。他に奈良時代の遺物として、金属製品（素文鏡）が注目される。中世の遺物として、輸入陶磁器などが出土している。

#### No.⑨

京都市右京区西院月双町36～39で、調査地の北西側に位置する。

縄文時代後期から室町時代までの遺構を、検出した。遺構面は5面あり、第1面として、縄文時代の土坑を検出している。第2面として、弥生時代の溝・土坑を検出している。第3面として、古墳時代後期の竪穴住居・溝・土坑を検出している。第4面として、平安時代の溝・土坑・轍・足跡・五条大路南側溝を検出している。第5面として、鎌倉時代以降の溝・土坑が検出した。

出土遺物は、縄文時代から鎌倉以降のものがある。縄文時代の遺物として、土器と石器があり、土器はそのほとんどが摩耗した細片である。弥生時代の遺物として、弥生土器が出土している。古墳時代から平安時代の遺物として、土師器・須恵器・綠釉陶器・施釉陶器・灰釉陶器・黒色土器などがある。

#### No.⑩

京都市右京区西院月双町9他で、調査地の北西側に位置する。

縄文時代後期から平安時代の遺構を、検出した。縄文時代の遺構として、後期初頭の埋甕遺構が出土し、西京極遺跡における縄文時代後期初頭の遺構の存在が明らかになった。弥生時代中期から古墳時代前期の遺構として竪穴住居・溝・土坑の遺構を検出した。奈良時代から平安時代の遺構として、建物・柵・土坑・溝を検出した。

出土遺物は、縄文時代後期から江戸時代のものがあり、弥生時代後期から古墳時代のものが大

半で、奈良時代から平安時代のものが次に多い。弥生土器のほか、縄文時代の中津式の縄文土器が出土している。奈良時代から平安時代の遺物として、土師器・須恵器・灰釉陶器・黒色土器・無釉陶器・綠釉陶器がある。

No.⑪

京都市右京区西院月双町3で、調査地の北西側に位置する。

弥生時代後期から中世までの遺構を重複して検出している。中世の遺構として、東西方向の小溝群、南北方向の小溝群を検出した。耕作に関連した小溝群と考えられる。平安時代の遺構として東西方向の小溝群、南北方向の小溝群を検出している。奈良時代の遺構として、掘立柱建物を検出した。古墳時代末期の遺構として、総柱建物を検出した。古墳時代後期の遺構として、溝を検出した。弥生時代後期の遺構として方形周溝墓・竪穴住居を検出した。

出土遺物は、縄文時代晚期から中世までのものがあり、その内弥生時代後期の土器が多数を占めている。縄文時代の遺物は湿地状堆積土から、縄文時代晚期の甕型土器片が出土している。弥生時代の遺物は、弥生土器・石製品・土製品がある。古墳時代後期の遺物には、土師器・須恵器などがあり、石製品に三輪玉が1点出土している。

No.⑫

京都市右京区西院安塚町100で、調査地の北側に位置する。

弥生時代後期から中世の遺構を検出した。遺構は3時期に分けられる。第1期として、奈良時代から中世の小溝群と溝数条、柱穴などを検出した。第2期として、古墳時代中期から後期の竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑などを検出した。第3期として、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居・溝を検出した。

出土遺物の大半は、弥生時代から古墳時代後期の遺物である。弥生時代から古墳時代前期の遺物として、弥生土器・庄内式土器・石器が出土している。古墳時代中期から古墳時代後期の遺物として、土師器・須恵器がある。

No.⑬

京都市右京区西院日照町112で、調査地の北東側に位置する。

弥生時代から室町時代の遺構を、検出した。弥生時代・古墳時代の遺構として、方形周溝墓・溝・土坑・掘立柱建物がある。平安時代の遺構として、掘立柱建物・柵・溝・井戸・土坑がある。鎌倉・室町時代の遺構として、水田・畑がある。

出土遺物は、弥生時代から中世までの遺物がある。弥生時代の遺物は、個体数は少ないが、ほとんどが方形周溝墓の周溝からの供獻土器と考えられるものである。古墳時代の遺物は、量は極めて少ない。平安時代の遺物は、土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・白磁・青磁・土馬などがある。中世の遺物は、土師器・須恵器・陶磁器のほか漆椀なども出土している。

No.⑭

京都市右京区西院東貝川町59-1で、調査地の北西側に位置する。

古墳時代から中世の遺構を、検出した。第1面として、中世の耕作溝と思われる溝を検出し

ている。第2面として、古墳時代の竪穴住居・土坑・溝を、奈良時代から平安時代の溝・柱穴を検出した。また、古代の道路遺構として確認されることが多い、波板状遺構を検出している。

出土遺物は、弥生土器・土師器・灰釉陶器・瓦・石製品・施釉陶器が出土している。

#### 〔引用参考文献〕

##### （第1節）

戸田伸二「平安京右京の衰退と地形環境変化」『人文地理』第48巻第6号、人文地理学会、1996年

京都市消防局防災対策室編『京都の活断層』第2版、2002年

金田草裕「平安京—京都—」京都大学学術出版会、2007年

金田草裕「古地図で見る京都」平凡社、2016年

##### （第2節）

京都市編『史料　京都の歴史』第2巻・考古・平凡社、1983年

千葉 豊「京都盆地の攢文時代道路」『京都大学構内遺跡調査研究年報』京都大学埋蔵文化財研究センター、1993年

千葉 豊「京都盆地の攢文世界」新泉社、2012年

##### （第3節）

①上村和直・西大條哲「平安京右京六条四坊・西京極道路」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1994年

②江谷寛「平安京右京六条四坊七町跡」「平安京右京内5道路」平安京跡研究調査報告第23輯、（財）古代学協会、2009年

③柏田有香「平安京右京六条四坊二町跡・西京極道路」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-30、（財）京都市埋蔵文化財研究所、2007年

④上村和直・西平安京右京六条四坊七町」「昭和52年度　京都市埋蔵文化財調査概要」（財）京都市埋蔵文化財研究所、2011年

⑤佐藤好司・高木祐介・吉村晶「平安京右京六条四坊八町跡・西京極道路」イビソク京都市内遺跡報告第8輯、株式会社イビソク、2014年

⑥持田透「平安京六条四坊一町跡・西京極道路」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書2016-1、（財）京都市埋蔵文化財研究所、2016年

⑦柏田有香「平安京右京六条四坊八町跡・西京極道路」『京都市内道路発掘調査報告　平成25年度』京都市文化市民局、2014年

⑧柏田有香「平安京右京六条四坊八町跡・西京極道路」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書2006-14、（財）京都市埋蔵文化財研究所、2006年

⑨山下秀樹「平安京右京六条四坊九町・五条大路」京都文化博物館調査研究報告第8集、京都文化博物館、1991年

⑩家崎孝治・上村憲章「平安京右京五条四坊十二町跡・西京極道路」古代文化調査会、2010年

⑪伊藤潔「平安京右京四坊」「平成5年度　京都市埋蔵文化財調査概要」（財）京都市埋蔵文化財研究所、1996年

⑫西森正見「平安京右京五条四坊六町跡・西京極道路」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-20、（財）京都市埋蔵文化財研究所、2008年

⑬木下保明・西森正見「平安京右京五条三坊十四町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-7、（財）京都市埋蔵文化財研究所、2006年

⑭内田真一郎・持田透「平安京右京五条四坊十五町跡・西京極道路」イビソク京都市内遺跡報告第3輯、株式会社イビソク、2012年

# 第3章 遺構

## 第1節 基本層序と遺構面

### 1. 基本層序

調査地全体の傾斜は、調査地北東側から南西側に向かってなだらかに傾斜する。これを標高でいうと、北東隅で標高23.95m、南西隅で標高は23.8mで、北東から南西に向かって26m余りで約15cm下がる、緩やかな傾斜がみられる。しかし、図6の壁面図からは、南北では僅かに南側下りであるが、東西では東側に明らかに下がっている様子がみられる。桂川の影響下で形成された地形と、考えることができるであろう。

基本層序は、調査区の図6調査地南壁断面・西壁断面図から、8層に大別した。各層の概要は、下記のとおりである。

1-1層は、現代の盛土層である。

1-5層は、旧耕作土である。主に戦国時代から江戸時代の遺物を含んでいる。古地図によると、調査地周辺では西院に集落が認められるものの、調査地に該当すると思われる地点は田畠もしくは放棄地であった記載がなされている。以上のことから、調査地は江戸時代においては田畠とされていたと推測される。

1-7層は、鎌倉時代～戦国時代の中世の耕作土である。中世の素掘り溝群の、長期にわたる耕作土である。

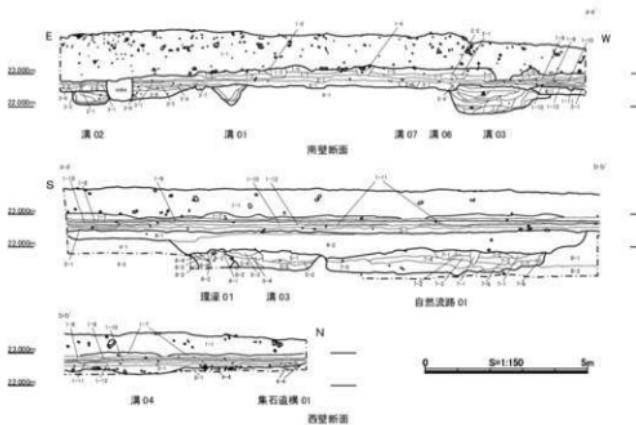
2-1層は、平安時代前期～鎌倉時代の耕作土である。この層の上面で、中世の素掘り溝群等の溝底を検出した。從来から考えられているように、右京では平安時代前期以降宅地としての使用が放棄され、中世には畠地を中心とした耕作地となっていたことを傍証するものである。また、文献では調査地周辺に、平安時代後期～中世初頭にかけて「小泉荘」の存在が推定されているが、調査地内では荘館等の遺構は検出していない。

3-1層は、調査地全体を覆う飛鳥～奈良時代・平安時代初の堆積層で、この層の上面で、平安時代の掘立柱建物1棟、柵3列、溝3条、道路1条等を検出した。

3-2～8層は、調査区南東隅部の堆積層で、地山層である8-1層で検出される弥生時代後期以前の遺構の上に堆積し、飛鳥～奈良時代と考えられる柱穴等の遺構が僅かに残存していた。

4-1・2層は、自然流路01上層の窪地を埋める自然の堆積層で、弥生・古墳時代～飛鳥・奈良時代までの遺物を含む包含層である。

8-1層は、調査地の地山層と考えられる層である。この層の上面から、縄文時代晚期・弥生時代中期～古墳時代後期の遺構を検出した。4層と8層の間の耕作土層や自然堆積層は、全て欠落しており、削平もしくは流出を受けているものと思われる。このことからも、この地域における土砂の堆積量が極めて少なかったことが推測される。



|      |          |         |                                         |
|------|----------|---------|-----------------------------------------|
| 1-1  | NS/      | 灰色      | 褐色土                                     |
| 1-2  | NA/      | 灰黑色     | 旧耕作土, 繊りやや弱い, 粒子細い, やや粘質土               |
| 1-3  | N3/      | 暗灰色     | 旧耕作土, 繊りやや弱い, 粒子細い, やや粘質土               |
| 1-4  | SYS/-2   | 灰褐色～褐色  | 旧耕作土, 繊りやや弱い, 粒子細い, やや粘質土, 蝶野～江戸の遺物を含む  |
| 1-5  | NA/      | 暗灰色     | 旧耕作土, 繊りやや弱い, 粒子細い, やや粘質土, 蝶野～江戸の遺物を含む  |
| 1-6  | NA/      | 暗灰色     | 旧耕作土, 繊りやや弱い, 粒子細い, やや粘質土, 中世の遺物を含む     |
| 1-7  | NA/      | 灰色      | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 1-8  | SYS/-6   | 褐色      | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 1-9  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 1-10 | SYSR/-4  | 灰褐色     | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 1-11 | SYSR/-2  | 灰褐色     | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 1-12 | SYSR/-2  | 灰褐色     | 繊りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 2-1  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土, 平安～中世の遺物を含む      |
| 2-2  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 2-4  | SYSR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 3-1  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土, 飛鳥～奈良・平安前葉の遺物を含む |
| 3-2  | 7SYR/-1  | 墨褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 3-3  | SEB/-1   | 墨青灰色    | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 3-4  | IDBR/-1  | 墨青灰色    | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 3-5  | IDBR/-3  | 赤褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 3-6  | IDBR/-2  | 灰赤褐色    | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 3-7  | IDBR/-1  | 墨青灰色    | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 3-8  | IDBR/-4  | 赤褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 4-1  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土, 飛鳥～奈良・平安前葉の遺物を含む |
| 4-2  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 4-4  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 5-1  | 7SYR/-2  | 褐褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 5-2  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 5-3  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 5-4  | 7SYR/-6  | 褐褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 5-5  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 5-6  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物含む      |
| 6-1  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 6-2  | 7SYR/-2  | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 6-3  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 6-4  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 6-5  | 7SYR/-2  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 6-6  | 7SYR/-4  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |
| 7-1  | SYS/-3   | にじいろ赤褐色 | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物を含む     |
| 7-2  | SYS/-1   | 赤褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物を含む     |
| 7-3  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遺物を含む     |
| 7-4  | 10YRS/-2 | 灰褐色     | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遗物を含む     |
| 7-5  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遗物を含む     |
| 7-6  | 7SYR/-6  | 褐色      | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遗物を含む     |
| 7-7  | 7SYR/-6  | 褐色      | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遗物を含む     |
| 7-8  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土にシルト質土を含む, 遗物を含む     |
| 8-1  | 7SYR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, やや粘質土                   |
| 8-2  | SYSR/-3  | にじいろ褐色  | 織りやや強め, 粒子やや粗い, 粘質土                     |

図 6 調査区 南壁・西壁断面図(1:150)

## 2. 遺構面

遺構面は、中世遺構面（第1面）の素掘り溝群、平安時代遺構面（第2面）の掘立柱建物、柵、区画溝、道路・側溝、飛鳥～奈良時代遺構面（第3面）の集石遺構、弥生時代後期～古墳時代前期遺構面（第4面）の溝、土坑、自然流路、弥生時代中期遺構面（第5面）の環濠、溝等で、主に5面である。

## 第2節 遺構

### 1. 遺構

ここでは、時期の古いものから順に記述する。

#### 弥生時代中期（図7）

##### 溝01（図8）

溝01は、調査区南側で検出した、北西から南東方向に延びる溝である。北側で環濠01に合流する。

溝の規模は、幅1.1～1.2m、検出長約6.4m、深さ約1.0mを測る。環濠01と同時期であるが、環濠01より先に埋没しているようである。断面形はV字状を呈し、埋土は全体的に6層に分層される。少なくとも、2回の掘り直しが考えられる。

溝の時期は、出土遺物からみて弥生時代中期前半を中心に、中期後半初頭まで機能したと思われる。

##### 溝02（図8）

溝02は、調査区南側の南東隅で検出した溝で、北北西から南南東方向に延びる溝である。北側で、環濠01に合流する。

規模は、幅1.2～1.6m、検出長約7.5m、深さ約0.7mを測る。断面形は逆台形に近く、環濠01の当初の形状に似る。埋土は、全体で6層に分層される。このうち5-1層は遺物を多く含み、炭化物も含まれる。5-2～4層も遺物を含む。5-5・6層は地山層8層を多く混在するが、遺物は多くは見られない。上層である5-1～3層は、人為的に埋められている可能性がある。少なくとも、1回の掘り直しが考えられる。

時期は、出土遺物からみて弥生時代中期中頃と考えられる。

##### 環濠01（図8・9）

環濠01は、調査区東南東側から西南西方向に向かって延びる。同時期に存在はしていないようだが、溝01や溝02と合流しながら、調査区南西で溝03に切られる。

規模は、幅1.1～2.7m、検出長約17.0m、深さは環濠の中央部で約0.9m、東端のやや埋んだ部分で約1.2mを測る。断面形は、当初の溝の形状は逆台形を呈するが、中央の掘り直しに伴う溝の形状は、溝01と同じV字状を呈する。溝01や溝02よりも深く、機能していた時

間に幅があるようである。埋土は、32層に分層される。6-4～6層は多量の遺物を含む包含層、6-7～12層は遺物を若干含む、6-13～25層は遺物を含み、6-26～30層は地山層8層のブロックと遺物を多く含み、最下層の6-31・32層からは比較的古相の弥生土器が出土している。環濠01からは、大量の土器が出土しているが、玉作関係の緑色凝灰岩等も出土している。少なくとも3回の掘り直しが考えられる。

時期は、弥生時代中期後半を中心とし、やや遅れる後期中頃までと考えられる。

なお、環濠01の最終時期には、後述する自然流路01と併存していた時期があり、環濠01と自然河道01下層溝の在り方が注意される。

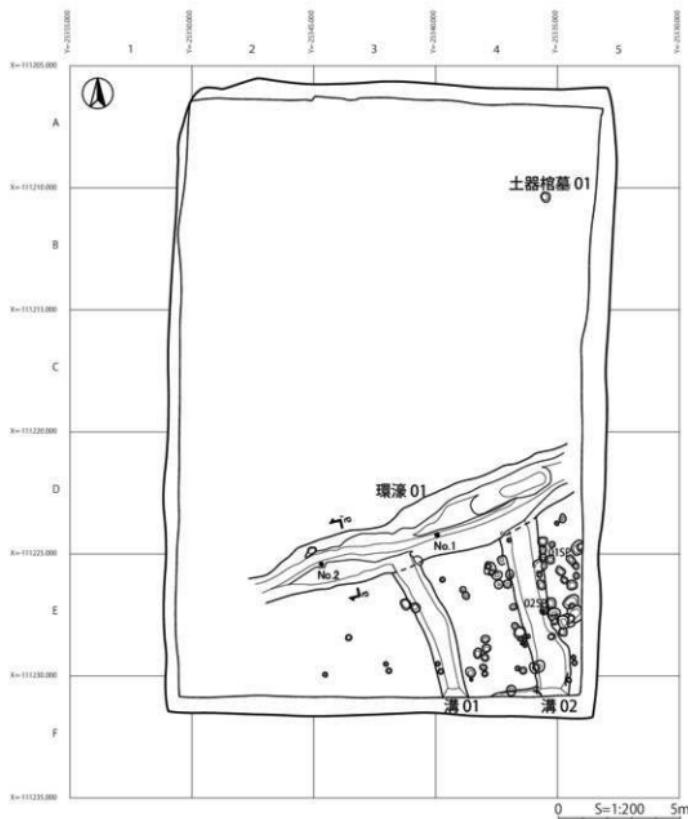
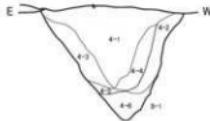


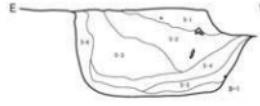
図7 弥生時代中期遺構面 全体図

23.000m

23.000m

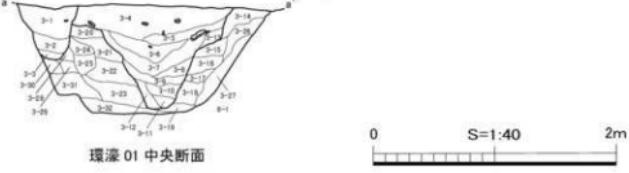


溝 01 南壁断面



溝 02 南壁断面

23.000m



環濠 01 中央断面

|      |          |        |                                 |
|------|----------|--------|---------------------------------|
| 3-1  | 10YR7/3  | にぶい黄褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-2  | 2 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-3  | 2 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-4  | 7 SYR2/2 | 黒褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物・炭化物を多く含む |
| 3-5  | SYR4/1   | 褐灰色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-6  | 2 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-7  | SYR7/6   | 橙色     | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-8  | 10YR5/4  | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-9  | 10YR5/3  | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-10 | 10YR5/2  | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 3-11 | SYR5/3   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 3-12 | 10YR5/2  | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-13 | SYR5/4   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-14 | 10YR7/3  | にぶい黄褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-15 | SYR5/4   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-16 | 2 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-17 | SYR4/6   | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物・炭化物を含む   |
| 3-18 | 2 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物・炭化物を含む   |
| 3-19 | 2 SYR4/3 | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物・炭化物を含む   |
| 3-20 | 2 SYR5/3 | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物・炭化物を含む   |
| 3-21 | SYR5/3   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-22 | SYR4/4   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-23 | 10YR4/3  | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-24 | 2 SYR5/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-25 | 7 SYR4/2 | 灰褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-26 | 7 SYR7/6 | 褐色     | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-27 | SYR4/1   | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 3-28 | 10YR6/4  | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 3-29 | 7 SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。やや粘質土。遺物を含む      |
| 3-30 | 7 SYR4/2 | 灰褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 3-31 | 7 SYR4/2 | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細かい。やや粘質土。遺物を含む      |
| 4-1  | SYR4/1   | 褐灰色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 4-2  | SYR4/1   | 赤褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 4-3  | SYR5/3   | にぶい赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む       |
| 4-4  | SYR4/2   | 灰褐色    | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 4-5  | SYR5/6   | 明赤褐色   | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |
| 4-6  | SYR3/2   | 暗赤褐色   | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む        |

|     |          |     |                            |
|-----|----------|-----|----------------------------|
| 5-1 | 2 SYR4/2 | 灰褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む  |
| 5-2 | 2 SYR6/  | 赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。遺物を含む  |
| 5-3 | 2 SYR4/1 | 赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。やや粘質土。遺物を含む |
| 5-4 | 2 SYR5/1 | 赤褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む   |
| 5-5 | NA/      | 灰褐色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む   |
| 5-6 | ND/      | 褐灰色 | 縹りやや強い。粒子やや細かい。粘質土。遺物を含む   |

|     |          |       |                      |
|-----|----------|-------|----------------------|
| B-1 | 7 SYR7/3 | にぶい暗色 | 縹りやや強い。粒子やや細い。やや粘質土。 |
|-----|----------|-------|----------------------|

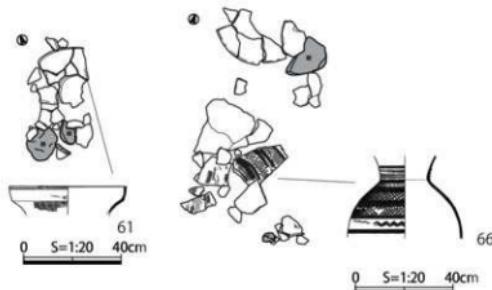
図8 溝 01・02 南壁断面図、環濠 01 中央断面図

### 土器棺墓 01 (図 10)

土器棺墓 01 は、調査区北東側の市文化財保護課試掘トレンチを掘り下げた時に、その下層で検出した。環濠 01 からは 10 m 余り北側に、単独で検出された。

土坑の規模は、長軸 42cm × 短軸 36cm、深さ 37cm の、楕円形の土坑である。この中に、土坑北側に口縁部を斜め上にして、甕形土器 (277) 1 個が置かれていた。また、土器の体部上からは浮いた状態で、敲石 (473) 1 個が埋土上に置かれていたものと考えられる。埋納状況から小児棺の可能性が考えられるが、土器内から骨などは出土しなかった。

時期は、弥生時代中期と考えられる。



環濠 01 No.1 地点

環濠 01 No.2 地点

図 9 環濠 01 遺物出土状況図

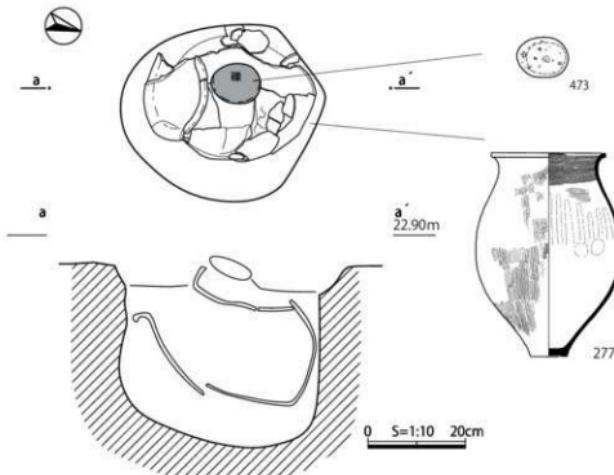


図 10 土器棺墓 01 遺物出土状況図

### 柱穴群（図 7）

調査区の南東隅で、環濠 01 の南側で多くの柱穴を検出した。

柱穴は、径が 0.3 ~ 0.5 m、深さ 0.1 ~ 0.2 m の円形の掘方で、柱径は 10cm 余りで、掘立柱である。柱穴内から、遺物はほとんど出土していないが、02SP からは石包丁の未成品が出土している。建物として把握はできなかったが、環濠 01 の内側にあった何らかの施設が存在したものと考えられる。

時期は、弥生時代中期と考えてよいと思われる。

### 弥生時代後期～古墳時代（図 11）

#### 溝 03（図 12）

溝 03 は、調査区南西隅で検出され、南側から西側方向に大きくカーブする溝である。環濠 01 を切って、自然流路 01 に合流しているものとみられる。

規模は、幅 3.0 ~ 3.3 m、検出長約 5.0 m、深さ約 1.0 m を測る。断面形は逆台形に近く、埋土は、22 層に分層される。このうち 6-1 ~ 4 層は遺物と礫を多く含み、6-5 ~ 7 層は遺物を多く含む包含層で、6-8 ~ 10 層はほとんど遺物を含まない層で、6-15 ~ 18 層は遺物を若干含む層で、6-19 ~ 22 層は溝の最初の西側からの崩落土である。この遺構からは、畿内地方と吉備地方の両者の特徴を併せ持つ特殊壺（209）が出土していることが特筆される。特異な遺物の出土状況から、周溝墓（墳丘墓）などの遺構も想起されるが、他の遺物の出土状態等も含め溝と考えた。

時期は、出土遺物からみて弥生時代後期後半と考えられる。

#### 自然流路 01（図 12・13）

自然流路 01 は、調査区中央部を東側から南西方向に向かって流れる、下層は人工の溝で、上層は下層のポイントバーを壊し、氾濫し拡張し河川となった自然流路であると考えている。下層の溝は、U 字状の断面形状や図 12 の堆積構造から、人工の溝と考えられるものである。上層は東壁付近から大きく 3 倍に広がっている。

規模は、東壁で幅約 2.7 m、西側では大きく広がり約 8.0 m となり、深さは約 0.9 m を測る。埋土は、24 層に分層される。このうち 2-1 ~ 15 層が上層で、2-16 ~ 24 層が下層である。2-1 ~ 15 層（上層）は、古墳～飛鳥・奈良時代の遺物を含む包含層で、2-16・17 層は弥生時代後期～庄内式並行期の遺物を含む包含層で、2-18・19 層からは弥生時代後期初頭の遺物が、2-20 ~ 24 層からはほとんど遺物が出土していない。少なくとも 1 回の掘り直しが考えられる。東壁から流路底部北側にかけて、弥生時代の流路の痕跡が残っていることも、下層と上層が異なる溝であることを裏付けている。

また、流路底部の東側にて、大量の石器の破損品、砥石、石器製作に関する石製道具、石材（10 ~ 30cm 大の自然石）が人為的に投棄されたかたちで出土している。弥生時代の石器の終焉を考える場合、特筆すべき事例であるといえる。

時期は、出土遺物からみて、下層は弥生時代後期～庄内式並行期、上層は古墳時代後期～飛鳥・奈良時代と考えられる。このため、遺構面の復原に当たっても、このことを加味して示している。

### 土坑 01（図 14）

土坑 01 は、調査区南西隅の溝 03 の西側肩の一段降りた部分で検出した。溝 03 との併行関係や土坑内出土遺物の点数が複数個あることから、土器棺墓とするにはやや不安が残るため土坑とした。

規模は、直径約 0.4 m、深さ約 0.3 m の円形の土坑で、壺形土器 1 点（278）のほか、同時期の甕 2 点（279・280）が同時に出土している。

時期は、弥生時代後期後葉と考えられる。

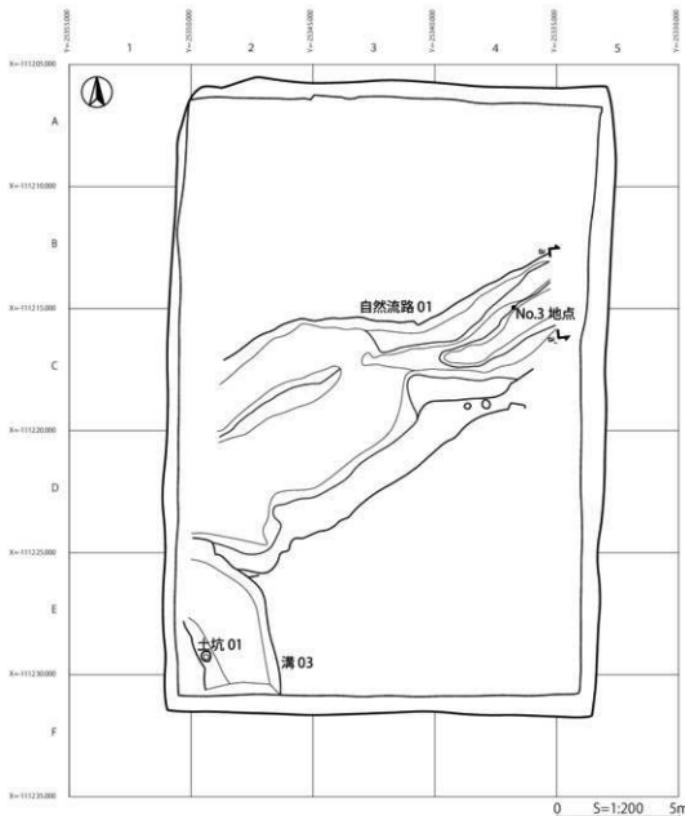


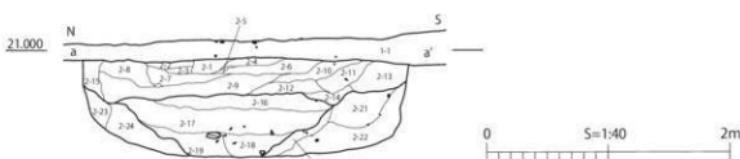
図 11 弥生時代後期～古墳時代遺構面 全体図



溝 03 南壁断面

|      |          |        |                           |
|------|----------|--------|---------------------------|
| 6-1  | SYR6/3   | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-2  | SYR5/2   | にぶい赤褐色 | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土、遺物を含む   |
| 6-3  | SYR6/4   | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土、遺物を含む   |
| 6-4  | SYR6/3   | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土、遺物を含む   |
| 6-5  | SYR4/4   | にぶい赤褐色 | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土、遺物を含む   |
| 6-6  | SYR7/4   | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土、遺物を含む |
| 6-7  | 2.SYR4/3 | にぶい赤褐色 | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土、遺物を含む |
| 6-8  | 2.SYR5/3 | にぶい赤褐色 | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土、遺物を含む |
| 6-9  | 10SYR7/2 | 灰褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土         |
| 6-10 | SYR4/1   | 褐色     | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土         |
| 6-11 | 2.SYR4/2 | 灰褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土、遺物を含む |
| 6-12 | SYR4/2   | 赤褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土         |
| 6-13 | SYR5/1   | 褐灰色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土         |
| 6-14 | SYR4/1   | 赤褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-15 | SYR7/6   | 褐色     | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-16 | SYR6/4   | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-17 | SYR4/1   | 灰褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-18 | SYR7/7   | 褐色     | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-19 | 7.SYR6/4 | にぶい褐色  | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-20 | 7.SYR6/6 | 褐色     | 縞りやや強い、粒子やや粗い、粘質土         |
| 6-21 | 7.SYR4/3 | 褐色     | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |
| 6-22 | 7.SYR5/6 | 明褐色    | 縞りやや強い、粒子やや粗い、やや粘質土       |

B-1 7.SYR7/3 にぶい褐色  
B-2 7.SYR7/3 にぶい褐色

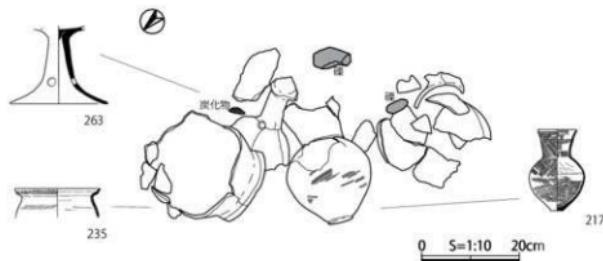


自然流路 01 東壁断面

|      |           |         |                         |
|------|-----------|---------|-------------------------|
| 1-1  | 7.SYR7/2  | 明褐色     | 縞まり強め、粒子粗い、やや粘質土        |
| 2-1  | 7.SYR7/2  | 灰褐色     | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-2  | SYR7/3    | にぶい褐色   | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-3  | SYR6/6    | 褐色      | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-4  | 7.SYR8/4  | 浅黄褐色    | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-5  | 7.SYR8/6  | 浅黄褐色    | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-6  | SYR7/3    | にぶい褐色   | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-7  | SYR6/6    | 褐色      | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-8  | SYR6/3    | にぶい褐色   | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-9  | SYR6/2    | 褐色      | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-10 | SYR7/4    | にぶい褐色   | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土         |
| 2-11 | SYR5/6    | 明褐色     | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土         |
| 2-12 | SYR6/1    | 褐灰色     | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-13 | SYR6/6    | 褐色      | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-14 | 2.SY7/2   | 灰黄色     | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-15 | 7.SYR6/3  | にぶい褐色   | 縞まり強め、粒子やや粗い、やや粘質土      |
| 2-16 | NS/2      | 灰白色     | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-17 | NS/2      | 灰色      | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-18 | 2.SY7/2   | オリーブー灰色 | 縞まり強め、粒子細かく、シルト質土、遺物を含む |
| 2-19 | 7.SY3/2   | オリーブー灰  | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-20 | 2.SY7/2   | 灰黄色     | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-21 | 2.SY6/1   | 灰黄色     | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土、遺物を含む   |
| 2-22 | SY5/1     | 灰色      | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土         |
| 2-23 | 7.SYR5/6  | 褐色      | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土         |
| 2-24 | 10.SYR3/3 | にぶい黄褐色  | 縞まり強め、粒子細かく、粘質土         |

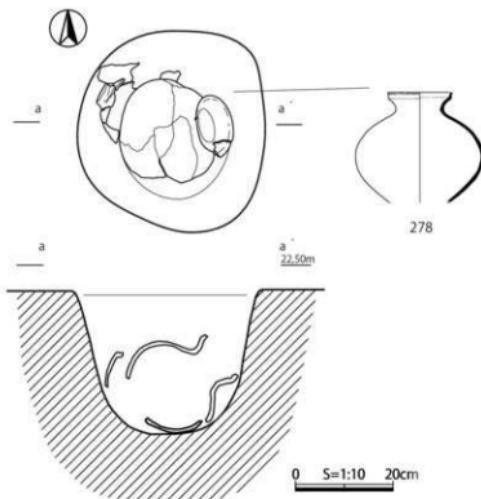
B-1 7.SYR7/3 にぶい褐色

図 12 溝 03 南壁断面図、自然流路 01 東壁断面図



自然流路 01 No.3 地点

図 13 自然流路 01 遺物出土状況図



土坑 01 遺物出土状況図

### 飛鳥～奈良時代（図 15）

#### 集石造構 01（図 16）

集石造構 01 は、調査区北西隅で検出した遺構で、大きさ 10cm 前後の自然石を厚く置いたもので敷き並べてはいない。集石は北方向から西方向に帯状にカーブし、東側では溝 04 と溝 05 が、西側の高まりに規制された形でみられる。

規模は、幅は北端で 3.0 m、西端で 5.3 m、集石の厚みは最大約 0.3 m 程である。一見、庭園の洲浜状に礫を置いた様にも見えるが、調査区北壁の土層からみると石敷きの路面の可能性も考えられる。

時期は、土師器、須恵器、製塙土器、瓦、鉄滓などが出土しており、出土遺物から7世紀前半～8世紀前半と考えられる。

#### 溝04（図16）

溝04は、集石遺構01の東側で検出した溝で、土坑状の窪みが繰り返すもので、一応溝と考えておく。溝04は、調査区の北壁に始まり西壁方向に湾曲しながら西壁に入る。

規模は、検出長約9m、幅0.4～1.1m、深さは0.3m前後である。埋土は、にぶい橙色粘質土である。後述する溝05と並行して検出されていることから、道路の側溝の可能性もある。

時期は、出土した須恵器、土師器から、7世紀前半を中心とした時期と考えられる。

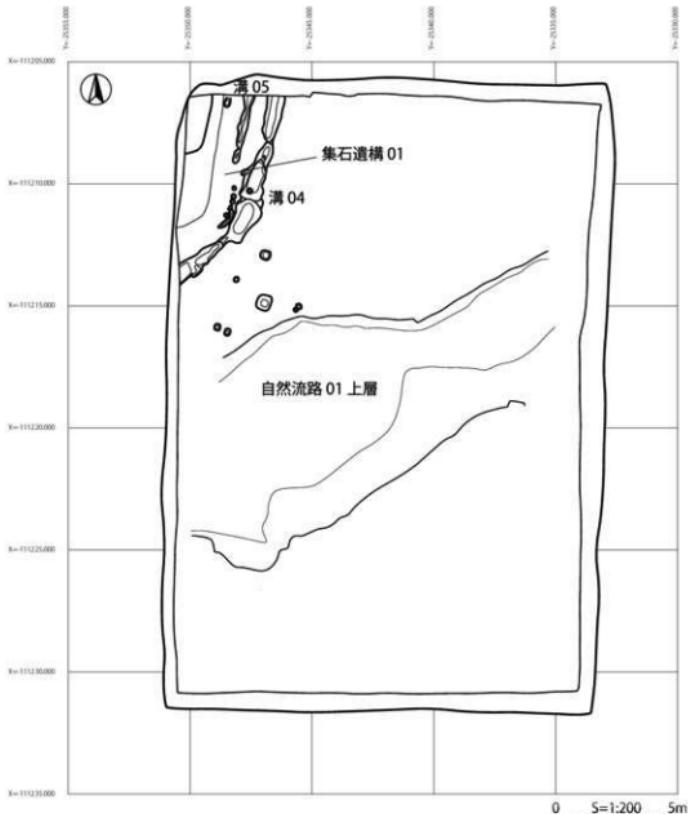


図15 飛鳥～奈良時代遺構面 全体図

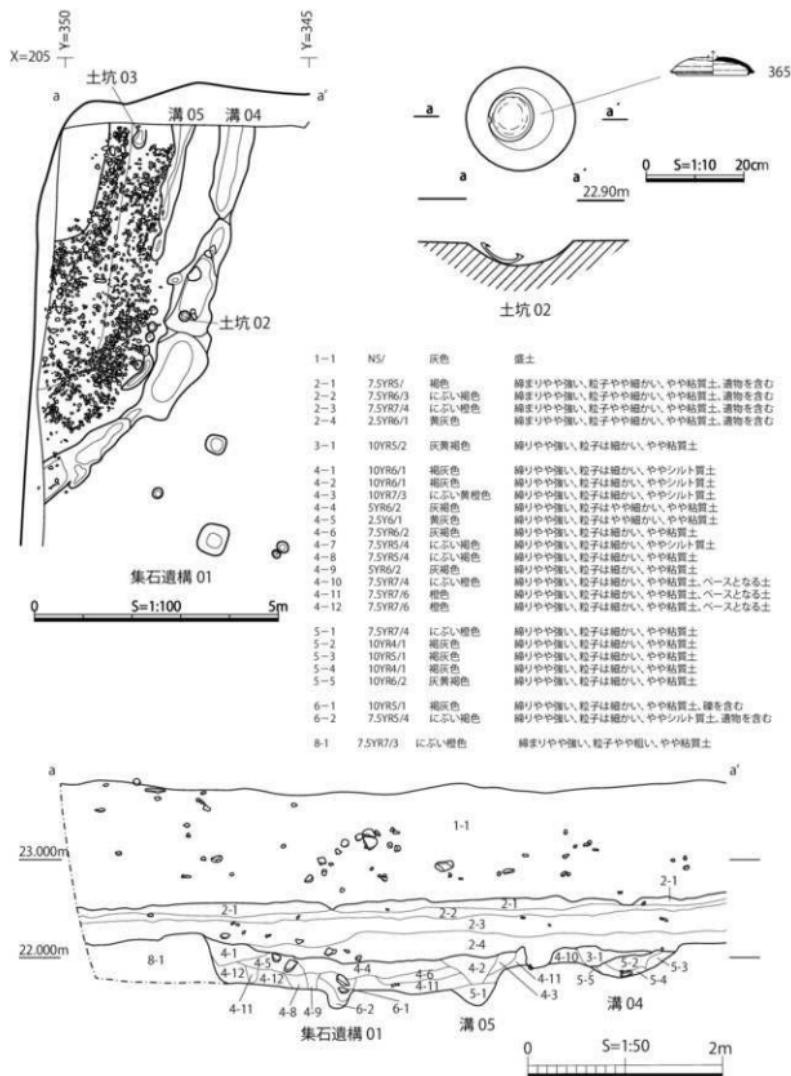


図 16 集石遺構 01、土坑 02、溝 04・05 平面図・北壁断面図

### **溝 05 (図 16)**

溝 05 は、集石遺構 01 の東側を区切る溝で、溝 04 と並行して流れる。調査区の北壁から延長 3.0m で消える。

規模は、幅約 0.3 m、深さは 0.2 m で埋土はにぶい橙色粘質土である。

時期は、遺物の出土が無く不明であるが、溝 04 と同時期と考えられる。

### **土坑 02 (図 16)**

溝 04 の中央部で、溝底を切り込んで掘りこまれた浅い土坑である。

規模は、直径 22cm、深さ 4cm で、内部から須恵器坏蓋 (365) が 1 点出土した。

時期は、飛鳥時代と考えられる。

### **土坑 03 (図 16)**

集石遺構の北端で検出したもので、集石を切っている。

規模は、長軸 52cm、短軸 31cm の楕円形で、深さ 5cm 程である。土坑内から須恵器の罐が出土した。

時期は、飛鳥時代と考えられる。

### **柱穴群 (図 16)**

調査区北西隅で、集石遺構 01 の南側において 6 個以上の柱穴を検出した。

規模は、掘方が隅丸方形  $0.6 \times 0.5$  m、柱径約 0.2 m の円形のものと、円形の掘方が径 20cm 余りで、柱径 10cm 余りの掘立柱の遺構である。柱穴内から、遺物はほとんど出土していない。建物として把握はできていないが、集石遺構 01 と何らかの関係があったものと考えられる。

## **平安時代 (図 17)**

### **掘立柱建物 01 (図 18)**

掘立柱建物 01 は、調査区南東部で検出した。

建物の規模は、桁行 3 間 (6.3 m) × 梁行 2 間 (4.2 m)、主軸が N88° E の東西棟で、柱間は 2.1 m (7 尺) の等間である。建坪は  $6.3 \text{ m} \times 4.2 \text{ m}$  の 26.46m<sup>2</sup> (8 坪) である。柱穴の切り合いでみられることから、1 回以上の建替えが考えられる。柱穴の掘方は隅丸方形で、1 辺は 0.5 ~ 0.6 m、深さ 0.3 ~ 0.9 m である。掘方の埋土は、にぶい黄褐色細砂である。柱穴から遺物はほとんど出土していないが、南西隅柱 03SP から平安時代前期 (京 II 期新) の須恵器坏身 (367) の小片が出土している。

建物の西側約 2 m に道路 01 が南北方向に通っているが、道路 01 の主軸は N2° E と東へ振っており、この建物とは方位が異なっている。

建物の時期は、周辺の調査例などや柱穴出土遺物から、平安時代の掘立柱建物とみなしておく。

### **柵 01 (図 20)**

柵 01 は、調査区北東部で検出した東西方向の柱列である。

規模は、4 間 5 柱穴の柱列で、延長は約 4.8 m、主軸は N 96° E、柱間は西から 1.0 m +1.25 m +1.4 m +1.15 m である。柱穴の掘方は円形で、大きさは 0.2 ~ 0.4 m、深さは 0.1 ~ 0.2 m で

ある。埋土は、1層がにぶい黄褐色極細粒砂、2層は暗褐色極細粒砂である。柱穴の遺物には、土師器の細片が出土しているのみである。

#### 柵 02 (図 20)

柵 02 は、調査区北東部で検出した、柵 3 と並行する南北方向の柱列である。

規模は、4間5柱穴の柱列で、延長は約6.3m、主軸はN $10^{\circ}$ E、柱間は北から2.0m+2.0m+1.4m+0.9mである。掘方は円形で幅0.2~0.5m、深さは0.05~0.2mで、埋土は1層がにぶい黄褐色極細粒砂、2層は暗褐色極細粒砂である。柱穴の遺物は、土師器の細片が出土しているのみで、時期決定はできない。

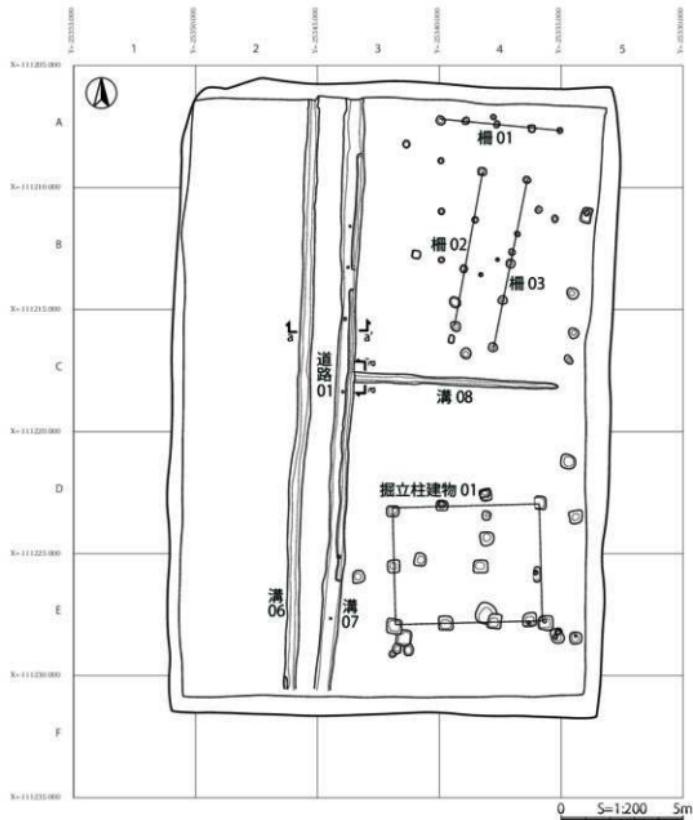


図 17 平安時代遺構面 全体図

### 柵 03 (図 20)

柵 03 は、調査区北東部で検出した、柵 2 と並行する南北方向の柱列である。

規模は、4 間 5 柱穴の柱間で、延長は約 6.9 m で、主軸は N 11° E、柱間は北から 2.2 m +1.2 m +1.5 m +2.0 m である。掘方は円形で大きさは 0.2 ~ 0.4 m、深さは 0.1 ~ 0.2 m である。埋土は、1 層がにぶい黄褐色極細粒砂、2 層は暗褐色極細粒砂である。柱穴の遺物には、土師器の細片が出土している。

### 道路 01 (図 19・20)

道路 01 は、溝 06 を西側溝、溝 07 を東側溝とする道路跡（辻子）である。

路の規模は、道路幅が内肩幅で 0.76 ~ 1.2 m、主軸は北側では N2° E であるが南側ではやや弓なりになって N6° E となる。今回検出した道路跡は、平安京の条坊の方角とも異なるものである。これは、条坊が施工される以前の角度を継承しているのか、条坊の維持管理が放棄されて規制が緩くなつてからのものなのかは、側溝の出土遺物からみると前者である可能性が高い。なお、両側溝の埋土は極細粒砂で、時期は不明であるが洪水で埋まつた可能性がある。

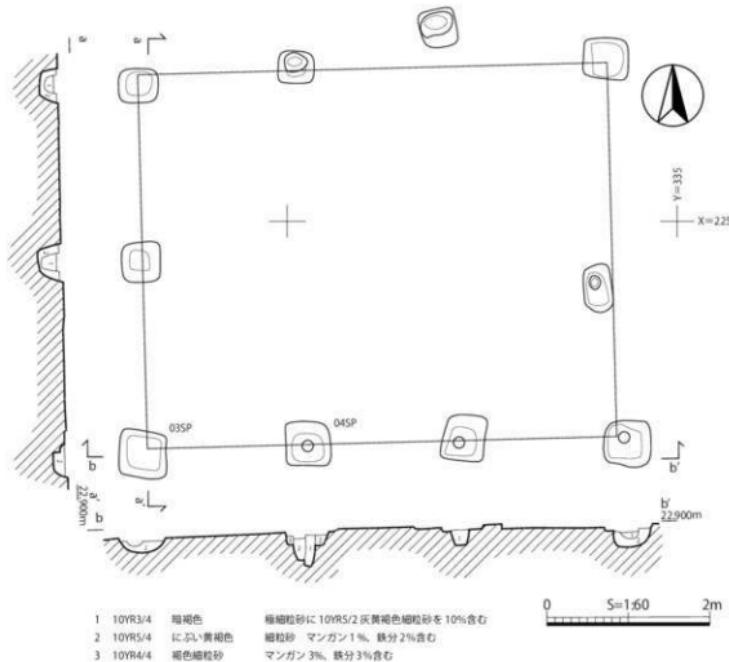


図 18 挖立柱建物 01 平面図・断面図

#### 溝 06 (図 20)

溝 06 は、南北方向の道路 01 の西側溝である。

規模は、東側溝 07 と並行する溝で、幅は 0.4 ~ 0.6 m、深さ最大 0.18 m を測り、検出長は調査区の南端から北端までの約 24.2 m である。主軸は北側では N2° E で、南では N6° E と少し西側による。出土遺物には、土師器、須恵器、瓦質土器等の京 II 期の小片がある。

時期は、京 II 期中・新の 8 世紀末～9 世紀前半とみられる。

#### 溝 07 (図 20)

溝 07 は、南北方向の道路 01 の東側溝である。

規模は、西側溝 06 と並行する溝で、幅は 0.6 ~ 0.9m、深さ最大 0.32 m で、掘り直しが西側にあるため、溝 06 よりやや幅が広く、検出長は調査区の南端から北端までの約 24.2 m である。主軸は北側では N2° E であるが、溝 06 同様に N6° E と、西側による。出土遺物には、京 II 期古～新の遺物と、平安時代後期の京 V 期の遺物を若干含む。

時期は、溝 06 と同様に、京 II 期中・新の 8 世紀末～9 世紀前半からの遺物も含むが、掘り直しの西溝は新しい京 V 期古の 12 世紀前半頃と考えられる。

#### 溝 08 (図 20)

溝 08 は、道路 01 の東側溝 07 と直角に交わる東西溝である。

規模は、最大幅 0.4 m、深さは 0.1 m 余り、延長約 8.4 m で東端は調査区内で止まっている。主軸は N93° E である。出土遺物は、平安時代の土師器小片を含む。土地の区画溝と考えられる。

時期は、溝 06・07 と同様に、京 II 期中・新の 8 世紀末～9 世紀前半と考えられる。

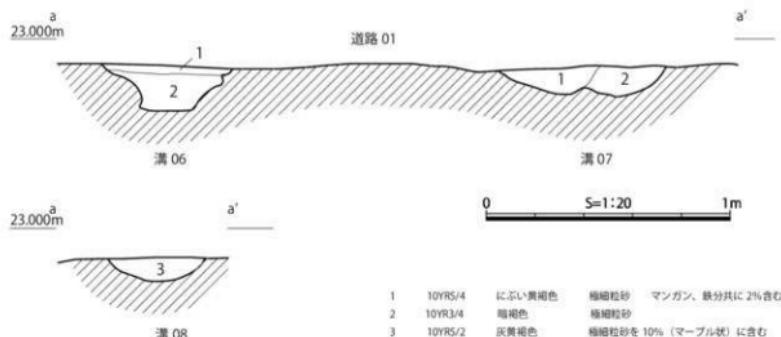


図 19 溝 06～08 断面図

## 中世(図21)

### 素掘り溝群(図21)

素掘り溝群は、調査区全体で約90条余り検出された。多くは南北方向に伸び、4条ほどが北から西へ70°余り傾く。

溝群の規模は、検出長は短いもので0.3m余りから、長いもので8.6mに及ぶものもある。幅は約0.2~0.4mを測るものが多く、深さも10cmから数cmにも溝たないものがほとんどである。

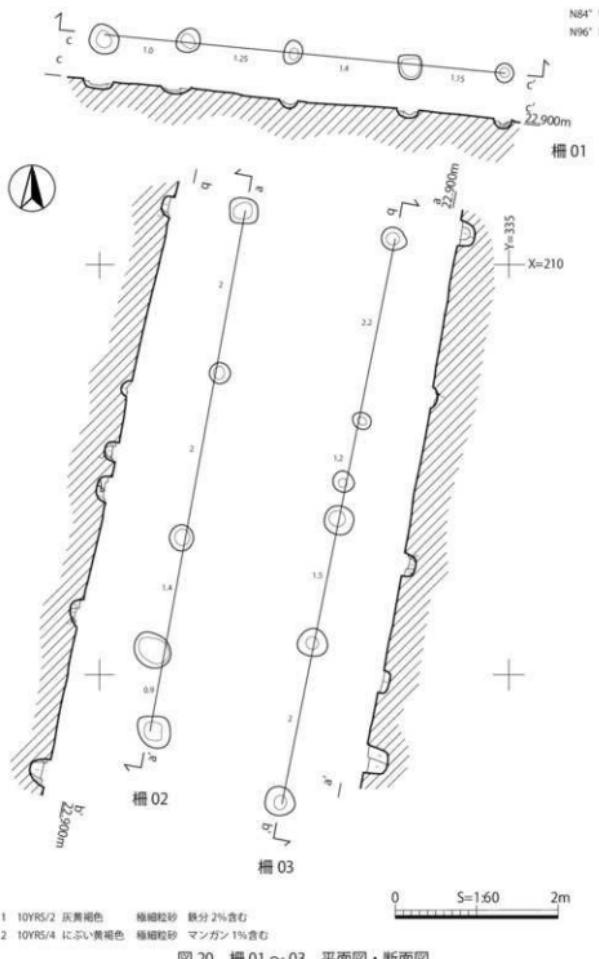


図20 棚01~03 平面図・断面図

溝の埋土は灰黄褐色砂質土である。調査区中央部で検出した等間隔幅の南北溝の芯々を測ると約0.9mである。0.9m幅の間隔は調査区の西側や東側でも確認できる。調査区西半部の素掘り溝群の空白部は、道路01の高まりである。道路の側溝は埋まっているが、この時期まで道路として機能していた可能性がある。

時期は、出土遺物から京VII期中～京X期中頃の13世紀初～15世紀末頃と考えられる。

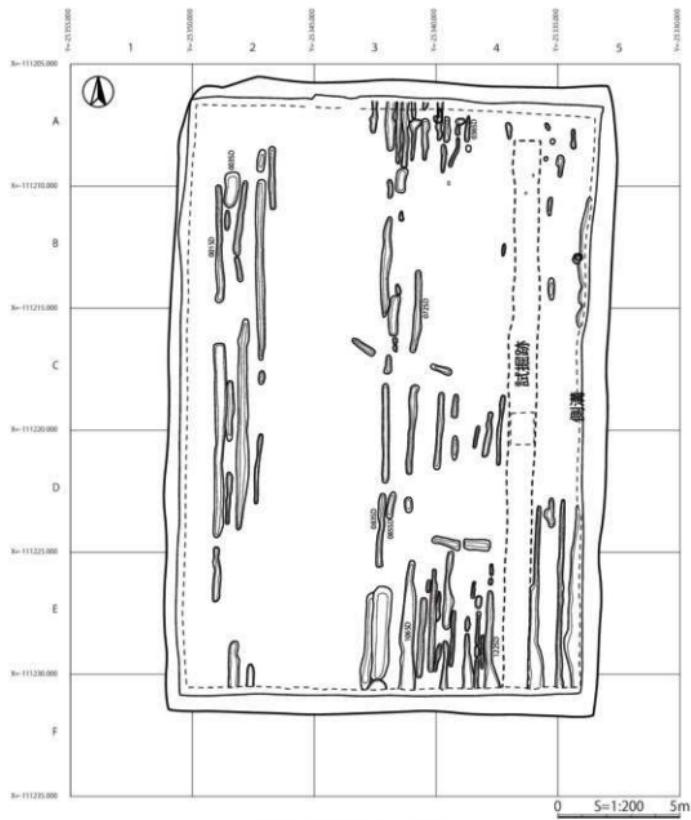


図21 中世遺構面 全体図

# 第4章 遺物

## 第1節 遺物の概要

出土遺物は、表2出土遺物概要表の様に、発掘調査直後にはコンテナ(P27)に82箱出土したが、整理作業及び報告書用に抽出したため調査終了時の82箱よりも46箱増加し、総計128箱となっている。

表2 出土遺物概要表

| 時代        | 内 容                             | コンテナ箱数 | Aランク点数                                        | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|-----------|---------------------------------|--------|-----------------------------------------------|--------|--------|
| 弥生時代～古墳時代 | 縄文土器、弥生土器～土師器、石器及び工具・素材（原石）、ガラス |        | 縄文土器晩期2点、弥生土器～土師器285点、石器及び工具・素材（原石）143点、ガラス1点 |        | 87 箱   |
| 飛鳥時代～奈良時代 | 土師器、須恵器、瓦、鉄滓                    |        | 土師器10点、須恵器59点、製塙土器4点、瓦5点、鉄滓1点                 |        | 5 箱    |
| 平安時代      | 土師器、須恵器、灰釉陶器、輸入陶磁器、国産陶器         |        | 土師器6点、須恵器4点、輸入陶磁器4点、国産陶器1点                    |        | 3 箱    |
| 鎌倉時代～室町時代 | 土師器、須恵器、輸入陶磁器、焼締陶器、国産陶器         |        | 土師器2点、須恵器6点、輸入陶磁器1点、国産陶器1点、瓦1点                |        | 1 箱    |
| 戦国時代～江戸時代 | 土師器、瓦質土器、焼締陶器、国産陶磁器             |        | 須恵器2点、瓦質土器1点、輸入陶磁器2点、国産陶磁器1点、瓦1点              |        | 1 箱    |
| 合計        |                                 | 128 箱  | 543点（コンテナ 31 箱）                               | 0 箱    | 97 箱   |

最も多いのは、第4・5面の縄文時代晩期・弥生時代～古墳時代の土器と石器で、それに次いで第3面の飛鳥～奈良時代の土器である。平安時代、中世、近世と時代が新しくなるに従い遺物量は少なくなる。これは、調査地が生活の場から、生産の場に変更されていったこととも大きく関わっているものと思われる。

## 第2節 土 器

### 弥生時代中期

#### 溝01（図22）

溝01からは、弥生土器（1～14）が出土した。

1～5は壺で、細頸壺、広口壺、複合口縁壺がある。

1は小型の細頸壺である。口径4.2cm、器高13.2cmを測り、頸部はやや外反し、口縁部でわずかに広がり受口状になる。体部最大径部は中位より若干下方に位置する。頸部から体部にかけて直線文、波状文、直線文、刺突文を巡らす。口縁部外面を横ナデが加えられ、頸部から体部中位まで磨滅しており調整は不明瞭である。底部直上にハケが加えられている。時期は近江III-2併行期と考えられる。

2~4は広口壺である。2は大きく外反する口縁を持つ。口径は13.6cmを測る。口縁部には横ナデが加えられている。内部と頸部は磨滅しており調整は不明瞭である。時期は山城III-1期に属する。

3は太頸壺であり、頸部は大きく外反している。口径は19.8cmを測る。口縁部の端部外面に刻目を帯び、端部はわずかに盛り上がる。頸部下方はクシ描直線文が施されている。外面は口縁部から頸部外反部分にかけてハケがある。内部もハケが施されているが、口縁部付近ではハケ後ナデ調整が認められる。時期は、近江III-2期と考えられる。

4は口縁部が肥厚し、端部が若干垂下する広口壺である。口径は19.0cmを測る。口縁部上方2/3は波状文を帯び、残り下方1/3は刻目が巡る。頸部の外面は磨滅しており調整は不明瞭である。内面は口縁部から頸部にかけて粗い横ハケが認められる。時期は近江III-1併行期と考えられる。

5は有段口縁の広口壺である。口縁部はやや内湾するが直立する。口径は13.0cmを測る。内面・外面ともに磨滅が激しく、調整は不明瞭である。時期は山城III-2期に属する。

6~9は甕である。

6・7は頸部がわずかに外反する甕である。体部には曲線文が施されている。6は内面・外面ともにナデ調整が認められる。7は外面が口縁部から頸部にかけて横ナデが、曲線文下には縱ハケが加えられている。内面は磨滅しており、煤の付着がみられる。時期は尾張III-1期に属すると考えられる。

8・9は頸部が外反し、口縁部は直立し受口状口縁の甕と考えられる。口径は8、9ともに21.0cmを測る。口縁端部上端に刻目を施す。8では外面は口縁端部が横ハケの調整、頸部上半分は粗い縱ハケ、頸部下半分はナデ調整が認められる。内面は磨滅している。9では内面・外面ともに口縁部でハケ、頸部はナデ調整が認められる。時期は8が近江IV-3期と考えられ、9は近江IV-1期に属する。

10・11は鉢である。

共に頸部が大きく外反する鉢である。10は口径23.6cmを測り、口縁部が内面・外面とも横ナデが認められる。体部は外面に細い縱ハケ、内面は横ハケの調整が認められる。11は口径28.4cmを測り、口縁部には内面・外面とも横ナデが加えられている。体部は外面に板ナデ、内面は細かいハケが認められる。時期は山城II-2期の属する。

12・13は高坏の脚部である。

12は裾部が下位で強く屈曲し端部は外反している。底径は13.2cmを測る。坏部と直立気味の

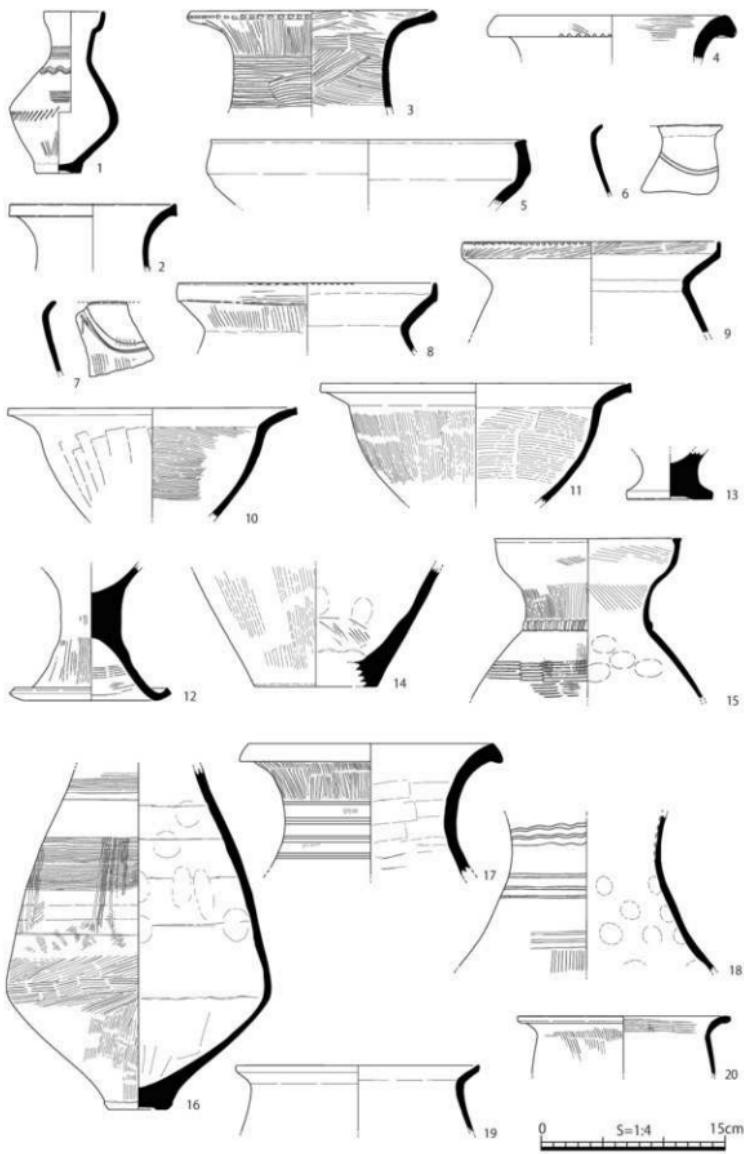


图 22 满 01(1~14)、满 02(15~20)

筒部を持つ脚部は円盤充填法によって区切られている。外面では筒部はナデ調整、脚部は縦ハケ、端部は内面にかけて横ナデが加えられている。脚部の内面は横ハケが認められる。13は短脚で脚部の広がりは小さく、底径は7.0cmを測る。坏部と筒部は円盤充填法によって区切られている。体部は磨滅が激しい。脚部の端部は底部まで横ナデが加えられている。底部は上げ底気味でナデ調整が認められる。時期は12が山城II-2期、13は山城II-2併行期と考えられる。

14は壺の底部である。

14の底径は10.0cmを測る。外面は丁寧にヘラ磨き調整が加えられ平滑である。内面は残存部の上半分はナデ調整、下半分はヘラ削り調整が認められる。時期は近江IV-2併行期と考えられる。

#### 溝02(図22・23)

溝02からは、弥生土器(15~22)が出土した。

15~18は壺である。

15は有段口縁広口壺で頸部が直立し、口縁部でわずかに広がり受口状になる有段口縁を持ち、口縁端部は面をなす。頸部に指頭圧痕のある貼付突蒂文を巡らせる。口径は22.0cmを測る。外表面は口縁端部に横ナデ、口縁部はハケがあり、頸部には縦ハケが加えられている。体部はタタキ目後ハケが加えられており、平滑である。時期は山城IV-1期に属する。

16は体部最大径部が中位より下方に位置しており、その上方に板ナデ状直線文が描かれている。さらにその上方にはクシ描直線文4帯巡らし、その上からタテ方向の波状文2帯が体部最大径部近くまで描かれている。頸部にはクシ描直線文を持つ。外面は体部中央部分より丁寧なハケが加えられており平滑である。また、体部下位ではハケの上からナデ調整も認められる。底部はナデ調整で若干上げ底である。内面は体部上方では指オサエがみられ、体部下方では板ナデ調整が加えられている。時期は尾張III-3期に属すると考えられる。

17は口径19.8cmで、頸部中央部から体部にかけて3条1帯の直線文を5帯巡らせる。頸部上部の外面にはハケ目調整する。口縁部は磨滅しており調整は不明瞭である。内面は口縁部でナデ調整が認められ、頸部から体部にかけて板ナデ調整が加えられている。時期は山城III-2期に属する。

18は広口壺になる頸部で頸部上半と体部に波状文を巡らせ、頸部下半には直線文を帯びる。外面には体部波状文の下に縦ハケが加えられている、内面は頸部下半から体部にかけて指オサエがなされている。時期は近江III-1併行期と考えられる。

19・20は壺である。

19は頸部が外反し、口縁部はやや内湾する。口縁部は横ナデ、体部にはナデ調整が加えられている。内面は磨滅しており調整は不明瞭である。時期は山城III-1期と考えられる。

20は頸部が外反し、端部がわずかに肥厚している。外面は頸部から体部にかけて1cmあたり5条の縦ハケが加えられている。内面は口縁部には1cmあたり4条の横ハケが認められる。口縁部は横ナデが加えられている。時期は山城III-1期に属する。

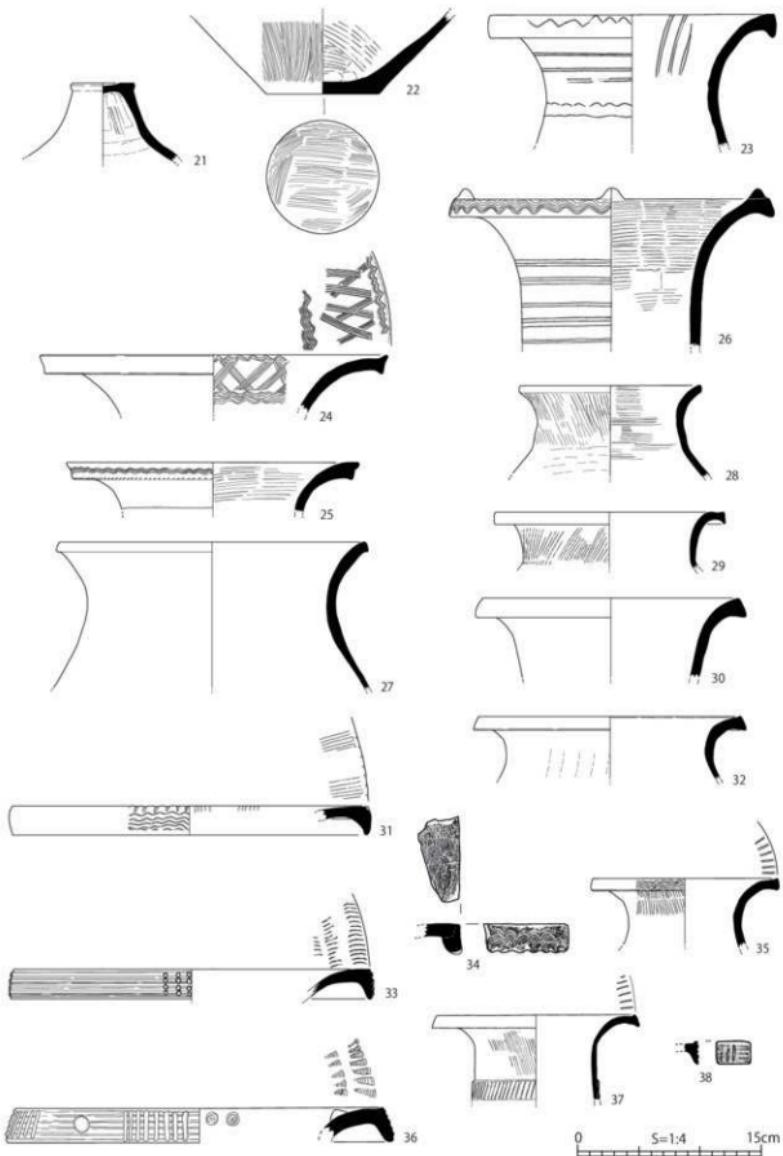


図23 溝02(21・22)、環溝01(23～38)

21は蓋である。「ハ」の字に裾部は広がり、頂面は中央がやや凹んでいる。外面は磨滅が激しい。内面は指オサエの後、横ナデ後縦ハケが加えられている。時期は山城Ⅲ-2期と考えられる。

22は甕の底部である。外面はハケ目調整が加えられている。内面は底部が指オサエ、底部周辺の器壁は粗いハケが加えられている。それより上方は磨滅している。時期は山城Ⅳ-2併行期と考えられる。

#### 環濠 01 (図 23 ~ 図 31)

環濠 01 からは、弥生時代中期を中心とする土器群 (23 ~ 206) が出土した。

23 ~ 51 口縁部が外反する広口壺である。

23は頸部から口縁部が広がり口縁端部はやや垂下する。口径は 22.2cm を測る。外面は口縁端部に波状文、頸部に直線文が巡り、体部には波状文が施されている。内面には縦に直線文が施されているが、外面・内面とともに全体的に磨滅が激しい。

24は口縁部上端面が少し摘まみ上げられる。口径は 28.2cm を測る。口縁部内面の上端面から波状文、頸部に菱垣文、波状文を施す。外面は口縁部側面が横ナデ、頸部にかけてナデ調整が加えられている。23・24 の時期はやや古手で山城Ⅱ-3期に属する。

25は口縁部がやや肥厚しわずかに垂下する。口径は 24.0cm を測る。外面は口縁部側面には波状文が、頸部には刻目を施す。頸部には直線文が巡るのがわずかに確認できる。また、ナデ調整が加えられている。内面は横ハケが認められる。

26は直行する頸部から口縁部が広がる。口縁端部はやや肥厚する。口縁部上端面に瘤状突起を持つ。口径は 26.0cm を測る。外面は口縁部側面に波状文、頸部には直線文が巡る。口縁部から頸部にかけてナデ調整が加えられている。内面は口縁部から頸部にかけて横ハケが加えられている。25・26 の時期は近江Ⅲ-1併行期と考えられる。

27・28は朝顔形に広がる口縁部である。口径は 26 が 25.0cm、27 は 24.8cm を測る。26は口縁部が外面・内面ともに横ナデが加えられている以外は、内外ともに磨滅している。27は口縁部に横ナデが加えられている。外面は頸部が縦ハケ、体部は丁寧なナデ調整が加えられており平滑である。内面は口縁部から体部にかけて横ハケが加えられ、体部は磨滅している。時期は共に山城Ⅲ-1期に属する。

29・30・32は口縁端部がやや肥厚する広口壺である。口径は 16.8 ~ 21.6cm である。27は口縁端部の垂下した一部で接合痕が確認できる。調整は 27 では外面・内面ともに磨滅している。30は外面頸部に縦ハケが加えられる。内面は剥離している。口縁部は外面・内面ともに横ナデが認められる。32は口縁部から頸部にかけて横ナデが加えられている。頸部から体部にかけてナデ調整が認められる。内面は磨滅しており調整は不明瞭である。時期はいずれも山城Ⅲ-1・2期に属する。

31・33・34・36は口縁端部が垂下するタイプである。31は側面には波状文が巡り、上端部には刻目が施されている。口縁端部内面にはクシ描直線文を施す。外面はナデ調整が加えられて

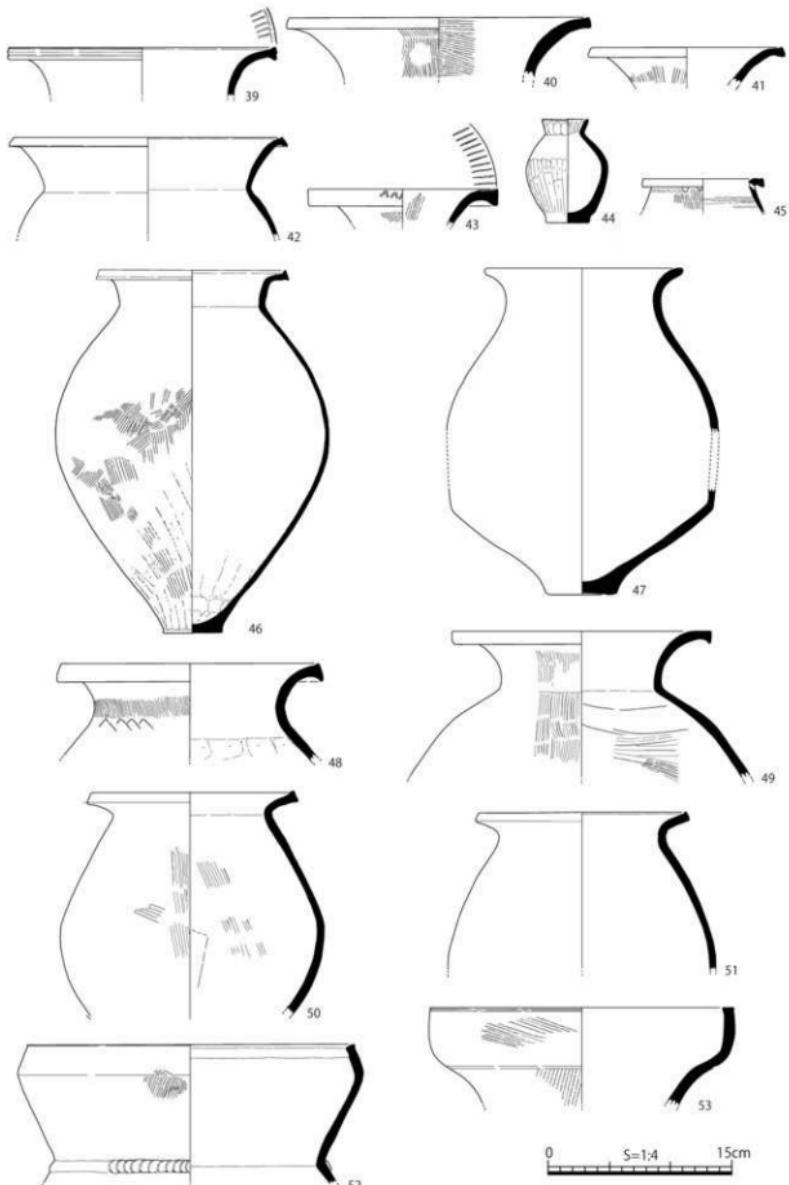


図 24 環藻 01(39 ~ 53)

いる。33は口縁端面に5本の直線文の上から円形浮文が施され、口縁端部内面に刺突列点文が巡る。側面は外面・内面ともに丁寧に横ハケが加えられており平滑である。34は端部側面と上面にはクシ描波状文が巡り、下端部には刻目を施している。口縁部下面にはナデ調整が加えられている。

36は口縁端部内面には扁状文が2帯巡り、内側には円形突起を施す。端部側面には直線文5条が巡り、その上から円形浮文と棒状浮文が順に施されている。口縁部下面にはナデ調整が加えられている。時期は、31が近江III-1併行期に、33が山城IV-2期に、34が山城III-1期に、36が近江IV-2期に属する。

38は四線の上から棒状浮文が施される広口壺である。ナデ調整が加えられている。時期は山城IV-1期に属する。

35・37は頸部を外反させる広口壺である。口縁部は上面を水平ないし内側に傾ける。口径は35が15.0cm、37は16.2cmを測る。いずれも、口縁部上面には刺突列点文が巡り、35の端部側面には波状文を確認できる。また、37には体部に貼付突帶文が施されている。調整は、外面では35は口縁部に横ナデ、頸部に縦ハケが加えられている。内面は磨滅しており調整は不明瞭である。37は外面では口縁部から頸部にかけてハケ、頸部下方ではナデ調整が加えられている。内面はナデ調整が認められる。時期は共に、山城IV-1期に属する。

39～43は頸部を外反させる広口壺である。39の口径は22.2cmを測る。口縁部上面は水平ないし内側に傾き、端部はわずかに肥厚している。口縁部上面には刺突文が巡り、端部側面は凹線文を施している。外面はナデ調整が加えられており、内面は磨滅がはげしく調整は不明瞭である。時期は山城IV-2期に属する。

40の口径は24.6cmを測る。外面は縦ハケが加えられている。内面は横ハケが認められる。時期は、山城III-2期に属する。

41の口径は15.6cmを測る。口縁上端部をわずかに摘み上げている。内面から外面は口縁部にかけてナデ調整が加えられている。外面はハケが加えられている。時期は山城III-2期に属する。

42は口縁部がやや「く」の字に外反する。口径は22.0cmを測る。上端部をわずかに摘み上げている。外面・内面とも全体的に磨滅しており、調整は不明瞭である。時期は山城III-2期に属する。

43は口径15.6cmを測る。口縁部上面は水平ないし内側に傾いており、刻目を巡らせる。端部はやや垂下し、側面にはクシ描直線文を施している。外面は磨滅しており調整は不明瞭である。内面はヘラ削きが加えられている。時期は山城III-2期に属する。

44は口径が3.7cm、器高は8.5cmのミニチュア土器である。頸部は短く外反しする。体部最大径部は中位より若干上方に位置している。口縁部内面から外面にかけて指オサエが確認できる。外面は体部上半ではナデ調整、下半はヘラ削りが加えられている。底部側面はナデ調整、底部にはヘラ削りが認められる。全体的に平滑である。時期は山城IV-2期に属する。

45は短い頸部で外反し、短く外反する口縁をもつ短頸壺である。口径は9.8cmを測る。頸部

には紐穴 2 孔を穿つ。口縁部は横ナデ、頸部と体部は外面・内面ともにはヘラ磨きが加えられている。時期は山城IV -2 期に属する。

46 は外反する頸部から口縁部が外反する壺甌と言われるものであるが、甌として表記する。口径は 21.6cm、器形は 41.1cm を測る。体部最大径部はほぼ中位に位置している。口縁部上端部は少し摘まみ上げられている。外面は口縁部側面では横ナデが加えられている。頸部から体部上半は磨滅しており調整は明瞭ではない。体部中位は粗いハケ後ナデ調整が認められる。体部下半は粗いヘラ削り後板ナデ調整が施されている。底部はナデ調整である。内面は磨滅しており調整は明瞭ではないが、体部下半はナデ調整と指オサエが確認できる。時期は山城IV -2 期に属する。

47 は尾張地方の特徴を持つ土器である。外反して広がる口縁部で、口径は 16.0cm を測る。体部の一部は欠損しているが、底部から外方に伸びた体部が 1/3 付近で屈曲し直立し面をなし、さらに内湾しながら頸部に続く。外面は磨滅が激しく調整は不明瞭である。内面はナデ調整が確認できる。口縁部は外面・内面ともに磨滅が激しく調整を確認できない。底部は外面・内面とともにナデ調整が加えられているが、外面は磨滅が激しい。底径は 5.4cm を測る。時期は尾張III -4 併行期と考えられる。

48・49 の広口壺は瀬戸内系の土器である。48 は大きく外反する口縁部で口縁端部は面を持つ。外面頸部下には山形の施文が入る。口縁内外面は横ナデ、外面頸部には細かい縦ハケ、内面体部にはヘラ削りを施す。色調はにぶい黄橙色で胎土は粗い。49 の口径は 21.0cm を測る。側面は横ナデが加えられている。外面は全面的に縦ハケ認められる。内面は口縁部では磨滅しており、調整は確認できない。体部は粗いハケとヘラ削り調整が加えられている。時期は 48 が備前V -1 併行期で、49 が阿波V -1 併行期と考えられる。

50・51 の口径はともに 17.0cm を測る。口縁部上端部がわずかに摘まみ上げられている。調整は 50 が外面では体部上半にヘラ磨きを認められ、下半にはナデ調整が加えられている。内面は体部上半にはハケが認められ、下半は板ナデ調整が加えられている。口縁部は横ナデが施されている。51 は磨滅が激しく調整は明瞭でない。時期は共に山城IV -2 併行期であろう

52 ~ 65・67 は有段口縁の壺である。

52 は口縁部がやや内湾する。口径は 26.8cm を測る。外面は口縁部にわずかにハケ目が残り、頸部に指圧痕文突帯が認められる。外面・内面ともに剥離しており調整は不明瞭である。時期は近江III -1 期に属する。

53 ~ 58 は口縁部が直線的に立ち上がる。53 は口径が 24.8cm を測り、口縁に凝凹文が 1 条巡り、頸部には 4 条 /cm の粗い縦ハケを施している。内面は磨滅しており調整は不明瞭である。口径は 54 が 17.0cm、55 が 24.6cm、56 が 23.6cm、58 が 24.8cm を測る。いずれも施文は確認できない。調整は 55 で頸部外面が 3 条 ~ 4 条 /cm の粗い縦ハケ、内面は 3 条 ~ 4 条 /cm の粗い横ナデが加えられている。56 は口縁部がやや肥厚し、頸部外面にヘラ磨き調整が、内面には粗いハケが加えられている。54 ~ 56、58 はいずれも口縁部は横ナデが加えられている。時期は山城III -2 ~ IV -1 期に属する。

59～61は頸部が緩やかに外反し、口縁部が直立して立ち上がる。口径は59が24.6cm、60が23.6cm、61が38.0cmを測る。59は頸部に貼付突帯刻目文が巡る。60は口縁端部に擬凹線、頸部には貼付突帯文を施す。61は口縁上端部に刻目文が認められる。調整では59は全体的に磨滅が激しく明瞭ではない。60は外面・内面ともにナデ調整が加えられており、頸部には指オサエが確認できる。61は外面がハケ、内面にはナデ調整が加えられている。時期はいずれも山城IV-1期に属する。

57・65は頸部が外反し、口縁部がやや内傾する。口径は57が21.8cm、65が20.4cmを測る。57は口縁部側面にクシ描波状文が施されている。外面はヘラ磨き調整、内面は口縁部に横ナデ、体部は磨滅が激しく調整は明瞭ではない。65は頸部に刻みが巡る。調整は内面が口縁部にナデ調整が加えられ頸部はハケ後ナデ調整、外面は頸部上半に斜めハケ、縦ハケが加えられている。時期は57が近江III-2併行期と考えられ、65は近江IV-1併行期と考えられる。

62は外反してきた頸部が口縁部でやや内傾し、端部外面に凹線文が巡る。口径は23.8cmを測る。外面は頸部にミガキ調整、内面はナデ調整が加えられている。また、指圧痕が認められる。時期は山城IV-1期である。

63は直立気味で立ち上がる頸部と受口状の口縁部を持つ広口壺である。口縁端部はやや肥厚している。口径は26.0cmを測る。口縁部は横ナデが加えられているが、全体的に磨滅が激しい。時期は山城IV-2期と考えられる。64は頸部が直立気味に外反し立ち上がる。口縁部は欠損している。頸部外面には刻目・貼付突帯文が巡る。上半に縦ハケ、下半は磨滅しており調整は明瞭ではない。内面は板ナデと指オサエ調整が、下半は指オサエ調整がなされている。瀬戸内か揖津からの搬入品の可能性があり、時期は山城IV-1期と考えられる。

67は口縁部のみである。口径は20.2cmを測る。口縁端部外面に擬凹線が巡る。外面・内面ともにナデ調整が加えられている。時期は山城IV-1期である。

66は球形の体部から頸部が緩やかに外反する。口縁部は欠損しているが端部が垂下する形態と思われる。頸部から体部にかけて上位より直線文、4帯の貼付突帯文とその間に3帯の波状文、直線文、列点文、直線文、斜格子文、直線文2帯、円形浮文、斜格子文、直線文、波状文、直線文の順に飾り立てる。内面はナデ調整が加えられているが、磨滅している。時期は山城IV-2併行期と考えられる。瀬戸内系土器の影響を受けたものであろう。

68・69は無頸壺であり、口径は68が15.0cm、69が10.0cmを測る。内傾する肩部の上端を単純におさめて口縁部としている。68は口縁端部から1cm程度下がった位置には、直径4mmを測る穿孔が1か所見られる。焼成前に棒状工具によって穿孔されたものであり、蓋縫用のものである。この他に外面は上位より刺突文、波状文が施されている。内面はナデ調整が加えられている。69は外面に流水文が施されている。内面は横ナデ、指オサエが加えられている。時期は68が山城IV-1期、69は山城III-2期に属する。

70～73は壺の破片である。70・71は外面に斜格子文、内面にナデ調整が加えられている。72は外面にヘラ描沈線文とクシ描直線文が施されており、内面はナデ調整が加えられている。

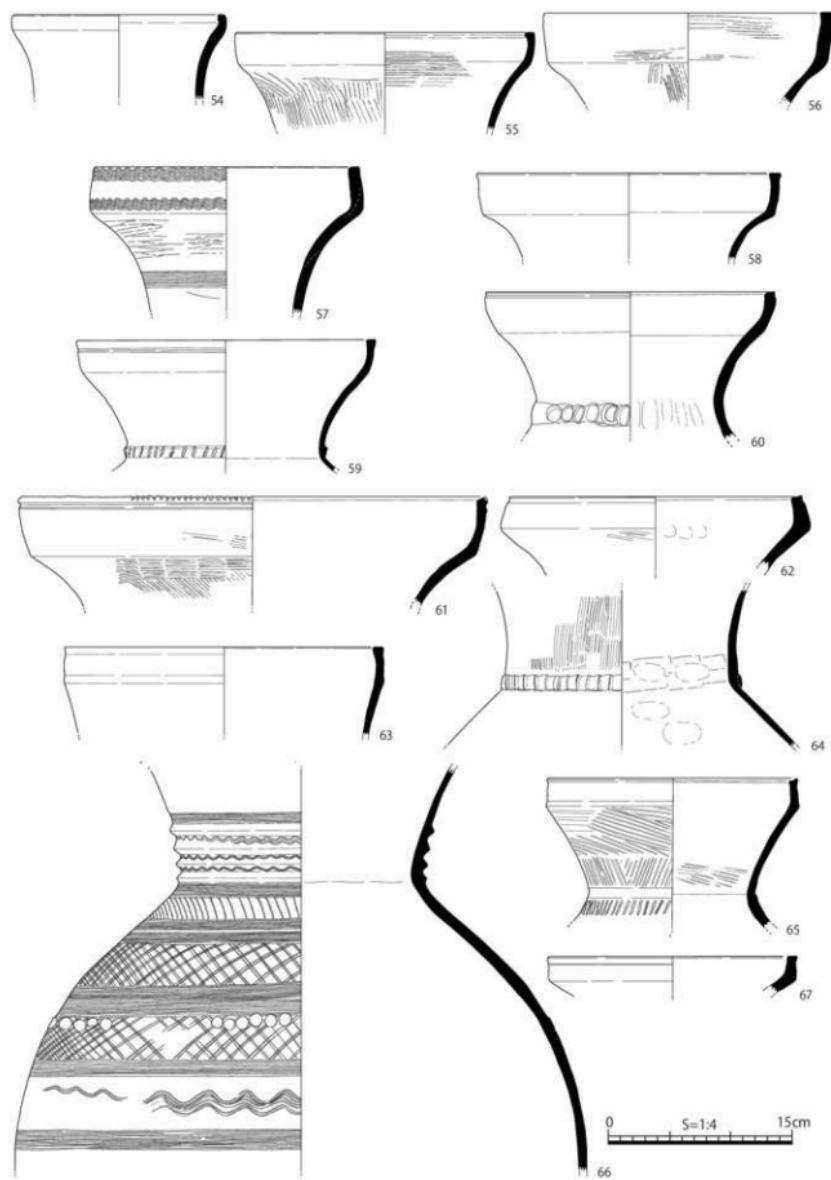


図 25 環濠 01(54 ~ 67)

73は残存部分上位より直線文、波状文、直線文、波状文、直線文、斜格子文が施されている。内面は磨滅しており調整は不明瞭である。山城IV期の時期であろう。

74～78は直口する細頸壺である。74は緩やかに長い外反する頸部を持つ。口径は11.8cmを測る。外面には口縁部から頸部にかけて複帯構成のクシ描直線文が巡る。外面・内面ともにナデ調整が加えられているが、剥離している。時期は山城II-2期に属する。75(250)は頸部から口縁部にかけてわずかに内湾する。口径は16.8cmを測る。外面には凹線文が施され、その直下からハケが加えられている。内面はナデ調整が加えられている。時期は山城IV-2期に属する。78は直立する短い頸部を持つ。口径は12.0cmを測る。口縁部外面には凹線文が施されている。調整は口縁部が横ナデ、頸部外面には10条/cmの縱ハケ、内面にはナデ調整が加えられている。時期は山城IV-2期に属するが搬入品の可能性がある。76・77は口縁部がやや内傾している。76は外面にクシ描文を巡らせ、口縁上端部に波状文を施している。内面はハケ後ナデ調整が加えられている。77は口縁部から頸部上半にかけて凹線文が巡り、その直下に羽状刺突列点文が施されている。内面は横ナデが加えられている。時期は76が近江III-1併行期と考えられ、77は山城IV-2期に属する。

79は甕の体部の破片である。外面は刻目が施されており、その直上にハケ後ヘラ磨き調整が加えられている。内面は4条/cmの縱ハケが認められる。特徴より阿波からの搬入品の可能性がある。80は口縁部の体部の破片である。外面は6条の凹線文が巡り、その直下に刺突列点文が施されている。端部は横ナデが加えられ、内面はナデ調整が認められる。79・80は阿波IV-2併行期と考えられ、搬入品の可能性がある。

81・82は蓋である。

81は底径が16.0cm、器高は5.5cm、82は底径4.2cmを測る。調整はいずれも台部はナデ調整が加えられている。81が外面は上位からケズリ調整、ミガキ調整が、内面は下位にナデ調整が認められる。82は外面・内面ともヘラ削り調整が認められる。胎土は石英、長石、角閃石から成り、色調が暗褐色であることから、生駒山西麓産である可能性がある。時期は山城II-2併行期と考えられる。

85・88・89は広口壺である。

85は頸部が緩やかに立ち上がり、外反する口縁を持つ。口径は14.6cmを測る。口縁端部に強い横ナデが加えられている。外面は頸部上半に縦ハケ、下半には縦ハケ後ヘラ磨きが認められる。内面は口縁部に横ハケ、頸部は剥離している。時期は山城II-2に属する。88は口縁部が朝顔形に広がる。口縁端部は面をなす。内面ヘラ磨き、体部外面は板ナデする。89は口縁部が大きく外反し、端部は面をなす。端面にはクシ描波状文を、頸部には3帯以上のクシ描直線文を巡らす。外面頸部は粗い縦ハケ、内面も粗い横ハケを施す。色調は浅黄色で、形状は近江型に似るが地元産の土である。山城III-1併行期の時期である。

83・84・86・87・90～103は外反する口縁部で端部に面をなす甕である。

83・84・86・87 口縁が短く外反する甕である。83は口径が18.6cmを測り、口縁端部が横ナデ、

外面は粗い縦ハケが加えられている。内面は横ハケで一部には後ナデ調整が認められる。84は口径が16.0cmを測り、外面が口縁部から体部にかけて4条/cmの縦ハケが加えられているが、それより下位は磨滅して明瞭でない。内面も口縁部から体部にかけて横ハケが認められるが、それより下位は磨滅しており明瞭でない。86は口径が15.4cmを測り、口縁部外面は横ナデ、体部は5条/cmの粗い縦ハケが加えられている。内面は口縁部が5条/cmの粗い横ハケ、体部ではナデ調整が加えられている。87はやや屈曲気味の口縁部で、口径が12.2cmを測る。外面は口縁部にナデ調整、体部に5条/cmの縦ハケが加えられている。外面は口縁部に横ハケ、体部にナデ調整が認められる。これらの時期は山城II-1～2期と考えられる。

90は口径が16.8cmを測る。外面が口縁部上半に横ナデ、下半に縦ハケが加えられている。内面は磨滅しており、調整は明瞭ではない。91は頸部が直立して立ち上がり、口径は18.4cmを測る。口縁端部は横ナデが加えられている。外面は頸部上半が磨滅している。下半はタタキ調整が加えられた可能性がある。内面は口縁部から頸部にかけて横ハケが認められるが、それより下位は磨滅しており調整は明瞭ではない。92は口径21.4cmを測る。全体的にナデ調整が加えられている。93は口径14.8cmを測る。最大径部は中位より若干上位に位置し、全体的に腰高の形態である。底部は欠損している。外面は体部下位にヘラ磨きが残るが、全体的に磨滅していく調整は不明瞭である。94は口縁部内面をハケ目で調整する。95は外面頸部下に強い横ナデがみられる。あとはハケ目で調整する。96は壺甌型の土器で、外面を縦ハケ、内面を横ハケで調整する。98は口縁端部をつまみ出す。99は細頸で胴長になる、タイプの甌で外面を縦ハケ、内面を横ハケで調整する。色調は浅黄色である。100は内外面をハケで調整する。101は広口の壺甌型で、ナデ調整する。色調は灰白色である。102は口縁端部をつまみ上げ、端部先端に刻み目を施す。いずれも山城III-1・2期、近江III-1・2期の土器である。

103は外反する口縁部の甌で口径15.0cm、器高13.6cmである。底部は焼成後に穿たれた4mmの穿孔がある。体部内外面はヘラ削りする。甌に使われたものであろう。外面底部から体部下半は炭化物が付着している。山城IV-3期である。

104～123は「く」の字に外反する口縁部の甌である。

104～108は頸部から口縁部が鋭角に屈曲し口縁端部には面を持つ。104は口縁端部の頸部に刻み、107は口縁端面に梢円の刻み、108は口縁端面にハケ状工具による刻み目を施す。104は内面頸部をヘラ削りする。これらは山城III-1・2期の時期である。

109～113・115・116は口縁部の屈曲はやや緩やかであり、口縁端部はつまみ上げるものが多い。110は口縁端面に刻みを施す。112は屈曲する口縁部で、端部に刻みを施す。113は口縁端部に刻みを施し、体部には横方向の粗いタタキの上から縦ハケ施調整する。115は屈曲する口縁部端部に刺突列点文を巡らす。内外面は粗いハケで調整する。赤橙色の色調で、焼成は良好である。これらの甌の時期は山城IV-1期に併行する。

114は口径10.0cmの小型の甌で、口縁部は緩やかに外反し、体部はやや胴長の器形となる。全体に剥離が激しいが、外面頸部にハケ目が残る。色調は灰褐色で、胎土は粗い。山城IV-1期

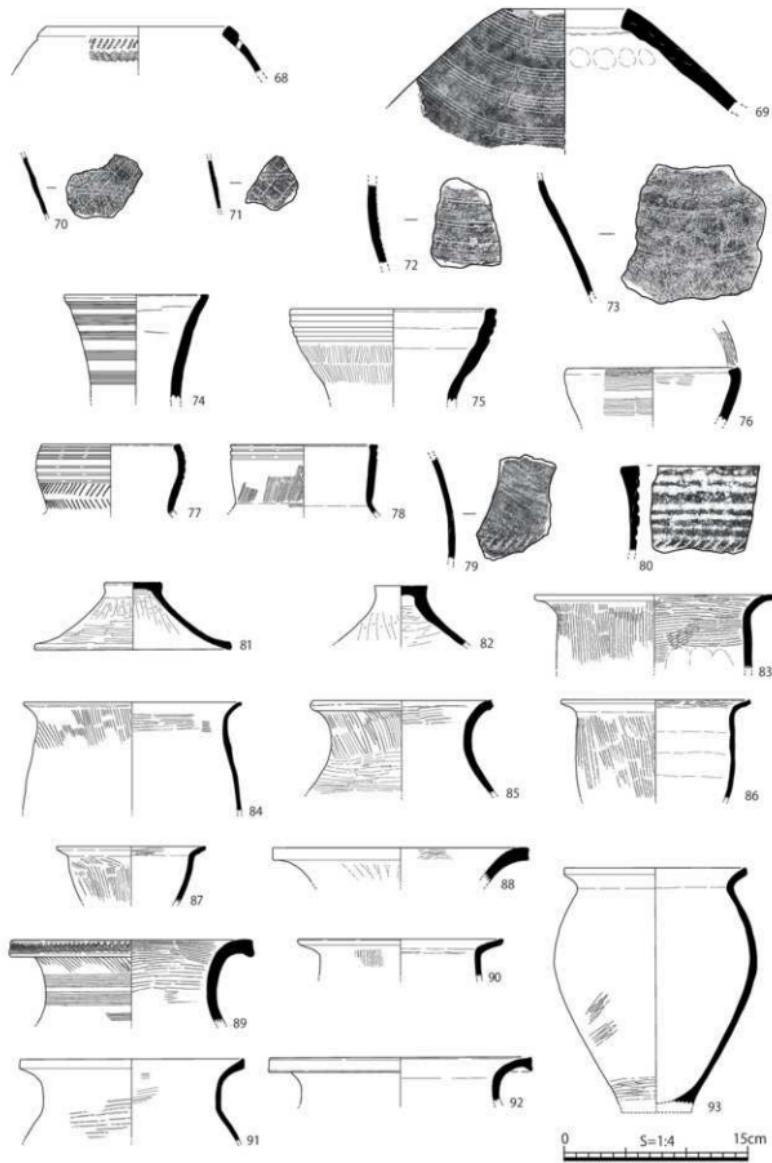


図 26 環濠 01(68 ~ 93)

であろう。

117～122は鋭く屈曲する口縁部で、端部には刻みを施す。やや球形から胴長の体部になろう。体部外面は縦ハケで調整する。色調は橙色系で精良なものが多い。119の色調は灰白色である。123は口縁端部の刻みはないが。外面の体部はタタキ目の後に縦ハケ、内面口縁部は横ハケ、体部は縦ハケを施す。いずれも山城IV-1期の時期である。

126・129は外反する甕である。126は口縁部の破片で口縁端部に刻み目、内面に波状文を施文する、黒褐色の色調を持つ近江系の甕である。時期は近江IV-2期か。129は外反する口縁部で、端部をつまみ上げる。口縁端面に刻目を施す。頸部には2個一対の紐穴を穿つ。山城IV-2期の時期と考えられる。

124・125・127・128・130～151は受口状口縁を持つ甕の口縁部である。

124は外反する頸部から口縁部が内湾し受口状口縁になる。端部はつまみ上げる。体部には2帯の刺突列点文を巡らす。外面体部、頸部は縦ハケ、内外口縁部をいずれも粗い横ハケで調整する。口縁断面には粘土組痕が残る。125は受部から垂直に口縁部が立ち上がる。外面頸部に直線文、刺突列点文、内面には山形に刺突列点文を施文する。外面を縦、横の粗いハケ目で調整する。127・128はやや内湾気味の口縁と直立する口縁部で頸部には刺突列点文と直線文をそれぞれ施文し、127の口縁端部は刻む。いずれも粗いハケ目で、口縁外面を横に、体部を縦ハケで調整する。灰白色の近江系の胎土である。時期は近江IV-1期である。

130～132は山城IV-2期の受口状口縁甕である。130は外面の体部を縦ハケ、それ以外は横ハケで調整する。131は短い口縁部が立ち上がり、ハケ目調整は体部の縦ハケのみである。132は屈曲する口縁部で、全体に磨滅しているが調整はハケ目である。

133～141は外反する受部から口縁部がほぼ上方に立ち上がる。調整は外面口縁部を横ハケ、体部を縦ハケ、内面に縦ハケを用いる。外面の施文は134が刺突列点文、135は直線文と列点文の複合、137は刺突列点文と口縁端部の刻み目、139は頸部の刻み目と体部の直線文である。いずれも時期は近江IV-2期である。

142は受部から口縁がやや外反気味に立ち上がる。外面頸部には刺突列点文と菱描文を、口縁端部上にも刺突文で加飾する。外面の口縁部、内面頸部に粗い横ハケで調整する。色調は黄灰色である。143はややしまった頸部から受部が肥厚し、口縁部は内湾して立ち上がる。外面頸部から体部にかけて刺突列点文を5帯、その下に波状文を、内面頸部には刺突列点文を山形に施文する。外面頸部は縦ハケ、口縁部は横ハケ、内面は板ナデと削りで調整する。色調は橙色である。144は緩やかに外反する受部から口縁部が立ち上がる。外面は粗い縦ハケ上から、12条の直線文で施文する。口縁部外面は横ハケである。色調は褐色で近江産に類似する。145は大きく外反する受部から口縁部が内湾気味に立ち上がる。外面は頸部には列点文、その下にやや不整形な波状文、内面は受部下に2段の山形の刺突列点文、口縁部にクシ状工具で山形文を施す。外面頸部に縦ハケ、口縁部に横ハケ、内面体部はヘラ削りを施す。色調は黄橙色である。146は浅い受部から口縁部が屈曲する。全体に磨滅しているが内面にクシ描状の線刻がある。色調は灰白色

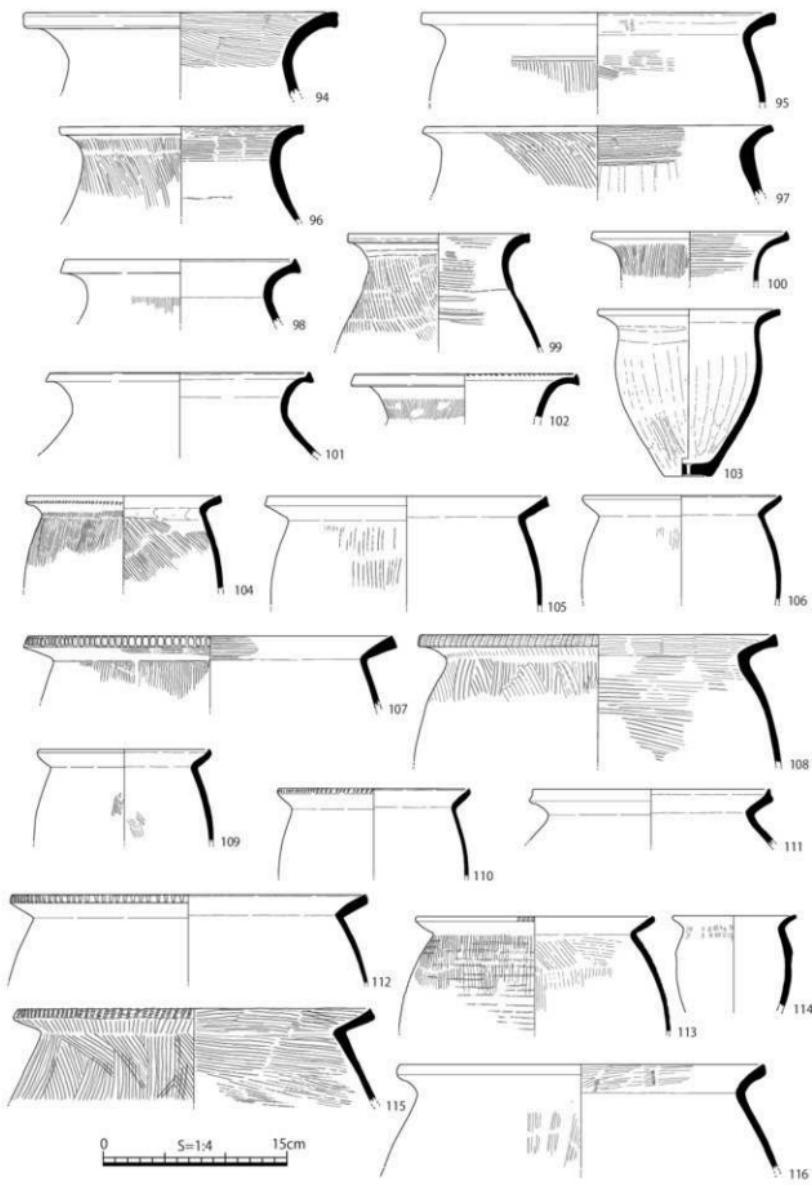


図27 環濠 01(94～116)

である。147は緩やかな受部から短い口縁部が立ち上がり、端部は尖らせる。外面頸部に刻みを巡らす。外面の色調は浅黄色である。148・149は受部から口縁部が屈曲する。内面にはクシ状工具で斜方向に施文する。外面はハケ目で調整する。これらは近江IV-3期に併行する土器群である。

150は水平気味の受部から口縁が外反して立ち上がる。口縁端部に刻みを施し、外面はハケで調整する。三河西西部にみられる器形で尾張系か。尾張IV-3併行期の時期である。

151は体部破片で外面にクシ描波状文を施す。IV様式である。

152～155は鉢である。

152は口径15.2cmで体部の最大径がやや下になる。湾曲する体部から口縁部が内湾気味に立ち上り、端部は尖らせる。内外面をハケ目で調整し、内面底部付近は板ナデする。153は口径12.4cmの小型の甕で体部の最大径は頸部直下にある。体部が内湾気味に立ち上り頸部から口縁部が外反し、端部は丸く收める。外面を上半は粗い縦ハケ、下半は細かい縦ハケ、内面は板ナデで調整する。どちらも近江IV-2併行期の時期である。

154は口径10.8cmの無頸鉢で上げ底の底部から体部が内湾して立上る。外面はヘラ削り、内面は粗いヘラ磨きを施す。155は台付無頸鉢の脚台で、下半部に円孔を穿つ。円孔下には1条の沈線が巡る。山城IV-2期のものであろう。

156～163は高杯の杯部である。

156は口縁部が水平に広がる杯部で、外面ヘラ削り、内面磨きを施す。山城III-2期である。

157は水平に広がる口縁端部が垂下する。内外面を横ナデとヘラ削りで調整する。158は口縁端部が大きく垂下する。磨滅が激しいが外面はハケで調整をする。両者共に、山城IV-1期のものである。

159～162は底部から口縁部まで内湾して立ち上がり、口縁端部は上に面を持つ。159は口縁部外面にやや太い沈線を、160は口縁外面に4条の擬凹線を、161・162は3条の擬凹線を巡らす。159は摂津IV-4併行期、ほかは山城IV-2期の時期である。163は口縁端部が垂下するタイプと思われるが明確ではない。山城IIIまたはIV期である。

164～157は高杯の脚部である。

164は裾部端部に刻みを施す。165はやや短脚で底部内面をヘラ削りする。山城II-2期か。166は裾部端面に擬凹線を持つ。167は短い脚で中央部分に4か所長方形の透かし窓を穿つ。裾部端部屈曲部には刺突文を加える。311は長脚で外面はハケで調整をする。器台の可能性もある。171は裾部の小片で外面にヘラ描きの直線文で線刻する。174は緩やかに広がる裾部の下方に5個の透かし孔を穿つ。166～175は山城IV期の時期である。

176は器台の脚部である。内外面をナデ調整する。山城IV期のもの。

177～179は蓋である。

177は笠型になる蓋で、2個一対の紐孔が穿たれる。口径は16.4cmでやや小型で壺の蓋であろう。外面にはヘラ磨きを施す。178は口径18.8cmとやや大型で2個一対の紐孔が穿

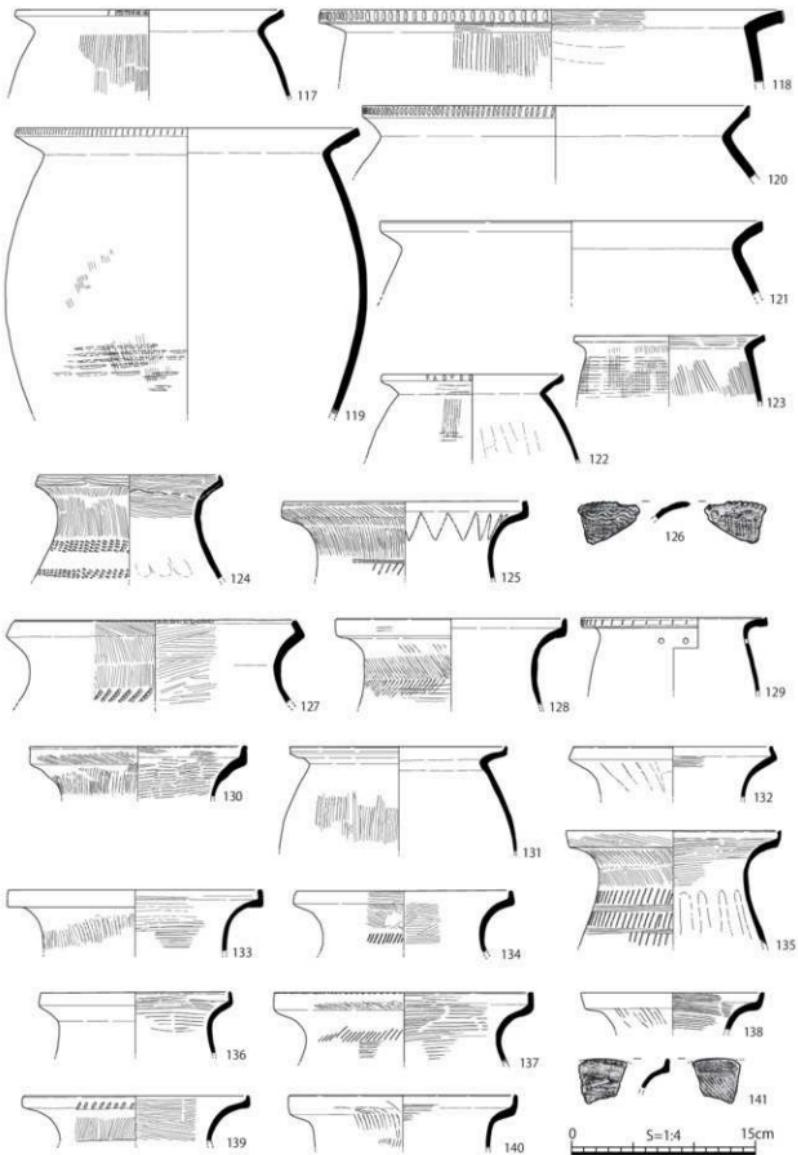


図28 環濠 01(117～141)

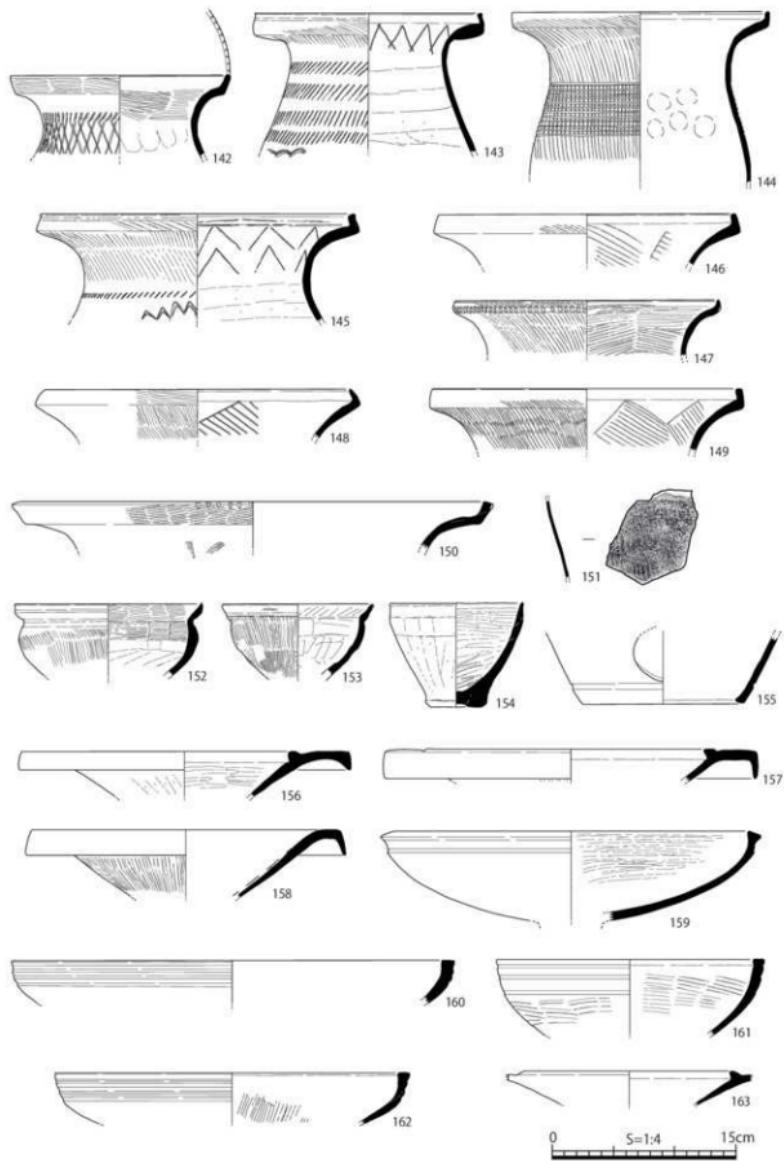


図29 環濠 01(142～163)

たれる。内面をヘラ削りする。179は口径26.6cmに復元できる大型の蓋で、2個一对の紐孔を穿つ。裾部外面には刺突列点文で加飾する。外面はヘラ磨き、内面はハケ目で調整する。いずれも山城IV-1併行期である。

180の台形土器は頂部が平らで頸がわずか張り出す。体部はやや内湾しながら裾部に向かう。頂部外面はナデで調整し、外面は上半をヘラ削り、下部にハケ目を残す。内面はナデとハケ目で調整する。色調はにぶい黄褐色で胎土には大きめの長石、石英を含む。焼成は良好である。

181～206は底部である。181～196は壺の底部とした。

181～183はともに分厚い底部で、183はやや胴長の体部であろうか。体部外面をヘラ磨きする。183はやや上げ底の底部をヘラ削りする。184は分厚い底部から体部が大きく広がり、外面をハケで調整する。191は底部外面も細かいハケで調整する。194～193は2.1cmと部厚い底部で外面にいくつかの当たり痕がある。196はやや有形の体部で外面はハケで調整する。181～183は前期の様相を示すが、そのほかは山城III～IV様式の範疇と考えられる。

197～206は甕の底部とした。197・202・204は底部から内面にかけてヘラ削りを施す。器壁を薄くするこの時期の特徴である。203は底部を穿孔する。瓶として使われたものである。

#### 土器棺墓01(図34)

土器棺墓からは、277の甕が1点出土した。

277の甕は口径20.0cm、器高39.0cmのほぼ完形品である。緩やかに外反する口縁部で端部は面をなす。体部の緩やかな曲線を描き、底部は上げ底になる。体部外面は丁寧にヘラ磨きし、内面口縁部には細かな横ハケで調整する。色調は橙色で、焼成も良好である。時期は、山城IV-I期である。

#### 弥生時代後期

##### 溝03(図31)

溝03からは、3点の弥生時代後期から終末期の土器が出土した。

207は壺である。扁球形の体部で体部最大径は27.0cmで中央部にある。外反する頸部から口縁部はやや短めの長頸甕になろう。底部は上げ底である。色調は橙色で胎土は粗く、焼成が甘い。体部には黒斑がある。全体に磨滅しているが体部外面にハケ目、内面はヘラ削りする。時期は、山城V-5併行期と考えられる。

208は受口状口縁甕である。口径15.0cm、器高20.8cmである。口縁の受部は緩やかに外反する。受部外面には刻みを体部には刺突列点文が残る。頸部には強い横ナデがあり、体部はハケで調整する。内面は磨滅している。山城V-5併行期かやや新しい時期と思われる。

209は二重口縁長頸甕である。口径29.4cm、残存器高は26.6cmで、頸部の径は中央部で13.0cm、長さは21.0cmである。二重口縁の立ち上り角は約75°、外反角は40°で外反の湾曲は大きい。口縁端部と擬口縁部に二重竹管で施された円形浮文を貼り付け、口縁部外面には11条の直線

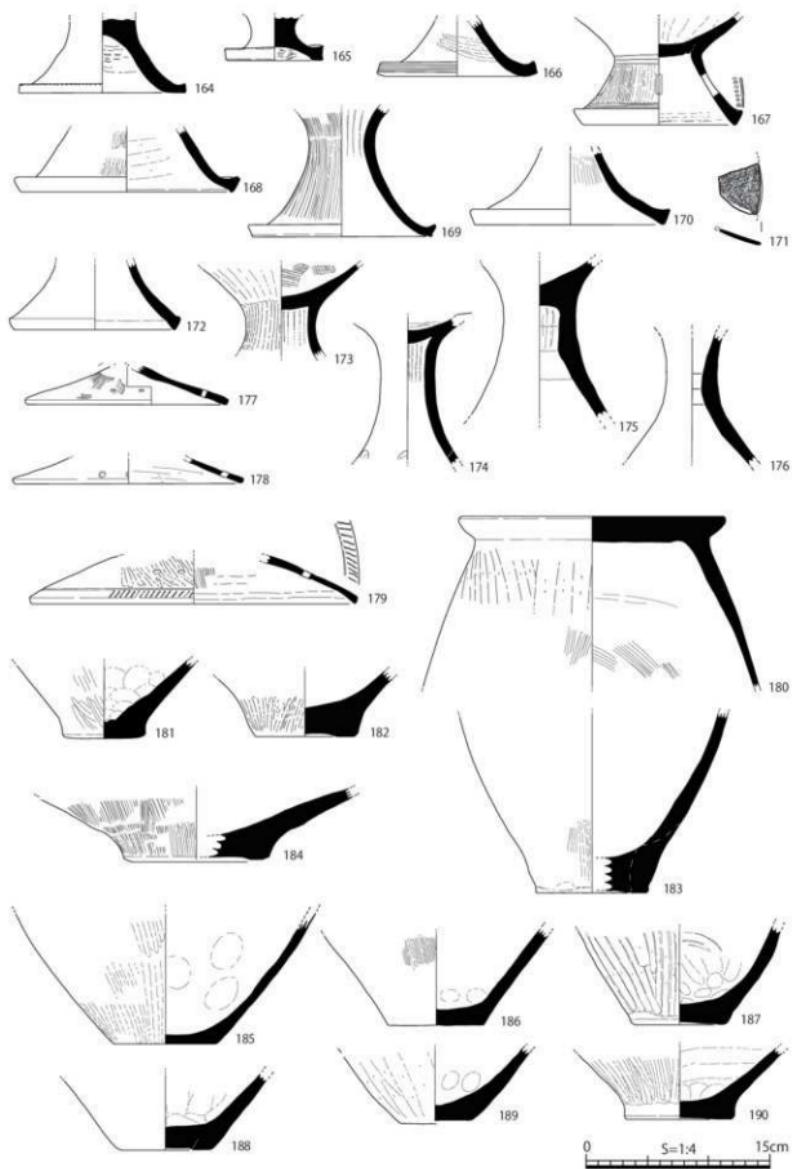


図 30 環濠 01(164 ~ 190)

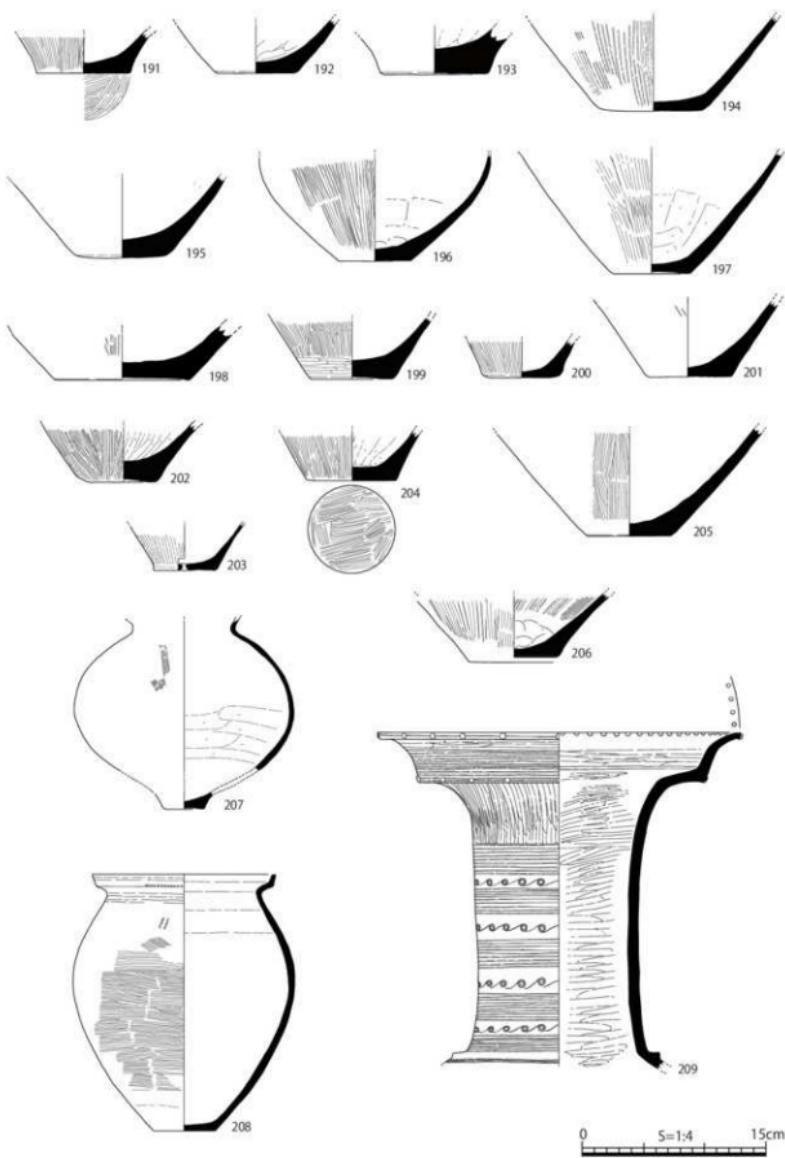


図 31 環濠 01(191 ~ 206)、溝 03(207 ~ 209)

文を巡らす。頸部には8条5帯の直線文、その間に4帯の渦文を施文する。この渦卷文は二重竹管文の押捺を直線文でつないで、連続渦卷文に装飾している。二重口縁の壺・器台への竹管文の施文は、瀬戸内・山陰・北陸、畿内では摂津の西求女塚古墳などに見られるが希少である。頸部から体部への屈曲部には、断面三角の貼付け突帯を巡らし、その下段にはさらに直線文で加飾する。以下は欠損して不明である。調整は外側の頸部屈曲面と内側をヘラ磨きする。色調は内外面、断面とともに橙色で胎土には石英、長石、チャートを含み、焼成は良好である。在地産の胎土であろう。この土器の最大の特徴は、二重口縁壺でありながら、21.0cmと細長い頸部を持つことで、周辺地域に類例はない。特殊壺、特殊器台移行期の土器であろう。時期は山城V-5併行期と考えられる。

#### 自然流路 01 下層（図32～34）

自然流路01下層からは、縄文土器(211・212)、弥生土器(212～249・251～263・266～276)、土師器(250・264・265)が出土した。土師器は混入品と思われる。

##### (縄文土器)

211と212は流路の下層から出土した深鉢である。210の突帯は幅広の突帯の中央部に沈線を巡らす。211は突帯に刻みを施す。縄文時代晩期終末期の長原式突帯文土器である。

##### (弥生土器)

212～224は壺である。

212は有段受口広口壺で広い口縁部の小片で、端部は上方に面を持つ。口縁部外面には刺突列点文を2段に羽状に、体部には粗いハケ目を施す。色調は灰白色で胎土は密である。213・216・218は広口の短頸壺で緩やかに外反する口縁部である。213は体部外面をハケ目で調整する。214・215は生駒西麓産の広口の長頸壺とみられる。215は垂下する口縁端部に竹管文とやや崩れた1条の波状文を、口縁端部内面に3条の波状文を施す。214は体部内外面に、215は外面のヘラ磨きを施す。212は近江Ⅲ-2併行期、213は山城V-3期か、214は河内V-0併行期か、218は山城Ⅲ-1併行期か。

217は長頸壺のほぼ完形品である。球形の体部、細長い頸部から口縁部がやや外反する。内外面を細かいハケで調整する。色調は浅黄色、胎土の刃長石、石英を含むが焼成は良好である。山城V-2期の時期である。

219・220は短頸の細口壺で球形の体部から、口縁部がほぼ直立する。220は全体に磨滅しているが無文で、色調は灰白色である。219は時期は山城V-3期、220は近江V-3併行期と考えられる。

221は受口状口縁の受部は退化し、緩やかに外反する。内外面に施文はない。222は体部破片である。7条1帯のクシ状工具で直線文と弧状文でクシ描きする、東海系のものである。223は広口壺で体部はパレススタイル化する器形と思われる小片である。口縁端面には4条の凹線文を巡らし、5条1対と思われる棒状浮文、棒状浮文との間に円形浮文で加飾する。口縁部内面上

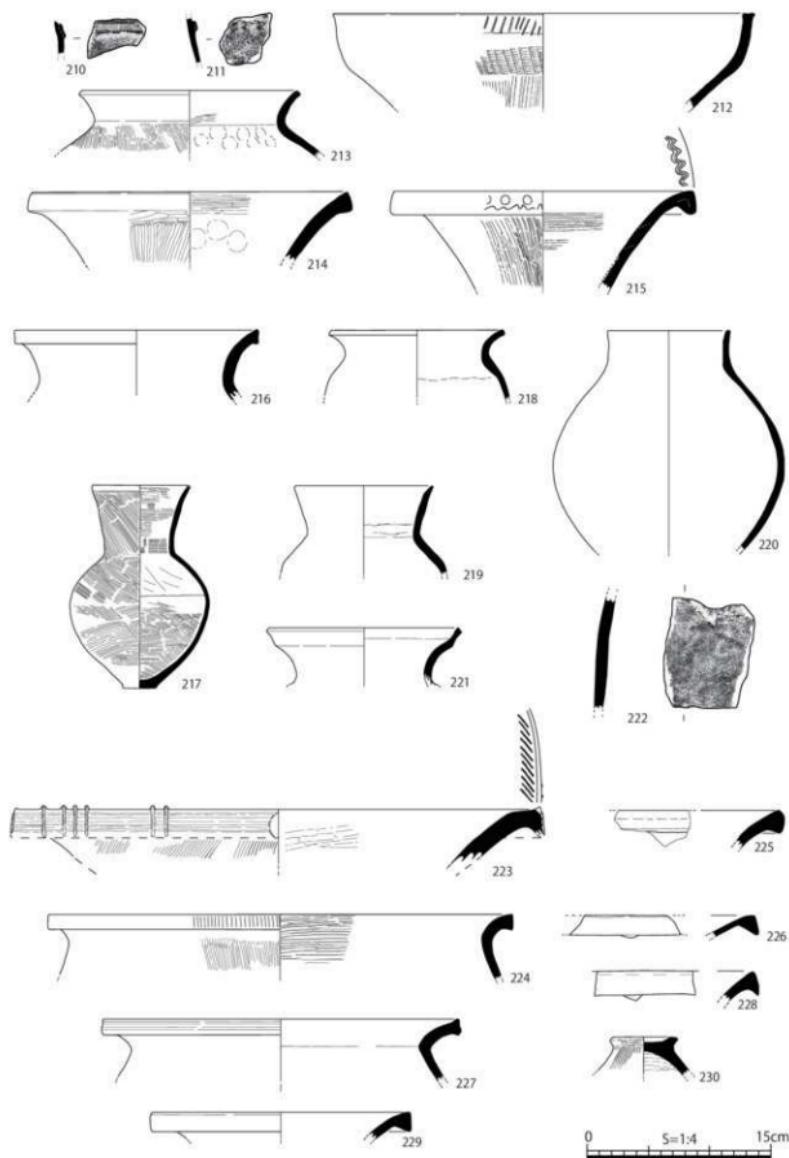


図32 自然流路01下層(210~230)

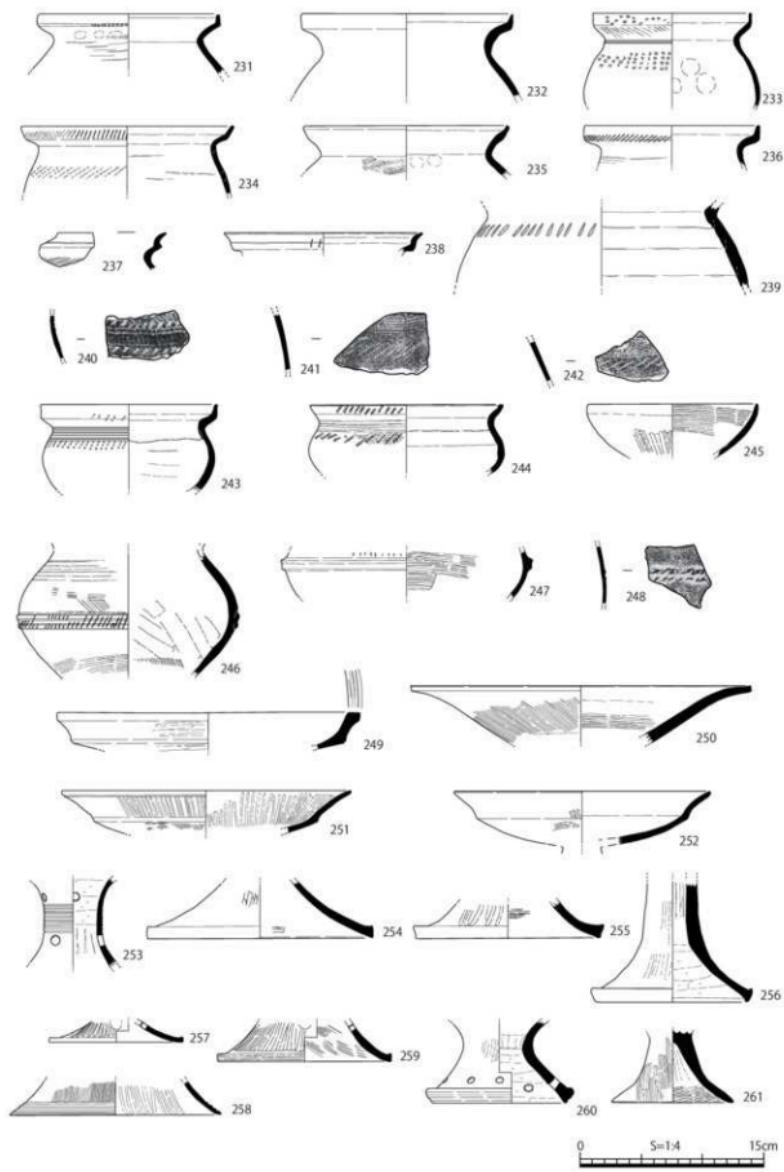


図 33 自然流路 01 下層 (231 ~ 261)

端には刺突列点文を施し、体部外面は縦ハケ、内面はヘラ磨きする。色調は橙色で、焼成は良好である。221は尾張IV-3併行期、222は近江III-1期、223は尾張VII-3併行期の時期である。

230は蓋である。

230は窪みを持つ天井部で体部は「ハ」の字に広がる。外面はハケ目、内面はヘラ磨きする。色相は灰白色で胎土は粗い。時期は、山城IV-2期である。

224～229、231～242は甕である。

224～229は広口に外反する甕である。224は口縁端面に刻みを施し、内外面は粗いハケで調整する。色調は灰白色である。225～229は胎土には角閃石を含み、色調は灰褐色から赤褐色系で生駒西麓産であろう。口縁端部を肥厚させ、垂下させるものもある。227は口縁端面に擬凹線2条施す。河内V-0期を中心とした時期である。

231～236は受口甕である。受部から口縁部の立ち上がりが内湾ぎみの231・233・236から235の外反気味の変化は時期差で、体部外面の施文も省略される傾向にある。山城IV-2～V-3期で、近江系も近江IV-2～V-3期に併行する時期であろう。

237・238は東海系のS字口縁甕である。外反して立上る受部から、口縁端部がさらに大きく外反する。口縁外面には1条の沈線がめぐり、238は沈線上に縦方向に直線文を施す。ともに尾張VII-3期である。

239～242は体部の破片である。239は頸部下に長い刺突文を加える、吉備系か。産地は明確ではないが、備前IV-2期か。240～242はクシ描直線文、列点文、押引文などで加飾する。山城IV併行期か。

243～245は鉢である。243・244は受口状口縁鉢で、体部は球形から楕円形に変形し、口縁の受部の段も緩やかに外反する。口縁外面と体部に刺突列点文、頸部に直線文を施す。245は無頸の鉢で体部から口縁部が内湾して立ち上がる。外面はヘラ磨き、内面には粗いハケで調整する。いずれも山城V-2・3期のものである。

246～248は手焙型土器の体部破片である。246の貼付け突帯は幅広で中央に沈線を持ち、刻みを施す。247は突帯から外れた体部に刻みを施す。248は突帯と刻みは手焙に類似するが、薄い器壁で外面に炭化物が付着する様相は甕の可能性もある。いずれも山城IV-1～V-2・3期のものである。

249・251・252・254～263は高坏である。

249・251・252は高坏の环部である。249・251・252は环部が屈曲し口縁が外反する。249は口縁部の立ち上がりは短く、端部に面を持ち擬凹線を施し、外面はヘラ磨きする。色調は鈍い赤褐色で、胎土は角閃石を多く含む。阿波IV-2期の下川津B式搬入品とみられる。251・252の口縁部の外反度は大きくなり、内外面をヘラ磨きする。山城V-1・3期であろう。

254～259・261～263は高坏の脚部である。

254～259・261はいずれも裾部が緩やかに広がる。外面はヘラ磨きを施す。257・259は「ハ」の字に開く裾部で、中央に穿孔がある。外面をヘラ磨き、259は内面にハケ目、裾部端面は横

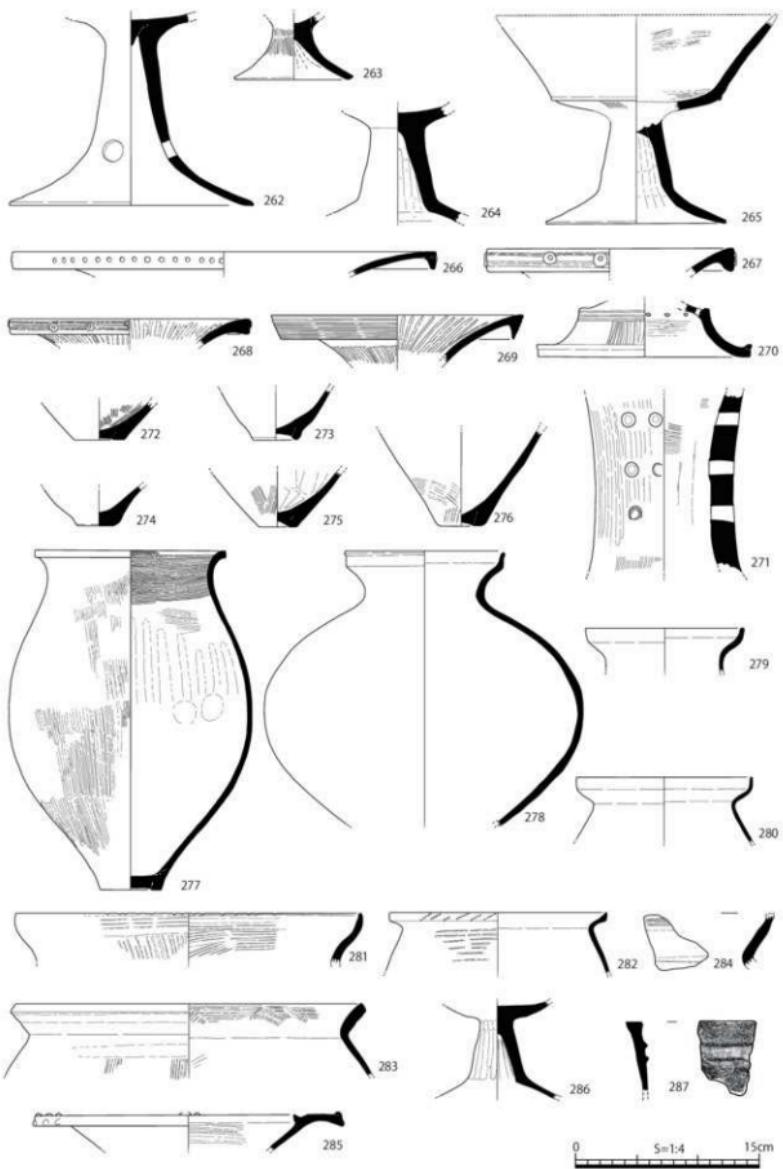


図 34 自然流路 01 下層 (262 ~ 276)、土器棺墓 01(277)、土坑 01(278 ~ 280)、4 層 -1・2 / 包含層 (281 ~ 287)

ナデで施文する。257は精良な胎土で、角閃石を僅かに含む。山城IV-1期の時期である。258は裾部端面に凹線文を施す。261は内外面を横ナデする。いずれも山城IV～V期の時期である。262は环部から長い脚が段を持たずに裾部が曲線的に広がる。透し孔は3個である。色調は赤橙色で胎土には砂粒が多く、焼成は甘いため全体に磨滅している。時期は、山城V-3期である。262は長脚で、「ハ」の字に広がる裾部で、透し孔を持つ。内外面は磨滅しているが、色調は橙色である。山城V-3期である。山城IV-1期である。263はやや短脚で屈曲することなく広がる。端部は面を持つ。透かし孔はない。頸部には細かなハケ目が残る。にぶい赤橙色で、焼成はよい。山城IV-1期である。

260は台付鉢の脚、または器台である。短い脚部で裾部端面は面を持ち、接地部は尖らせる。裾に近い部分に6～8個の穿孔がある。外面はナデ、内面はヘラ削りする。山城IV-2期か。

253・266～271は器台である。

253は同部中央に9条の沈線を巡らし、その上下に3個ずつ6個の透し孔を穿つ。外面はナデ、内面はヘラ削り、ナデを施す。山城IV-2期であろう。266～268は垂下する口縁端部に円形浮文を貼り付ける。266の浮文は径5mmほどで、約1cm間隔に、267は2条の凹線文上に径1.3cmの大きめに浮文を約4cm間隔で貼り付ける。269は口縁端部に2条の凹線上に径7mmの浮文を約3cm間隔で貼り付ける。器壁の内外面をヘラ磨きする。269は大きく垂下する口縁端部に多条の凹線文を施し、内外面をヘラ磨きする。270は器台脚台部で台から脚への屈曲部に3点の穿孔がある。脚台上部には直線文があり、外面をヘラ磨きする。271は大型器台の脚部で厚い器壁で、外面をヘラ磨きする。中央部に2個1対、3段の穿孔が6個確認できるが、破片のため全容は不明である。いずれも山城V-3～4期で270は河内-0併行期である。

272～276は甕の底部である。

272・274は平底であるが、他は上げ底になる。275は内面を板ナデし、外面はハケ目で調整する。276の外面下はタタキ痕が残る。遺物に時期の特定は難しいが、山城IV-1～VI-1期であろう。

#### (土師器)

250の环部は屈曲なく広がる口縁部で、外面をハケ、内面はナデとハケで調整する。色調は橙色で、胎土は精良である。布留式新段階のものであろう。

264の脚はやや厚い壁で、裾部は屈曲する。脚内面はヘラ削りする。灰黄褐色の色調で、胎土は精良である。布留Ⅲ併行期か。

265は环部が屈脚して口縁が外方に延びる。口縁端部は欠損する。脚部は緩やかに屈曲して裾が広がる。色調は明赤褐色で、内外面はやや磨滅する。時期は庄内IV期である。

### 弥生時代後期～古墳時代

#### 土坑01（図34）

土坑内から、278～280の土器が出土している。

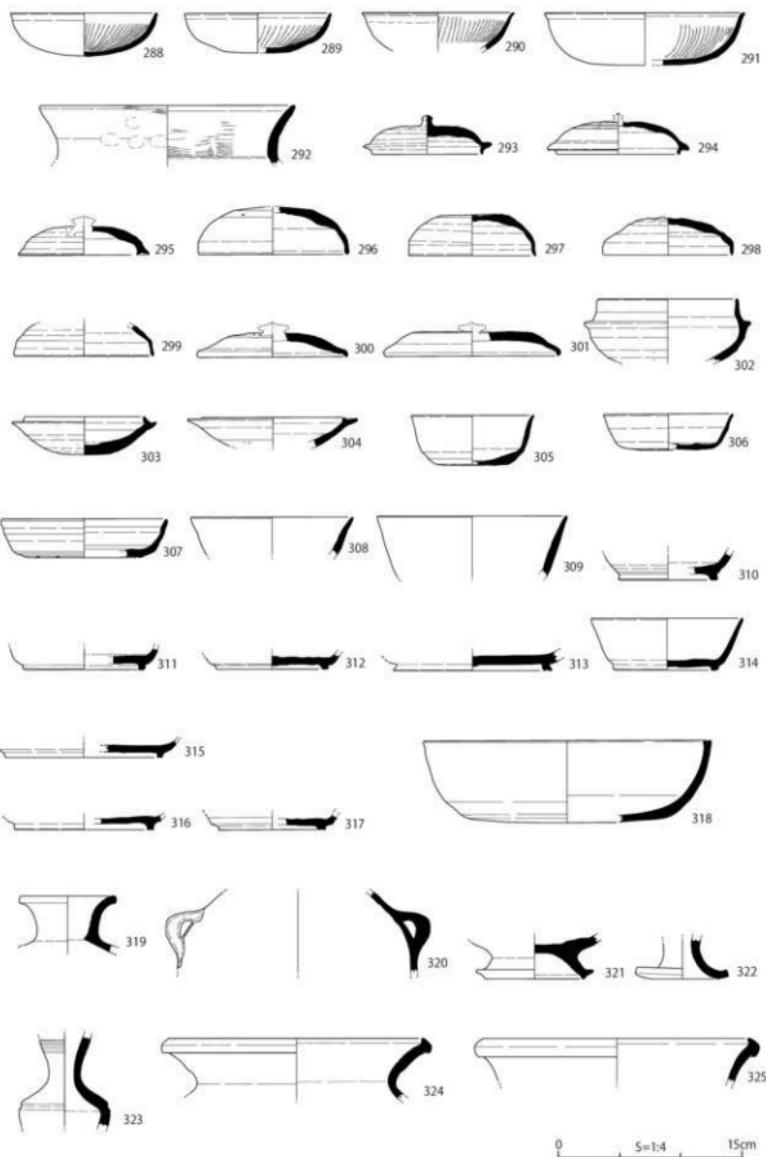


図 35 集石造構 01(288 ~ 325)

278 の壺は体部中央に最大径がありやや楕円形のプロポーションである。口縁部は緩やかな受口上口縁を呈し、口縁端部はやや外反する。外面はやや磨滅しているが、口縁部から外面頸部に横ナデを施すほか、他にはハケ目調整などの痕跡は見られない。色調は灰白色で、焼成はやや甘く、胎土には砂粒を多く含む。279・280 は受口状口縁壺である。3mmと薄い器壁で、受部の立ち上がりも緩やかである。全体に磨滅している、外面の施文は確認できない。これらの時期は、いずれも口縁部の形態から山城V-5期か、やや新しい時期とみられる。

#### 4-1・2層／包含層（図 34）

4-1・2層／包含層からは、281～287 の弥生土器と土師器が出土している。

281 は受口状口縁の甕口縁部である。受部の段は緩やかで、口縁端部には刻みを施す。口縁外面には横ハケ部には縱ハケ、内面は横ハケを施す。近江の受口甕に類似する。282 は「く」の字に外反する頸部から口縁端部は面を持つ。口縁外面は、体部外面にタタキ痕がみられる。283 は「く」の字に外反する広口甕である。284 は甕の口縁破片で端部は欠損する。口縁中央部は肥厚する布留壺Ⅱ式である。

285 は高杯の坏部破片である。口縁部は水平に伸びやや垂下する。口縁端面と端部に円形浮文を貼り付ける。286 の高杯は屈曲する脚部で、橙色の色調である。

287 は無頸の鉢の口縁部で、内傾する体部から、口縁端部は面を持つ。体部外面には2条の突帯文を貼り付ける。

これらの土器は、弥生時代中期から古墳時代後期までの土器を含む。

#### 飛鳥～奈良時代

##### 集石遺構 01（図 35・36）

土師器（288～292）、須恵器（293～325）、製塙土器（326～329）、平瓦（330～334）、鉄滓（335）が出土した。

288～291 は土師器坏である。

291 の口径は 12.0～16.4cm で、やや口径が大きい。器高は 3.2～4.3cm である。内湾する口縁部で、口縁端部はやや外反する。体部外面を横ナデし、内面には1段の暗文を施す。色調は赤褐色で、胎土は精良である。遺物の時期は、飛鳥Ⅱの7世紀中頃である。

292 は土師器甕の口縁部である。緩やかに外反する口縁部で、外面口縁端部と内面にはハケ目が残る。色調は灰白色で、胎土は精良である。奈良時代前半の土器である。

293～323 は須恵器である。

293・294・295 は坏 G 盖である。口径は 9.0～10.8cm で天井部には宝珠型のつまみが付き、口縁端部内面には返りが付く。外面上半は回転ヘラ削り、下半から内面は回転ナデを施す。遺物の時期は、飛鳥Ⅰ・Ⅱの7世紀前半～中頃である。

296～299 は坏 H 盖である。口径は 10.6～12.2cm で、器高は 3.0cm 前後である。外面上半

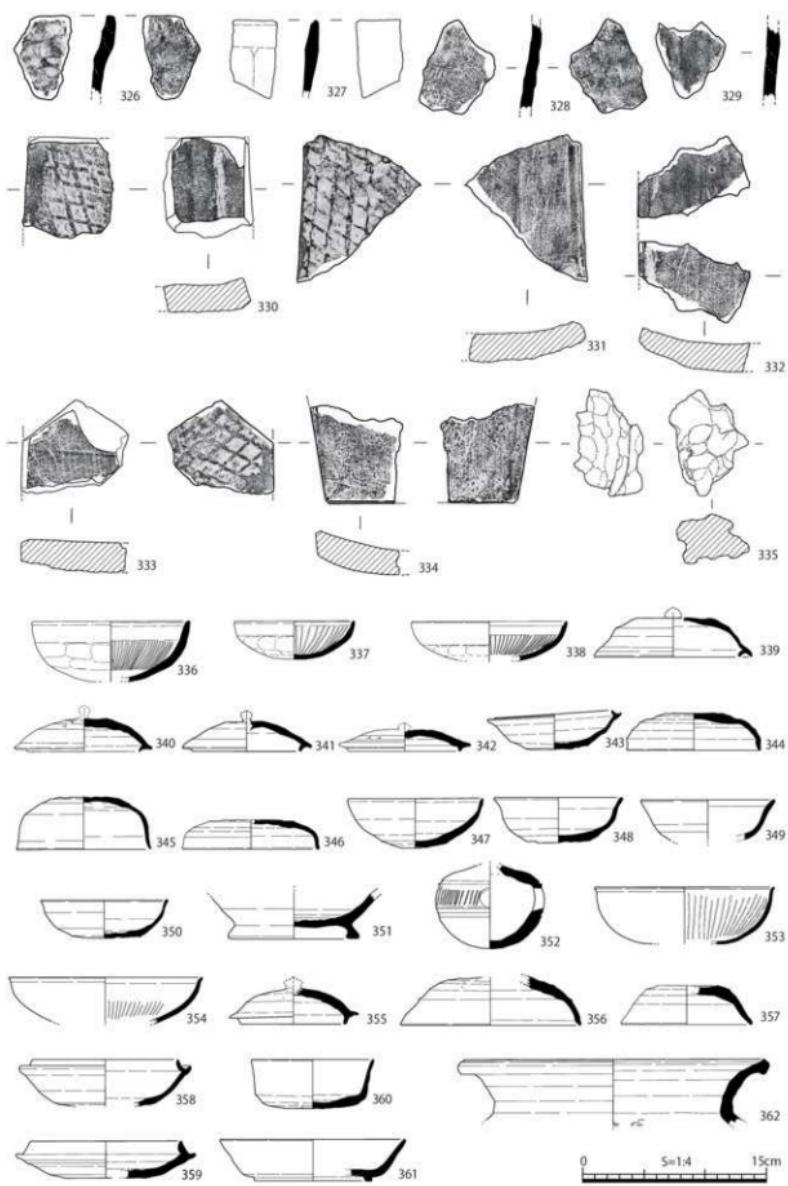


図 36 集石遺構 01(326～335)、溝 04(336～352)、自然流路 01 上層(353～362)

1/3は回転ヘラ削り、下半と内面は回転横ナデを施す。297は完形品で天井部は扁平で、口縁端部はやや外反する。遺物の時期は、飛鳥Ⅰ・Ⅱの7世紀前半～中頃である。

300・301は環B蓋である。外面天井部にやや扁平なつまみが付き、口縁端部内面から返りは消える。天井部上半のヘラ削りは天井部1/3と浅く、下半と内面は回転ナデを施す。301はやや扁平になる。8世紀中ごろの時期である。

302は古墳時代の环身で残存する口径は約1/6である。丸い体部で短い受部が付く。口縁部は垂直に立ち上がる。体部外面のヘラ削りは約1/2で、他は回転ナデで調整する。色調は灰白色で焼成はやや甘い。遺物の時期は、TK10の6世紀中頃と考えられる。

303・304は环Hで303は口径9.8cmと小型である。短い受部と立ち上がりは内湾する。焼成が甘いため色調は浅黄橙色で、胎土もやや粗い。304は受部から短い立ち上がりが付く。色調は灰色で焼成はよい。蓋の可能性もある。飛鳥Ⅰ・Ⅱのものであろう。

305～309は环Aである。305は口径10.0cm、器高4.2cmとやや深い器形で、扁平な底部から体部が緩やかに外反して立上る。底部はヘラ切りする。体部内外面は回転ナデを施す。色調は灰色で胎土は精緻である。306は薄い器壁で、底部をヘラ削りし、内外面を回転ナデで調整する。307・308は外反する口縁部の破片である。

310～317は环Bで底部に高台が付く。いずれも外側に踏ん張るが、長さはさほどない。314は口縁部まで残存する。いずれも緩やかに外方に延び、口縁端部は丸く收める。内外面は回転ナデで調整する。灰白色で胎土は精緻である。遺物の時期は平城のI～V、8世紀代である。

318は須恵器の鉢である。口径23.6cm、器高7.0cmと大型である。扁平な底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁端部は面を持つ。内外面を回転ナデで調整する。胎土には砂粒を含む。遺物の時期は、飛鳥Ⅱの7世紀中頃であろう。

319は須恵器壺の口縁部小片である。口径8.0cmで外反する口縁で、端部は丸く收める。内外面は回転ナデで調整し、外面には自然釉が付着する。320は壺の体部の破片で、両肩に断面方形の双耳を持つ。内外面は回転ナデで調整する。色調は灰白色で胎土は精良である。

321は台付壺の脚台部である。やや長めの高台が、外方に踏ん張り、端部をつまみ上げる。

322は高环の脚部で短めの脚部で、端部が外に広がる。内外面を回転ナデで調整する。

323は甌の半身で上下も欠損する。頸部には3条の沈線、体部の肩には1条の幅の広い沈線を施す。穿穴は欠損しているため確認できない。飛鳥Ⅰ～Ⅱ期の時期であろう。

324・325は須恵器甌の口縁部である。口径は20.6cmと22.0cmである。324は「く」の字に屈曲する頸部で、焼成はやや甘い。いずれも内外面を回転ナデで調整する。325は口縁端部が玉縁状に膨らみ、いずれも端部はつまみ上げる。

326～329は製塙土器である。

326は口縁部がやや外反し端部は平らである。器壁は約1.0cmと厚く、粘土紐痕が明瞭である。内外面を指オサエで仕上げ、内面は横ナデで調整する。胎土は粗く石英、長石などを含む。色調は橙色である。

327 は体部から口縁部が直線的に伸び、口縁端部は内側をナデ尖らせる。0.8 ~ 1.0cmの厚い器壁で、内外面をナデで調整する。胎土は粗く、色調は外面が黒色、内面は浅褐色である。

328 は口縁部を欠損しているが、0.8 ~ 1.0cmの器壁である。外面は指オサエ後ナデで調整し、内面には布目痕が残る。粗い胎土で、色調は明褐色である。

329 は底部に近い部分の破片で、約 5.0cm の半径が復元できる。内外面は名で調整する。いずれも口径 12.0cm 前後、高さ 20 センチ前後の砲弾型に復元できる。326 ~ 329 は、いずれも奈良時代の瀬戸内産の製塙土器と思われる。

330 ~ 334 は平瓦である。

330 は端面と側面の一部が残る破片である。側面はヘラ切痕が明瞭である。凹面には布目痕が残り、1cm四方で 6 本とやや粗い。模骨痕は明瞭である。凸面は 1.6 × 2.6cm の菱型の叩きを施し、側面はヘラ削り色相は浅黄色、焼成は甘い。

331 は側面の一部が残る破片である。側面はヘラ切りの後面取りを施す。凹面には 1cm四方に 12 本の布目痕が残る。凸面には 1.8 × 2.6cm の粗い菱形の叩きを施す。色調は明赤褐色で、焼成は堅緻である。

332 は側面の一部が残る。凹面に残る布目痕は 1cm四方 12 本で、模骨痕もみられる。凸面は丁寧にヘラ削りしてあり、タタキの痕跡は見られない。焼成は堅緻で須恵質である。

333 は端面の一部が残る破片である。端面はヘラ切りする。凹面には 1cm四方に 12 本の布目痕が残る。凸面は 1.6 × 2.6cm の菱型の叩き痕が残る。

334 は狭端面、側面の一部が残る。側面には四面側を面取りする。凹面にはやや粗い布目痕、凸面には縄目叩き痕がみられる。色調は灰白色の還元色である。これらの 330 ~ 334 の瓦は、7 世紀後半から 8 世紀前半のものであろう。

335 は鉄滓である。

磁力は帯びない。鉄滓の外側には炉壁と思われる土師質の溶解物が付着している。内面には幅 1.0cm ほどで断面半円形の帯状の窪みがあり、フイゴの羽口に絡んでいた可能性もある。8 世紀代のものか。

#### 溝 04 (図 36)

土師器 (336 ~ 338) と須恵器 (339 ~ 352) が出土している。

336 ~ 338 は土師器の杯である。

336 ~ 338 は、口径 9.8 ~ 12.8cm で、復元器高は 3.1 ~ 4.9cm である。丸い底部から体部が緩やかに内湾し、口縁端部は丸く収める。口縁端部内面には沈線を巡らす。内面は 1 段の暗文を施す。橙色の色調で、胎土は精良である。時期は飛鳥 II の 7 世紀中頃である。

339 ~ 352 は須恵器である。

339 ~ 342 は環 G 盖で天井部に小型の宝珠つまみが付くタイプであるが、欠損している。湾曲する体部で、内面には返りが付く。天井部の 1/3 にヘラ削りを施し、ほかは回転ナデで調整する。

色調は灰色から青灰色である。時期は飛鳥IIの7世紀中頃である。

343は環Hである。口径11.0cm、器高3.0cmである。平底の底部から体部が内湾して立ち上がる。口縁端部はほぼ水平に伸び、受部は内湾ぎみに立ち上がる。底部はヘラ削りを施す。全体にひずみがある。色調は青灰色、胎土は精良である。時期は飛鳥IIである。

344～346は環H蓋である。口径11.0cm、復元器高は2.4～4.3cmで、346はやや扁平になる。天井部1/3をヘラ削りし、ほかは回転ナデで調整する。時期は飛鳥I～IIであろう。

347は環Cで、口径10.8cm、器高4.0cmである。球形の底部から体部が内湾して立ち上がり、口縁端部は丸く収める。底部1/3をヘラ削り、ほかは回転ナデで調整する。色調は青灰色で、胎土は精良である。時期は、飛鳥IIである。

348～350は環Aである。口径は10.4cm、復元器高は3.1～3.7cmである。平底の底部で、口縁端部はやや外反し、丸く収める。時期は飛鳥II、7世紀中頃である。

351は壺の底部である。やや長めで断面方形の高台が外方に踏ん張る。内外面は回転ナデで調整する。

352は甌で、頸部から上は欠損する。球形の体部で中央に穿孔がある。上に1条、下に2条の沈線の間に刺突文を施す。内外面を回転ナデで調整する。

#### 自然流路01上層（図36・37）

出土遺物は、土師器(353・354)と須恵器(355～364)である。

353・354は土師器環である。

口径は16.0cmと16.6cmでやや大形の器形である。薄い器壁で、湾曲する体部で口縁端部はやや外反する。外面はナデ調整、内面には1段の暗文を施す。明赤褐色の色調で、胎土は精良である。いずれも、時期は飛鳥IIである。

355～364は須恵器である。

355は環G蓋で天井部に宝珠型のつまみは欠損する。湾曲する天井部で、内面にはやや長めのかえりが付く。口径は10.6cmと小型である。天井部1/2をヘラ削りし、他は回転ナデで調整する。

356・357は環H蓋である。内湾する口縁部の端部は面を持つ。頂部は欠損するが天井部1/2をヘラ削りする。357はやや扁平な天井部で、口縁部も外反気味で、端部は丸く収める。天井部1/3をヘラ削りし、ほかは回転ナデで調整する。遺物の時期は飛鳥II～IIIである。

358・359は環Hである。口径は12.0cmと12.4cmで、復元器高は3.8cmと3.0cmで55がやや深くなる。358は受部の立ち上がりも深く、一時期古い様相を示す。

360・361は環A・Bである。360は平底の底部から外方に体部が立ち上がり、口縁端部は丸く収める。口径10.0cm、器高4.0cmである。色調は青灰色で、焼成は堅緻である。時期は飛鳥IIIである。361はやや短めの高台が付く。口径12.0cm、器高3.4cmでやや大きめの環である。内外面を回転ナデで調整する。時期は平城IIIである。

362は甌の口縁部である。玉縁状の口縁端部で、頸部が「く」の字に外反する。内外面転ナデ

で調整し、内面体部に青海波文の当て具痕が残る。

363・364は高杯である。363は内湾して立ち上る体部から、口縁部はやや外反する。短い脚部で、端部は尖らせる。透し孔は3点になろう。時期は、TK47の古墳時代後期である。364は短い脚部で、端部外面に面を持つ。回転ナデで調整する。時期は飛鳥Iである。

#### **土坑02(図37)**

365の須恵器が出土した。

365は須恵器環G蓋でつまみは欠損している。口径8.8cmの小型の蓋で、湾曲する天井部から口縁端部は丸く収まる。内面には短いかえりが付く。天井部3/4をヘラ削りし、他は回転ナデで調整する。時期は飛鳥Iである。

#### **土坑03(図37)**

366の須恵器が出土した。

366は須恵器に躰体部破片の1/2である。やや平底の底部から球形の体部が立ち上がる。器壁は1.3cmと厚い。体部には1条に沈線が残る。穿孔部は欠損している。底部は回転ヘラ削り、他は回転ナデで調整する。時期は飛鳥Iか。

### **平安時代**

#### **掘立柱建物01(図37)**

367・368の須恵器が出土している。

367は掘立柱建物01の柱穴03SPから出土した須恵器環A口縁部の小片である。内湾気味に立ち上がり、内外は回転ナデで調整する。遺物の時期は京II期新、9世紀後半であろう。

368は柱穴04SPから出土した須恵器環Bの底部である。断面四角の高台で、底部はやや下がり気味になる。内外面を回転ナデで調整し、色調は灰白色で焼成はやや甘い。時期は平城IIである。

#### **溝06・07(図37)**

369～374の遺物が出土した。

369・370・372・372・373・374は、道路01の両側溝である溝06と溝07から出土した。

369は土師器小皿の小片である。口縁端部は内湾気味に立ち上がり、内外面は横ナデで調整する。遺物の時期は、京II期新の9世紀前半である。

370は土師器皿で、口縁は直線的に伸びる。端部外面に浅い沈線がはいる。内外面は横ナデする。遺物の時期は京II期新、9世紀前半であろう。

371は須恵器椀の口縁部の小片で、外反気味に立ち上がる。内外面を横ナデし、色調は灰白色で胎土は緻密である。遺物の時期は、京II期中、9世紀前半頃である。

372は須恵器環Bの底部である。断面台形の高台が外側に踏ん張る。内外面を回転ナデで施す。京II期中、9世紀前後のものか。

373は土師器皿の小片である。外反して立上る体部で、口縁端部はやや内湾する。浅黄橙色の胎土で内外面は横ナデする。時期は京V期中頃か。

374は白磁碗の底部小片である。内外面を灰白色で施釉し、露胎部分には釉はない。高台の断面は台形である。胎土は精緻で堅緻である。京IV期新の11世紀前後の時期と考えられる。

## 中世

### 素掘り溝群（図37）

1-7層／包含層の溝底から、375～381の遺物が出土した。

375は001SDから出土した青磁碗の口縁部である。口縁端部は欠損しているが、やや内湾気味に立ち上がる。内外面は緑灰色の施釉を施し、外面には貫入がみられる。胎土は精緻で灰白色を呈する。14世紀代の龍泉窯系の青磁である。

376は003SDから出土した瀬戸・美濃系の小皿である。口縁部の小片で内湾気味に立ち上がる。内外縁ともにロクロナデで成形し、内面と外面口縁端部に褐釉を施す。灰白色的胎土は緻密で少量の長石を含む。中世後期のものであろう。

377は036SDから出土した青磁碗の体部の破片である。内外面をオリーブ灰色で施釉して、外面には花文が陰刻される。胎土は精緻な灰白色で、龍泉窯系のものであろう。378は036SDから出土した土師皿の小片である。口縁端部はやや外反する。復元口径は13.0cmで、胎土は灰白色である。時期は京X期中の15世紀中頃であろう。

379は122SDから出土した青磁碗底部である。高台の断面は三角形で、三角形の頂点部が畳付となる。底部と高台の内面はロクロ削りである。外面を灰オリーブ色の緑釉を施し、露胎部にも釉が流れれる。12世紀後半の龍泉窯系の青磁碗である。

380は106SDから出土した土師器小皿である。口縁部は外反し底部は欠損するが、窪んだへそ皿になろうか。時期は京X期中の15世紀中頃である。

381は106SDから出土した。土師器の鍋または瓶の手であろうか。2次焼成を受けて硬く焼き締まって、外面は赤褐色、内面は黒色に変色する。奈良時代のものと思われる。

### 2-1層／包含層（図37）

平安時代の建物や溝・道路等の遺構面を覆う、2-1層／包含層の遺物である。382～392の遺物が出土した。

382は土師器環である。やや外反気味の口縁部で、底部は丸くなる。復元口径は13.8cm、器高は4.7cmである。体部外面はヘラ削り、内面は1段暗文を施す。赤褐色の胎土で、内外面にマングンが付着する。飛鳥Iの遺物である。

383は須恵器の環G蓋で口径10.2cm、器高3.1cmである。天井部に宝珠型のつまみ、内面には

返りが付く。天井部はヘラ削り、他は回転ナデで調整する。384は須恵器環G蓋で口縁先端部が欠損する。天井部に宝珠型のつまみが付く。

385は土師器の甕の口縁部である。くの字の頸部から内湾気味の口縁部が立ち上がり、端部をつまみ出す。口縁部内外面は横ナデ、体部内外面はハケ目で調整する。明赤褐色の色調で、胎土には砂粒を含む。京II期古の奈良時代のものか。

386は須恵器環B蓋の破片で、天井部は扁平である。灰白色の色調で焼成はやや甘い。天井部外面に薄く墨書きが記される。文字は下半が欠損しているため判読不能である。

387は須恵器環Bで高台はやや外側に張る。内外面を回転ナデで調整する。全体に磨滅している。遺物の時期は平城IIIの8世紀中頃である。

388は灰釉陶器の鉢皿である。外反気味に立上る口縁部で端部はやや玉縁状になる。底部は1cmと厚みを持ち、内面に幅6mmほどの鉤目が格子状に線刻される。内外面には灰釉が施される。

389は須恵器鉢の底部である。扁平な底部で、胎土はやや軟質である。時期は京II期新であろう。

390は青磁碗の底部である。内面見込みと立ち上りの境には沈線が入る。底部外面は回転ヘラ削りを施す。胎土は緻密で灰白色を呈す。内外面を灰オリーブ色で施釉し、畳付から底部外面まで釉が流れ込む。

391は平瓦である。右側面と下端面をヘラ切りし、側面は面取りを施す。凹面は布目痕があり、1cm四方に8本条の糸目がある。また、左端部分に桶巻の模骨痕が残る。凸面は粗い格子目タタキ痕が残り、大きさは1.0cm×1.8cmの菱型のタタキ痕である。側面と端面側を約1cm幅でタタキ痕をナデ消している。

392は壺の底部で、断面方形の高台は台形に踏ん張る。内外面回転ナデで調整し、色調は灰白色、胎土は堅緻である。外面高台周辺には自然釉が付着する。遺物の時期は京II期古、8世紀後半であろう。

#### 1-5・7層／包含層（図37）

中世の素掘り溝群を覆う、1-5・7／包含層の遺物である。393～399の遺物が出土した。

393は須恵器の环蓋である。天井部には扁平なつまみがつく。口縁端部は面を持つ。灰白色的色調でやや軟質である。時期は、京I期中、8世紀の前半である。

394は須恵器円面鏡の脚部である。長方形の透かしを3個以上穿つ。遺物の時期は、8世紀代か。

395は瓦質土器の羽釜である。口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁端部から1cmほど下に、口縁部に直角に貼り付いた鈔が水平に巡る。外面は横ナデ、内面は口縁部が強いハケ状の横ナデ、体部は板ナデである。内外面黒色化させる。遺物の時期は、京X期中の15世紀中頃か。

396は青磁碗の口縁部破片である。口縁部が内湾気味に立ち上がる。内外面を明緑灰色で施釉し、外面には陰刻が施される。胎土は灰白色で精緻である。13世紀前半の龍泉窯系の青磁碗である。

397は青磁の盤と思われる底部である。内外面の暗オリーブ色の施釉を施し、底裏に釉ハギ痕

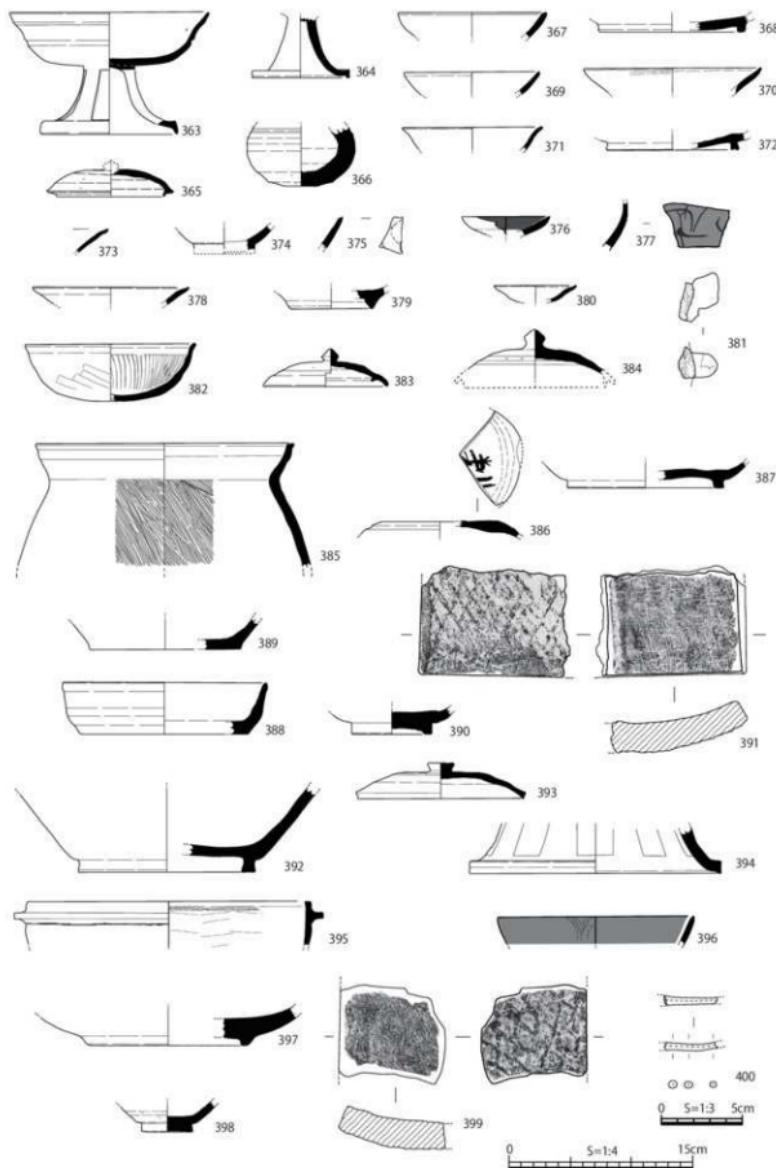


図37 自然流路01上層(363・364・400)、土坑02(365)、土坑03(366)、掘立柱建物01・03SP(367)、  
掘立柱建物01・04SP(368)、溝06(369～371)、溝07(372～374)、素掘り溝群(375～381)  
2-1層／包含層(382～392)、1-5・7層／包含層(393～399)

がみられる。遺物の時期は、12世紀中頃の龍泉窯系の青磁である。

398は天目茶碗の底部である。高台は浅い蛇の目で疊付の部分はヘラ削りするが、高台内面はヘラ削り後未調整である。内面と外面は部分的に黒釉が施される。灰白色の胎土はやや粗いことから、17世紀代の国内産と思われる。

399は平瓦の破片である。左側面はヘラ切で、あとは破損している。凹面は細かい布目痕と、斜め方向に細いコビキ痕と思われる斜線が数条みられ、凸面はやや粗い格子叩き痕が残る。時期は7世紀後半代と考えられる。

## 第3節 石 器

弥生時代中期

溝 01 (図 38)

(石包丁)

401は石包丁の未成品である。剥離整形段階と考えられる。刃部と背部は整形されているが、研磨はされていない。両面の研磨もされておらず、1面は自然面である。

402は石包丁の未成品である。剥離整形段階と考えられる。刃部と背部は整形されているが、研磨はされていない。両面の研磨もされていない。

(大型蛤刃石斧)

403は玢岩製の大型蛤刃石斧である。断面は楕円である。刃部は欠損している。基部に一部剥離がみられる。全体的によく研磨されている。

404は玢岩製の大型蛤刃石斧である。刃部の一部を残し、大半は欠損している。刃には敲打痕があり転用された可能性がある。粗いが全体的に研磨されている。

遺物の時期は、供伴している土器から弥生時代中期と考えられる。

溝 02 (図 38)

(石包丁)

405は石包丁の未成品である。両側が欠損している。研磨の段階と考えられる。残存部では、刃部は外湾し明瞭ではないが刃の稜を確認できる。背部は直線的に整形されているが、研磨はされていない。両面は一部研磨されているが不十分である。

(扁平片刃石斧)

406は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。基部は欠損している。刃部は刃の大半が剥離しているが、剥離後に研磨された形跡が認められる。これらのことから、製作途中か、刃がなんらかの理由で欠損した後、砥ぎ直そうとした可能性がある。

(大型蛤刃石斧)

407は玢岩製の大型蛤刃石斧である。断面は楕円形である。基部、刃部ともに欠損している。片面がよく研磨されている一方で、もう一面は研磨が。刃は破損により確認できないが、これらのことより製作途中の未成品である可能性がある。

(刃 器)

408は刃器である。刃部の一部は剥離している。残存部分に使用痕の剥離がある。

(砥 石)

409は仕上げ砥に用いられた平砥石である。1面が砥面として使用されたと考えられる。砥面には敲打痕があり、転用された可能性がある。

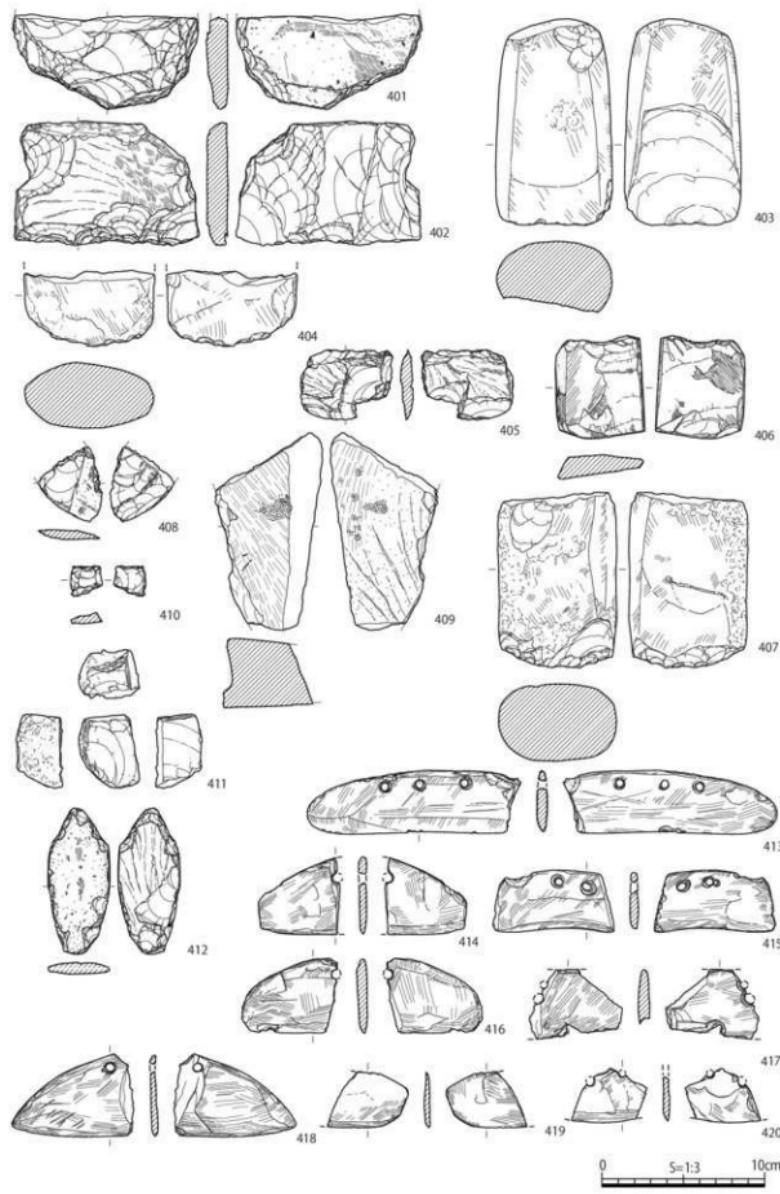


図38 満01(401～404)、満02(405～412)、環濠01(413～420)

### (玉素材)

410は緑色凝灰岩の玉素材である。一部自然面を残し剥離しており、切り取られたものと考えられる。

411は緑色凝灰岩の玉素材である。一部自然面を残し剥離しており、切り取られたものと考えられる。

### (未製品)

412は石器の未成品である。側辺は研磨されている。また、敲打痕も認められる。製作途中で遺棄され転用された可能性がある。

遺物の時期は、供伴している土器から、弥生時代後期と考えられる。

### 環濠01（図38～41）

413～431は未成品を含む石包丁である。432～435は磨製石剣である。436～438は磨製石鎌である。439～442は太型蛤刃石斧である。443は石斧である。444は石斧未成品である。445～447は未成品を含む扁平片刃石斧である。448は石刀である。449は敲石である。450～451は玉砥石である。452は玉素材である。453～457は砥石である。458～462は剥片である。463～470は未成品又は器種不明品である。

### （石包丁）

413は千枚岩製の石包丁である。片刃で、刃部は直線的であるがやや内湾し、背部は外湾する。刃先が少し破損している。3孔を穿つ。3つの内両側の孔は画面からの穿孔であるが、中央の孔は表面のみからの穿孔である。両面ともよく研磨されており平滑である。紐孔部分には組擦れ跡痕が認められる。刃の部分に使用痕と考えられる擦痕が認められる。背部に敲打痕がある。土器の中から出土しており石包丁を使用した呪術的な事を示唆している。

414は千枚岩製の石包丁である。片側の大半を欠損し、刃部と背部は割れにより部分的に残存する。片刃で刃部は直線的、背部は外湾するようにみえる。割れ痕から両側穿孔により1孔を穿つ。背部は敲打後に再研磨された可能性がある。両面ともよく研磨されており平滑である。刃部に使用痕と考えられる擦痕が認められる。紐孔部分には組擦れ跡痕が認められる。

415は千枚岩製の石包丁である。片側を切り取り再利用している可能性があり、残存部分の側面には敲打痕がある。刃部と背部は部分的に残存する。片刃で刃部はやや内湾する。背部は外湾する。両側から穿孔した2孔を穿つ。また、裏面の穿孔部分に隣接して、穿孔途中とみられる痕がある。切り合いから、途中で穿孔部分を変更したものと考えられる。両面ともよく研磨されており平滑である。表面の刃の部分に使用痕と考えられる擦痕が認められる。紐孔部分には組擦れ痕が認められる。

416は千枚岩製の石包丁である。片側の大半を欠損し、刃部と背部は割れにより部分的に残存する。片刃で刃部は直線的、背部は外湾する。割れ痕から片側穿孔により1孔を穿つ。両面ともよく研磨されており平滑である。背部は敲打後に再研磨された可能性がある。紐孔部分には組

擦痕が認められる。

417は千枚岩製の石包丁である。大半を欠損し片面に剥離がみられる。背部は割れにより部分的に残存する。割れ痕から片側穿孔を試みるが、2つとも貫通していない。また刃部には敲打痕がみられる。これらのことより、穿孔時に破損したので転用された可能性がある。両面ともよく研磨されており平滑である。

418は千枚岩製の石包丁である。片側の大半を欠損し、刃部と背部は割れにより部分的に残存する。両刃で刃部は直線的で、背部は外湾する。剥離により断定できないが、残存部分より片側穿孔により1孔を穿つ。紐孔部分には紐擦れ跡痕が認められる。両面ともよく研磨されており平滑である。刃部は使用痕とみられる擦痕が認められる。

419は千枚岩製の石包丁である。片側の大半を欠損し、刃部と背部は割れにより部分的に残存する。片刃で刃部は直線的である。背部は外湾するようにみえる。刃の部分に使用痕と考えられる擦痕が認められる。両面ともに研磨されているが、表面は裏面に比べて研磨がやや粗い感じがする。裏面はよく研磨されており平滑である。

420は千枚岩製の石包丁である。大半は欠損し表面には剥離がみられるが、表面は剥離後再研磨している。刃部は割れにより部分的に残存する。片刃で刃部はやや外湾するようにみえる。割れ痕から両側穿孔により2孔を穿つ。両面ともよく研磨されており平滑である。刃の部分に使用痕と考えられる擦痕が認められる。

421は千枚岩製の石包丁である。大半を欠損し刃部は割れにより部分的に残存する。刃部はやや外湾する。割れ痕から片側穿孔により1孔を穿つ。刃の部分には使用痕と考えられる擦痕が認められる。両面ともよく研磨されており平滑である。表面は剥離後に、背部は欠損後、刃部も刃こぼれした後に再研磨されている。これらのことから、欠損後も再利用していた可能性がある。

422は千枚岩製の石包丁である。両側を欠損し、刃部と背部は割れにより部分的に残存する。片刃で刃部は直線的である。表面はよく研磨されて平滑であるが裏面の研磨は表面に比べてやや粗い。刃の部分には使用痕と考えられる擦痕が認められる。刃先は刃こぼれした後、再研磨されて使用されている。

423は石包丁の未成品である。片側は欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部は外湾するように整形されているが、研磨はされていない。両面の研磨もされていない。

424は石包丁の未成品である。片側は少し欠損している。剥離整形か研磨の段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部は外湾するように整形されているが、研磨はされていない。両面ともやや研磨されている。

425は石包丁の未成品である。片側は欠損している。残存部から刃部は内湾し、背部はやや外湾するように剥離整形が終了し、研磨段階と考えられる。両面は研磨されているが、刃部と背部は研磨されていない。

426は石包丁の未成品である。片側は欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、

刃部は外湾し、背部は直線的になるように整形されているが、研磨はされていない。片面の一部は研磨されているが不十分である。

427は石包丁の未成品である。片側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部と背部は外湾するように整形されているが、研磨はされていない。両面の一部研磨もされているが不十分である。

428は石包丁の未成品である。片側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部と背部は整形されているが、研磨はされていない。両面の一部研磨もされているが不十分である。

429は石包丁の未成品である。片側は欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部から刃部は内湾し、背部はやや外湾するように整形されているが、研磨されていない。両面は一部研磨されているが不十分である。

430は石包丁の未成品である。片側は欠損している。剥離整形段階か研磨段階と考えられる。残存部より、刃部は直線的かやや内湾し背部は外湾するように整形されている。刃の一部は研磨されている。両面は研磨されておらず、1面は自然面である。

431は石包丁の未成品である。片側は欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は外湾し、背部は直線的になるように整形されているが、研磨はされていない。

#### (磨製石剣)

432は千枚岩製の磨製石剣である。柄の部分のみを残し刃部は欠損している。残存部分より、有柄形と考えられる。両面平滑である。断面は四角形である。割れ痕より中心よりややずれた位置に両側穿孔により1孔を穿つ。柄の部分には剥離後に研磨された後があるが、途中で中断されている。これらのことより、製作過程で破損し遺棄された可能性がある。

433は千枚岩製の磨製石剣である。鎌の位置より、剣先の一部と考えられる部分を除き、大部分を欠損している。残存面はよく研磨されて平滑である。片刃と考えられる。刃部は両側とも欠損している。片面の全面は研磨が不十分であり調整の途中と考えられる。これらのことより、製作過程で遺棄された可能性がある。

434は千枚岩製の磨製石剣である。剣先部のみ残し大部分は欠損している。残存部分には鎌は確認できない。両刃であり刃部には擦痕が認められる。両面ともによく研磨されて平滑である。

435は千枚岩製の磨製石剣である。大部分を欠損している。残存部分の中心に鎌がある。よく研磨されて平滑である。片刃と考えられる。刃部にはまだ刃がなく研磨の前と考えられる。また、一部に敲打痕がある。片面の全面は研磨が不十分である。これらのことより、製作過程で遺棄され、転用された可能性がある。

#### (磨製石鎌)

436は千枚岩製である。一部剥離があるが、有茎式のほぼ完形品である。断面はひし形である。側辺は直線的に開き、鎌身の先端は鋭利に尖り、鎌が通る。両面ともよく研磨されており平滑であるが、茎の部分の研磨がやや甘い。また、剥離後に研磨されて、使用されている。

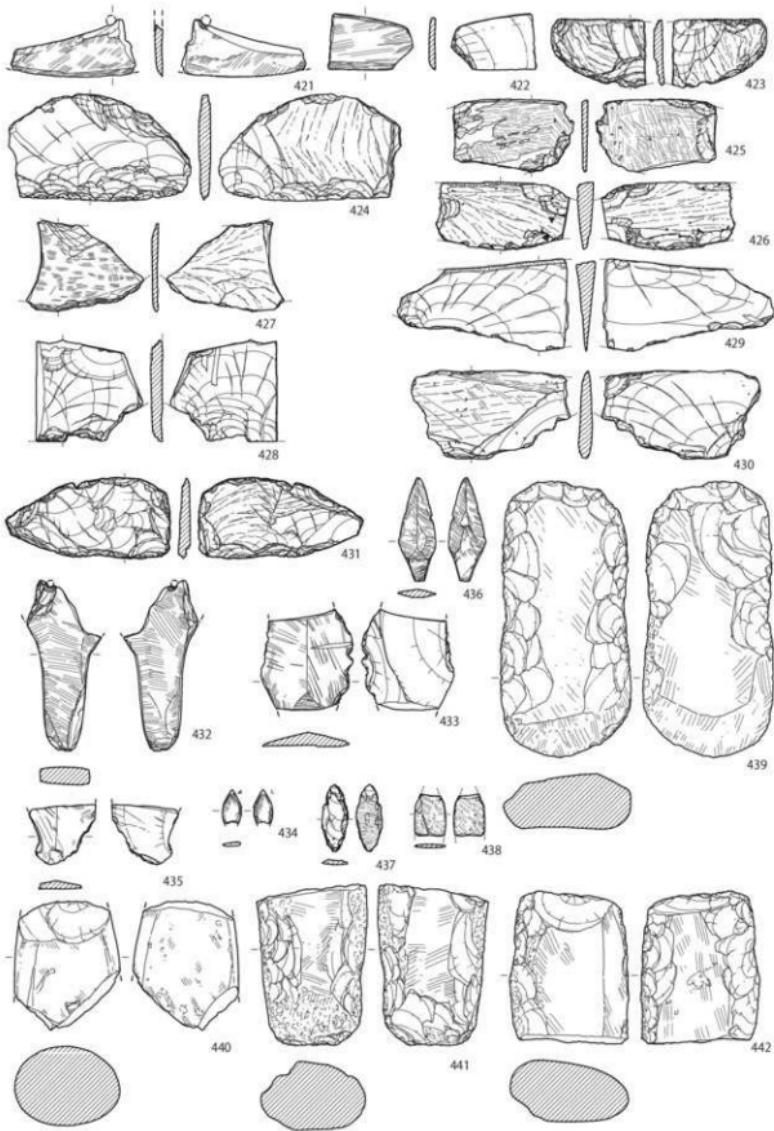


図 39 環濠 01(421～442)

437は凸基式の未成品である。研磨段階と考えられる。先端部は鋭利で、側辺はやや曲線である。片面はよく研磨されているが、もう片面は研磨されていない。

438は磨製石鎌である。先端部分と基部の一部が欠損している。側辺は鋭利で両面ともよく研磨されている。

#### (大型蛤刃石斧)

439は玢岩製の大型蛤刃石斧である。剥離形成段階の未成品であると考えられる。両平面ともに研磨されているが、刃部は研磨がされておらず、明瞭な稜を作り出す刃部をもたない。

440は玢岩製の大型蛤刃石斧である。基部、刃部とともに欠損している。全体的によく研磨されており明瞭に楕円形をしている。表面に薄い赤褐色がみられ被熱跡と考えられる。

441はホルフェルス製の大型蛤刃石斧である。基部は欠損している。刃部は片面が剥離しており、残存面は研磨がされておらず、明瞭な稜を作り出す刃部はみられない。平面部のみ研磨の跡がみられ、側面部は研磨されていない。被熱跡があり、被熱後に再び研磨や剥離形成された痕がある。刃に敲打痕があり、石斧整形過程で遺棄し転用された可能性がある。

442は玢岩製の大型蛤刃石斧である。刃部は欠損している。剥離形成段階で遺棄された可能性がある。残存部の側面は研磨がされていない。平面部分は、一方は曲面を持ち研磨されているが、他方は平面になり少し凹んでおり、平底石として再利用された可能性がある。

443は石斧の未成品で、剥離整形段階と考えられる。刃部は一部研磨されているが不十分である。また、表面の一部研磨されている。側面は整形の為と思われる敲打痕がある。

444は石斧の未成品である。両端部が欠損している。側面には整形の為と考えられる敲打痕がみられる。

#### (扁平片刃石斧)

445は千枚岩の扁平片刃石斧の完形品である。刃部はよく研磨されており鋭利である。また、刃に使用痕が認められる。表面の一部のみよく研磨されている。

446は千枚岩製の扁平片刃石斧の完形品である。刃部はよく研磨されており鋭利である。また、刃部には明確に稜がある。刃に使用痕が認められる。両面ともによく研磨されており平滑である。

447は扁平片刃石斧の未成品である。剥離整形段階と考えられる。刃部は欠損しているか、未整形である。側面は研磨されているが、両面とも研磨されていない。

#### (石刀)

448は頁岩～粘板岩製の石刀である。柄の部分を残し欠損している。平面の片面には剥離した後に研磨した跡があり、再利用したと思われる。全体的によく研磨されており平滑である。

#### (敲石)

449は敲石である。平面部に敲打痕と考えられるやや深めの窪みがあり、凹み石の可能性がある。全体的に研磨されており、形状から石斧からの転用である可能性がある。

#### (玉砥石)

450は砂岩製の玉砥石である。仕上げ砥と考えられる。砥面は2面あり、1面には筋状の砥溝

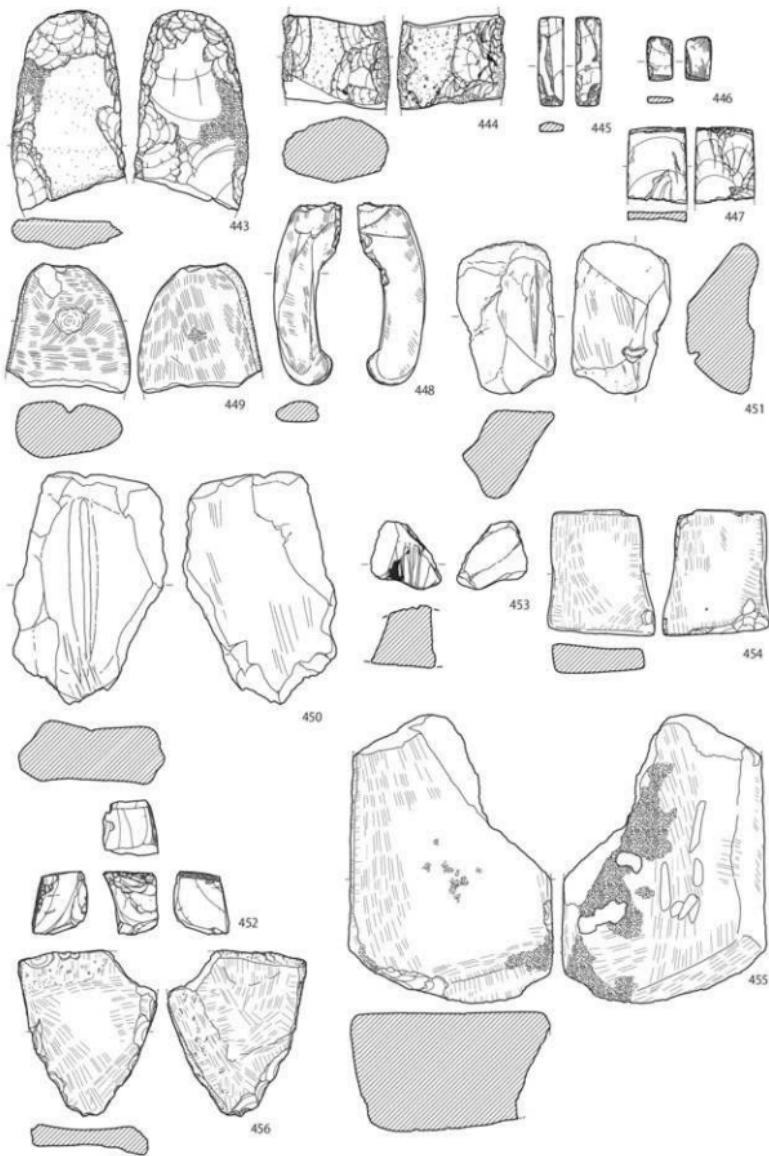


図 40 環濠 01(443 ~ 456)

がはしり、砥溝を凹の軸としてやや傾斜しており筋砥石と考えられる。もう1面は平砥石と考えられる。

451は砂岩製の玉砥石である。荒砥と考えられる。砥面は5面あり、而全体は中央部に向かってやや凹んでいる。うち2面には浅いが筋状の砥溝が数条認められる。また、角の部分で深い砥溝を確認できる。これらのことから、平砥石、筋砥石、窪砥石の機能を持っていたと考えられる。

#### (玉素材)

452は緑色凝灰岩である。玉製品の原石として用いられたと考えられ、各面に剥離が認められる。

#### (砥 石)

453は砂岩製の砥石である。仕上げ砥石と考えられる。砥面は2面あり、1面は筋状の砥溝が数条はしる。平砥石と筋砥石の機能を持っていたと考えられる。砥面以外の剖面の一面には炭化物と思われる付着物があり、全面被熱された可能性がある。

454は砥石である。仕上げ砥石と考えられる。砥面は4面あり、いずれも平砥石である。

455は砥石である。砥面は5面あり、いずれも平砥石と考えられる。うち2面が仕上げ砥、3面が荒砥と考えられる。

456は砥石である。仕上げ砥石と考えられる。砥面は2面あり、いずれも平砥石である。

457は砥石である。仕上げ砥石と考えられる。砥面は1面ある。平砥石である。

#### (剥 片)

458は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。一部自然面を残すが、ほとんどに剥離痕があり刃器の剥離整形段階か、素材であったと考えられる。

459は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。刃としての使用痕があることから刃器として使用された可能性がある。

460は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。全面剥離痕があり、刃器の剥離整形段階か素材であったと考えられる。

461は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。全面剥離痕がある。刃としての使用痕があることから刃器として使用された可能性がある。

462は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。一部欠損しているが、刃としての使用痕があることから刃器として使用された可能性がある。

#### (未成品)

463は石器の未成品である。剥離整形か研磨の段階と考えられる。先端部分と側辺に刃部と思われる剥離痕がある。

464は石器の未成品である。剥離整形か研磨の段階と考えられる。先端部分と側辺に刃部と思われる剥離痕がある。

465は石器の未成品である。研磨段階と考えられる。一面はよく研磨されており全体的に丸み

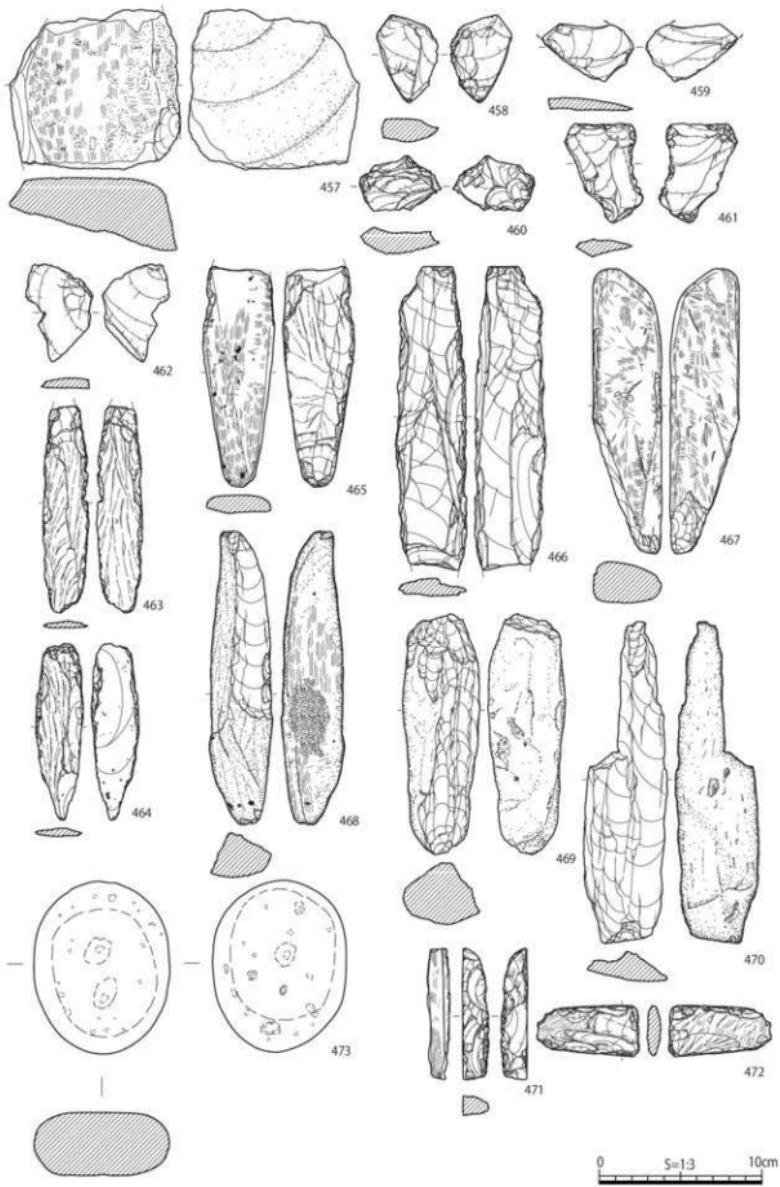


図41 環濠01(457～471)、02SP(472)、土器棺墓01(473)

を帶びている。形状から扁平片刃石斧と考えられる。

466 は石器の未成品である。剥離整形段階と考えられる。形状から、石包丁か扁平片刃石斧と考えられる。

467 は楕円形の石材が斜めに切断されて、断面は一部研磨されている。素材もしくは、形状より抉入片刃石斧の未成品の可能性がある。

468 は剥離整形段階と思われる。素材もしくは形状から、扁平片刃石斧の未製品と考えられる。刃部は研磨されているが刃は未整形である。基部には整形の為と考えられる敲打痕がある。一部研磨されている。

469 は切り取った痕がみられる。断面は半円形である。曲面には一部研磨されている。素材か器種は不明だが、石器の未成品の可能性がある。

470 は一部切り取った痕がみられる。また、研磨の痕があり刃部整形の途中の可能性がある。形状より扁平片刃石斧の未成品である可能性がある。

#### (器種不明品)

471 は頁岩～粘板岩製である。断面は概ね三角形をなしている。底面にあたる部分は平面でよく研磨されている。残りの 2 面は剥離痕が多数確認できる。扁平片刃石斧の製作過程と思われるが、器種ははつきりしない。

遺物の時期は、供伴している土器から弥生中期である。

#### 02SP (図 41)

##### (石包丁)

472 は石包丁の未成品で、研磨段階と考えられる。刃部は研磨されているが不十分で刃はない。表面は研磨やや研磨されている。

遺物の時期は、供伴する土器は無いが、弥生時代中期の遺構面から出土した事から、遺物の時期もほぼ同時期と考えられる。

#### 土器棺墓 01 (図 41)

##### (敲 石)

473 は敲石である。片面はよく研磨されている。両面ともに敲打痕が認められる。

遺物の時期は、供伴している土器から弥生時代中期と考えられる。

#### 弥生時代後期

##### 溝 03 (図 42)

474 ~ 475 は未成品を含む石包丁である。476 ~ 477 は未成品を含む大型蛤刃石斧である。

478 は扁平片刃石斧である。479 は磨製石劍である。480 は磨製石鎌である。481 は剥片である。

### (石包丁)

474は頁岩～粘板岩製の石包丁である。両側と背部を欠損している。刃部は割れにより部分的に残存する。片刃でやや外湾するようにみえる。使用痕と考えられる擦痕が認められるほか、敲打痕がある。割れ痕より片側穿孔による1孔を穿つ。両面ともよく研磨されており平滑である。また、表面が剥離した後に研磨されている。これらのことから、再利用された可能性がある。

475石包丁の未成品である。片側は大半が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部は外湾するように整形されているが、研磨はされていない。両面は一部研磨されているが不十分である。

### (大型蛤刃石斧)

476は頁岩～粘板岩製の大型蛤刃石斧の未成品である。平面は粗く研磨されているが側面は研磨されておらず、剥離整形段階と思われる。刃部は打剥の段階と考えられる。製作途中で遺棄されたものと考えられる。

477は玢岩製の大型蛤刃石斧である。基部と刃部は欠損している。断面は楕円形をしている。側面に敲打痕がある。これらのことから、刃部を製作する前の段階で遺棄し、転用された可能性がある。

### (扁平片刃石斧)

478は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。基部は欠損している。刃部はよく研磨されており刃の部分は鋭利である。平面部には一部剥離した後、再研磨された痕がある。両面とも研磨されている。

### (磨製石剣)

479は千枚岩製の磨製石剣の未成品である。全体的によく研磨されており平滑である。柄部の大半は欠損しているが、欠損部分の側面は研磨されている。両側穿孔により1孔を穿つ。剣身部の大半が欠損しており、片面には剥離があるが残存部より鎬が認められる。もう一方の面では鎬は認められない。剣身部の欠損部分は再研磨されて刃部として再使用されている。側面には敲打痕がみられる。これらのことより、完形品の欠損、もしくは製作途中で遺棄され、転用された可能性が高い。

### (磨製石鎌)

480は頁岩～粘板岩製の有茎形磨製石鎌でほぼ完形品である。断面はひし形である。先端部は欠損しているが、作成途中で遺棄されたようにみえる。側辺は直線的に開き鋭利である。片面は先端部が剥離しているが、もう一方の面は鎬が通る。両面ともよく研磨されており平滑である。

### (剥 片)

481は無斑晶安山岩製（サヌキトイド）の剥片である。片面には剥離痕がみられる。刃としての使用痕があることから刃器として使用された可能性がある。

遺物の時期は供伴している土器から弥生時代後期と考えられる。

## 自然流路 01 下層（図 42～44）

482～491 は未成品を含む石包丁である。492～494 は太型蛤刃石斧である。495～498 は扁平片刃石斧である。499～500 は抉入片刃石斧である。501～502 は磨製石劍の未成品である。503 は磨製石鑿である。504～505 は刃器である。506 は石鏟である。507～508 は剥片である。509～511 は玉砥石である。512～514 は砥石である。515～517 は敲石である。518 は未成品である。519 は石器の原石である。520 は器種不明である。

### （石包丁）

482 は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損している。片刃で、刃部は直線的である。刃先が少し剥離している。背部は外湾し、敲打痕がある。敲打後再度研磨されている。割れ痕より片側穿孔による 1 孔を穿つ。剥離により断定できないが、貫通していない可能性がある。穿孔時に破損し転用された可能性がある。

483 は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損しているが欠損後に研磨された痕がある。刃部は残存部分の研磨が荒く敲打痕が確認できることから、刃部を形成する前に遺棄された可能性がある。背部は大部分が欠損しているが、一部研磨され刃部を形成しようと試みた可能性がある。割れ痕より両側穿孔により 2 孔を穿つ。これらのことより、石包丁製作途中で遺棄され転用された可能性がある。

484 は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損している。片刃で刃部は直線的である。背部は外湾するようにみえる。また、敲打痕があり、敲打後に研磨されている。両側穿孔による 1 孔を穿つ。両面ともに剥離しているが、剥離後に研磨され使用されている。

485 は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損している。片刃で刃部は直線的である。背部は外湾するようにみえる。割れ痕より両側穿孔により 1 孔を穿つ。刃には敲打痕がある。両面よく研磨されており平滑である。

486 は石包丁の未成品である。片側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部外湾するように整形されているが、研磨はされていない。片面の一部研磨されているが、大部分は研磨されていない。

487 は石包丁の未成品である。両側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部は外湾するように整形されている。刃部と背部は一部研磨がされている。両面は一部研磨されているが、不十分である。

488 は石包丁の未成品である。片側の大半が欠損している。残存部分は、片刃で刃部は剥離しており刃は確認できない。背部は外湾する。全体的によく研磨されている。

489 は石包丁の未成品である。片側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部は直線的に、背部は外湾するように整形されているが、研磨はされていない。両面の研磨もされていない

490 は千枚岩製である。石包丁の未成品である。片側が一部欠損している。刃部、背部ともに研磨はされておらず、剥離整形段階と考えられる。

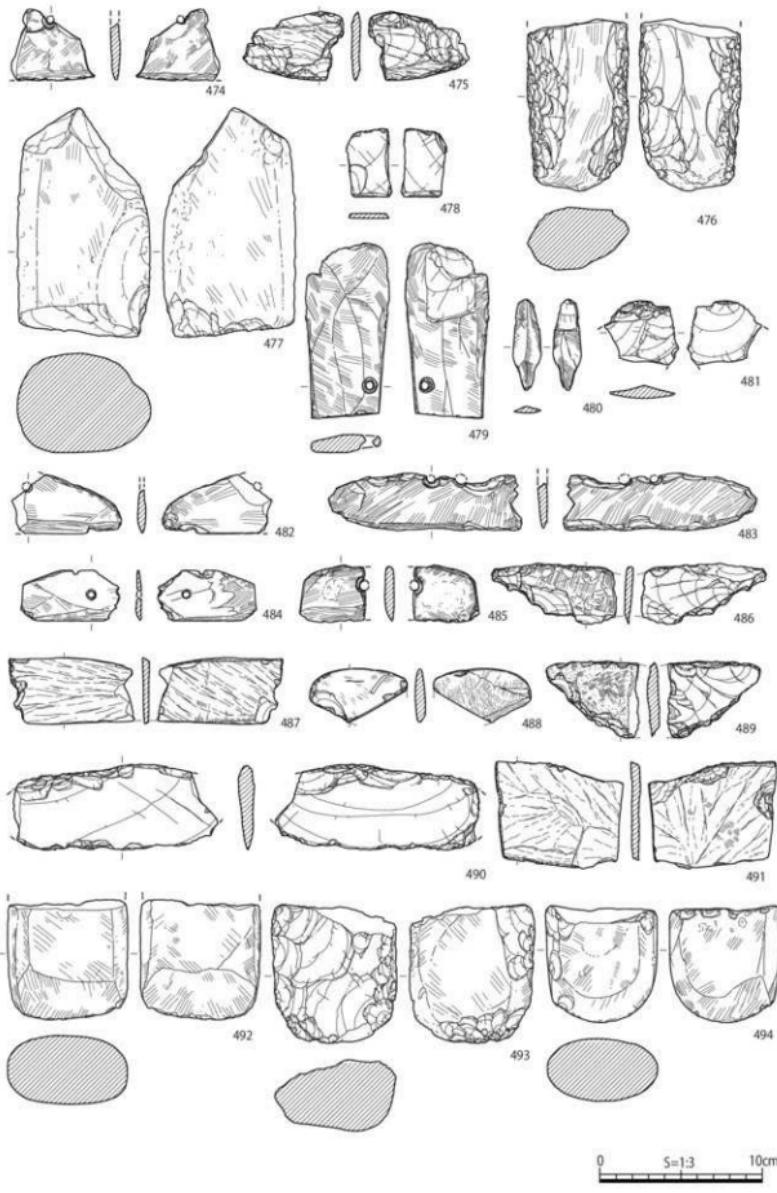


図42 溝03(474～481)、自然流路01(482～494)

491は石包丁の未成品である。両側が欠損している。剥離整形段階と考えられる。残存部では、刃部と背部は整形されているが、研磨はされていない。両面の一部研磨されているが不十分である。

#### (大型蛤刃石斧)

492は玢岩製の大型蛤刃石斧である。基部は欠損している。断面は楕円形をしている。少し粗いが全体的に研磨されている。刃には敲打痕があり、転用された可能性がある。

493は玢岩製の大型蛤刃石斧である。基部は欠損している。断面は楕円形している。全体的によく研磨されている。刃には敲打痕があり、転用された可能性がある。

494は玢岩製の大型蛤刃石斧である。基部の大半は欠損している。刃部は形成されていない。平面は研磨されているが敲打痕がある。剥離整形の途中で転用された可能性がある。

#### (扁平片刃石斧)

495は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。全体的によく研磨されている。断面は概ね三日月形である。基部の一部には剥離後に研磨された痕がある。刃部は使用痕の擦痕や剥離がみられる。剥離後に研磨して使用されている。

496は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。表面はよく研磨されている。断面は概ね長方形である。刃部の大半は欠損しているが、残存部は鋭利である。また、明確に稜を確認できる。

497は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。全体的によく研磨されている。断面は長方形である。基部は欠損している。刃部は一部剥離しているが、残存部分には使用痕と思われる擦痕がある。全体的によく研磨されている。

498は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。全体的によく研磨されている。断面は長方形である。基部は欠損している。刃部は製作途中と思われ、未整形である。研磨した形跡があることから途中で遺棄したか、未成品の可能性がある。

#### (抉入片石斧)

499はホルンフェルス製の抉入石斧である。断面は概ね楕円形である。基部は抉り部分周辺は研磨されている。刃部は抉り部分のある面に対して垂直である。刃部は両刃であるが研磨されておらず、剥離整形段階だと思われる。途中で遺棄したか、未成品の可能性がある。

500は頁岩～粘板岩製の抉入片刃石斧である。基部、刃部ともに大半は欠損している。基部には剥離部分があるが、一部は剥離後に研磨して使用している。基部の一部に柄に括り付けたと思われる擦痕がみられる。

#### (磨製石剣)

501は千枚岩製の磨製石剣の未成品である。全体的によく研磨されており平滑である。柄部の一部と剣身部の大半は欠損している。残存している剣身部の片面に鏽が認められる。刃部は敲打痕がみられる。形状より刃部形成途中に転用したと思われる。これらのことから、製作途中で遺棄され転用された可能性がある。

502は千枚岩製の磨製石剣の未成品である。両面ともよく研磨されて平滑である。片面は鏽を

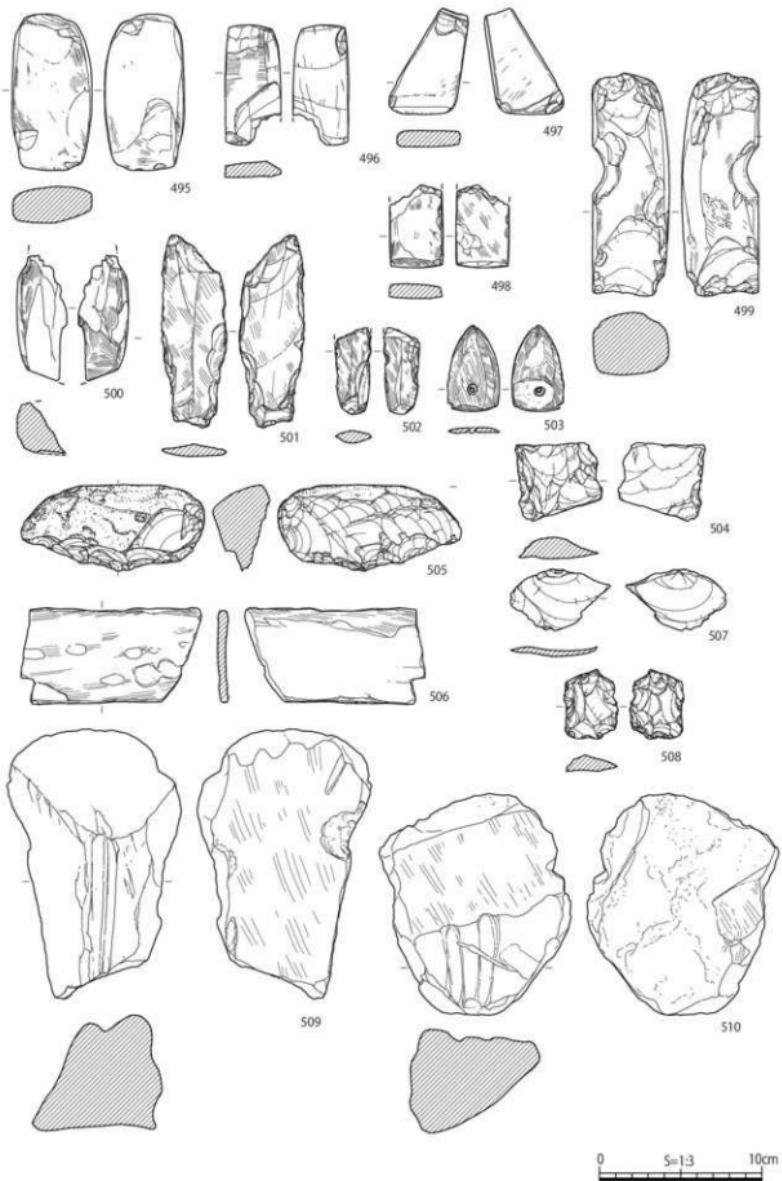


図 43 自然流路 01(495 ~ 510)

認められるが、先端部分は剥離している。残存部分が柄部である可能性もある。剥離後に研磨されている。もう一面は鎌があるが明瞭ではない。刃部と思われるところには敲打痕があり、完形品になる前に放棄され転用された可能性がある。

#### (磨製石鎌)

503は千枚岩製で平基式の有孔磨製石鎌である。全体的によく研磨されており平滑である。側辺は外湾して開き、鎌身の先端は鋭利に尖っている。刃に使用痕がある。鎌身の下部に両側穿孔により1孔を穿つ。片面に剥離痕があるが、剥離した後に研磨して再利用されている。

#### (刀 器)

504はチャート製の刀器である。刃は鋭利である。

505は刀器の未成品である。一部自然面を残すが、剥離整形段階と考えられる。剥離部分は刃部の整形を試みていると考えられる。形状より刀器か石包丁の可能性がある。

#### (石 鋸)

506は紅簾石片岩製の石鋸である。刃部と背部に使用痕と思われる擦痕が認められる。このことより、2部で使い分けをしていた可能性がある。表面は研磨されていない。

#### (剥 片)

507は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。刃があり、使用痕の剥離がみられることから、刃器として使用された可能性がある。

508は無斑晶安山岩（サヌキトイド）製の剥片である。刃があり、使用痕の剥離がみられることから、刃器として使用された可能性がある。

#### (玉砥石)

509は砂岩製の玉砥石である。粗砥石と考えられる。砥面は2面あり、そのうち1面には筋状の砥溝を1条確認できる。平面の砥面は凹んでいる。平砥石と筋砥石の機能を持っていたと考えられる。

510は砂岩製の玉砥石である。粗砥石と考えられる。砥面は3面あり、そのうち1面には浅いが筋状の砥溝も3条確認でき筋砥石と考えられる。これらのことから、平砥石、筋砥石の機能を持っていたと考えられる。

511は砂岩製の玉砥石である。仕上げ砥石と考えられる。砥面は4面あり。そのうち1面は筋状の砥溝を1条確認でき筋砥石と考えられる。残り3面は平砥石と考えられる。これらのことから、平砥石、筋砥石の機能を持っていたと考えられる。

#### (砥 石)

512は仕上げ砥用の平砥石である。1面が砥面として使用されたと考えられる。

513は敲打痕のある面を1面持つ。形状より石斧の基部を転用した可能性がある。

514は砥石である。2面が砥面として使用されたと考えられる。いずれも平砥用である。うち1面は粗砥用、もう1面が仕上げ砥用であると考えられる。

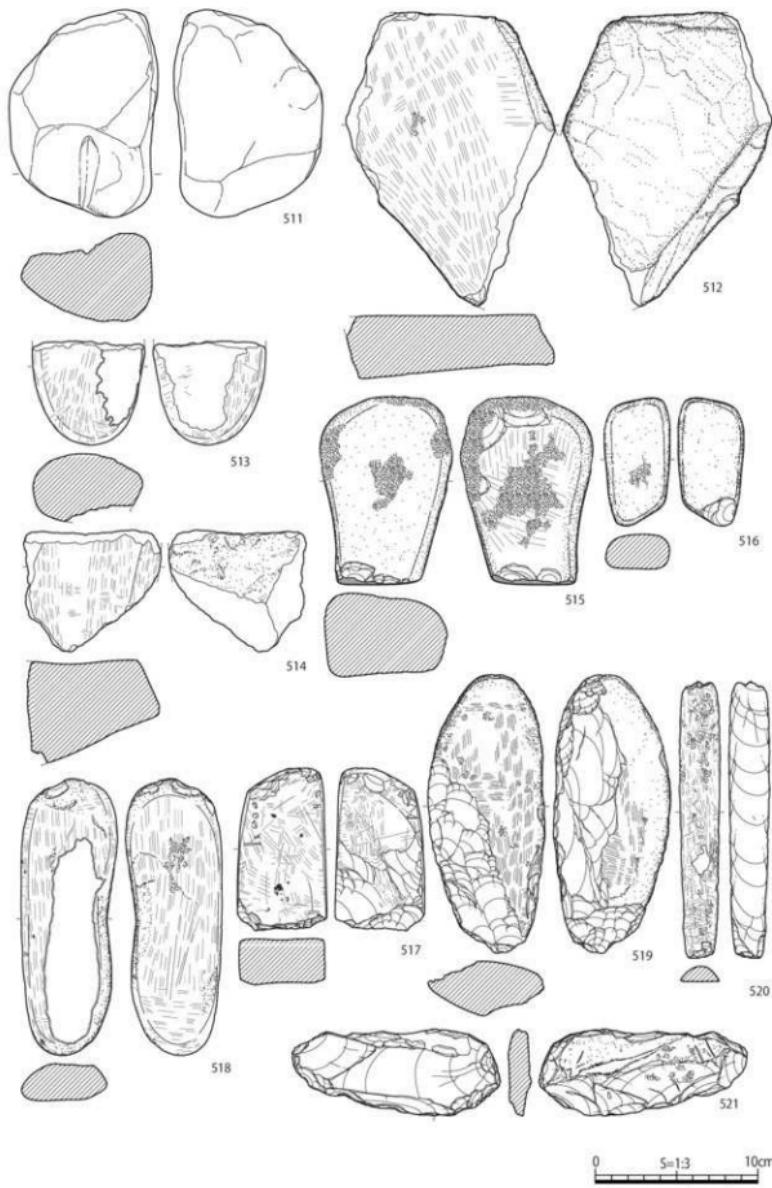


図44 自然流路 01(511～520)、集石遺構 01(521)

### (敲 石)

515は石器加工用の敲石である。一部剥離面が残るが、全体的に研磨されている。各平面にそれぞれ敲打痕が認められる。

516は敲石である。敲打痕のある面が4面ある。そのうちの一部は剥離しており、敲打時に剥離した可能性がある。

### (砥 石)

517は仕上げ砥用の平砥石である。4面が砥面として使用されたと考えられる。

### (未成品)

518は素材か未成品である。一部切り取られ、平面になるように整形されているが、その面と並行に側面から1本ひびが入っている。石の中ほどが凹んでいる。刃部を形成するために研磨されている。また、全体的に研磨されている。敲打痕が認められる。これらのことから、扁平片刃石斧か抉入片刃石斧の打剥に失敗し、敲石に転用した可能性がある。

### (原 石)

519は石器の原石である。剥離痕があり、切り離された部分が石器として加工された可能性がある。研磨の痕もみられ、形状から石斧として加工される途中であった可能性がある。

### (器種不明品)

520は器種不明である。断面は半円形である。曲面部には敲打痕があり、一部研磨されている。遺物の時期は、供伴している土器から弥生時代後期と考えられる。

## 集石遺構 01 (図 44・45)

### (石包丁)

521は石包丁の未成品である。剥離整形段階と考えられる。刃部と背部は整形されていない。研磨はされていない。表面の一部は研磨されているが不十分である。

### (扁平片刃石斧)

522は頁岩～粘板岩製の扁平片刃石斧である。基部は欠損している。刃部は裏面が剥離しており、それに伴い刃も一部欠損している。残存部からは使用痕と考えられる敲打痕が認められる。両面とも荒いが研磨されている。

### (磨製石剣)

523は千枚岩製の磨製石剣である。柄部は欠損している。剣身部は、先端部は欠損しているが、残存部には鏑が残る。側辺は両刃であり、やや曲線的に開きのち直線になる。片辺は剥離している。両面ともよく研磨されており平滑である。

### (磨製石鎌)

524は凸基式磨製石鎌の未成品である。剥離整形か研磨の段階であると考えられる。先端部、側辺は研磨されていない。1面は一部研磨されているが不十分である。

### (未成品)

525は石器の未成品である。断面は概ね扁平な扇形をしている。平面部の一部が研磨されて、刃部を形成しているが機種は不明である。

526は石器の素材か未成品である。片刃の刃部が形成され、研磨もある程度されている。形状より石包丁の製作途中で遺棄された可能性がある。

遺物の時期は、弥生時代後期と考えられる。

### 4-1・2層／包含層（図45）

527～532は石包丁である。533は磨製石剣である。534は大型蛤刃石斧の未成品である。535・536は磨製石鎌である。537は剥片である。538～540は砥石である。541～543は未成品である。

### (石包丁)

527は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損している。片刃で、刃部は直線的である。刃に一部剥離があり、残存部分には使用痕と思われる擦痕がある。背部は外湾する。両側穿孔により2孔を穿つ。両面ともよく研磨されており平滑である。

528は千枚岩製の石包丁である。片刃で、刃部は外湾する。背部は欠損している。割れ痕より両側穿孔により1孔を穿つ。両面ともよく研磨されており平滑である。刃部には使用痕と考えられる擦痕がある。

529は千枚岩製の石包丁である。片側が欠損している。片刃で、刃部はやや外湾する。背部は外湾する。割れ痕より両側穿孔による1孔を穿つ。また、紐孔部分には紐擦れ跡痕が認められる。両面ともよく研磨されており平滑である。

530は千枚岩製の石包丁である。両側ともに欠損している。片刃で、刃部は直線的である。背部は外湾する。両面ともよく研磨されており平滑である。

531は千枚岩製の石包丁である。両面ともよく研磨されており平滑である。片側の大半が欠損している。片刃であるが、刃は剥離や刃こぼれで確認できない。背部は外湾する。

532は千枚岩製の石包丁である。片側と背部が欠損している。片刃で、刃部は直線的である。両面ともよく研磨されており平滑である。刃には刃こぼれがあるが、研磨し直した痕がある。3孔を穿つが、そのうち2つは両側穿孔であり、1つは片側穿孔である。背部は穿孔部分を含む箇所から欠損しており、欠損後に研磨された痕がある。これらのことから、製作過程で穿孔時に欠損した後、研磨し直したか、何らかの理由で欠損後研磨し直して再利用していた可能性がある。

### (磨製石剣)

533は磨製石剣の未成品である。刃部は整形されておらず、片側には敲打痕は剥離が見られる。磨製石剣製作途中か敲石に転用した可能性がある。

### (大型蛤刃石斧)

534は玢岩製の大型蛤刃石斧の未成品であると考えられる。剥離整形後の研磨の段階であると

考えられる。刃部は未整形である。基部にあたる部分は欠損している。

#### (磨製石鎌)

535は千枚岩製の有孔磨製石鎌である。形態に関しては欠損しており、不明である。両面ともよく研磨されており平滑である。側辺は曲線的に開き、鎌身の先端は鋭利に尖る。側辺にはいくらく剥離がある。両側穿孔による1孔を穿つ。

536は千枚岩製の磨製石鎌である。一部欠損しているが、凸基式と考えられる。側辺は曲線的に開き、鎌身の先端は一部剥離あるが鋭利に尖り、鎌が通る。両面ともよく研磨されており平滑である。側辺には使用痕と思われる剥離があるが、剥離後研磨されている。

#### (剥片)

537は脈石英の剥片である。刃がないことから素材か刀器の未成品の可能性がある。

#### (砥石)

538は砂岩製の砥石である。荒砥石と考えられる。砥面は3面であり、いずれも平砥石として使用されたと考えられる。また、赤褐色に変色している箇所があり、被熱痕と考えられ鑄型の可能性がある。

539は砂岩製の砥石である。荒砥石と考えられる。砥面は3面であり、いずれも平砥石として使用されたと考えられる。また、赤褐色に変色している箇所があり、被熱痕と考えられ、鑄型の可能性がある。

540は仕上げ砥石である。砥面は6面であり平砥石である。

#### (未成品)

541は石器の未成品である。1面の中心部分に鎌あるいは刃部の棱と考えられる部分がある。側面の一部が研磨され刃をなしており、使用痕の剥離がある。両面ともに研磨されている。これらのことから、石剣の製作途中で遺棄され転用された可能性がある。

542は石器の未成品である。刃部は整形されておらず、両面ともよく研磨されており平滑である。形状より扁平片刃石斧と思われる。

543は素材か未成品である。側面に敲打痕があり、一部研磨されている。先端部も一部研磨されている。形状より扁平片刃石斧か抉入片刃石斧である可能性がある。

遺物の時期は、供伴土器から弥生時代後期～古墳時代後期であるが、石器自体は弥生時代後期と考えておく。

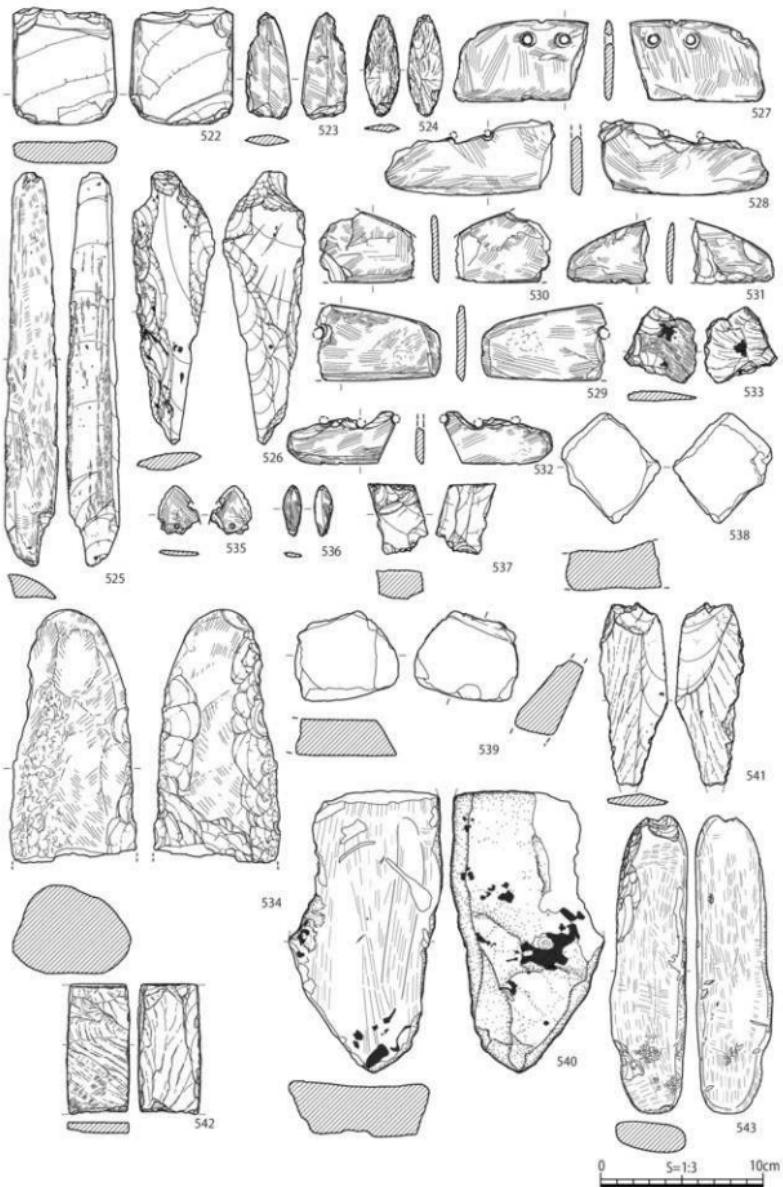


図45 集石遺構 01(522～526)、4-1・2層／包含層(527～543)

## 第4節 ガラス

### 自然流路01（図37）

400はガラスの破片である。自然流路01の断面精査中に、壁面より出土した。ガラスは、自然流路01の上層出土遺物と思われる。

肉眼観察では、形状は管状で、中心には直径1mmに満たない孔がみられる。色調は若干青みがかった透明で、気泡も少なく透明度が高い。

材質は、次節にて詳述する蛍光X線分析による成分分析を行った結果、ソーダ石灰ガラスであった。弥生時代のガラスは、主としてカリガラスであることが多いことから鑑みて、現状では後世の混入品ではないかと考えている。

#### 〔引用・参考文献〕

- 寺沢重・森岡秀人編『弥生土器の様式と編年』（近畿編Ⅰ・Ⅱ）木耳社 1989年・1990年  
中世上器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995年  
小森俊寛監修・編『京から出土する土器の編年の研究』京都編集工房 2005年  
森岡秀人編『初期農耕活動と近畿の弥生社会』雄山閣、2018年  
岩崎 滉「乙訓地域の弥生集落と展開画別」『初期農耕活動と近畿の弥生社会』雄山閣、2018年  
福家 恵「乙訓地域の弥生施点集落」『第20回京都府埋蔵文化財研究会』京都府埋蔵文化財研究会、2014年  
寺前直人「武器と弥生社会」大阪大学出版会、2010年  
神京都府埋蔵文化財調査研究センター編『京都府弥生土器集成』1989年  
伊藤涼史「京都盆地の弥生時代遺跡」『京都大学構内遺跡調査研究年報』1995年

## 第5節 西京極遺跡出土ガラス製品の蛍光X線分析

### 1. はじめに

京都市右京区西院双月町115、114の一部に所在する西京極遺跡より出土した写真16のガラス製品について、蛍光X線分析による元素分析を行い、材質の検討を行った。

### 2. 試料と方法

分析対象は、自然河道01上層より出土したガラス製品(400)である。形状は管状で、若干青みがかったり、ほぼ無色透明である。自然河道01は、下層が弥生時代後期～古墳時代後期、上層が古墳時代後期～飛鳥・奈良時代の堆積とみられている。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1000 μAのロジウム(Rh)ターゲット、X線照射径が8mmまたは1mm、X線検出器はSDD検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)であるが、ナトリウム、マグネシウム(Mg)、アルミニウム(Al)といった軽元素は、蛍光X線分析装置の性質上、検出感度が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV(一次フィルタ無し)・50kV(一次フィルタPb測定用・Cd測定用)の計3条件で、測定時間は各条件500～1700s、管電流自動設定、照射径8mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

### 3. 分析結果

蛍光X線分析により得られた半定量値を表3に示す。分析の結果、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化カルシウム(CaO)、二酸化ケイ素(SiO<sub>2</sub>)を主成分とするソーダ石灰ガラスと考えられた。

検出された元素は、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化アルミニウム(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、二酸化ケイ素(SiO<sub>2</sub>)、酸化リン(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O)、酸化カルシウム(CaO)、酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)、酸化マンガン(MnO)、酸化鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化銅(CuO)、酸化亜鉛(ZnO)、酸化ヒ素(As<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化ルビジウム(Rb<sub>2</sub>O)、酸化ストロンチウム(SrO)、酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)、酸化アンチモン(Sb<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化バリウム(BaO)、酸化鉛(PbO)の合計18元素である。

表3 半定量分析結果(mass%)

| Na <sub>2</sub> O | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | SiO <sub>2</sub> | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> | K <sub>2</sub> O | CaO  | TiO <sub>2</sub> | MnO  | Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | CuO  | ZnO  | As <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | Rb <sub>2</sub> O | SrO  | ZrO <sub>2</sub> | Sb <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | BaO  | PbO  |      |
|-------------------|--------------------------------|------------------|-------------------------------|------------------|------|------------------|------|--------------------------------|------|------|--------------------------------|-------------------|------|------------------|--------------------------------|------|------|------|
| 3.10              | 8.29                           | 75.41            | 0.49                          | 2.62             | 8.55 | 0.12             | 0.32 | 0.82                           | 0.01 | 0.02 | 0.02                           | 0.01              | 0.02 | 0.01             | 0.01                           | 0.01 | 0.15 | 0.05 |

#### 4. 考 察

ガラスの材質は、酸化ナトリウム ( $\text{Na}_2\text{O}$ )、酸化カルシウム ( $\text{CaO}$ )、二酸化ケイ素 ( $\text{SiO}_2$ ) を主成分とするソーダ石灰ガラスと考えられた。微量元素では、酸化ヒ素 ( $\text{As}_2\text{O}_3$ ) や酸化アンチモン ( $\text{Sb}_2\text{O}_3$ ) の検出が特徴的であった。

実体顕微鏡下で観察すると、表面に多少の傷はあるものの、銀化などの風化は観察されず、非常に状態が良い。また、ガラス内部も気泡は多少観察されるが、古代ガラスとしては決して多くなく、清澄性が高い。酸化ヒ素 ( $\text{As}_2\text{O}_3$ ) や酸化アンチモン ( $\text{Sb}_2\text{O}_3$ ) が、清澄剤として作用していると考えられる。

ソーダ石灰ガラスは、弥生時代にも存在する材質ではあるが、基本的に青紺色などに着色された半透明のガラスである。また、今回の試料からは酸化ヒ素 ( $\text{As}_2\text{O}_3$ ) が検出されるなど、基礎ガラスの化学組成上の特徴も弥生時代のソーダ石灰ガラスとは異なる。ソーダ石灰ガラスは、近現代において最も汎用的なガラス材質でもある。今回の試料は、ガラス自体の品質も良く、風化もほとんどないため、後世の混入物である可能性が高いと考えられる。

竹原弘展（パレオ・ラボ）

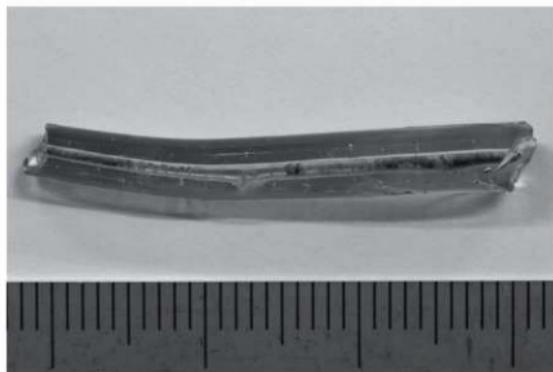


写真 16 分析対象のガラス製品

#### 〔参考文献〕

- 肥塚隆保（1997）日本で出土した古代ガラスの歴史的変遷に関する科学的研究。132p. 東京藝術大学博士学位論文。  
肥塚隆保・田村朋美・大賀克俊（2010）古代ガラスと考古科学 材質とその歴史的変遷。月刊文化財。566, 13-25。  
中井 泉編（2005）蛍光X線分析の実際。242p. 朝倉書店。  
作花清夫・塙野照雄・高橋克明編（1975）ガラスハンドブック。1072p. 朝倉書店。  
白瀧義子・阿部善也・K. タンタラカーン・中井 泉・池田朋生・坂口圭太郎・後藤克博・荒木隆宏（2012）熊本県出土の  
古代ガラスの考古化学的研究。考古学と自然科学。63, 29-52。  
山根正之（1989）はじめてガラスを作る人のために。195p. 内田老舗謹。

## 第5章 総括

### 第1節 西京極遺跡の弥生土器

#### 1. 出土弥生土器の概要

今回調査した西京極遺跡からは大量の弥生土器が出土した。出土した弥生土器のうち可能なものの 279 点を図化した。器種別の内訳は壺 99 点、甕 115 点、高坏 35 点、器台 8 点、鉢 11 点、手焙型土器 3 点、蓋 7 点、台形土器 1 点である。全体を比率で表すと壺 35%、甕 41%、高坏 13% その他 11% である。器種別の出土状況は壺に比べ甕がやや多いが、弥生の一般集落遺跡で壺・甕・高坏・その他の出土比率は 4 : 4 : 1 : 1 とされることから、西京極遺跡の出土比率は際立った特徴はなく、一般的集落遺構の出土状況と考えてよいだろう。時期的には弥生時代前期が約 1%、弥生中期の土器が約 79%、後期は約 20% である。中期の中では弥生土器畿内 V 様式の分類で II 期が 8%、III 期が 28%、IV 期が 64% と約 2/3 を占める。弥生土器から見た西京極遺跡は、弥生時代中期後葉を最盛期とした溝を中心とした集落遺跡になるだろう。

#### 1) 弥生時代中期の遺構と土器

弥生時代中期の土器が出土した主な遺構は、溝 01、溝 02、環濠 01、土器棺墓 01 である。溝 01 では、中期中葉の時期を中心に山城 II -2 ~ 近江 IV -3 に併行する時期の遺物が出土している。実測総数 14 点のうち壺が 6 点、甕が 4 点、高坏鉢が 2 点、鉢 2 点である。壺では、胴の張る細頸壺 1 の存在や、有段口縁の広口壺 5 の口縁部がやや内湾するタイプなど中期でも古い様相を示している。溝 02 は、壺・甕合わせて図化 8 点であるが、溝 01 と同様に中期中葉を中心として、山城 II -2 ~ IV -2 併行の土器が出土している。16 の細頸壺の体部は、胴部下半が張り、尾張地域の特徴の文様をもつ中期中葉の土器である。環濠 01 からは、大量の土器群が出土した。図化した弥生土器の約 2/3 にあたる 184 点が、環濠 01 から出土した。その内訳は壺 73 点、甕 79 点とほぼ同数で、高坏・器台は 22 点、その他 10 点である。弥生土器の時期は、山城 I -2 ~ IV -4 の時期である。前期の土器は 3 点あるが、いずれも壺の底部で時期の確定は流動的である。図化した総数の 2/3 にあたる 120 点余りが山城 IV 様式の時期で、環濠 01 は後期後葉に主要な活動時期を迎えたといえる。壺では有段口縁広口壺が、隆盛化する。有段口縁広口壺では口縁部が内傾するタイプから直立化し、口縁外面の凹線文は曖昧なものが多くなる。緩やかに外反するタイプから、「く」の字に屈曲する体部が増加し、受口状口縁甕では受部から口縁部の立ち上がりがシャープである。高坏も水平口縁と楕形のもので、楕形は口縁部に凹線文を巡らす。希少な土器では 180 の台形土器がある。台形土器の出土例は近畿地方で近江服部遺跡、揖津安満遺跡・東奈良遺跡、阿波名東遺跡などで出土例がある。土器棺墓 01 からは 309 の甕が出土した。緩やかに外反する口縁部と胴長の体部、外面ヘラ磨きが特徴である。

西京極遺跡内では弥生中期の遺物が出土している調査地は、表1「周辺の調査地一覧」(12頁)でNo②・④の「六条四坊七町」、No⑥の「六条四坊一町」、No⑬の「五条三坊十四町」である。No②調査地からは竪穴住居・溝が、No④調査地からは溝・土坑・流路が、No⑬調査地では土器棺墓と推定される土坑が検出されている。土器は、山城IV-3期と思われる山城北部地域に多く見られる体部外面をタタキ調整する広口壺が出土している。当該調査地の土器棺墓01との関連が注目される。No⑬調査地からは中期から後期の方形周溝墓6基が見つかっている。

弥生中期で注目される調査区は、当該調査地に南接するNo②調査地の溝SD350は弥生中期の環濠で、北東方向から南東方向にゆるやかな円弧を描き幅4.0m、深さ1.2m、断面は逆台形である。中期IV様式の土器や磨製石器などが出土している。当該調査地の環濠01と連続する可能性が高く、西京極遺跡の弥生集落を考察するうえで今回の調査の意義は大きい。滋賀県守山市下之郷遺跡は深さ2m、東西約670m、南北約460mの範囲を6~9重で掘られた多重環濠集落である。下之郷遺跡は近江IV-2期に出現し、近江IV-3期に拡大し、近江IV-4期には衰退に向かう。環濠01からはIV期の近江系の土器も多く出土し、その関連性が注目される。

## 2) 弥生時代後期の遺構と土器

弥生時代後期の土器が主に出土した遺構が、溝03、自然流路01、土坑01である。

溝03の上器は3点であるが、後期後葉の土器として注目される。207の壺はやや楕円形になる体部で、弥生時代の終末期の様相を示している。208の受口甕も中期末の甕に比べ体部の張りや大きくなり、受部から口縁部の立ち上がりも緩やかになり、体部の施文も単純化する。209の二重口縁壺は、長い頸部と二重竹管文を押圧し直線文で連結させ連続する渦巻文の施文が特徴的である。

自然流路01は、弥生中期の土器が4割弱含まれ、古墳時代の庄内式・布留式の土器が数点混入するが、6割以上が後期前半の土器である。古墳時代の土器は、周辺遺跡の調査で同時期の竪穴住居跡が検出されることから、それらから混入したものであろう。壺では217の長頸壺や220の短頸壺や243の鉢、手焙形土器の出土など後期の特徴を示す。土坑02は受口状口縁の壺278と土器279・290が3点出土している。いずれも口縁端部は緩やかに外反し、新しい時期の様相を示す。

西京極遺跡での弥生時代後期の遺物が出土する調査地は、表1のNo①・③の「六条四坊二町」、No⑪の「五条四坊十二町」、No⑫の「五条四坊六町」で、出土遺構は竪穴住居・方形周溝墓である。当該調査地の特異な長頸二重口縁壺が出土した溝03と関連させ、今後の調査が期待される。

## 2. 搬入系の土器群

当該調査地では搬入系の土器が、数多く見受けられる。今回、搬入系土器としたものは胎土分析から判断したものではないため、厳密な意味での搬入品とは言えない。近畿地方で生駒西麓産と認識される暗茶褐色系の色調で、胎土に角閃石を多く含有するものは肉眼観察で分類した。そ

れ以外は器形や施文・調整・胎土などの特徴から搬入品に分類したため、その判断は多少の齟齬が生じる場合があるので考慮していただきたい。

弥生土器のうち搬入系と思われる土器が全体の30%と多数を占める（形状、色調などで判断したもので類似品を含む。纏向遺跡など拠点集落を除いて、通常の弥生遺跡では搬入品は数パーセントといわれる。）そのうち近江系が64%、摂津・河内系が14%、尾張（東海）系が13%、瀬戸内系（阿波・吉備）が7%である。

最も点数の多い近江系土器はおよそ55点あり、そのうち甕が34点、壺が17点、そのほか4点である。甕は近江発祥とされる受口状口縁甕は近江系土器の典型することができる。やや胴長の体部で、受部から口縁部が直立かやや内湾気味にシャープに立ち上る。体部外面にクシ描直線文や波状文、刺突列点文などで加飾する。口縁内外面を横ハケ、外面体部から頸部を粗い縱ハケで調整する。色調は灰褐色系のものが多い。環濠01でまとまって近江系の甕が出土している。139は暗褐色の色調と砂粒を多く含む胎土から搬入品と推定される。144はIV様式の近江型受口甕の典型といってよいプロポーションであり、色調は褐灰色で胎土もやや粗く近江産の土器に類似する。また、125・143・145は口縁部内面に刺突列点文による山形文を配する。この施文は草津市鳥丸崎遺跡T13-SD44に類似した甕が出土しているが、当調査地出土の甕は橙色または黄橙色で近江産とは色調は異なることから、形式をまねて作られた甕であろう。壺では1が近江III・2と併行する時期の細頸壺で、ソロバン玉形の体部から口縁部がやや内湾して立ち上る。この小型の細頸壺も近江の湖南地域で見かけるが、頸部から受部の屈曲に近江産とするにはやや違和感がある。180の台形土器は安満遺跡・東奈良遺跡、名東遺跡の頸の張るタイプでなく、やや短めの頸は服部遺跡のものと類似するが、外面ヘラ削りは独特である。

近江系の土器は西京極遺跡のこれまでの調査では表1のNo⑩の竪穴住居など多く出土している。周辺遺跡では鳥羽離宮跡で土坑から中期後葉の受口甕がまとめて出土している。

次に多い摂津・河内系の土器は、河内産のいわゆる生駒西麓産の胎土を持つ壺214と甕225～229、高环257の7点である。西京極遺跡出土の弥生土器の2.5%に当たる。この数値は弥生遺跡の搬入土器の標準的な量であろう。摂津系とした66の壺は頸部から体部の施文に、摂津IV様式広口壺に類似する。

尾張（東海）系とした土器は細頸壺16では体部の縱方向の波状文、47の広口壺は体部の中央部に面を持つ特徴から尾張（東海）系とした。223はいわゆるパレススタイルになる壺と思われ、色調は橙色を示す。甕237・238はS字状口縁甕の形状で伊勢から尾張にかけて出土する。

瀬戸内系とした土器は6点である。79の甕の体部は体部中央に施されるヘラ圧痕が徳島県名東遺跡に類似品がある。80の長頸壺の口縁部の凹線文とヘラ圧痕も淡路系である。249の高环を胎土に角閃石を含みにぶい赤褐色の色調である。下川津B式と思われる。

209の二重口縁長頸甕の類似品は鳥取市西桂見墳墓で伯耆V-3期の長頸甕である。口縁部は二重口縁ではないが、口縁部から体部屈曲点まで36cmの長頸で、頸部下に断面三角の突帯を巡らし、頸部内外面に竹管文が密に施文される点が類似する。瀬戸内の加飾長頸甕は備中V-5期

に上東遺跡、西江遺跡、芋岡山遺跡、橋築弥生墳丘墓などで出土している。複合口縁とやや長い頸部、鋸歯文や斜格子文、沈線文など複雑な施文を施す。209と類似点は複合口縁や長頸部、施文の沈線文であろう。周辺遺跡における二重口縁壺は庄内期になると京都市伏見区の水垂遺跡の溝SD98 や宇治市若林遺跡SX202 などから出土している。若林遺跡方形周溝墓 SX202 の 10 の二重口縁壺は長頸である点、10 や水垂遺跡 SD 98 の 178 など頸部と体部の屈曲点の断面三角の貼付け突帯は類似する。米田敏幸は「畿内の二重口縁壺については、既知の如く弥生時代後期の新しい段階で、瀬戸内地域の土器変化の流れの中で、広口壺を祖型として口縁部を付加する形で出現する」(米田 2014) とする。まさに溝 03 出土の 209 二重口縁長頸壺は畿内と瀬戸内をつなぎ、弥生時代と古墳時代の過渡期の土器といえる。

西京極遺跡の搬入系土器は近江系を中心に、東海系・河内系・瀬戸内系と多様である。この地は桂川左岸に位置し淀川水系につながる。近接する近江からの搬入は陸上ルートだけでなく、瀬田川・宇治川を介した水上ルートにつながる。さらに琵琶湖を介し東海や北陸との交流もあったであろう。また、瀬戸内海沿岸地域や摂津・河内地域からは淀川を週上する形で物資や人的交流があったと思われる。西京極遺跡は東は東海・北陸から近江、西は瀬戸内から摂津・河内をつなぐ結節点の遺跡であったといえる。

#### (引用参考文献)

- 寺沢薫・森岡秀人『弥生土器の様式と編年』近畿編 I・II 木耳社、1989・1990 年  
正岡睦夫・松本岩雄『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編、木耳社、1992 年  
吉崎伸『水垂遺跡・長岡京左京六・七三坊』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書第 17 収。(財) 京都市埋蔵文化財研究所 1998 年  
伊庭功『近江南部の中期弥生土器－様式と器種構成－』『古代文化』第 55 卷第 5 号、2003 年  
吹田直子『山城における古墳時代初期前後の土器様相』『古墳出現期の土器と実年代』シンポジウム資料集(財) 大阪府文化財センター、2003 年  
伴野幸一『滋賀県野洲川流域の遺跡群と受口状口縁甕の変遷』『古墳出現期の土器と実年代』シンポジウム資料集(財) 大阪府文化財センター、2003 年  
伴野幸一『近江地域－野洲川流域を中心とする吉式土器の年代学』(財) 大阪府文化財センター、2006 年  
平田泰『鳥羽離宮跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書 2007-5。(財) 京都市埋蔵文化財研究所、2007 年  
小竹森直子『島丸崎遺跡・津田江湖底遺跡』琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書、滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会、2008 年  
江谷寛『平安京右京六条四坊七町』『平安京右京 5 遺跡』平安京研究調査報告第 23 種、(財) 古代学協会、2009 年  
米田敏幸『河内における加飾二重口縁壺の展開について』『古墳出現期土器研究』第 2 号。古墳出現期土器研究会、2014 年  
秋山浩三『弥生時代のモノヒムラ』、新泉社 2017 年

## 第2節 出土石器からみた集落の特徴

### 1) 石器の特徴と工房の位置

本調査地では、大量の石器が出土した。質と量とともに西京極遺跡内の他の調査地点よりも、群を抜いている。出土遺構は、環濠01と自然流路01に集中しており、前者が出土石器全体の41.2%、後者が26.7%を占めている。時期は、共伴遺物より環濠01が弥生時代中期、自然流路01が弥生時代後期と考えられる。また、器種の構成中最も多いのが、未成品を含む石包丁、次いで石斧、砥石の順である。多少の差はあるが、この構成は環濠01と自然流路01では、基本的に変わらない。

さて、ここでは調査地周辺の弥生時代中期と後期で、比較的まとまった数の石器が出土した調査地点と比較する。本調査地南側のNo②では、本調査地と関連のある環濠01が検出されている。ここでの出土石器の器種構成は石鎌が最も多く24点（内、環濠01出土は4点）、石包丁は22点（内、環濠01出土は2点）が出土しており、この2器種で出土石器全体の8割を占める。時期は弥生時代中期から後期と考えられる。さらに本調査地北側のNo⑤でも比較的まとまった数の石器が出土しており、器種構成は石鎌が18点、砥石が8点、石包丁が6点で、以上の3器種で全体の5割ほどを占める。時期は、弥生時代後期と考えられる。両調査地点とも、西京極遺跡内での石器生産工房が想定されている。

ここで、注目したいのは、石器器種の偏りである。両調査地では石鎌が最も多く、次いで石包丁や砥石と続く。しかし、本調査地では中期・後期とも一貫して石包丁と石斧の割合が高く、さらに未成品や2次加工品の割合も高い。これはいわゆる製品ではなく、工具に関連する石器の生産、または再生加工を重点的に行っていた事を示唆している。石包丁に3穴の穿孔のあるものが2点ある。これなども、使う人や使いやすさを考えて作り直していたことも考えられる。

次に、西京極遺跡の中期と後期の居住域の変化に注目したい。遺跡範囲については確定的ではなく、議論の余地はある。既存の調査から遺跡の範囲が図5のように想定されている。その中において、弥生時代中期の居住域は、本調査地を含む南東地域であり、後期は居住域を北西地域へと広げていったと考えられている。本調査地で明確に中期と後期の遺構内から石器が出土した事から鑑みて、広がった居住域に対応して、石器生産工房は移動せずに同じ場所であり続けたと考えられる。

装飾品である玉作に関して言えば、本調査地からは玉素材や玉砥石は出土しているが、製品は出土していない。一方で、本調査地南側のNo②では環濠内を含め、管玉・碧玉・勾玉が出土しているが、玉素材や玉砥石は出土していない。また、東側のNo③では、ガラス玉が14点、勾玉が1点、管玉が1点、白玉が3点出土しているが、本調査地では出土していない。3調査地では石器のように玉製品の未成品や玉作製作資料が出土していない。

以上のことから、3つの事が指摘できる。1つ目は、工房そのものを検出したわけではないが、本調査地周辺は西京極遺跡内での石器・玉作工房地区として性格づけられた。2つ目は、中期と

後期では居住域に変化があるにもかかわらず、工房の位置関係は余り変化がなかったと考えられた。3つ目は、その石器・玉作工房地区内でも場所によって生産品に偏りがある事で、工房毎の生産品に作業分担が行われていた可能性があることである。

今回の調査は、西京極遺跡における石器・玉作工房の場所を特定し、製作が分業化されていた可能性を示すものとして大きな成果であるといえる。今後の周辺の調査で、西京極遺跡内の石器・玉作工房の範囲と、分業の裏付け資料の検出が期待される。

## 2) 石材の特徴と地域間交流

次に、石器の石材に関してまとめたい。ここで注目したいのは石包丁の石材である。弥生時代中期の山城地域では、石包丁の石材は基本的に粘板岩である。西京極遺跡内でも同様である。しかし、山城地域では石器に適した粘板岩の入手が困難であるため、その石材产地は他地域に依拠している。詳しい科学分析をしてはいないが、距離的な関係から丹波帯産もしくは近江湖西産とみるのが妥当であろう。本調査地で出土する弥生土器の中に近江系と考えられる土器が多数出土している。器種は壺・甕・鉢である。中には器形は近江系であるが、胎土が西京極産と考えられる土器も含まれる。土器に着目すれば、近江との関連が極めて深い事が明らかとなる。以上をまとめれば、西京極遺跡の粘板岩は近江湖西産である可能性が高いように思われる。このことからも、山城北部地方の粘板岩の供給地を論ずる上で西京極遺跡の資料は、今後重要な資料であると言える。

次に、サヌキトイドとサヌカイトに着目したい。本調査地では、打製石鎌が出土していない。わずかに剥片が環濠 01 で 5 点、自然流路 01 で 2 点、溝 03 で 1 点が出土しているのみである。石材はいずれもサヌカイトではなく、サヌキトイドである。サヌキトイドの产地は瀬戸内各地に分布しており、特に石器原材として良質と考えられる产地は香川県金山、五色台地域、兵庫県淡路島岩屋地域、淡路島中部地域があり、石器原材としてあまり良質と考えられない产地は香川県屋島、紫雲山、豊島、小豆島、愛媛県皿ヶ峰地域、兵庫県甲山があげられる。本調査地からは阿波 IV-2 様式が 2 点、吉備 V-1 様式が 1 点、下川津 B 式（香川県）が 1 点とわずかではあるが出土しており、いずれも搬入品の可能性がある。また、生駒山西麓産の土器も 7 点出土している。石器、土器とともに出土点数は少ないが、これらは西京極遺跡出土のサヌキトイドが、二上山のサヌカイトではなくて、瀬戸内産のものである可能性を示唆している。他方、西京極遺跡内の他調査地で出土する打製石鎌や、長岡京市雲宮遺跡出土の打製石鎌・石錐・削器はサヌカイト製との記載がある。石材の分類には議論の余地はあるが、これがサヌカイトならば、桂川右岸と左岸では石器の素材が異なる可能性もでてくる。

粘板岩とサヌキトイドの入手先は、共伴する近江系、阿波系、吉備系、生駒山西麓産土器等の搬入土器に着目し、地理的に淀川水系である桂川に近く、近江とも距離的にも近い本遺跡の立地を考えるならば、紅簾石片岩と緑色凝灰岩も含め、近江や河内を介した間接的な素材の入手も十分考えることができる。これらを考慮すれば、西京極遺跡が山城北部地域桂川左岸で、弥生時

代中期・後期の時期に、国下多美樹のいう「交流の中核的集落」であった可能性が出てくる。

桂川右岸の乙訓地域ではかなり調査研究が進んでいるが、桂川左岸ではまとまった資料が出土しても報告された例が少ない状況があった。その点今回の調査は、土器・石器とともに特色あるまとまった資料が出土し、その報告書を刊行できた。山背国葛野郡内といった小地域での性格ではなく、山城北部桂川左岸地域の弥生社会の動向を知る上で、貴重な成果を提示したと言えよう。

〔引用参考文献〕

- 酒井龍一「石包丁の生産と消費をめぐる二つのモデル」『考古学研究』第21巻第2号、考古学研究会、1974年  
國下多美樹「近江系土器について」『京都府弥生土器集成』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、1989年  
理藏文化財研究会編西世話人会編「弥生時代の石器-その始まりと終わり-」(第1部第2分冊 中・四国、近畿、東海編)、  
埋蔵文化財研究会、1992年  
平井順「弥生時代の石器」考古学ライブラリー64、ニューサイエンス社、1991年  
『青谷上寺遺跡出土品調査研究報告9』(玉・玉作関連資料)、鳥取県埋蔵文化財センター、2013年  
竹広文明「瀬戸内のサヌカイト・安山岩産出地をめぐって」『内海文化研究紀要』41号、広島大学大学院文学研究科付属内  
海文化研究施設、2013年  
森 貴教「石器の生産・消費からみた弥生社会」九州大学人文学叢書、九州大学出版社、2018年

## 第3節 調査地周辺の奈良時代後葉・末と 平安時代前期の掘立柱建物

今回の調査地周辺の発掘調査例は、第2章第3節・図5のとおりである。このうち、今回の六条四坊七町を中心に北側の八町と、東側の一町と二町の奈良時代～平安時代の建物・溝・道路について、8例の既存調査（第2章第3節・表2のNo①～⑧文献）から抽出したのが図46である。ここから見えてくることについて、今回の第2遺構面である平安時代前期の遺構との関係について記しておきたい。

### 1) 条坊制の施工

まず、条坊制の施工の有無については、No①とNo②の2カ所で、小路の道路側溝が確認され、側溝から遺物が出土しているので、確実に平安時代初期に計画的な施工が行われたことは疑えない。No①では、東西小路である樋口小路の北側溝が推測地点で検出されており、その施工が確実に行われていたことが確認できる。さらに、No②では推測された六条坊門小路の北側において、記述はないが北側溝と判断してよいものが検出されている。

慶滋保胤（～1002年）の『池亭記』の影響もあって、右京域の条坊制の施工を疑う向きもあったが、近年の発掘調査や人文地理の分析<sup>11)</sup>から否定されつつある。

### 2) 宅地の班給区画と建物方位

この七町・八町・一町・二町の4町において、検出された掘立柱建物、柱列・柵・塀、溝、道路に絞って、その状況を北側から概観してみたい。ただし、建物の年代を決定するのは、柱穴と雨落溝等から出土した限られた僅かな出土遺物と、遺構との切り合いなどから決められている。しかし、出土遺物が即ちその建物の年代となるかは、慎重を要するものであることはいうまでもない。

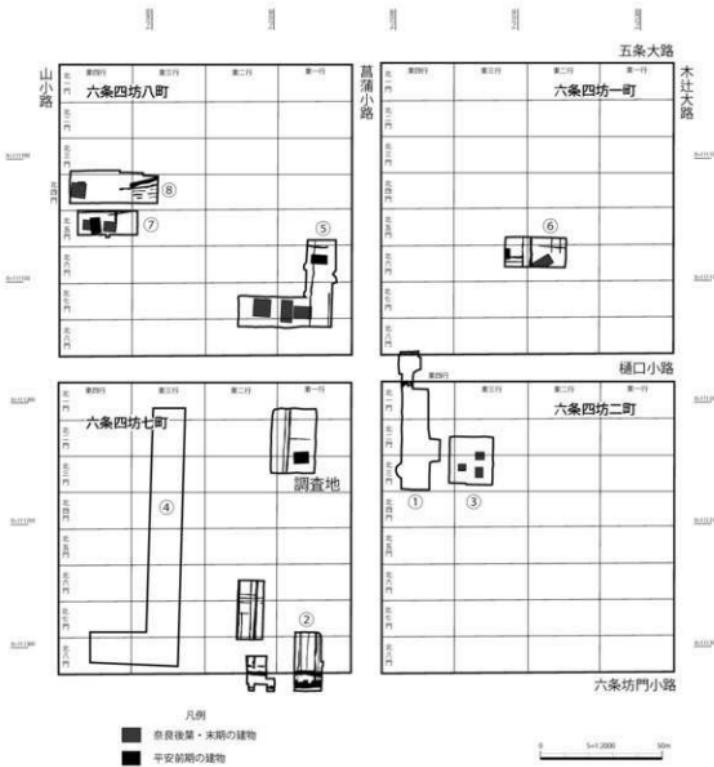
八町のNo⑧では、上層で「建物5」と「柵6」が、下層で「建物170」が検出されている。「建物5」は、桁行3間×梁間2間+東庇1間のN3°Eの南北棟である。「建物170」は、桁行3間×梁間2間の総柱建物（倉庫）で、NO°E・W（=座標北方位）の南北棟である。「柵6」は、「建物5」より約4m東に位置する、4間でN4°Wの南北軸で、その西側は窪地となっている。

八町のNo⑦では、3棟の建物と柱列3条、溝1条等が検出されている。建物は重複して検出されていて、「建物1」は、桁行3間×梁間1間のN5°Wの南北棟で、「建物3」の柱穴を切る。「溝14」は、「建物1」より約1.8m北にある、N87°Eの東西溝である。「建物2」は、桁行3間×梁間2間のN86°Wの東西棟である。「建物3」は、「建物2」より約3.1m東に南側柱列を描える桁行3間×梁間2間+三面庇南向きのN86°Wの東西棟である。「柱列1」は、「建物3」より約5m東に位置する6間以上でN3°Wの南北軸で、八町の東三行と東四行の境に近い位置を占

める柱列である。「柱列 2」は、「建物 1」より約 4.4 m 東に位置する、3 間で N2° W の南北軸である。「溝 14」は、N87° E の東西溝で、八町の北四門と北五門の境にほぼ位置する。

八町の Na⑤では、建物 4 棟と溝等が検出されている。「建物 1」は、桁行 3 間 × 梁間 2 間 + 東庇 1 間の N3° E の南北棟である。「建物 2」は、「建物 1」より約 4 m 東に位置する、桁行 4 間 × 梁間 2 間の N4° E の南北棟である。「建物 3」は、「建物 1」より約 10.5 m 東に位置する、桁行 2 間 × 梁間 2 間の NO° E・W (= 座標北方位) の東西棟である。「建物 4」は、「建物 3」より約 17 m 北に位置する、桁行 4 間以上 × 梁間 2 間の総柱建物(倉庫)で、N88° W の東西棟である。「柵 1」は、「建物 3」より約 1 m 南に位置する、6 間以上で N88° W の東西軸で、「建物 2」の柱穴を切る。「溝 1143」と「溝 1172」は、幅 3 ~ 5 m、N35° E 余りのカーブを描き併走する溝である。

一町の Na⑥では、3 棟の建物と道路 1 条が検出されている。「建物 3」は、古墳時代後期以降の建物で、桁行 5 間 × 梁間 2 間の N60° E の東西棟である。奈良時代や平安時代の建物とは全く



主軸方位が異なる。「建物2」は詳細不明。「建物1」はその一部が検出されたもので、桁行不明×梁間2間で、N88°Eの東西棟である。西側溝「溝11」と東側溝「溝10」は、幅約3mで併行するN1°E南北軸の「小径」を作る。東二行と東三行の境が、「小径」の中央に来る。また、「溝11」に直行する「溝15」がある。

二町のNo③では、3棟の建物と井戸1基が検出されている。「建物33」は、桁行2間以上×梁間2間余りのN0°E・Wの南北棟で、詳細は不明である。「建物35」は、桁行2間×梁間2間のN0°E・W(=座標北方位)の東西棟である。他の1棟は、「建物35」の南約3.5mにある奈良時代後葉～末の「井戸249」の上に架けられた覆屋とみられるものである。「井戸249」は、遺物相から開削後短期間に埋め戻されたと考えられている。

この七町・八町・一町・二町の4町において、予想される四行八門制に合う遺構は2例のみである。一町No⑥の「小径」は、幅約3m、N1°Eの南北軸で、東二行と東三行の境が「小径」の中央にくる。八町No⑦の「柱列1」は、N3°Wの南北軸で、八町の東三行と東四行の境に近い位置を占める。「溝14」は、N87°Eの東西溝で、八町の北四門と北五門の境に合致する。この2例のみではあるが、合致するものがある以上、宅地班給区画は行われたと考えるべきであろう。実際に住んだかどうかは、別問題である。

次に、建物方位についてみてみる。単純に考えるために、90°異なる東西棟・東西軸の掘立柱建物、柱列・柵・堀、溝、道路も、南北棟・南北軸に変換して加える。さらに、今回の調査で検出したN2°Wの〔掘立柱建物01〕を加え、平安時代前期の建物をゴシック(太字)として示す。

N4°E 「No⑦建物2」・「No⑦建物3」・「No⑤建物2」

N3°E 「No⑧建物5」・「No⑤建物1」

N2°E 「No⑤建物4」・「No⑤柵1」

N1°E 「No⑥溝10・11・15」

N0° 「No⑧建物170」・「No⑤建物3」・「No③建物33」・「No③建物35」

N1°W

N2°W 「No⑦柱列2」・「No⑥建物1」・〔掘立柱建物01〕

N3°W 「No⑦溝14」・「No⑦柱列1」

N4°W 「No⑧柵6」

N5°W 「No⑦建物1」

この結果、「No⑤建物4」を除き、N2～5°Wの西に傾いているものが、平安時代前期の遺構であることが明らかである。この原因については、平安京の造営方位<sup>2)</sup>が西へ凡そ-0度14分27秒であるので、本来であればN0°E・W(=座標北方位)前後の値が平安時代前期の遺構となることが予想される。しかし、何故か実際はそうではない。平安京の主軸は、その基準となつた山背国葛野郡条里の方位をそのまま使っている。このため、奈良時代の遺構がN0°E・Wに近

いものとなっているのは、そのためであろうと思われるが、平安時代前期の遺構が西に傾く理由は見つからない。東に傾くものについては、周辺に多い飛鳥～奈良時代の遺構が、「No.⑥建物3」の古墳時代後期以降の建物がN60°Eであるなど、何らかの遺制に制約を受けて掘立柱建物は東に傾く傾向があるのではないかと推測される。

〔註、引用参考文献〕

- 1) 戸口伸二「平安京右京の衰退と地形環境変化」「人文地理」第48号第6号、人文地理学会、1996年
- 2) 芦 純一「条坊制とその復元」『平安京復元』神古代学協会・古代学研究所、角川書店、1994年

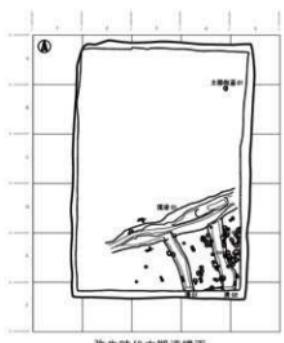
なお、周辺の調査地は、下記の文献を引用した。

- ① 上村和直・西大様 哲「平安京右京六条四坊・西京極遺跡」「平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要」財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- ② 江谷 寛「平安京右京六条四坊七町跡」「平安京右京内5遺跡 平安京跡研究調査報告第23輯」財団法人古代学協会 2006年
- ③ 柏田有香「平安京六条四坊二町跡・西京極遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-30 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- ④ 上村和直「22 平安京右京六条四坊七町」「昭和52年度 京都市埋蔵文化財調査概要」財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- ⑤ 佐藤好司・高木佑介・吉村晶「平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡」イビゾク京都市内遺跡報告第8輯 株式会社イビゾク 2014年
- ⑥ 持田 透「平安京右京六条四坊一町跡・西京極遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査 報告書 2016-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016年
- ⑦ 柏田有香「IV 平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡」「京都市内遺跡発掘調査報告 平成25年度」京都市文化市民局 2014年
- ⑧ 柏田有香「平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年

## 第4節　まとめ

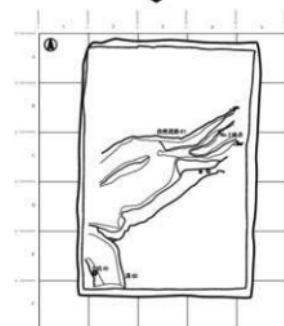
今回の調査における遺構の変遷等を示して、まとめとしたい。

### 弥生時代中期



この時期に該当する遺構は、環濠01、溝01、溝02、柱穴群、土器棺墓01、01SP、02SPである。しかし、この遺構面の状況は、遺構の掘り直しを何回も行い、使用を繰り返した最終段階の姿であるといえる。当初は、環濠01（山城I-2～V-2）と環濠内の柱穴群（玉作工房跡カ。南壁の一部に竪穴建物痕跡がある）の時代、環濠01埋没後（山城II-2）の掘り直しと溝02（山城II-2～近江IV-3）・溝01（山城II-2～山城IV-2、溝01の方が溝02よりも遺構的には新しい遺構）の時代に変遷している。玉作工房は、集落中心からは少し離れた環濠周辺部（今回の柱穴群周辺）に作られた。土器棺墓は、環濠外の上手に作られていた。これらの玉作工房や土器棺墓の立地は、これまでの近畿での集落調査例と類似点が多い。

### 弥生時代後期～古墳時代



この時期に該当する遺構は、環濠01、自然流路01下層、溝03、土坑01である。環濠01は、最終の掘り直しの溝が埋まり、僅かに窪みを残していた時期で、機能していたかは不明である。自然流路01下層（縄文晚期・山城III-1～VI-1）は、その痕跡を留めるのみであるが、調査区内では環濠01の外側約5～6mに掘削された溝（環濠カ）とみられる。自然流路01は、調査地西側の④調査地の試掘調査で検出した、幅9.5m以上×深さ1.1mの「流路」である可能性がある。環濠01の南側延長部を検出した⑤調査地の幅4m×深さ1.2mの「SD350」からは、約30m西側に流路が膨らんでいることになる。溝03（山城V-5～山城VI-1）は、環濠に匹敵する規模であるが詳細はよくわからない。環濠01を切っていることから、完全に環濠01が埋まってから掘削されたことは、確実である。搬入土器でみると、環濠01内からは山城・近江・尾張・吉備（伯耆）・阿波・摂津・河内があるが、自然流路01下層では山城・近江・尾張・吉備（伯耆）・讃岐・河内となり、瀬戸内北岸の摂津の搬入土器が無くなり、吉備の土器も1点

路」である可能性がある。環濠01の南側延長部を検出した⑤調査地の幅4m×深さ1.2mの「SD350」からは、約30m西側に流路が膨らんでいることになる。溝03（山城V-5～山城VI-1）は、環濠に匹敵する規模であるが詳細はよくわからない。環濠01を切っていることから、完全に環濠01が埋まってから掘削されたことは、確実である。搬入土器でみると、環濠01内からは山城・近江・尾張・吉備（伯耆）・阿波・摂津・河内があるが、自然流路01下層では山城・近江・尾張・吉備（伯耆）・讃岐・河内となり、瀬戸内北岸の摂津の搬入土器が無くなり、吉備の土器も1点

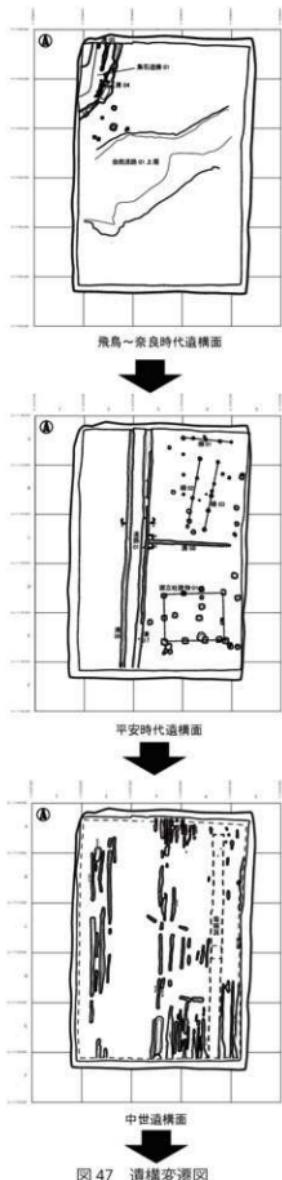


図 47 遺構変遷図

と僅かになり、まさに搬入が止まっているといった感がある。緑色凝灰岩の産地同定が分析技術上困難なため、環濠 01 と自然流路 01 の玉作原石の供給先確認ができないが、原石の供給先が異なる場合は、次代への前哨として土器と共に混乱期を示す資料の一つとして重要であろう。また、玉作工房は、自然流路 01 下層内や集石遺構 01 周辺から出土しており、前代と同じように自然流路 01 周辺部や環濠外で継続して生産されていたことが判明した。

### 飛鳥～奈良時代

この時期に該当する遺構は、集石遺構 01、溝 04、溝 05、自然流路 01、土坑 02、土坑 03、柱穴群である。集石遺構 01 と溝 04・溝 05 の遺構の性格については、道路である可能性も高いが残念ながらよくわからない。周辺に、No.⑥調査地のような古墳時代後期～飛鳥時代の大型掘立柱建物からなる遺構群が存在することは、確實である。この時期、自然河道となって広がった流路の埋め残しや池が、周辺には点在していたものと考えられる。これらの窪地や後背地が埋積し、広い耕作地を確保できる状態となるのが一般的には 7 世紀代であるといわれている。この桂川左岸においても、次代の条里制施工への前哨としての開発が始まっていたと考えることができる。今回は、周辺の北西調査地で検出されているような奈良時代の建物遺構は検出されなかったが、これについても調査地が自然堤防のやや低い所に位置するためであろう。

### 平安時代

この時期に該当する遺構は、掘立柱建物 01、柵 01～03、溝 06～08、道路 01 である。掘立柱建物 01 の時期については、前節のとおりで、N88° E (N2° W) に傾くことから平安時代前期の建物であることを傍証した。道路 01・溝 06～08 と掘立柱建物 01 の前後関係については、掘立柱建物 01 が平安時代前期の一時期（少なくとも一回の立て直し有り）であるのに対して、道路 01 とその側溝 06・07 は、奈良時代の京Ⅱ期古の 8 世紀後葉から存在し、

掘立柱建物 O1（京II期新）廃絶後も継続して、京V期古の11世紀前葉まで継続する。条里や条坊の施工に係わらない道路 O1 と側溝の存在が、確認される。大きく圃場を整備するような地形改変を行わなかったか、地形改変まで行う政治力・経済力がなかったか、またはその必要がない地域では、地形に合わせたこのような遺構（生活道路）が長期に亘って継続したものとみられる。

## 中世

この時期に該当する遺構は、素掘り溝群である。道路 O1 の高まりを残しつつ、道路 O1 の N3 ~ 6° E に規制されながら、その左右に縦方向の畠の歓掘りが連なる。この歓掘りによる雨水貯水形の耕作方法は、1-5 層以降の戦国時代～江戸時代には無くなるが、畠を中心とした耕作は近年まで続いており、宅地に変換することは遂になかった。

今後は周辺の調査の進展により、平安京右京跡・西京極遺跡の全容がさらに明らかになることを期待したい。

表4 土器観察表

| 番号 | 遺構面 | 出土遺構 | 器種   | 器形 | 部位 | 口径<br>(cm) | 深さ<br>(cm) | 底径/<br>台径<br>(cm) | 施文・形成の特徴                                                     | 色調              | 備考(時期・層) |
|----|-----|------|------|----|----|------------|------------|-------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------|----------|
| 1  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 42         | 13.2       |                   | 外表面直線2等・波状文・刺突列点文、内面ハケ、内面ヨコナデ                                | 10YR7/1灰白色      | 近江Ⅲ-2    |
| 2  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 13.0       | (5.2)      |                   | 内・外面摩滅、外面白コナデ                                                | 10YR7/1灰白色      | 山城Ⅱ-1    |
| 3  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 19.8       | (8.0)      |                   | 口縁部削目、頭部クレバ接縫線文、外面白ケ、内面ハケ後ナデ、ハケ調整                            | 7.5YR7/2明褐色     | 近江Ⅲ-2か   |
| 4  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 19.0       | (3.5)      |                   | 口縁部削目、摩滅、内面稍いコロハケ                                            | 7.5YR7/2黄褐色     | 近江Ⅲ-1併行か |
| 5  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 13.0       | (5.4)      |                   | 内・外面摩滅                                                       | 7.5YR7/1褐灰色     | 山城Ⅲ-2    |
| 6  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    |            | (5.5)      |                   | 外表面直線文、内・外面ナデ                                                | SYR8-3淡褐色       | 尾張Ⅲ-1    |
| 7  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    |            | (5.8)      |                   | 外表面直線文、外表面タケハケ、ヨコナデ、内面摩滅                                     | 7.5YR8/1灰白色     | 尾張Ⅲ-1    |
| 8  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (5.5)      |                   | 口縁部削目、外面白コハケ、タケハケ、内面摩滅                                       | 10YR7/2浅黄褐色     | 近江Ⅳ-3か   |
| 9  | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (7.5)      |                   | 口縁部削目、内面白ハケ、ナデ                                               | 7.5YR7/2明褐色     | 近江Ⅳ-1    |
| 10 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 鉢  |    | 23.0       | (9.0)      |                   | 外表面ナデ、内面ハケ                                                   | 2.5YR8/6明褐色     | 山城Ⅱ-2か   |
| 11 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 鉢  |    | 28.4       | (9.8)      |                   | 外表面い字ハケ、内面ヨコハケ                                               | 7.5YR8/2灰褐色     | 山城Ⅱ-2    |
| 12 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 高杯 | 脚部 | (11.0)     | 13.2       |                   | 外表面ヨコナデ、ヨコナデ、ナデ、内面3コハケ                                       | 10YR8/2浅黄褐色     | 山城Ⅱ-2    |
| 13 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 高杯 | 脚部 | (3.8)      | 7.0        |                   | 外表面ヨコナデ、底部ナデ、内・外面摩滅                                          | SYR7/6褐色        | 山城Ⅱ-併行か  |
| 14 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (9.2)      | 10.0       |                   | 外表面ヘラミガキ、内面ハケナリ、ナデ                                           | 10YR7/2/2にじ・黄褐色 | 近江Ⅳ-2併行か |
| 15 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  |    | 22.0       | (19.0)     |                   | 頭部表面目付粘着帯、内・外面ハケ、体部外側タタキ目付後ハケ、口縁部ヨコナデ、内面指印丸                  | SYR7/6褐色        | 山城Ⅳ-1    |
| 16 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  |    |            | (27.8)     |                   | 外表面直線2種類、体形2種類、直線文直線文4等・タテヨコナデ2等、板ナデ状直線文、ハケ、ナデ、内面指印丸、接合部、板ナデ | SYR7/6褐色        | 尾張Ⅲ-3か   |
| 17 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  |    | 19.8       | (10.2)     |                   | 外表面ハケ、蒂3等の直線文4等・口縁部摩滅、内面ナデ、板ナデ                               | 2.5YR6/5褐色      | 山城Ⅲ-2    |
| 18 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  | 脚部 | (12.5)     |            |                   | 外表面波状文、直線文、タテハケ、内面指印丸                                        | 2.5YR8/1灰白色     | 近江Ⅲ-1併行  |
| 19 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  |    | 20.0       | (5.5)      |                   | 外表面ヨコナデ、内面摩滅                                                 | 10YR8/2灰白色      | 山城Ⅲ-1か   |
| 20 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  |    | 17.4       | (4.6)      |                   | 外表面ヨコナデ、3コハケ等/cm、内面ヨコハケ4等/cm                                 | 10YR7/6明褐色      | 山城Ⅲ-1    |
| 21 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 釜  |    | (8.0)      | 5.0        |                   | 外表面ナデ、内面ナデ、上部タテハケ、指印丸、摩滅剥離                                   | 7.5YR7/2にじ・褐色   | 山城Ⅱ-2か   |
| 22 | 5面  | 溝02  | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (6.5)      | 9.2        |                   | 外表面底部ハケ、内面下部粗いハケ                                             | 2.5YR8/1灰白色     | 山城Ⅳ-2併行か |
| 23 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 22.2       | (11.8)     |                   | 外表面直線波状文、頭部波状文・直線文、内面直線文、内・外面摩滅                              | 10YR8/1灰白色      | 山城Ⅱ-3    |
| 24 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 28.2       | (4.8)      |                   | 口縁部内面波状文、腰帯直線文、内・外面ナデ                                        | 10YR7/1灰白色      | 山城Ⅱ-3    |
| 25 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 24.0       | (4.0)      |                   | 口縁部削目・直線波状文・削目、頭部直線文、外面白ナデ、内面ヨコハケ                            | SYR8-3淡褐色       | 近江Ⅲ-1併行  |
| 26 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 26.0       | (12.0)     |                   | 口縁部波状文・内面直線突起、頭部直線文、内面ヨコハケ                                   | SYR7/6褐色        | 近江Ⅲ-1併行  |
| 27 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 25.0       | (12.0)     |                   | 内・外面摩滅                                                       | 10YR8/4浅黄褐色     | 山城Ⅲ-1    |
| 28 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 24.8       | (7.5)      |                   | 外表面タテハケ、ナデ、口縁部ヨコナデ、内面ヨコハケ、2.5YR8/1灰白色                        | 2.5YR8/1灰白色     | 山城Ⅲ-1    |
| 29 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 16.8       | (4.6)      |                   | 外表面タテハケ、内面ヨコナデ                                               | 7.5YR8/6浅黄褐色    | 山城Ⅲ-1併行か |
| 30 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (6.5)      |                   | 口縁部削合接、内・外面摩滅                                                | 10YR8/6褐色       | 山城Ⅲ-2    |
| 31 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 29.0       | (2.5)      |                   | 口縁部削目・波状文、内面直線文                                              | 7.5YR8/1灰白色     | 近江Ⅲ-1併行  |
| 32 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 21.6       | (5.0)      |                   | 外表面ヨコナデ、ナデ、内面摩滅                                              | 7.5YR7/6褐色      | 山城Ⅲ-2    |
| 33 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 30.0       | (2.5)      |                   | 口縁部削目・直線文・円形浮文、内面刺突列点文、内・外面ナデ                                | 2.5YR8/1灰白色     | 山城Ⅳ-2    |
| 34 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    |            | (2.5)      |                   | 口縁部ヨコシ接縫波状文、削目、内面ナデ                                          | 7.5YR7/8黄褐色     | 山城Ⅲ-1    |
| 35 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 15.0       | (5.5)      |                   | 口縁部削目・直線文、波状文、内・外面ナデ、外表面ハケ                                   | 10YR8/6褐色       | 山城Ⅳ-1    |
| 36 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 30.0       | (2.8)      |                   | 口縁部削目・直線文、棒状浮文、円形浮文、内・外面ナデ                                   | 2.5YR7/2灰黄色     | 近江Ⅳ-2    |
| 37 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 16.2       | (7.0)      |                   | 外表面削目・直線文、内・外面削突突起、内面ヨコハケ                                    | SYR7/6褐色        | 山城Ⅳ-1    |
| 38 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    |            |            |                   | 口縁部削目・直線文、内・外面ナデ                                             | 7.5YR7/8黄褐色     | 山城Ⅳ-1か   |
| 39 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 22.2       | (3.9)      |                   | 外表面直線文、内・外面刺突列点文、外表面ナデ、摩滅                                    | 7.5YR8/3淡黄褐色    | 山城Ⅳ-2    |
| 40 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 24.6       | (5.0)      |                   | 外表面タテハケ、ハクナ、内面ヨコハケ                                           | 2.5YR8/6褐色      | 山城Ⅲ-2    |
| 41 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 15.6       | (3.0)      |                   | 外表面ハケ、内・外面ナデ                                                 | 7.5YR8/2灰白色     | 山城Ⅲ-2    |
| 42 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 22.0       | (8.0)      |                   | 内・外面摩滅が激しい                                                   | SYR7/8黄色        | 山城Ⅲ-2    |
| 43 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 15.6       | (2.8)      |                   | 口縁部外側タケハケ波状文、内面刺突文、内面ヘラミ                                     | SYT/6黄色         | 山城Ⅲ-2    |
| 44 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 3.7        | 8.5        | 3.4               | 内・外面ナデ、指印丸、外表面ヘラミ                                            | 10YR8/2灰白色      | 山城Ⅳ-2併行  |
| 45 | 5面  | 溝01  | 弥生土器 | 壺  |    | 9.8        | (2.6)      |                   | 穿孔外、外表面ヘラミガキ、内面ヨコナデ                                          | 10YR7/2/2にじ・黄褐色 | 山城Ⅳ-2    |

| 遺物番号 | 遺構番号 | 出土遺構 | 器種   | 器形 | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 肩幅<br>(cm)                           | 施文・形成の特徴                                                      | 色調            | 備考(時期・産地)       |
|------|------|------|------|----|----|------------|------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 46   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.6       | 41.1       | 6.6                                  | 外面部細かいハケ。下半へケズり後板ナデ。内面摩滅                                      | 7SYR8/2灰白色    | 山城Ⅲ-2           |
| 47   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 16.0       | (26.8)     |                                      | 内・外面ナデ、外面摩滅が激しい。体部欠損                                          | 10YR8/1灰白色    | 尾張Ⅲ-4徘徊         |
| 48   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (7.5)      |                                      | 外面部弦文、内・外面ヨコナデ、外面薄いハケ、内面摩滅、ヘラケズリ                              | 10YR7/2にぶい黄褐色 | 備前Ⅱ-2、備前系または山城系 |
| 49   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21         | (12.0)     |                                      | 外面部ハケ、口縁端部ヨコナデ。内面摩滅、細いハケ                                      | 7SYR8/6褐色     | 阿波Ⅱ-2徘徊         |
| 50   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.0       | (18.2)     |                                      | 内・外面ヨコナデ、外面ヘラミガキ、ナデ、内面ハケ、板                                    | SYR8/4淡褐色     | 山城Ⅲ-2徘徊         |
| 51   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.0       | (12.8)     |                                      | 内・外面摩滅が激しい                                                    | 7SYR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ-2           |
| 52   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 26.8       | (11.3)     |                                      | 額部指痕伝文帯、内・外面ハクリ、外面部ハケ目                                        | SYR8/3淡褐色     | 近江Ⅲ-1           |
| 53   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 24.8       | (7.9)      |                                      | 外面部細かいハケ/cm、内面摩滅                                              | SYR8/7灰褐色     | 山城Ⅲ-1           |
| 54   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.0       | (7.0)      |                                      | 内・外面ヨコナデ、ナデ                                                   | 10YR8/1灰白色    | 山城Ⅲ-2           |
| 55   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 24.0       | (8.0)      |                                      | 内・外面ヨコナデ、外面部細かいハケ3条～4条/cm、内面粗いヨコナケ4～6条/cm、内面粗いヨコナケ            | 10YR8/2灰白色    | 山城Ⅲ-2           |
| 56   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 23.6       | (7.5)      |                                      | 外面部ヨコナ、タマミガキ、内面粗いハケ                                           | SYR7/4にぶい褐色   | 山城Ⅲ-2           |
| 57   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.8       | (11.8)     |                                      | 外面部波状文、額部直線文、外面ヘラミガキ、内面ヨコナケ                                   | 7SYR8/6淡黃褐色   | 近江Ⅲ-2徘徊         |
| 58   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 24.8       | (7.0)      |                                      | 内・外面ヨコナデ、全体的に摩滅                                               | 7SYR7/4にぶい褐色  | 山城Ⅲ-2           |
| 59   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 24.6       |            |                                      | 外面部附突奈刻目、全体的に摩滅                                               | 10YR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ-1           |
| 60   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 23.6       | (11.6)     |                                      | 額部附突付突窓、口縁端部腹回線、内・外面ナデ、内面粗押出                                  | 7SYR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ-1           |
| 61   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 30.0       | (9.0)      |                                      | 口縁端部刻目、外面部ハケ、内面ナデ                                             | 2SYR8/6褐色     | 山城Ⅲ-1           |
| 62   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 23.8       | (6.0)      |                                      | 口縁端部凹線、内・外面ナデ、外面ミガキ                                           | SYR8/6褐色      | 山城Ⅲ-1           |
| 63   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 26.0       | (14.2)     |                                      | 外面部ヨコナ、全体的に摩滅                                                 | 7SYR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ-2           |
| 64   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 額部 |    | (12.8)     |            |                                      | 額部附突付突窓、外面部ハケ、内面指彌え、板ナデ                                       | 10YR8/2灰白色    | 山城Ⅲ-1           |
| 65   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 20.4       | (11.8)     |                                      | 外面部ナデ、斜ハケ、タマミハケ、刺込み、内面ハケ後ナデ                                   | 2SYR7/8褐色     | 近江Ⅲ-1徘徊         |
| 66   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  | 体部 | (33.4)     |            |                                      | 外面部クル・惟道縫之2号・波状文2号・斜付突窓文、体部斜刻突付窓文・クレ培養絞文無、斜格子文2条、円形浮出、内面ナデ、摩滅 | 2SYR8/1灰白色    | 津川からの個人品        |
| 67   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 20.2       | (3.0)      |                                      | 口縁端部凹線、内・外面ナデ                                                 | 7SYR7/4にぶい褐色  | 山城Ⅲ-1           |
| 68   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 15.0       | (3.6)      |                                      | 外面部孔、刺突列点文・波状文、内・外面ナデ                                         | 10YR8/2淡黃褐色   | 山城Ⅲ-1           |
| 69   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 10.0       | (8.5)      |                                      | 無頸壺、外面部流水文、内面指彌え、ナデ                                           | 7SYR7/8褐色     | 山城Ⅲ-2           |
| 70   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 体部 |    | (4.6)      |            |                                      | 内面斜格子文、外面部デ                                                   | 10YR8/3淡黃褐色   | 山城Ⅲ             |
| 71   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 体部 |    | (4.0)      |            |                                      | 外面部斜格子文、内面デ                                                   | 7SYR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ             |
| 72   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 体部 |    | (8.5)      |            |                                      | 外面部ハラ描波状文、クシ描直線文、内面ナデ                                         | 10YR8/4淡黃褐色   | 山城Ⅲ             |
| 73   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 体部 |    | (10.0)     |            |                                      | 外面部クレ培養文、波状文、斜格子文、内面摩滅が激しい                                    | 10YR8/2灰白色    | 山城Ⅲ             |
| 74   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 11.8       | (8.5)      |                                      | 外面部クシ描直線文5条、内・外面ナデ・ハウリ有                                       | 10YR8/2灰白色    | 山城Ⅲ-2           |
| 75   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 16.8       | (7.5)      |                                      | 外面部口縁端部凹線、下部ハケ、内面ナデ                                           | SYR8/2暗褐色     | 山城Ⅲ-2           |
| 76   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 13.8       | (4.4)      |                                      | 口縁端部波状文、外面部クシ描直線文、内面ハケ後ナデ                                     | 10YR7/3にぶい黄褐色 | 近江Ⅲ-1徘徊         |
| 77   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 11.4       | (5.7)      |                                      | 外面部羽状突刺列点文                                                    | 10YR8/2灰白色    | 山城Ⅲ-2           |
| 78   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 12.0       | (5.5)      |                                      | 外面部ヨコナ、タマミハケ、内面ナデ                                             | 7SYR8/1灰白色    | 山城Ⅲ-2徘徊品        |
| 79   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  | 体部 | (8.3)      |            |                                      | 外面部ハケ後ヘラミガキ、内面ヨコハケ4条/cm                                       | 7SYR8/9褐色     | 阿波Ⅱ-2           |
| 80   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | (7.0)      |            |                                      | 外面部直線文8条、刺突列点文、内面ナデ                                           | 7SYR4/4褐色     | 阿波Ⅱ-2徘徊、阿波産     |
| 81   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 5.5        | 16.0       | 内・外面上ケズり、外面下ヨコナ、内面下ナデ                | 10YR8/1灰白色                                                    | 山城Ⅲ-2         |                 |
| 82   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | (4.9)      | 42         | 外面部ナデ、ヘラケズリ、内面ヘラケズリ                  | 10YR3/3褐色                                                     | 山城Ⅲ-2徘徊       |                 |
| 83   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 18.6       | (8.0)      | 外面部ハケナ、タマミハケ、内面ヨコナ、指彌え               | 2SYR8/1灰白色                                                    | 山城Ⅲ-1-2       |                 |
| 84   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 16.0       | (9.0)      | 外面部ハケナ4条/cm、内面ヨコナ                    | 10YR8/3淡黃褐色                                                   | 山城Ⅲ-3         |                 |
| 85   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 14.6       | (7.5)      | 外面部ハケナ、タマミガキ、内面ヨコハケ                  | 2SYR8/1灰白色                                                    | 山城Ⅲ-2徘徊       |                 |
| 86   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 15.4       | (8.0)      | 外面部ハケナ4条/cm、内面ヨコハケ5条/cm、ナデ           | 2SYR8/1灰白色                                                    | 山城Ⅲ-2         |                 |
| 87   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 12.2       | (4.5)      | 外面部細かいハケ5条/cm、内面ヨコハケ、ナデ              | 2SYR8/1黄灰色                                                    | 山城Ⅲ-1         |                 |
| 88   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (3.0)      | 外面部ナデ、ヨコナデ、内面ヘラミガキ                   | 10YR4/1暗灰色                                                    | 山城Ⅲ-1         |                 |
| 89   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 20.0       | (8.7)      | 口縁端部クシ描直線文、外面部細かいハケ4条/cm、内面ヨコハケ5条/cm | 10YR8/4淡黃褐色                                                   | 近江Ⅲ-1徘徊       |                 |
| 90   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 16.8       | (3.0)      | 外面部ヨコナ、タマミハケ、内面摩滅                    | SYR8/8褐色                                                      | 山城Ⅲ-1         |                 |
| 91   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 18.4       | (6.6)      | 外面部ヨコナ、タマミ目口、内面ヨコハケ、内・外面摩滅           | 7SYR8/9淡黃褐色                                                   | 山城Ⅲ-2         |                 |
| 92   | 5面   | 環溝01 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0       | (3.5)      | 内・外面ナデ                               | 10YR8/3淡黃褐色                                                   | 山城Ⅲ-1         |                 |

| 器物<br>番号 | 器種<br>面 | 出土場所 | 器種   | 基形 | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 径深/<br>径倍<br>(cm) | 施文・形成の特徴                              | 色調             | 備考(時期・産地)     |
|----------|---------|------|------|----|----|------------|------------|-------------------|---------------------------------------|----------------|---------------|
| 93       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 14.8       | (14.3)     |                   | 外面ヘラミガキ、内面摩滅                          | 10YR8/2灰白色     | 山城Ⅲ-1力        |
| 94       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 25.4       | (6.5)      |                   | 外面ナデ、内面ハケ                             | 10YR8/1灰白色     | 山城Ⅲ-1         |
| 95       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 29.0       | (7.3)      |                   | 内・外面ヨコナデ、外面強いヨコナデ、タテハケ、内面ハケ、ヨコハケ、ナデ   | 7.5YR7/4にぶい褐色  | 山城Ⅲ-1併行       |
| 96       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 29.0       | (7.5)      |                   | 外面ヨコナデ、タテハケ、内面ヨコハケ、ナデ、後合痕             | 10YR8/1灰白色     | 山城Ⅲ-1併行       |
| 97       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 28.4       | (5.5)      |                   | 外面条痕文系ハケ、内面ヨコハケ、菫ナデ                   | 10YR7/2にぶい黄橙   | 近江Ⅲ-1併行カ<br>色 |
| 98       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.6       | (4.9)      |                   | 内・外面ヨコナデ、外面タテハケ、摩滅                    | 2.5YR7/6褐色     | 山城Ⅲ-2         |
| 99       | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 14.8       | (9.9)      |                   | 外面ヨコナデ、タテハケ4条/cm、内面ヨコハケ4条/cm          | 10YR8/3浅黄褐色    | 近江Ⅲ-2併行カ<br>色 |
| 100      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.0       | (4.0)      |                   | 剥突列点文、直線文                             | 7.5YR8/2灰褐色    | 近江Ⅲ-2         |
| 101      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 21.2       | (6.5)      |                   | 内・外面ナデ                                | 10YR8/1灰白色     | 山城Ⅲ-2         |
| 102      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.2       | (3.7)      |                   | 口縁強削目、内・外面ナデ、外面ハケ                     | 10YR8/4にぶい黄橙   | 山城Ⅲ-2         |
| 103      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.0       | (3.6)      |                   | 内・外面ヘラケズリ、外面ヘラミガキ                     | 2.5V5.6黄褐色     | 山城Ⅳ-3         |
| 104      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 16.0       | (7.5)      |                   | 口縁強削目、内・外面ハケ、内面ケズリ                    | 2.5YR8/1灰白色    | 山城Ⅲ-1力        |
| 105      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 23.0       | (9.0)      |                   | 内・外面摩滅、外面タテハケ                         | 7.5YR8/4黄褐色    | 山城Ⅲ-1         |
| 106      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 16.2       | (8.5)      |                   | 外面ヨコナギ、ヨコナデ、内・外面摩滅                    | 2.5YR6/6褐色     | 山城Ⅲ-2         |
| 107      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 36.0       | (7.0)      |                   | 口縁強削目、内・外面ヨコハケ、細いタテハケ、内面ナデ            | 7.5YR8/6黄褐色    | 山城Ⅲ-2         |
| 108      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 19.0       | (10.3)     |                   | 口縁強削ハケ状工具による削目、外面粗いタテハケ、ハクジ、内面ヨコハケ    | 5YR8/3深褐色      | 山城Ⅲ-2         |
| 109      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 14.0       | (7.5)      |                   | 外面ヘラミガキ、内面ハケ                          | 10YR8/6黄褐色     | 山城Ⅳ-1         |
| 110      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.6       | (7.0)      |                   | 口縁強削目、内・外面摩滅                          | 10YR8/4浅黄褐色    | 山城Ⅳ-1         |
| 111      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.4       | (3.5)      |                   | 内・外面摩滅、口縁強削ヨコナデ                       | 7.5YR8/4浅黄褐色   | 山城Ⅳ-1         |
| 112      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 29.0       | (7.3)      |                   | 口縁強削目、内・外面摩滅                          | 10YR8/4浅黄褐色    | 山城Ⅳ-1         |
| 113      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 19.4       | (9.2)      |                   | 口縁強削目、外面タテキリ後タテハケ5条/cm、内面粗いハケ         | 10YR8/2灰白色     | 山城Ⅳ-1         |
| 114      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 10.0       | (7.5)      |                   | 内面ナデ、外面ハケ後ナデ                          | 10YR8/2灰白色     | 山城Ⅳ-1併行カ<br>色 |
| 115      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 28.8       | (7.5)      |                   | 口縁強削剝突列点文、外面粗いタテハケ、内面粗いヨコハケ           | 10YR8/6褐色      | 山城Ⅳ-1         |
| 116      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 29.8       | (8.5)      |                   | 内・外面ハケ後ナデ、外面ヨコナデ、内面ナデ                 | 7.5YR7/2にぶい褐色  | 山城Ⅳ-1         |
| 117      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 22.0       | (7.0)      |                   | 口縁強削目、内・外面摩滅                          | 5YR7/6褐色       | 山城Ⅳ-1         |
| 118      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 36.0       | (8.0)      |                   | 口縁強削目、外面ヨコナデ、タテハケ4条/cm、内面ナデヨコハケ       | 10YR8/4浅黄褐色    | 山城Ⅳ-1         |
| 119      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 27.6       | (23.5)     |                   | 口縁強削目、内・外面ヨコナデ、ハケ一部有、タテキリ後タテハケ、内・外面摩滅 | 10YR8/1灰白色     | 山城Ⅳ-1         |
| 120      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 31.6       | (6.0)      |                   | 口縁強削目、内・外面ヨコナデ                        | 7.5YR8/6浅黄褐色   | 山城Ⅳ-1力        |
| 121      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 31.0       | (6.0)      |                   | 外面ヨコナデ、ナデ、内面ハクリ有り                     | 10YR8/1褐灰色     | 山城Ⅳ-1力        |
| 122      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 14.8       | (7.0)      |                   | 口縁強削目、外面タテハケ、ヨコハケ、内面ナデ                | 10YR8/3浅黄褐色    | 山城Ⅳ-1         |
| 123      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.6       | (5.4)      |                   | 外面ヨコナデ、タテキリ後タテハケ、内面ヨコハケ、タテキリ後タテハケ     | 2.5Y7.1灰白色     | 山城Ⅳ-1         |
| 124      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 14.6       | (8.4)      |                   | 外面剝突列点文2帯、外面口縁ヨコハケ、頭部粗いタテハケ           | 7.5YR6/3にぶい褐色  | 近江Ⅳ-1併行カ<br>色 |
| 125      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 20.0       | (6.2)      |                   | 外面剝突文、剝突列点文、内面山形剝突列点文、外面タテハケ、内面ナデ     | 10YR8/3浅黄褐色    | 近江Ⅳ-1         |
| 126      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    |            | (1.5)      |                   | 内面波状文、縦筋削目、外面タテハケ、内面ヨコハケ              | 7.5YR3/2褐色     | 近江Ⅳ-1         |
| 127      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 23.0       | (6.6)      |                   | 口縁強削削目、外面剝突列点文、外端タテハケ、内面ヨコハケ          | 10YR8/2灰白色     | 近江Ⅳ-1併行カ<br>色 |
| 128      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 19.0       | (7.0)      |                   | 内面ナデ、タテハケ、剝突列点文、直線文、内面摩滅              | 10YR8/1灰白色     | 近江Ⅳ-2         |
| 129      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.2       | (6.0)      |                   | 2ヶ所に穿孔、全体的に摩滅                         | 2.5YR4/4にぶい赤褐色 | 山城Ⅳ-2         |
| 130      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 17.6       | (4.1)      |                   | 外面ハケ、ナデ、タテハケ5条/cm、内面ヨコハケ5条/cm、内面ヨコハケ  | 10YR8/2灰黄色     | 山城Ⅳ-2         |
| 131      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 17.8       | (8.5)      |                   | 内・外面ヨコナデ、外面タテハケ7条/cm、内面ナデ             | 7.5YR7/3にぶい褐色  | 山城Ⅳ-2         |
| 132      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 16.4       | (4.1)      |                   | 外面タテハケ、内面ヨコハケ内外面摩滅                    | 10YR8/1褐灰色     | 山城Ⅳ-2         |
| 133      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 22.8       | (5.0)      |                   | 外面粗いタテハケ、内面粗いヨコハケ                     | 10YR8/3にぶい黄褐色  | 近江Ⅳ-2         |
| 134      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 17.6       | (5.0)      |                   | 外面ハケ、指爪痕、剝突列点文、内面ハケ、ナデ                | 7.5YR7/1明褐灰色   | 近江Ⅳ-2         |
| 135      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 17.6       | (9.5)      |                   | 外面剝突文、直線文2段、外端粗いハケ、内面ヨコハケナデ           | 2.5Y6/1褐灰色     | 近江Ⅳ-2         |
| 136      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.2       | (5.0)      |                   | 内面摩滅が激しい、内面粗いヨコハケ                     | 7.5YR8/2褐色     | 近江Ⅳ-2         |
| 137      | 5面      | 謹深01 | 弥生土器 | 甕  |    | 11.0       | (5.6)      |                   | 口縁強削削目、頭部剝突列点文、直線文、外面ナメハケ、ナデ、内面粗いヨコハケ | 10YR8/4浅黄褐色    | 近江Ⅳ-2併行       |

| 遺物番号 | 遺構番号 | 出土遺構 | 器種   | 器形 | 部位 | 口径(D) | 器高(H)  | 底径/柱径(G) | 施文・形成の特徴                                       | 色調           | 備考(時期・度合)     |
|------|------|------|------|----|----|-------|--------|----------|------------------------------------------------|--------------|---------------|
| 138  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 15.0  | (3.0)  |          | 外面部コナデ、タテハケ後ナデ、内面部コバケ4条/cm                     | 7SYR3/3にぶい褐色 | 近江Ⅱ-2伴行       |
| 139  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 16.4  | (3.7)  |          | 外面部直線文、口縁端部削目、内・外面ハケ                           | 10YR3/4暗褐色   | 近江Ⅱ-3、飛鳥丘の可能性 |
| 140  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.4  | (4.3)  |          | 外面部粗いタテハケ3条/cm、ナデ、内面部コナデ、ヨコハケ                  | 7SYR3/3にぶい褐色 | 近江Ⅱ-2伴行       |
| 141  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    |       | (2.5)  |          | 内・外面部粗いタテハケ4条/cm                               | 2SYB/1灰白色    | 近江Ⅱ-2伴行       |
| 142  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 17.8  | (6.4)  |          | 口縁端部削突文、外面部剥離突列点文・壺底直線文、内・外面ハケ、ハラケ             | 2SYB/1黄灰色    | 近江Ⅱ-3         |
| 143  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.4  | (11.4) |          | 外面部突列点文4列・波状文、内面部壺形削突列点文・壺底直線文、外面部ハケ、内面部ナデ、ハラケ | 7SYR3/6褐色    | 近江Ⅱ-3         |
| 144  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 21.0  | (13.9) |          | 外面部沈線文2条、外面部細いタテハケ、内面部ナデ、稚脚                    | 7SYR3/1褐灰色   | 近江Ⅱ-3         |
| 145  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 25.6  | (8.8)  |          | 外面部削突文・波状文、内面部壺形削突文列点2                         | 7SYR3/4黒褐色   | 近江Ⅱ-3伴行       |
| 146  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 24.4  | (4.3)  |          | 内面部削、外面部粗いハケ                                   | 2SYB/1灰白色    | 近江Ⅱ-3         |
| 147  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 21.6  | (4.5)  |          | 口縁端部削目、内・外面ハケ                                  | 7SYR3/4黒褐色   | 近江Ⅱ-3         |
| 148  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 26.0  | (4.0)  |          | 口縁端部直線文、外面部ハケ、内面部ナデ                            | 7SYR3/1灰白色   | 近江Ⅱ-3         |
| 149  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 25.6  | (5.0)  |          | 外面部粗いタテハケ2条/cm、内面部コナデ                          | 2SYB/1灰白色    | 近江Ⅱ-3         |
| 150  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 36.0  | (3.8)  |          | 口縁端部削目、内面部粗いハケ、ナデ、内面部摩滅が激しい                    | 7SYR3/6黒褐色   | 近江Ⅱ-3伴行       |
| 151  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 体部 |       | (6.0)  |          | 外面部クレ指波状文、内面部ナデ                                | 10YR3/3透黃褐色  | 山城Ⅲ           |
| 152  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 鉢  |    | 18.2  | (6.0)  |          | 外面部ハケ、内面部ヨコハケ、板ナデ                              | 10YR7/1灰白色   | 近江Ⅱ-2伴行       |
| 153  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 鉢  |    | 12.4  | (6.9)  |          | 外面部ヨコハケ、粗いタテハケ4条/cm、細いタテハケ8条/cm、内面部ナデ          | 10YR7/1灰白色   | 近江Ⅱ-2伴行       |
| 154  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 鉢  |    | 10.8  | 8.5    | 42       | 底部円板充填、内・外面ナデ、外面部ハケズリ、内面部うろこガキ                 | 5B6/1灰黄色     | 近江Ⅱ-2         |
| 155  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 鉢  | 底部 |       | (5.4)  | 13.2     | 透かし丸、次輪、内・外面部ナデ                                | 5YR6/6褐色     | 山城Ⅲ-2         |
| 156  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 27.0  | (3.6)  |          | 外面部ハケズリ、ヨコナデ、内面部ハミガキ、ナデ                        | 7SYR3/4にぶい褐色 | 山城Ⅲ-2         |
| 157  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 22.0  | (2.7)  |          | 内・外面部コナデ、ナデ、内面部ヨコハケ、ハラケズリ                      | 7SYR3/1灰白色   | 山城Ⅲ-1         |
| 158  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 15.4  | (5.5)  |          | 外面部ヨコハケ、タテハケ4条/cm、内面部摩滅が激しい                    | 7SYR3/6黒褐色   | 山城Ⅲ-1         |
| 159  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 31.0  | (7.4)  |          | 口縁端部直線文、口縁端部ヨコハケ、内面部ハミガキ、ナデ                    | 5YR7/4にぶい褐色  | 猪俣Ⅱ-4伴行       |
| 160  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 36.0  | (3.5)  |          | 外面部凹線文、全体的に摩滅が激しい                              | 7SYR3/2灰白色   | 山城Ⅲ-2         |
| 161  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 22.0  | (6.2)  |          | 内・外面部粗いハケ、外面部直線文                               | 7SYR3/2灰白色   | 山城Ⅲ-2         |
| 162  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 29.0  | (8.2)  |          | 外面部凹線文、摩滅が激しい、内面部ハミガキ                          | 7SYR3/3黒褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 163  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 16.6  | (5.4)  |          | 外面部凹線文、内面部ナデ                                   | 7SYR3/2黒褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 164  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (6.0)  | 13.6     | 脚部削突目、外面部摩滅、内面部コナデ                             | 10YR3/3透黃褐色  | 山城Ⅲ-2         |
| 165  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (3.6)  | 7.8      | 外面部ナデ、ヨコナデ、内面部ゼリ                               | 5YR7/6褐色     | 山城Ⅲ-2         |
| 166  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (4.5)  | 13.0     | 外面部凹線文、刻目、内・外面部ハミガキ、内面部ナデ、摩滅が激しい               | 10YR3/6黒褐色   | 山城Ⅲ-1伴行       |
| 167  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (8.5)  | 12.8     | 方形凹孔4ヶ所、粗削目、粗削目直列点文、内・外面部コナデ、内面部ハミガキ、ナデ        | 5YR7/6褐色     | 山城Ⅲ-1         |
| 168  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 17.2  | (5.0)  |          | 外面部ヨコハキ、内面部ハケズリ                                | 7SYR3/2灰褐色   | 山城Ⅲ-1         |
| 169  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    |       | (10.5) | 15.2     | 外面部タテハケ、下部ヨコナデ、内面部摩滅、シリリ目                      | 2SYB/1灰白色    | 山城Ⅲ-1         |
| 170  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    | 5.7   | (11.5) |          | 内・外面部ヨコハキ、外面部摩滅、内面部ナデ、シリリ目                     | 7SYR3/4黒褐色   | 山城Ⅲ-1         |
| 171  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    |       | (1.4)  |          | 外面部削突目、内面部ナデ                                   | 10YR3/6黒褐色   | 山城Ⅲ           |
| 172  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 |    |       | (5.3)  | 13.0     | 内・外面部摩滅が激しい                                    | 7SYR3/1灰白色   | 山城Ⅲ-1~2       |
| 173  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (7.6)  |          | 外面部ハラミガキ、内面部ハケ4条/cm、内面部シボリ                     | 10YR3/4黒褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 174  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (12.0) |          | 透かし丸、外面部摩滅、内面部ハラミガキ、紋引模                        | 7SYR3/2灰褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 175  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 高环 | 面部 |       | (12.1) |          | 内・外面部ナデ、内面部下部板ナデ                               | 7SYR3/4黒褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 176  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 器台 | 面部 |       | (10.0) |          | 内・外面部ナデ                                        | 10YR3/2灰白色   | 山城Ⅲ-1         |
| 177  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 16.4  | (3.1)  |          | 外面部ヨコハキ、内面部摩滅                                  | 2SYB/1灰白色    | 山城Ⅲ-1         |
| 178  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 24.6  | (4.0)  |          | 穿孔目、口縁端部削突列点文・直線文、内・外面部コナデ、外面部ハラミガキ、内面部ハケ、ナデ   | 7SYR3/4にぶい褐色 | 猪俣Ⅱ-4伴行       |
| 179  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  |    | 18.8  | (2.1)  |          | 透かし丸、外面部ナデ、内面部ハケズリ                             | 7SYR3/2灰白色   | 山城Ⅲ-1         |
| 180  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 台形 |    | 21.6  | (14.0) |          | 外面部ヨコハキ、ハケ後ナデ、口縁端部ナデ、ヨコナデ、内面部ナデ、ハラケ            | 10YR3/3にぶい褐色 | 近江Ⅱ-3伴行       |
| 181  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (6.0)  | 6.8      | 外面部ハラミガキ、ナデ、内面部押え                              | 5YR7/4にぶい褐色  | 山城Ⅲ-3         |
| 182  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (4.7)  | 8.4      | 外面部ヨコハキ、内面部ナデ                                  | 10YR3/1灰白色   | 山城Ⅲ-1~2       |
| 183  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (14.5) | 9.0      | 外面部ハラミガキ、内・外面部摩滅                               | 7SYR3/4黒褐色   | 山城Ⅲ-1~2       |
| 184  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (5.7)  | 12       | 外面部ヨコハケ5条/cm、内面部摩滅                             | 10YR3/1灰白色   | 近江Ⅲ-1伴行       |
| 185  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (10.5) | 8.4      | 外面部ヨコハキ、内面部ナデ                                  | 7SYR3/6黒褐色   | 山城Ⅲ-2         |
| 186  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (7.4)  | 7.8      | 外面部ハケ、内面部ハラ                                    | 10YR3/6灰白色   | 山城Ⅲ-1伴行       |
| 187  | 5面   | 埋没01 | 弥生土器 | 甕  | 底部 |       | (7.7)  | 3.7      | 外面部カゼリ、板ナデ、内面部ユビナデアゲ                           | 7SYR3/2灰褐色   | 近江Ⅱ-2         |

| 遺物<br>番号 | 遺構<br>番号 | 出土遺構 | 器種 | 形態 | 部位     | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm)                                        | 底径/<br>台径<br>(cm) | 施文・形成の特徴          | 色調 | 備考(時期・地度) |
|----------|----------|------|----|----|--------|------------|---------------------------------------------------|-------------------|-------------------|----|-----------|
| 188 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (5.8)  | 7.0        | 外表面底部内板充填、内・外面ナデ、内面指押丸                            | SYR8-3淡褐色         | 山城IV-1併行          |    |           |
| 189 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (5.5)  | 5.8        | 外面ヘタマギ、内面ナデ、指押丸                                   | SYR8-2灰白色         | 山城IV-2            |    |           |
| 190 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (5.4)  | 6.6        | 外表面ヘタマギ、下部ナデ、内面板ナデ、指押丸                            | 7.SYR8-2灰褐色       | 河内IV-3            |    |           |
| 191 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.0)  | 7.6        | 外表面底部ナハク、内面ナデ                                     | 10YR8-3淡黄褐色       | 山城IV併行            |    |           |
| 192 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (4.5)  | 12.2       | 外面ナデ、内面ナデアゲ                                       | 10YR8-2灰白色        | 山城IV併行            |    |           |
| 193 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.0)  | 8.6        | 外面ナデ、底部ナズリ、内面指押丸                                  | 2SYR8-2灰白色        | 山城IV併行            |    |           |
| 194 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (7.8)  | 8.0        | 外表面ヘタマギ、内面・底部ナデ                                   | 10YR8-3淡黄褐色       | 山城IV-2併行          |    |           |
| 195 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (8.4)  | 7.6        | 全体的に滅                                             | 10YR8-4淡黄褐色       | 山城IV併行            |    |           |
| 196 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (8.5)  | 8.0        | 外表面タマギ、底部ナハク、内面板ナデ、底部指押丸                          | 10R8-6赤褐色         | 山城IV-2併行          |    |           |
| 197 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (9.8)  | 6.4        | 外表面タマギ、内面ナデアゲ                                     | NJ-暗灰色            | 山城IV-2            |    |           |
| 198 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.8)  | 10.8       | 外表面薄いナハク、底部ナデ。内面ナクリ有り                             | 7.SYR8-1灰白色       | 山城IV併行            |    |           |
| 199 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (4.8)  | 6.6        | 外表面ナハク、ヘタナデ、内面ナデ                                  | SYR8-1褐色          | 山城IV併行            |    |           |
| 200 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.0)  | 8.4        | 内・外表面底部ナデ、外表面ナハク                                  | 7.SYR8-1灰白色       | 山城IV併行            |    |           |
| 201 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (6.9)  | 7.2        | 外面ナデアゲ                                            | 2SYR8-1灰白色        | 山城III-2           |    |           |
| 202 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (5.4)  | 4.2        | 外表面ナハク、底部ナハク及びナゼリ、内面ヘタマギ                          | 10R8-3赤褐色         | 山城IV              |    |           |
| 203 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.6)  | 5.0        | 外表面ヘタマギ、内面ナデ                                      | 10YR8-2/3に似る黄褐色   | 近江IV-1            |    |           |
| 204 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (3.7)  | 7.2        | 外表面・底部ナハク、内面ヘタマギ                                  | 10YR8-2灰白色        | 山城IV-1            |    |           |
| 205 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (8.4)  | 6.8        | 外表面ナハク、内面ナデ                                       | SYR8-6褐色          | 山城IV-2            |    |           |
| 206 5面   | 埋深01     | 弥生土器 | 壺  | 底部 | (5.0)  | 7.0        | 内・外表面ナハク、外表面ナデ、内面指押丸                              | SYR8-4/5に似る褐色     | 山城IV-2併行          |    |           |
| 207 4面   | 溝03      | 弥生土器 | 壺  |    | (22.5) | 4.8        | 外面上部一部ナハク、内面ヘタマギ)、内・外面滅                           | 2SYR8-6褐色         | 山城V-5併行           |    |           |
| 208 4面   | 溝03      | 弥生土器 | 壺  |    | 15.0   | 20.8       | 5.0<br>外表面縁部斜削目、体部突厥判点式、外表面ヨコハケ、強引ヨコナデ、内面底部       | SYR8-6褐色          | 山城V-5併行           |    |           |
| 209 4面   | 溝03      | 弥生土器 | 壺  |    | 29.4   | (26.6)     | 口縁柱管、円形浮文、円形連続文4段、直線文5段。<br>内・外表面ヘタマギ             | SYR8-4淡褐色         | 山城V-5併行           |    |           |
| 210 4面   | 自然流路01下層 | 縄文土器 | 深鉢 |    | (2.7)  |            | 内・外表面ナデ、外表面都帶文                                    | 10YR8-2灰白色        | 晚期                |    |           |
| 211 4面   | 自然流路01下層 | 縄文土器 | 深鉢 |    | (3.6)  |            | 外表面粘付目斑点、内・外面滅感が激しい                               | 10YR8-2に似る黄褐色     | 晚期                |    |           |
| 212 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 34.4   | (7.8)      | 口縁外面刻文、外表面粗いナハク、内面ヨコナデ                            | 10YR8-1灰白色        | 近江III-2併行         |    |           |
| 213 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.6   | (5.3)      | 外表面ヨコナデ、タマハケ、内面指押丸、ナハク                            | 7.SYR8-6褐色        | 山城V-3             |    |           |
| 214 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 25.8   | (4.0)      | 内・外表面ヘタマギ、ナデ                                      | 7.SYR8-2灰褐色       | 河内V-0、生駒西<br>尾座   |    |           |
| 215 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 24.5   | (8.0)      | 口縁柱管外表面竹管文、沈伏文、内面波状文、外表面ナハク、内面ヨコナデ、ヨコハク           | 10YR8-2灰白色        | 山城V-1             |    |           |
| 216 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 20.0   | (5.6)      | 内・外表面ヨコナデ                                         | SYR8-6褐色          | 山城III-1           |    |           |
| 217 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 11.8   | 24.2       | 口縁外表面波文、内・外表面ハケ、口縁端部ヨコナデ、内面ナデ、推台底                 | 7.SYR8-3淡黄褐色      | 山城V-2             |    |           |
| 218 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 14.0   | (5.5)      | 内・外表面ナデ、外面白コナデ                                    | 2SYR8-1灰白色        | 山城III-1併行         |    |           |
| 219 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 11.2   | (7.2)      | 内・外面滅多く、外表面ヨコナデ、内面接合痕                             | 10R8-6赤褐色         | 山城V-3             |    |           |
| 220 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 10.0   | (18.0)     | 全体的に滅が激しい                                         | 2SYR8-1灰白色        | 近江V-3併行           |    |           |
| 221 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 15.2   | (4.6)      | 外表面ヨコナデ、内面底部                                      | 10YR8-2灰白色        | 尾張IV-3併行          |    |           |
| 222 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  | 体部 | (9.0)  |            | 外表面シラバ直線文1帯、弧状クサ描文3帯、内面ナデ、ナハク                     | 10YR8-2に似る黄褐色     | 近江V-1、東海系<br>尾座   |    |           |
| 223 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 43.0   | (5.0)      | 口縁柱管凹縁文・円形浮文棒状浮文、口縁内面斜<br>突厥刻目、外表面ナハク、タマハケ、内面ヘタマギ | 2SYR8-6褐色         | パレススタイル、尾<br>張V-2 |    |           |
| 224 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 38.0   | (5.3)      | 外表面口縁柱管刻目、外表面ナハク、内面ヨコハク                           | 10YR8-2灰白色        | 山城III-2           |    |           |
| 225 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | (3.0)  |            | 全面質化物付着                                           | 10R8-4/5暗灰色       | 河内V-0、生駒西<br>尾座   |    |           |
| 226 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | (1.9)  |            | 内・外面ナデ                                            | 7.SYR8-2墨褐色       | 河内V-0、生駒西<br>尾座   |    |           |
| 227 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 29.0   | (4.7)      | 口縁柱管凹縁文、内・外面ナデ                                    | 2SYR8-2暗赤褐色       | 山城IV-2、生駒西<br>尾座  |    |           |
| 228 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | (2.5)  |            | 内・外面ナデ                                            | 7.SYR8-2墨褐色       | 河内V-0、生駒西<br>尾座   |    |           |
| 229 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 21.0   | (2.2)      | 内・外面ナデ                                            | SYR8-2灰褐色         | 河内V-0、生駒西<br>尾座   |    |           |
| 230 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | (2.8)  | 5.6        | 外表面タマハク、ナデ、内面ヘタマギ                                 | SYR8-1灰白色         | 山城IV-2            |    |           |
| 231 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 14.8   | (4.6)      | 口縁柱管刻目、外表面ナハクもしくはタマハク、指押丸、内・外表面<br>コナデ、ナハク        | SYR8-3に似る褐色       | 山城IV-2            |    |           |
| 232 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.4   | (6.8)      | 内・外面滅感が激しい                                        | SYR8-4淡褐色         | 近江IV-2併行          |    |           |
| 233 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 13.0   | (7.5)      | 外表面柱・体部突厥刻点文・沈線文、頭部ハケ、内面ヨコハク                      | 7.SYR8-4淡黄褐色      | 近江IV-2併行          |    |           |
| 234 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 17.6   | (5.5)      | 外表面柱・体部突厥刻点文、内・外面滅                                | SYR8-4淡褐色         | 近江V-2             |    |           |
| 235 4面   | 自然流路01下層 | 弥生土器 | 壺  |    | 16.6   | (4.0)      | 内・外表面ヨコナデ、外表面ナハク、内面ナデ、指押丸                         | 7.SYR8-3に似る褐色     | 山城V-3             |    |           |

| 番号  | 遺構<br>型 | 出土遺構       | 種類   | 形態  | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径/<br>台径<br>(cm)                    | 施文・形成の特徴                               | 色調             | 備考(時期・度合)          |
|-----|---------|------------|------|-----|----|------------|------------|--------------------------------------|----------------------------------------|----------------|--------------------|
| 236 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   |    | 14.4       | (3.0)      |                                      | 口縁部斜列点文、頸部次拵文、内・外面ヨコナデ                 | 7SYR/4C-ぶい褐色   | 山城V-3              |
| 237 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   |    |            | (2.8)      |                                      | 東海系S字彌、外面直線文。下部ハケ、内面ナデ                 | 10YRB/2灰白色     | 尾張V-3、東海系          |
| 238 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   |    | 16.2       | (1.6)      |                                      | 外面側部直線文とテテ直線文2条。口縁部ヨコナデ。               | 10YRB/1灰白色     | 尾張V-3、東海系<br>利根    |
| 239 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 体部 | (6.1)      |            |                                      | 外面斜列点文、虎化物付着                           | 2SYT/2灰黄色      | 備前V-2、吉備系          |
| 240 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 体部 | (3.5)      |            |                                      | 竹管斜列点文・竹管押引文・竹管タハケ、外面部ハケ、ナデ、内面部ハケ後づ    | 10YRB/1灰白色     | 山城群併行力             |
| 241 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 体部 | (4.6)      |            |                                      | 内・外面ハケ、外面クシ直線文、斜列点文                    | SYR/8褐色        | 山城群併行力             |
| 242 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 体部 | (3.0)      |            |                                      | 外面クシ直線文、列点文、内面部                        | 10YRB/4灰黄色     | 山城群併行力             |
| 243 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 鉢   |    | 14.6       | (7.0)      |                                      | 外面斜列点文・草綠文、外面部ナデ、外面ヨコナデ                | 7SYR/4灰黃綠色     | 山城V-3              |
| 244 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 鉢   |    | 15.8       | (5.6)      |                                      | 外面側部・体部斜列点文、頭部直線文、外面部ハケ、内面部ナデ、ヨコナデ     | SYR/7/2明褐色     | 河内V-3か             |
| 245 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 鉢   |    | 14.0       | (4.3)      |                                      | 外面ヨコナデ、ラミガキ、内面部ヨコハケ                    | SYR/4C-ぶい褐色    | 山城V-2              |
| 246 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 手括  | 体部 | (10.0)     |            |                                      | 体部粘付突堤上部目                              | 7SYR/3C-ぶい褐色   | 山城V-3              |
| 247 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 手括  | 体部 | (3.2)      |            |                                      | 外面粘付付突堤、ナデ後摩滅、内面部ヨコハケ                  | SYT/1灰白色       | 山城V-1              |
| 248 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 手括  | 体部 | (4.7)      |            |                                      | 外面部粘付突堤(削目)、内面部ナデ                      | 10YRB/1灰白色     | 山城V-3              |
| 249 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  |    | 24.8       | (3.0)      |                                      | 口縁部頭部凹、外面部ハラミガキ、内面部摩滅                  | SYR/4C-ぶい褐色    | 下川津B式圓入品<br>、阿波V-2 |
| 250 | 4面      | 自然流路01下層   | 土器器  | 高环  |    | 28.0       | (4.7)      |                                      | 口縁部内外・内面部ヨコナデ、外面部ハラミカ、内面部ハケ            | SYR/8褐色        | 布留                 |
| 251 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  |    | 23.0       | (3.5)      |                                      | 口縁外腹沈挫、内・外面部ラミガキ、外面部ハケ・ナデ、口縁部ヨコナデ      | 7SYR/3C-ぶい褐色   | 山城V-1併行<br>尾張V-2   |
| 252 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  |    | 21.0       | (4.3)      |                                      | 外面ハラミガキ、内面部摩滅                          | 7SYR/4灰黃綠色     | 山城V-3              |
| 253 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  | 脚部 | (7.4)      |            |                                      | 透かし丸3個・外腹圓錐、内・外面部ナデ、内面部ハラケズ            | 10YRB/2灰白色     | 山城V-2              |
| 254 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (4.5)      | 18.4       | 内・外面部ハラミガキ、摩滅                        | SYR/4C-ぶい褐色                            | 山城V-3          |                    |
| 255 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (3.0)      | 15.0       | 内・外面部ヨコナデ、外面部ハラミガキ、内面部ナデ、ヨコハケ        | 2SYB/1灰白色                              | 山城V-3          |                    |
| 256 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (9.8)      | 12.4       | 外面部ハラミガキ、ヨコナデ、内面部ハラケズリ、しまり           | 7SYR/3灰黃綠色                             | 山城V-2          |                    |
| 257 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (1.5)      | 11.1       | 透孔、外面部ハラミガキ、ヨコナデ、内面部ナデ               | 7SYR/3褐色                               | 山城V-1、生駒西<br>麓 |                    |
| 258 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (2.6)      | 17.4       | 外面部ヨコナデ文、内・外面部ハラミガキ                  | 2SYR/6褐色                               | 山城V-3          |                    |
| 259 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (3.0)      | 14.2       | 透かし丸、外面部ハラミガキ、ヨコナデ、内面部ハケ             | SYR/6褐色                                | 山城V-1併行        |                    |
| 260 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 台付鉢 | 脚部 | 6.5        | 11         | 透かし・ヨコ推定8個、外面部ヨコナデ、ハラミガキ、内面部ハラケズリ    | 10YRB/1灰白色                             | 山城V-1          |                    |
| 261 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (5.7)      | 10.0       | 外面部ヨハケ後ハラミガキ、内面部ヨコハケ、シリリ目            | 7SYR/2灰白色                              | 山城V-2          |                    |
| 262 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (11.7)     | 20.0       | 内・外面部摩滅が激しい                          | 2SYR/6褐色                               | 山城V-3          |                    |
| 263 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 高环  | 脚部 | (4.9)      | 9.0        | 外面部ヨハケないハケ、内・外面部ナデ                   | 10YRB/3C-ぶい褐色                          | 山城V-1          |                    |
| 264 | 4面      | 自然流路01下層   | 土器器  | 高环  | 脚部 | (9.3)      |            | 外面部ナデ・内面部ケズリ                         | 10YRB/2灰黃綠色                            | 布留Ⅲ式併行力        |                    |
| 265 | 4面      | 自然流路01下層   | 土器器  | 高环  |    | (16.3)     | 14.8       | 脚部内外摩滅、脚部内面部ハラケズリ、坏部外面部摩滅、脚部内面部ハラミガキ | 2SYR/3灰褐色                              | 庄内洋式力          |                    |
| 266 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  |    | 35.0       | (2.0)      |                                      | 口縁部斜列点文、内・外面部摩滅                        | 10YRB/3深褐色     | 山城V-3              |
| 267 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  |    | 20         | (2.0)      |                                      | 口縁部外面部円形浮文・凹縁文、内・外面部摩滅                 | SYR/7/6褐色      | 山城V-3              |
| 268 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  |    | 19.8       | (2.0)      |                                      | 口縁部外面部円形浮文・凹縁文、内・外面部ハラミガキ              | SYR/4淡褐色       | 山城V-3              |
| 269 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  |    | 20.8       | (4.0)      |                                      | 口縁部外面部ヨコナデ文、内・外面部ハラミガキ、外面部ナデ           | SYR/6褐色        | 山城V-4              |
| 270 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  | 脚部 | (4.4)      | 17.4       | 外面部ヨハケ・透かし丸個々内・外面部ハラミガキ、外面部ヨコナデ      | SYR/3淡褐色                               | 河内V-0併行力       |                    |
| 271 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 器台  | 脚部 | (14.2)     |            | 透かし丸2個・3時3分時計外面部ハラミガキ、内面部ヨコハケ        | 2SYB/2灰白色                              | 山城V-1併行力       |                    |
| 272 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 底部 | (2.8)      | 4.0        | 外面部ナデ、底部円板充填、内面部ハケ                   | 7SYR/2灰黃綠色                             | 山城V-1併行力       |                    |
| 273 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 底部 | (4.5)      | 3.6        | 内面部摩滅、底部円板充填、内面部ナデ                   | 10R/6赤褐色                               | 山城V-5併行力       |                    |
| 274 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 底部 | (3.0)      | 2.6        | 内・外面部摩滅                              | 10YR7/1灰白色                             | 山城V-1          |                    |
| 275 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 底部 | (4.4)      | 3.2        | 底部円板充填、外面部ハケ目、内面部ナデ・熟化・虎化<br>底部充填    | 10R/3赤褐色                               | 山城V-1          |                    |
| 276 | 4面      | 自然流路01下層   | 弥生土器 | 甕   | 底部 | (7.7)      | 3.6        | 外面部ハケ・ナデ・タキキ・内・外面部ハクリ                | SYR/6褐色                                | 山城V-2か         |                    |
| 277 | 5面      | 土器相思1      | 弥生土器 | 甕   |    | 20.0       | 39.0       |                                      | 内・外面部ヨコナデ、外面部ハラミガキ、底部摩滅、内面部ヨコハケ・ナデ・指押文 | 2SYR/6褐色       | 山城V-1              |
| 278 | 4面      | 土坑01       | 弥生土器 | 甕   |    | 13.0       | 22.4       |                                      | 外面部ヨコナデ、外面部ヨコナデ・内・外面部摩滅                | 2SYB/1灰白色      | 山城V-5              |
| 279 | 4面      | 土坑01       | 弥生土器 | 甕   |    | 13.0       | (3.5)      |                                      | 内・外面部摩滅が激しい、内面部ナデ                      | 7SYR/2灰白色      | 山城V-5              |
| 280 | 4面      | 土坑01       | 弥生土器 | 甕   |    | 14.4       | (5.4)      |                                      | 全体的に摩滅が激しい                             | 7SYR/4灰黃綠色     | 山城V-5              |
| 281 | 5面      | 4-1-2層・包含層 | 弥生土器 | 甕   |    | 28.2       | (4.0)      |                                      | 口縁部斜列点文、外面部ヨコハケ・内面部ヨコハケ                | 10YRB/2灰白色     | 近江V-3              |

| 番号  | 遺構<br>面 | 出土遺構       | 器種   | 器形  | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径/<br>台径<br>(cm) | 描文・形成の特徴                                  | 色調            | 備考時期/産地 |
|-----|---------|------------|------|-----|----|------------|------------|-------------------|-------------------------------------------|---------------|---------|
| 282 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 弥生土器 | 甕   |    | 18.0       | (5.0)      |                   | 口縁強部斜尖例点文、外面タキ、内面周減・下部押<br>え丸             | 7SYRB/灰白色     | 山城V-3併行 |
| 283 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 土師器  | 甕   |    | 28.4       | (5.8)      |                   | 外面ヨコナダ、テナハケ4条/cm、内面ナナ、ヨコハケ4条/cm           | 10YRB/2浅黄褐色   | 吉墳後期    |
| 284 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 土師器  | 甕   |    |            | (4.2)      |                   | 内・外面ヨコナダ                                  | 7SYRB/6浅黄褐色   | 布留II式   |
| 285 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 弥生土器 | 高环  |    | 17.2       | (2.8)      |                   | 外面周減が美しい、内面ヘラガキ                           | SYRB/4深褐色     | 山城III-2 |
| 286 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 土師器  | 高环  | 脚部 |            | (7.5)      |                   | 外面ヘラミミナ・ナナ、内面シボ                           | 2SYRB/6褐色     | 布留II式   |
| 287 | 5面      | 4-1-2層/包含層 | 弥生土器 | 鉢   |    |            | (5.8)      |                   | 外面突文等、内・外面周減                              | 2SYRB/1灰白色    | 山城III-1 |
| 288 | 3面      | 集石道模01     | 土師器  | 甕   |    | 12.0       | 3.5        |                   | 外面ナナ、内面口縁部ヨコナダ、ナナ後へラ状工具によ SYRB/6褐色<br>り暗文 |               | 飛鳥II    |
| 289 | 3面      | 集石道模01     | 土師器  | 甕   |    | 12.0       | 3.2        |                   | 外面ナナ、内面口縁部3ヨコナダ、ナナ後暗文                     | SYRB/6明赤褐色    | 飛鳥II    |
| 290 | 3面      | 集石道模01     | 土師器  | 甕   |    | 12.4       | (3.0)      |                   | 内面暗文、外面ナナ、上部ヨコナダ                          | 2SYRB/2灰赤色    | 飛鳥II    |
| 291 | 3面      | 集石道模01     | 土師器  | 甕   |    | 16.4       | 4.3        |                   | 外面ナナ、内面ヨコナダ、ナナ後暗文                         | SYRB/6赤褐色     | 飛鳥II    |
| 292 | 3面      | 集石道模01     | 土師器  | 甕   |    | 20.8       | (4.7)      |                   | 外面ヨコナダ、指揮丸、内面ハケ                           | SYRB/3深褐色     | 平城II    |
| 293 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕G蓋 |    | 9.0        | 3.2        |                   | 内・外面回転ナナ、上部回転ヘラケズリ                        | NS/灰色         | 飛鳥II    |
| 294 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕G蓋 |    | 10.0       | (2.7)      |                   | 内・外面回転ナナ、上新回転ヘラケズリ                        | NG/灰色         | 飛鳥II    |
| 295 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕G蓋 |    | 10.8       | (2.4)      |                   | 外面回転ナナ、ヘラケズリ、内面回転ナナ                       | NG/灰白色        | 飛鳥II    |
| 296 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H蓋 |    | 12.2       | (3.9)      |                   | 外面ヘラケズリナナ、内面回転ナナ                          | N7/灰白色        | 飛鳥II    |
| 297 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H蓋 |    | 10.4       | 3.4        |                   | 内・外面回転ナナ、外面回転ヘラケズリ                        | N7/灰白色        | 飛鳥II    |
| 298 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H蓋 |    | 10.8       | 3.1        |                   | 外面頂部回転ヘラケズリ、外面・口縁部・内面回転ナナ                 | N7/灰白色        | 飛鳥II    |
| 299 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H蓋 |    | 11.3       | (2.8)      |                   |                                           | SPB7/1明青灰色    | 飛鳥II    |
| 300 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕G蓋 |    | 12.2       | (2.0)      |                   | 内・外面回転ナナ、頂部回転ヘラケズリ                        | NG/灰白色        | 平城II    |
| 301 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕G蓋 |    | 12.2       | (2.0)      |                   | 内・外面回転ナナ、頂部回転ヘラケズリ                        | SYS/1灰白色      | 平城III   |
| 302 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H  |    | 11.2       | (5.1)      |                   | 内・外面回転ナナ、外面回転ヘラケズリ                        | NG/灰白色        | TK10    |
| 303 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H  |    | 9.8        | 3.3        | 42                | 内・外面回転ナナ、外面回転ヘラケズリ                        | 10YRB/3浅黄褐色   | 飛鳥I     |
| 304 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕H  |    | 13.8       | (2.3)      |                   | 外面ヘラケズリナナ、内面回転ナナ                          | NG/灰白色        | 飛鳥II    |
| 305 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕A  |    | 10.0       | 4.2        | 60                | 内・外面回転ナナ、外面底部ヘラ切り                         | NG/灰色         | 飛鳥V     |
| 306 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕A  |    | 10.6       | 2.9        |                   | 内・外面回転ナナ、底部外縁ヘラケズリ                        | SPB6/1青灰色     | 平城II    |
| 307 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕A  |    | 13.6       | (3.8)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/灰白色        | 平城III   |
| 308 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕A  |    | 12.3       | (3.1)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/灰白色        | 平城II    |
| 309 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕A  |    | 15.4       | (5.0)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城II    |
| 310 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (2.2)      | (8.0)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/0灰色        | 平城I     |
| 311 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.8)      | 9.8        |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城II    |
| 312 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.2)      | 9.2        |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/灰白色        | 平城II    |
| 313 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.5)      | 13.0       |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城II    |
| 314 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | 12.6       | 4.3        | 86                | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城V     |
| 315 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.4)      | 13.0       |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/暗灰色        | 平城V     |
| 316 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.1)      | 11.4       |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城V     |
| 317 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 甕B  | 底部 | (1.1)      | 8.8        |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/灰白色        | 平城V     |
| 318 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 鉢   |    | 23.6       | 7.0        | 16.4              | 内・外面回転ナナ、外面ヘラケズリ、底部ヘラコシ                   | NG/灰色         | 飛鳥II    |
| 319 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 鉢   |    | 8.0        | (4.7)      |                   | 内・外面回転ナナ、内面ナナ                             | N7/灰白色        | 平城II    |
| 320 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 鉢   |    |            |            |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城III   |
| 321 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 鉢   | 脚部 | (3.5)      | 8.0        |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城III   |
| 322 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 高环  | 脚部 | (3.2)      | 7.2        |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 飛鳥V     |
| 323 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 高环  | 体部 | (7.3)      |            |                   | 内・外面回転ナナ、内面ナナ                             | NG/灰白色        | 飛鳥I     |
| 324 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 高环  | 脚部 | 20.8       | (5.0)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | NG/灰白色        | 平城III   |
| 325 | 3面      | 集石道模01     | 須恵器  | 高环  | 脚部 | 22.0       | (3.5)      |                   | 内・外面回転ナナ                                  | N7/灰白色        | 平城III   |
| 326 | 3面      | 集石道模01     | 製塙土器 |     |    | (5.5)      |            |                   | 内・外面ナナ、内面指揮丸                              | SYRB/4/にいわ褐色  | 奈良      |
| 327 | 3面      | 集石道模01     | 製塙土器 |     |    | (5.7)      |            |                   | 内・外面ナナ                                    | N1.5/褐色       | 奈良      |
| 328 | 3面      | 集石道模01     | 製塙土器 |     |    | (7.1)      |            |                   | 外面ナナ、指揮丸、内面布目                             | 7SYRB/6明褐色    | 奈良      |
| 329 | 3面      | 集石道模01     | 製塙土器 |     |    | (5.7)      |            |                   | 内・外面ナナ                                    | 10YRA/1褐色     | 奈良      |
| 330 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    |            |            |                   | 凸面格子タキ目、凹面布目                              | 7SYRB/2灰褐色    | 7C後半    |
| 331 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    |            |            |                   | 凸面格子タキ目、凹面布目、小口ヘラ切り                       | 2SYRB/6褐色     | 7C後半    |
| 332 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    |            |            |                   | 凸面ヘラケズリ、凹面布目                              | 7SYRB/4/にいわ褐色 | 7C後半    |
| 333 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    |            |            |                   | 凹面布目、凸面ヘラ切り、格子タキ目、小口ヘラ切<br>り              | SYRB/1灰白色     | 8C前半    |
| 334 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    | (8.0)      |            |                   | 凹面布目、凸面周目タキ目、小口ヘラ切り                       | N7/灰白色        | 8C前半    |
| 335 | 3面      | 集石道模01     | 瓦    | 平瓦  |    |            |            |                   | 瓦質、表面有                                    | 10YRD/2/にいわ褐色 | 8Cカ     |

| 番号  | 遺構<br>名 | 出土遺機             | 器種  | 器形  | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径/<br>身幅<br>(cm) | 性文・形成の特徴                              | 色調            | 備考(時期・度地) |
|-----|---------|------------------|-----|-----|----|------------|------------|-------------------|---------------------------------------|---------------|-----------|
| 336 | 3面      | 溝04              | 土師器 | 环   |    | 12.8       | 4.9        |                   | 内面瘤文、口縁ヨコナデ、外面部ケズリ後ナデ                 | SYR6/8褐色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 337 | 3面      | 溝04              | 土師器 | 环   |    | 9.8        | 3.1        | 2.0               | 内面瘤文、口縁ヨコナデ、外面部ケズリ後ナデ                 | SYR7/8褐色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 338 | 3面      | 溝04              | 土師器 | 环   |    | 12.6       | 3.2        |                   | 内面瘤文、口縁ヨコナデ、外面部ケズリ後ナデ                 | SYR6/6褐色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 339 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 环G蓋 |    | 10.8       | 3.2        |                   | 内・外面ナデ、底部ヘラケズリ、当たり痕有り                 | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 340 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 环G蓋 |    | 9.3        | 2.7        |                   | 内・外面回転ナデ                              | N8/灰色         | 飛鳥Ⅰ       |
| 341 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 环G蓋 |    | 8.8        | 2.5        |                   | 頂部ヘラケズリ模擬ナデ、内・外面ナデ                    | SBA/1暗青灰色     | 飛鳥Ⅱ       |
| 342 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 环G蓋 |    | 11         | 1.7        |                   | 外面部回転ヘラケズリ、内面ナデ                       | N8/灰色         | 飛鳥Ⅲ       |
| 343 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪H  |    | 11.0       | 3.0        |                   | 外面部ナデ、内面ナデ、底部ヘラケズリ未調整                 | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 344 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪H蓋 |    | 11.0       | 3.0        |                   | 内・外面回転ナデ、上部ヘラケズリ                      | N7/灰白色        | 飛鳥Ⅰ       |
| 345 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪H蓋 |    | 11.0       | 4.3        |                   | 外面部回転ヘラケズリ後ナデ、内面ナデ                    | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 346 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪H蓋 |    | 11.0       | 2.4        |                   | 内・外面回転ナデ、頂部回転ヘラケズリ                    | SPB6/1青灰色     | 飛鳥Ⅲ       |
| 347 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪G  |    | 10.8       | 4.0        |                   | 内・外面ナデ、底部ヘラケズリ未調整                     | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 348 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪A  |    | 10.4       | 3.7        |                   | 内・外面ナデ、底部ヘラケズリ未調整                     | SBT/1暗青灰色     | 飛鳥Ⅲ       |
| 349 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪A  |    | 10.4       | 3.3        |                   | 内・外面回転ナデ、外面部下部ヘラケズリ                   | N8/灰色         | 飛鳥Ⅲ       |
| 350 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 坪A  |    | 10.4       | 3.1        |                   | 内・外面ナデ、底部ヘラケズリ未調整                     | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 351 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 塗   | 底部 | (3.3)      | 10.8       |                   | 内・外面ナデ                                | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 352 | 3面      | 溝04              | 須恵器 | 塗   |    |            | (6.7)      |                   | 透かしL記、外面部突尖点文、次律、内外面ナデ                | SBS/1青黒色      | 飛鳥Ⅰ       |
| 353 | 3面      | 自然流路01上層         | 土師器 | 环   |    | 16.6       | 4.7        |                   | 外面部ナデ、内面ヨコナデ、瘤文                       | 2.YR5/8明赤褐色   | 飛鳥Ⅲ       |
| 354 | 3面      | 自然流路01上層         | 土師器 | 环   |    | 16.0       | 3.7        |                   | 外面部ナデ、内面ヨコナデ、瘤文                       | N2.5YR6/8明赤褐色 | 飛鳥Ⅲ       |
| 355 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 环G蓋 |    | 16.6       | 2.9        |                   | 内・外面回転ナデ、外面部回転ヘラケズリ                   | N5/灰色         | 飛鳥Ⅲ       |
| 356 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪H蓋 |    | 14.8       | 4.0        |                   | 外面部回転ヘラケズリ、下部回転ナデ、内面ナデ                | 10BB4/1暗青灰色   | 飛鳥Ⅲ       |
| 357 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪H蓋 |    | 10.4       | 3.2        |                   | 外面部ヘラケズリナデ、内面回転ナデ                     | N7/灰白色        | 飛鳥Ⅲ       |
| 358 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪H  |    | 12.0       | 3.8        |                   | 内・外面回転ナデ、外面部回転ヘラケズリ                   | N8/灰色         | 飛鳥Ⅰ       |
| 359 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪H  |    | 12.4       | 3.0        |                   | 内・外面回転ナデ、底部ヘラケズリ                      | N4/灰色         | 飛鳥Ⅲ       |
| 360 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪A  |    | 10.0       | 4.0        |                   | 内・外面回転ナデ、底部回転ヘラケズリ                    | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅲ       |
| 361 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 坪A  |    | 12.0       | 3.4        | 9.1               | 内・外面回転ナデ                              | N7/灰白色        | 飛鳥Ⅲ       |
| 362 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 塗   |    | 20.6       | 4.9        |                   | 内・外面回転ナデ、内面ぬたり痕                       | N8/灰色         | 飛鳥Ⅲ       |
| 363 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 高环  |    | 16.4       | 10.0       | 11.2              | 3面透かし窓、内・外面回転ナデ、外面部回転ヘラケズリ、SGB4/1暗青灰色 | TK47          |           |
| 364 | 3面      | 自然流路01上層         | 須恵器 | 高环  | 脚部 | (5.0)      | 8.0        |                   | 内・外面回転ナデ                              | N8/灰白色        | 飛鳥Ⅰ       |
| 365 | 3面      | 土坑02             | 須恵器 | 环G蓋 |    | 8.8        | 2.2        |                   | 内・外面回転ナデ、外面部回転ヘラケズリ                   | N7/灰白色        | 飛鳥Ⅰ       |
| 366 | 3面      | 土坑03             | 須恵器 | 塗   | 体部 | (4.7)      |            |                   | 内・外面回転ナデ、外面部回転ヘラケズリ                   | N8/灰色         | 飛鳥Ⅰ       |
| 367 | 2面      | 掘立柱建物01・<br>03SP | 須恵器 | 坪A  |    | 12.2       | 2.0        |                   | 内・外面回転ナデ                              | N/6灰色         | 京Ⅱ新       |
| 368 | 2面      | 掘立柱建物01・<br>04SP | 須恵器 | 坪B  | 底部 | (1.4)      | 8.0        |                   | 内・外面回転ナデ                              | N7/灰白色        | 平城Ⅲ       |
| 369 | 2面      | 溝06              | 土師器 | 皿   |    | 11.2       | 1.9        |                   | 内面ヨコナデ、外面部溝                           | 10YR8/2灰白色    | 京Ⅱ新       |
| 370 | 2面      | 溝06              | 土師器 | 皿   |    | 14.6       | 2.0        |                   | 内・外面ヨコナデ                              | 10YR8/2灰白色    | 京Ⅱ新       |
| 371 | 2面      | 溝06              | 須恵器 | 碗   |    | 11.6       | 1.9        |                   | 内・外面回転ナデ                              | SY7/1灰白色      | 京Ⅱ中       |
| 372 | 2面      | 溝07              | 須恵器 | 坪B  | 底部 | (1.8)      | 11.0       |                   | 内・外面回転ナデ                              | N7/灰白色        | 京Ⅱ中       |
| 373 | 2面      | 溝07              | 土師器 | 皿   |    | 1.8        |            |                   | 端部ヨコナデ、内・外面部溝                         | 7.5YR8/3浅黄褐色  | 京Ⅳ古       |
| 374 | 2面      | 溝07              | 白磁  | 碗   | 底部 | (1.8)      | (5.0)      |                   | 内・外面施釉                                | SY8/1白白色      | 京Ⅳ古       |
| 375 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 磁器  | 青磁碗 |    | (2.6)      |            |                   | 内・外面青磁跡                               | 7.5GY8/1暗青色   | 京Ⅳ中       |
| 376 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 陶器  | 皿   |    | 8.0        | (1.5)      |                   | 外面部ナデ、内外面アメ粒                          | 10YR7/2にぶい黄褐色 | 京Ⅳ        |
| 377 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 磁器  | 青磁碗 |    | (3.6)      |            |                   | 内・外面青磁跡                               | SGY5/1オリーブ灰色  | 青四～青、龍泉系  |
| 378 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 土師器 | 皿   |    | 13.0       | (1.4)      |                   | 口縁内面ヨコナデ、体部摩滅                         | 10YR8/2灰白色    | 京Ⅳ中       |
| 379 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 磁器  | 青磁皿 |    | (1.7)      | 6.6        |                   | 内・外面青磁跡、底部外側ロクロケズリ                    | SY4/2灰オリーブ色   | 京Ⅳ新、中国製   |
| 380 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 土師器 | 皿   |    | 6.6        | (1.3)      |                   | 内・外面ナデ                                | 7.5YR8/1灰白色   | 京Ⅳ中       |
| 381 | 1面      | 素振溝(1~7周)        | 土師器 | 瓶   | 把手 | 2.6        |            |                   | 二次焼成痕                                 | SYR4/2赤褐色     | 平城Ⅲカ      |
| 382 | 2面      | 2-1層/包含層         | 土師器 | 环   |    | 13.8       | 4.7        |                   | 内面瘤文、外面部ケズリ、ナデ、内・外面マンガン付着             | 10R/3赤褐色      | 飛鳥Ⅰ       |
| 383 | 2面      | 2-1層/包含層         | 須恵器 | 环G蓋 |    | 10.2       | 3.1        |                   | 内・外面ナデ、外面部ケズリ                         | SBS/1青灰色      | 飛鳥Ⅰ       |
| 384 | 2面      | 2-1層/包含層         | 須恵器 | 环G蓋 |    |            | (3.6)      |                   | 内・外面回転ナデ                              | N7/灰白色        | 飛鳥Ⅲ       |
| 385 | 2面      | 2-1層/包含層         | 土師器 | 塗   |    | 21.0       | (10.0)     |                   | 内・外面ヨコナデ、外面部ハケツ縁/cm、内面ハケツ縁/cm         | 7.5YR7/2明褐色   | 飛鳥Ⅰ       |

| 番号  | 造様<br>面 | 出土遺構       | 器種   | 器形   | 部位 | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 底径/<br>台径<br>(cm) | 施文・形成の特徴           | 色調            | 備考(時期・産地) |
|-----|---------|------------|------|------|----|------------|------------|-------------------|--------------------|---------------|-----------|
| 386 | 2面      | 2-1層/包含層   | 須恵器  | 坪B蓋  |    | (1.3)      |            |                   | 内・外面回転ナデ、外面回転ヘラケヅリ | 2.5Y8.1灰白色    | 平城IV、龍泉窯系 |
| 387 | 2面      | 2-1層/包含層   | 須恵器  | 坪B   |    |            |            |                   | 内・外面回転ナデ           | N7/灰白色        | 平城IV      |
| 388 | 2面      | 2-1層/包含層   | 陶器   | 鉢皿   |    | 16.6       | 4.2        | 13.4              | 内・外面回転ナデ、反鉢、内面櫛目   | 7.5Y7.2暗褐色    | 京V中、瀬戸窯   |
| 389 | 2面      | 2-1層/包含層   | 須恵器  | 鉢    | 底部 |            |            |                   | 内・外面回転ナデ、底部糸切り     | N7/灰白色        | 平城IV      |
| 390 | 2面      | 2-1層/包含層   | 磁器   | 青磁碗  | 底部 | (2.1)      | 6.4        |                   | 内・外面施釉、底部回転ヘラケヅリ   | 7.5Y5.2暗褐色    | 京V中、龍泉窯系  |
| 391 | 2面      | 2-1層/包含層   |      | 瓦    |    |            |            |                   | 凹面布目、凸面格子状タタキ目     | N7/灰白色        | 7C後半      |
| 392 | 2面      | 2-1層/包含層   | 須恵器  | 蓋    | 底部 | (6.9)      | 14.4       |                   | 内・外面回転ナデ、外面自然輪     | N7/灰白色        | 平城V       |
| 393 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 須恵器  | 坪身蓋  |    | 17.6       | 2.8        |                   | 内・外面回転ナデ、外面回転ヘラケヅリ | N8/灰白色        | 平城I       |
| 394 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 須恵器  | 円面鏡  | 脚部 |            |            |                   | 内・外面回転ナデ、外面自然輪     | 5Y6.1褐色       | 平城IV      |
| 395 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 瓦質土器 | 羽蓋   |    | 23.4       | (3.6)      |                   | 外側ナデ、内面輪ナデ         | N3/暗灰色        | 京X中       |
| 396 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 磁器   | 青磁鏡  |    | 16.2       | (2.3)      |                   | 内・外面青磁輪            | 5G7.1暗緑灰色     | 京V中、龍泉窯系  |
| 397 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 磁器   | 青磁盤  | 底部 | (3.1)      | 12.8       |                   | 内・外面施釉             | 7.5Y4.3暗オリーブ色 | 京II新、龍泉窯系 |
| 398 | 1面      | 1-5-7層/包含層 | 陶器   | 天目茶碗 | 底部 | 4.2        | (2.4)      |                   | 外側回転ヘラケヅリ一部施釉、内面施釉 | N7/灰白色        | 京III古     |
| 399 | 1面      | 1-5-7層/包含層 |      | 瓦    | 平瓦 |            |            |                   | 凹面布目、凸面格子状タタキ目     | 10YR8.1灰白色    | 7C後半      |

表5 石器観察表

| 遺物番号 | 追跡番 | 出土遺構 | 器種        | 長さ(cm) | 幅(cm)  | 厚さ(cm) | 重さ(g)  | 石材             | 時期   |
|------|-----|------|-----------|--------|--------|--------|--------|----------------|------|
| 401  | 5面  | 溝01  | 石包丁未成品    | 5.74   | 11.53  | 1.49   | 144.1  | —              | 弥生中期 |
| 402  | 5面  | 溝01  | 石包丁未成品    | 7.67   | 11.48  | 1.38   | 182.6  | —              | 弥生中期 |
| 403  | 5面  | 溝01  | 大型始刃石斧    | 12.9   | 7.2    | 4.9    | 724    | 粉岩             | 弥生中期 |
| 404  | 5面  | 溝01  | 大型始刃石斧    | (4.8)  | 8.1    | 4.3    | 204    | 粉岩             | 弥生中期 |
| 405  | 5面  | 溝02  | 石包丁未成品    | 4.31   | 5.64   | 0.83   | 26.9   | —              | 弥生後期 |
| 406  | 5面  | 溝02  | 扁平片刃石斧    | 6.5    | 5.5    | 1.3    | 76     | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 407  | 5面  | 溝02  | 大型始刃石斧    | (11.0) | 7.5    | 5.2    | 715    | 粉岩             | 弥生後期 |
| 408  | 5面  | 溝02  | 刀器        | 4.58   | 3.8    | 0.6    | 10.6   | —              | 弥生後期 |
| 409  | 5面  | 溝02  | 砥石        | 11.42  | 6.33   | 1.8    | 410.0  | —              | 弥生後期 |
| 410  | 5面  | 溝02  | 玉素材       | 1.9    | 2.0    | 0.7    | 3      | 綠色凝灰岩          | 弥生後期 |
| 411  | 5面  | 溝02  | 玉素材       | 4.6    | 3.8    | 3.0    | 65     | 綠色凝灰岩          | 弥生後期 |
| 412  | 5面  | 溝02  | 石器の未成品    | 9.05   | 3.85   | 0.73   | 34.4   | —              | 弥生後期 |
| 413  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | 3.9    | (13.4) | 0.7    | 54     | 真岩～粘板岩(千枚岩)    | 弥生中期 |
| 414  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | 4.5    | (5.1)  | 0.5    | 18     | 真岩～粘板岩(千枚岩)    | 弥生中期 |
| 415  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | 4.4    | (7.6)  | 0.5    | 26     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 416  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | 4.7    | (5.9)  | 0.7    | 30     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 417  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | (4.3)  | (5.8)  | 0.7    | 23     | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 418  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | 5.2    | (7.7)  | 0.6    | 31     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 419  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | (3.6)  | (5.1)  | 0.4    | 8      | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 420  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | (3.5)  | (4.6)  | 0.4    | 9      | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 421  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | (3.6)  | (7.7)  | 0.5    | 16     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 422  | 5面  | 埋深01 | 石包丁       | (3.5)  | (5.4)  | 0.4    | 13     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 423  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 4.22   | 5.85   | 0.87   | 29.7   | —              | 弥生中期 |
| 424  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 6.55   | 10.87  | 0.8    | 86.6   | —              | 弥生中期 |
| 425  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 4.46   | 7.44   | 0.43   | 23.0   | —              | 弥生中期 |
| 426  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 4.2    | 8.08   | 1.07   | 52.1   | —              | 弥生中期 |
| 427  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 5.54   | 6.63   | 0.52   | 22.8   | —              | 弥生中期 |
| 428  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 6.31   | 6.59   | 0.75   | 41.5   | —              | 弥生中期 |
| 429  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 5.6    | 10.6   | 1.18   | 68.5   | —              | 弥生中期 |
| 430  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 5.45   | 9.65   | 0.88   | 62.9   | —              | 弥生中期 |
| 431  | 5面  | 埋深01 | 石包丁未成品    | 4.99   | 10.22  | 0.98   | 56.8   | —              | 弥生中期 |
| 432  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | (10.6) | (4.6)  | 1.2    | 69     | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 433  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | (6.3)  | (5.8)  | 1.0    | 34     | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 434  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | (4.1)  | 2.2    | 0.3    | 1      | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 435  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | (3.7)  | (4.2)  | (0.5)  | 9      | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 436  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | 6.5    | 2.3    | 0.6    | 7      | 千枚岩力(真岩～粘板岩)   | 弥生中期 |
| 437  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | 4.12   | 1.58   | 0.32   | 2.5    | —              | 弥生中期 |
| 438  | 5面  | 埋深01 | 磨製石剣      | 2.58   | 1.92   | 0.28   | 2.0    | —              | 弥生中期 |
| 439  | 5面  | 埋深01 | 大型始刃石斧    | 16.8   | 8.1    | 3.5    | 801    | 粉岩             | 弥生中期 |
| 440  | 5面  | 埋深01 | 大型始刃石斧    | (8.0)  | 6.6    | 5.0    | 369    | 粉岩             | 弥生中期 |
| 441  | 5面  | 埋深01 | 大型始刃石斧    | (10.0) | 6.9    | 4.5    | 443    | ホルンフェルス        | 弥生中期 |
| 442  | 5面  | 埋深01 | 大型始刃石斧    | (9.6)  | 7.4    | 3.9    | 476    | 粉岩             | 弥生中期 |
| 443  | 5面  | 埋深01 | 石斧未成品     | 11.48  | 6.97   | 1.92   | 215.4  | —              | 弥生中期 |
| 444  | 5面  | 埋深01 | 石斧未成品     | 5.41   | 6.63   | 4.11   | 235.6  | —              | 弥生中期 |
| 445  | 5面  | 埋深01 | 扁平片刃石斧    | 5.6    | 1.5    | 0.6    | 9      | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 446  | 5面  | 埋深01 | 扁平片刃石斧    | 2.2    | 1.6    | 0.4    | 3      | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生中期 |
| 447  | 5面  | 埋深01 | 扁平片刃石斧未成品 | 4.68   | 3.69   | 0.67   | 18.2   | —              | 弥生中期 |
| 448  | 5面  | 埋深01 | 石刀        | (11.6) | (4.2)  | 1.5    | 78     | 真岩～粘板岩(千枚岩)    | 弥生中期 |
| 449  | 5面  | 埋深01 | 敲石        | 7.65   | 7.69   | 3.54   | 270.7  | —              | 弥生中期 |
| 450  | 5面  | 埋深01 | 玉硯石       | 14.5   | 9.5    | 4.1    | 622    | 砂岩             | 弥生中期 |
| 451  | 5面  | 埋深01 | 玉硯石       | 9.5    | 6.0    | 5.5    | 270    | 砂岩カ            | 弥生中期 |
| 452  | 5面  | 埋深01 | 玉素材       | 3.9    | 3.4    | 3.5    | 59     | 綠色凝灰岩          | 弥生中期 |
| 453  | 5面  | 埋深01 | 砥石(鍛型カ)   | 4.3    | 4.4    | 3.9    | 65     | 砂岩カ            | 弥生中期 |
| 454  | 5面  | 埋深01 | 砥石        | 7.72   | 6.62   | 2.18   | 151.1  | —              | 弥生中期 |
| 455  | 5面  | 埋深01 | 砥石        | 17.46  | 12.72  | 7.47   | 2340.0 | —              | 弥生中期 |
| 456  | 5面  | 埋深01 | 砥石        | 10.22  | 8.22   | 1.92   | 147.6  | —              | 弥生中期 |
| 458  | 5面  | 埋深01 | 針片        | 5.5    | 3.2    | 2.0    | 42     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生中期 |
| 459  | 5面  | 埋深01 | 針片        | (3.6)  | (5.7)  | 1.0    | 19     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生中期 |

| 遺物番号 | 遺構番 | 出土遺構     | 器種          | 長さ(cm) | 幅(cm)  | 厚さ(cm) | 重さ(g)  | 石材             | 時期   |
|------|-----|----------|-------------|--------|--------|--------|--------|----------------|------|
| 460  | 5面  | 理溝01     | 剝片          | 3.4    | 5.1    | 1.6    | 26     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生中期 |
| 461  | 5面  | 理溝01     | 剝片          | 6.3    | 4.8    | 1.3    | 31     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生中期 |
| 462  | 5面  | 理溝01     | 剝片          | 6.1    | 4.1    | 0.9    | 13     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生中期 |
| 463  | 5面  | 理溝01     | 未成品         | 12.75  | 2.84   | 0.66   | 23.5   | —              | 弥生中期 |
| 464  | 5面  | 理溝01     | 未成品         | 10.95  | 2.92   | 0.6    | 21.0   | —              | 弥生中期 |
| 465  | 5面  | 理溝01     | 未成品         | 13.47  | 4.4    | 1.31   | 98.3   | —              | 弥生中期 |
| 466  | 5面  | 理溝01     | 未成品         | 18.78  | 4.35   | 1.17   | 112.3  | —              | 弥生中期 |
| 467  | 5面  | 理溝01     | 素材か未成品      | 16.47  | 4.27   | 2.86   | 318.2  | —              | 弥生中期 |
| 468  | 5面  | 理溝01     | 素材か未成品      | 18.09  | 3.79   | 2.8    | 224.4  | —              | 弥生中期 |
| 469  | 5面  | 理溝01     | 素材か未成品      | 14.68  | 4.77   | 3.89   | 328.5  | —              | 弥生中期 |
| 470  | 5面  | 理溝01     | 素材か未成品      | 19.69  | 5.02   | 2.23   | 197.2  | —              | 弥生中期 |
| 471  | 5面  | 理溝01     | 器種不明品       | 8.2    | 1.6    | 1.4    | 28     | 真岩～粘板岩カ        | 弥生中期 |
| 472  | 5面  | 02SP     | 石包丁未成品      | 3.13   | 6.3    | 0.97   | 26.4   | —              | 弥生中期 |
| 473  | 5面  | 土器粗面01   | 砾石          | 10.6   | 8.3    | 3.8    | 532.0  | —              | 弥生中期 |
| 474  | 4面  | 溝03      | 石包丁         | (4.4)  | (5.2)  | 0.7    | 21     | 真岩～粘板岩(千枚岩)    | 弥生後期 |
| 475  | 4面  | 溝03      | 石包丁未成品      | 4.24   | 5.57   | 0.7    | 20.0   | —              | 弥生後期 |
| 476  | 4面  | 溝03      | 大型始刃石斧未成品   | (10.8) | 6.3    | 3.9    | 434    | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 477  | 4面  | 溝03      | 大型始刃石斧      | (14.2) | 8.3    | 6.6    | 1201   | 砾岩             | 弥生後期 |
| 478  | 4面  | 溝03      | 扁平片刃石斧      | 4.3    | 2.8    | 0.3    | 7      | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 479  | 4面  | 溝03      | 扇形石削未成品     | (11.0) | 5.2    | 1.2    | 103    | 千枚岩カ(真岩～粘板岩)   | 弥生後期 |
| 480  | 4面  | 溝03      | 有茎形指製石器     | 5.7    | 1.8    | 0.4    | 4      | 真岩～粘板岩(千枚岩カ)   | 弥生後期 |
| 481  | 4面  | 溝03      | 剝片          | 4.0    | 4.6    | 0.9    | 15     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生後期 |
| 482  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁         | (3.7)  | (6.8)  | 0.6    | 19     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生後期 |
| 483  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁         | (3.6)  | (12.0) | 0.6    | 40     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生後期 |
| 484  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁         | (3.2)  | (6.2)  | 0.5    | 14     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生後期 |
| 485  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁         | (3.6)  | (4.2)  | 0.6    | 16     | 千枚岩カ(真岩～粘板岩)   | 弥生後期 |
| 486  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | 3.55   | 7.57   | 0.72   | 20.0   | —              | 弥生後期 |
| 487  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | 4.1    | 7.58   | 0.47   | 22.5   | —              | 弥生後期 |
| 488  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | 3.32   | 5.96   | 0.7    | 16.6   | —              | 弥生後期 |
| 489  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | 4.67   | 5.7    | 0.83   | 19.9   | —              | 弥生後期 |
| 490  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | (5.3)  | (12.7) | 1.0    | 91     | 千枚岩(真岩～粘板岩)    | 弥生後期 |
| 491  | 4面  | 自然流路01下層 | 石包丁未成品      | 6.29   | 7.84   | 0.62   | 49.9   | —              | 弥生後期 |
| 492  | 4面  | 自然流路01下層 | 大型始刃石斧      | (7.0)  | 7.5    | 4.7    | 408    | 砾岩             | 弥生後期 |
| 493  | 4面  | 自然流路01下層 | 大型始刃石斧      | (7.2)  | 7.0    | 4.3    | 306    | 砾岩             | 弥生後期 |
| 494  | 4面  | 自然流路01下層 | 大型始刃石斧      | (8.5)  | 7.6    | 4.7    | 418    | 砾岩             | 弥生後期 |
| 495  | 4面  | 自然流路01下層 | 扁平片刃石斧      | 9.8    | 5.0    | 2.2    | 179    | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 496  | 4面  | 自然流路01下層 | 扁平片刃石斧      | (7.5)  | (3.5)  | (1.0)  | 37     | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 497  | 4面  | 自然流路01下層 | 扁平片刃石斧      | 6.6    | 4.9    | 1.0    | 44     | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 498  | 4面  | 自然流路01下層 | 扁平片刃石斧      | (5.2)  | 3.4    | 0.9    | 32     | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 499  | 4面  | 自然流路01下層 | 抉入片刃石斧      | (13.9) | 4.8    | 3.9    | 402    | ホルンフェルズ        | 弥生後期 |
| 500  | 4面  | 自然流路01下層 | 抉入片刃石斧      | (7.8)  | (3.2)  | (3.2)  | 85     | 真岩～粘板岩         | 弥生後期 |
| 501  | 4面  | 自然流路01下層 | 扇形石削未成品     | 12.0   | 4.1    | 0.8    | 48     | 千枚岩カ(真岩～粘板岩)   | 弥生後期 |
| 502  | 4面  | 自然流路01下層 | 扇形石削未成品     | (5.4)  | (2.2)  | 0.8    | 11     | 千枚岩カ(真岩～粘板岩)   | 弥生後期 |
| 503  | 4面  | 自然流路01下層 | 有孔磨製石器      | 5.4    | 3.2    | 0.4    | 8      | 千枚岩カ(真岩～粘板岩)   | 弥生後期 |
| 504  | 4面  | 自然流路01下層 | 刀器          | 4.9    | 5.4    | 1.6    | 43     | チャート           | 弥生後期 |
| 505  | 4面  | 自然流路01下層 | 刀器          | 5.32   | 11.26  | 3.56   | 210.0  | —              | 弥生後期 |
| 506  | 4面  | 自然流路01下層 | 石器          | (5.9)  | (11.2) | 0.7    | 71     | 紅葉石岩           | 弥生後期 |
| 507  | 4面  | 自然流路01下層 | 剝片          | 3.6    | 6.3    | 0.9    | 11     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生後期 |
| 508  | 4面  | 自然流路01下層 | 剝片          | 4.3    | 3.4    | 1.1    | 18     | 無斑晶安山岩(サヌキトイド) | 弥生後期 |
| 509  | 4面  | 自然流路01下層 | 玉砕石         | 16.3   | 10.8   | 8.2    | 1216   | 砂岩             | 弥生後期 |
| 510  | 4面  | 自然流路01下層 | 玉砕石         | 14.1   | 12.1   | 6.7    | 1212   | 砂岩             | 弥生後期 |
| 511  | 4面  | 自然流路01下層 | 玉砕石         | 13.0   | 9.2    | 6.0    | 859    | 砂岩             | 弥生後期 |
| 512  | 4面  | 自然流路01下層 | 硯石          | 18.01  | 12.89  | 4.38   | 1150.0 | —              | 弥生後期 |
| 513  | 4面  | 自然流路01下層 | 硯石          | 6.43   | 6.99   | 4.21   | 234.2  | —              | 弥生後期 |
| 514  | 4面  | 自然流路01下層 | 硯石          | 7.35   | 8.38   | 6.6    | 420.0  | —              | 弥生後期 |
| 515  | 4面  | 自然流路01下層 | 大型始刃石斧加工用敲石 | 11.66  | 8.19   | 5.24   | 820.0  | —              | 弥生後期 |
| 516  | 4面  | 自然流路01下層 | 鉢石          | 7.69   | 4.05   | 2.16   | 121.0  | —              | 弥生後期 |
| 517  | 4面  | 自然流路01下層 | 硯石          | 9.94   | 5.54   | 3.13   | 262.8  | —              | 弥生後期 |

| 遺物番号 | 遺構面 | 出土遺構       | 器種         | 長さ(cm) | 幅(cm)  | 厚さ(cm) | 重さ(g) | 石材          | 時期   |
|------|-----|------------|------------|--------|--------|--------|-------|-------------|------|
| 518  | 4面  | 自然流路01下層   | 敲石、素材      | 17.1   | 5.89   | 2.55   | 388.1 | —           | 弥生後期 |
| 519  | 4面  | 自然流路01下層   | 磨石         | 17.24  | 7.21   | 3.41   | 480.0 | —           | 弥生後期 |
| 520  | 4面  | 自然流路01下層   | 器種不明品      | 17.16  | 2.51   | 1.08   | 63.9  | —           | 弥生後期 |
| 521  | 3面  | 集石造模01     | 石包丁未成品     | 5.39   | 12.62  | 1.61   | 138.3 | —           | 弥生後期 |
| 522  | 3面  | 集石造模01     | 扁平片刃石斧     | 7.3    | 6.5    | 1.5    | 120   | 頁岩～粘板岩      | 弥生後期 |
| 523  | 3面  | 集石造模01     | 磨製石剣       | (6.7)  | 2.8    | 0.7    | 13    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 524  | 3面  | 集石造模01     | 凸基式磨製石器未成品 | 6.25   | 2.16   | 0.54   | 7.6   | —           | 弥生後期 |
| 525  | 3面  | 集石造模01     | 未成品        | 24.43  | 3.29   | 1.56   | 149.9 | —           | 弥生後期 |
| 526  | 3面  | 集石造模01     | 素材か未成品     | 16.89  | 5.11   | 1.14   | 97.6  | —           | 弥生後期 |
| 527  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | 5.1    | (8.7)  | 0.6    | 46    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 528  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | (4.7)  | (10.6) | 0.7    | 50    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 529  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | (4.8)  | (7.8)  | 0.7    | 41    | 頁岩～粘板岩      | 弥生後期 |
| 530  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | (4.5)  | (5.9)  | 0.5    | 19    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 531  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | (4.0)  | (5.1)  | 0.5    | 12    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 532  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 石包丁        | (3.3)  | (6.8)  | 0.5    | 17    | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 533  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 磨製石剣未成品    | 4.1    | 4.4    | 0.64   | 22.8  | —           | 弥生後期 |
| 534  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 大型燧石斧未成品   | (15.9) | (7.8)  | (5.8)  | 939   | 玢岩          | 弥生後期 |
| 535  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 有孔磨製石器     | (3.0)  | (3.6)  | 0.3    | 2     | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 536  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 磨製石器       | 3.2    | 1.2    | 0.3    | 1     | 千枚岩(頁岩～粘板岩) | 弥生後期 |
| 537  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 剝片         | 4.4    | 3.7    | 1.8    | 49    | 砾石英         | 弥生後期 |
| 538  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 砾石(鱗型)     | 6.8    | 6.3    | 3.8    | 133   | 砂岩          | 弥生後期 |
| 539  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 砾石(鱗型)     | 5.6    | 6.5    | 3.8    | 121   | 砂岩          | 弥生後期 |
| 540  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 砾石         | 17.44  | 8.74   | 4.32   | 820.0 | —           | 弥生後期 |
| 541  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 未成品        | 11.3   | 4.06   | 0.81   | 37.5  | —           | 弥生後期 |
| 542  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 未成品        | 8.03   | 3.89   | 0.89   | 45.4  | —           | 弥生後期 |
| 543  | 5面  | 4-1・2層・包含層 | 素材か未成品     | 18.38  | 4.69   | 2.71   | 295.7 | —           | 弥生後期 |

# 図 版





1-1 弥生時代模出遺構全景（南上空から）



1-2 環濠 01 及び溝 01 ~ 03 完掘状況（北上空から）



2-1 環濠 01 土層断面（北東から）



2-2 環濠 01 遺物出土状況 1



2-3 環濠 01 遺物出土状況 2



2-4 環濠 01 遺物出土状況 3



2-5 環濠 01 遺物出土状況 4



3-1 環濠 01 遺物出土狀況 1



3-2 環濠 01 遺物出土狀況 2



4-1 環濠 01 完掘状況全景（北東から）



4-2 環濠 01 完掘状況全景（南西から）



5-1 溝 01 完掘状況全景（北から）



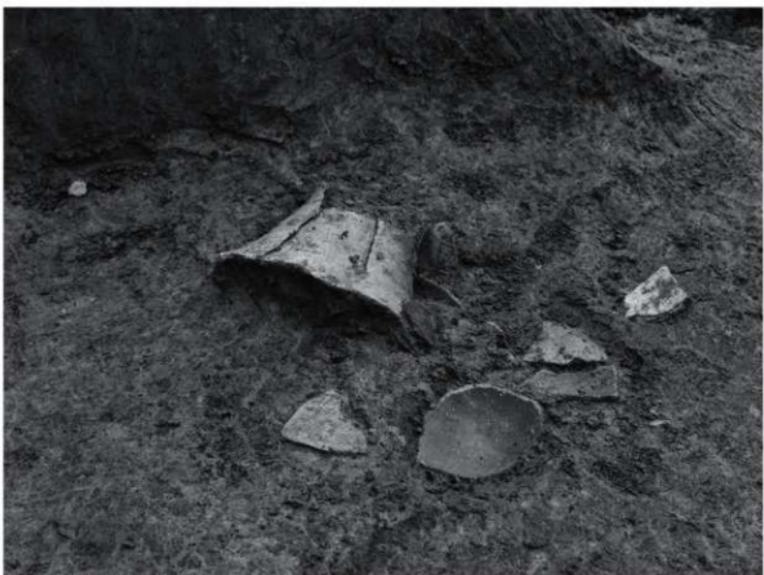
5-2 溝 01 土層断面（北から）



6-1 溝 02 完掘状況全景（北から）



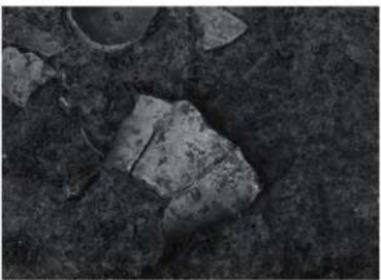
6-2 溝 02 土層断面（北から）



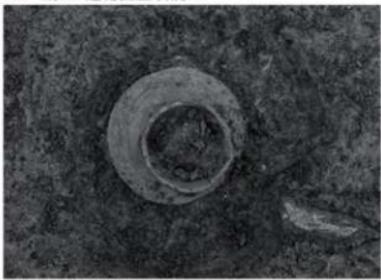
7-1 溝 02 遺物出土狀況 1



7-2 溝 02 遺物出土狀況 2



7-3 溝 02 遺物出土狀況 3



7-4 溝 02 遺物出土狀況 4



7-5 溝 02 遺物出土狀況 5



8-1 土器棺墓 01 出土状況（東から）



8-2 土器棺墓 01 出土状況（西から）



9-1 溝 03 土層断面（北から）



9-2 溝 03 遺物出土状況 1



9-3 溝 03 遺物出土状況 2



9-4 溝 03 遺物出土状況 3



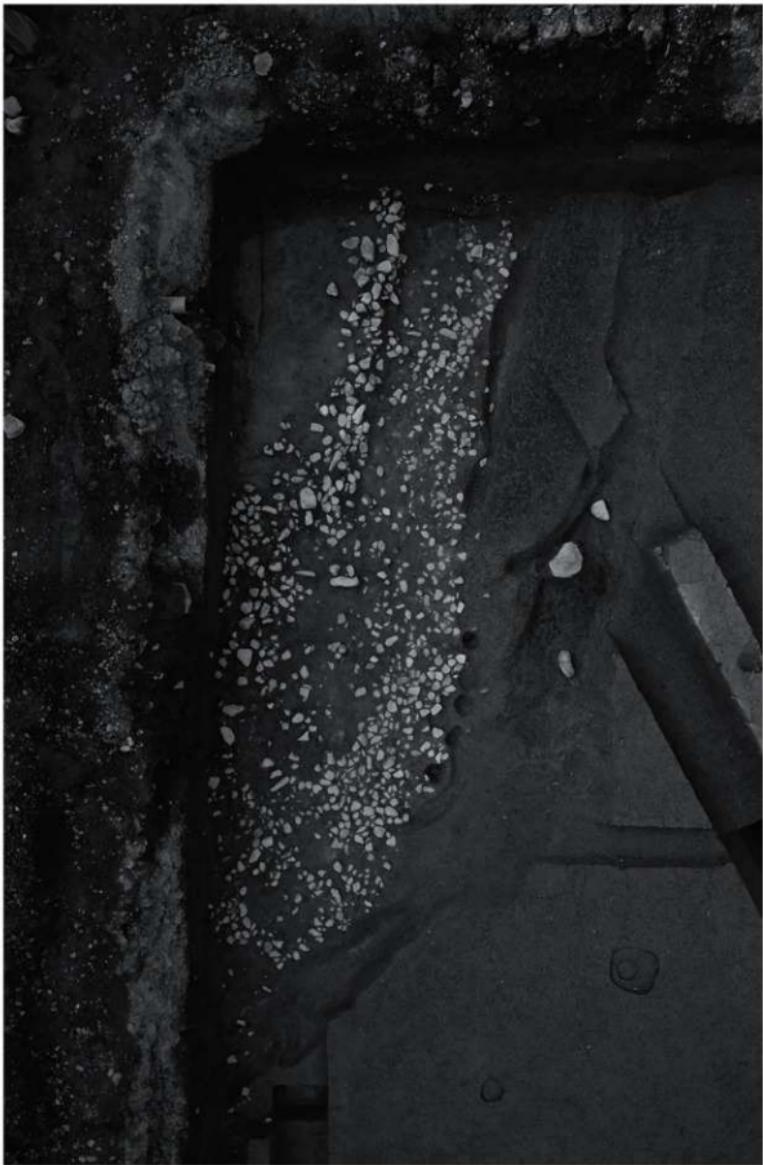
9-5 溝 03 遺物出土状況 4



10-1 自然流路 01 完掘状況全景（北東から）



10-2 自然流路 01 土層断面（西から）



11-1 集石遺構 01 完掘状況全景（上空より）



12-1 集石遺構 01 完掘状況（北西から）



12-2 調査区北西側柱穴 完掘状況（南西から）



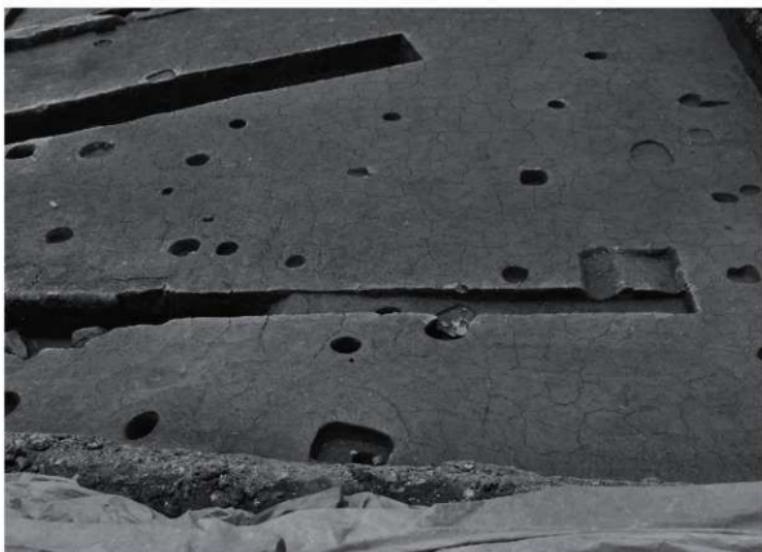
13-1 掘立柱建物 01 検出状況（北東から）



13-2 掘立柱建物 01 完掘状況（南東から）



14-1 檻 01 ~ 03 完掘状況（北西から）



14-2 檻 01・02 完掘状況（東から）



15-1 道路 01、溝 06・07 完掘状況（南東から）



15-2 素掘り溝群 完掘状況（南東から）



1



44



3



46



15



49



16



18



66

16-1 溝 01 (1·3)、溝 02 (15·16·18)、環濠 01 (44·46·49·66)



17-1 環濠 01 (93・103・144・167・180)、溝 03 (207～209)



217



314



318



277



355



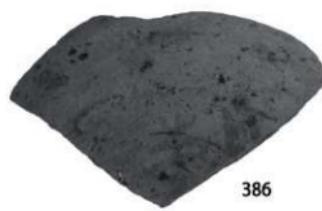
360



278

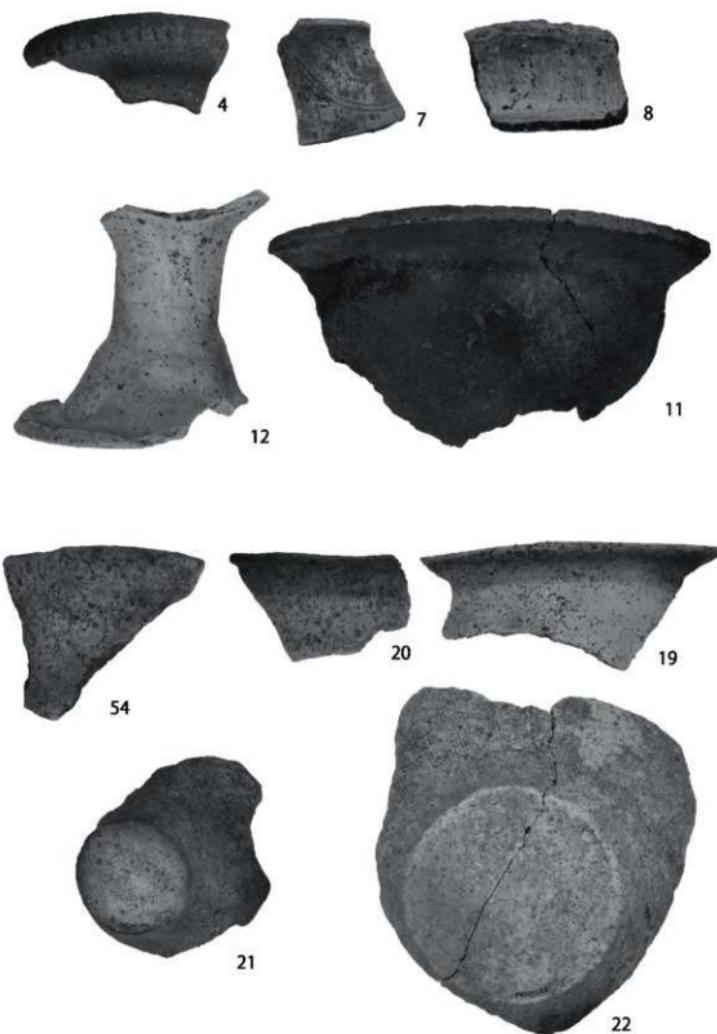


365

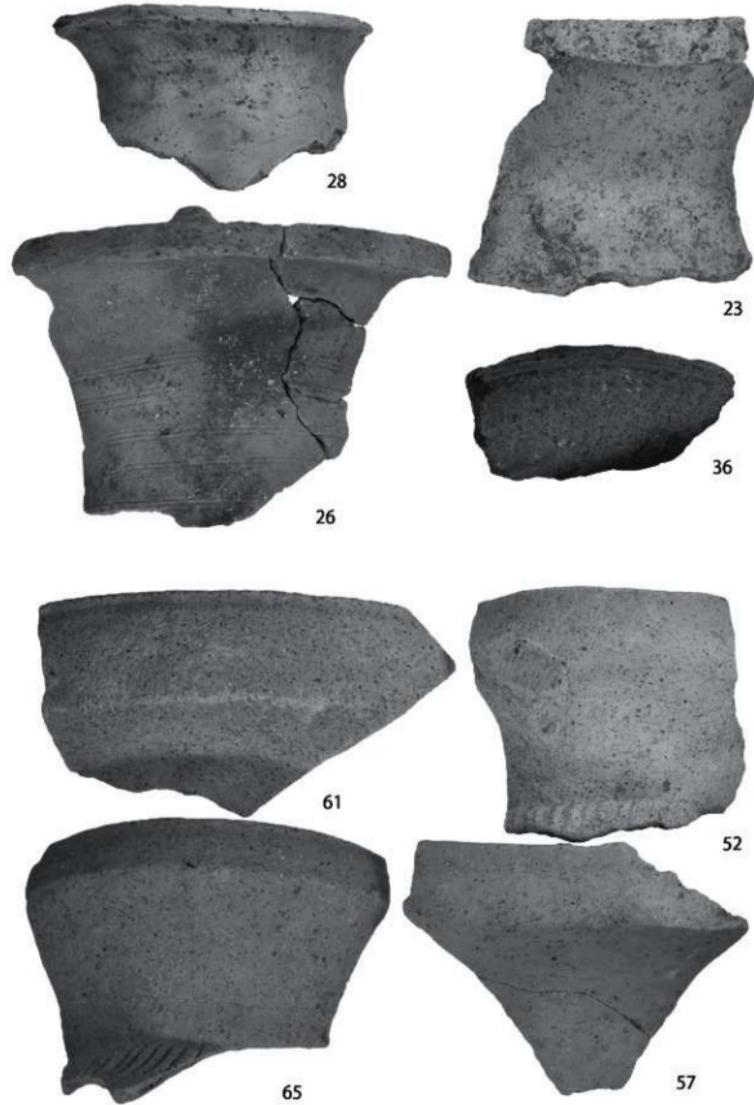


386

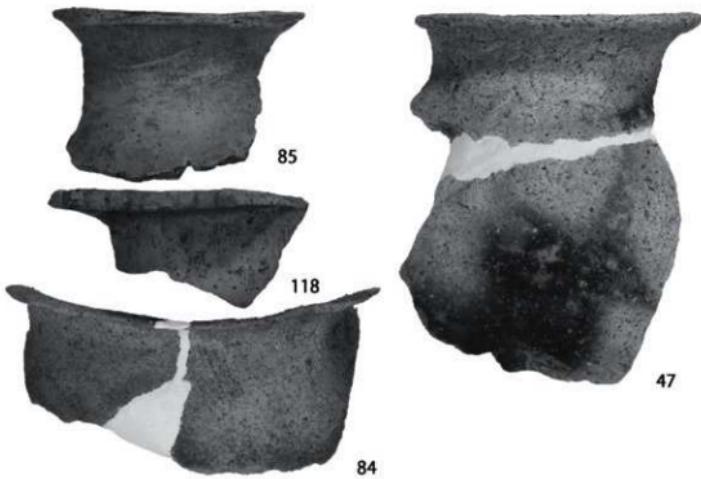
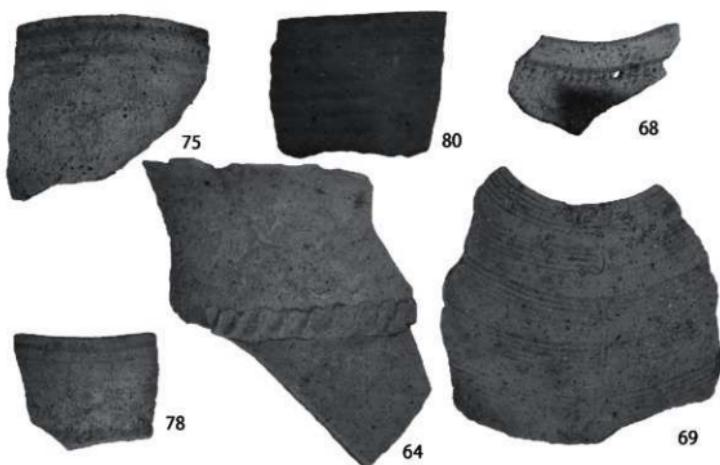
18-1 自然流路 01 下層 (217)、自然流路 01 上層 (355・360)、土器棺墓 01 (277)、土坑 01 (278)、  
集石遺構 01 (314・318)、土坑 02 (365)、4-1・2 層／包含層 (墨書土器 386)



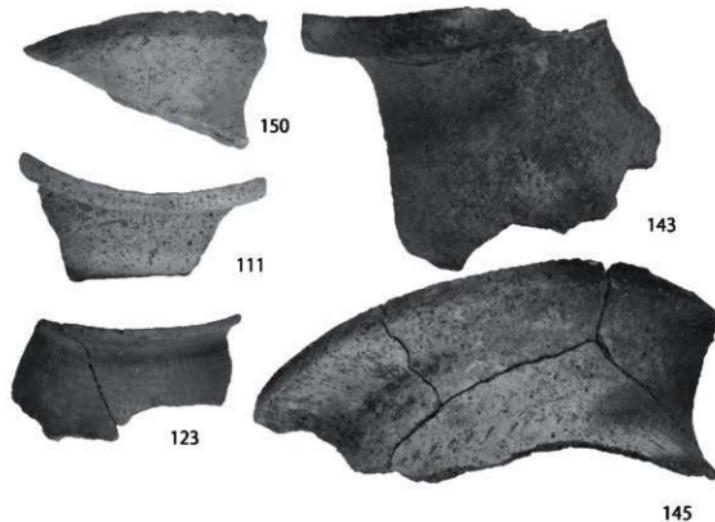
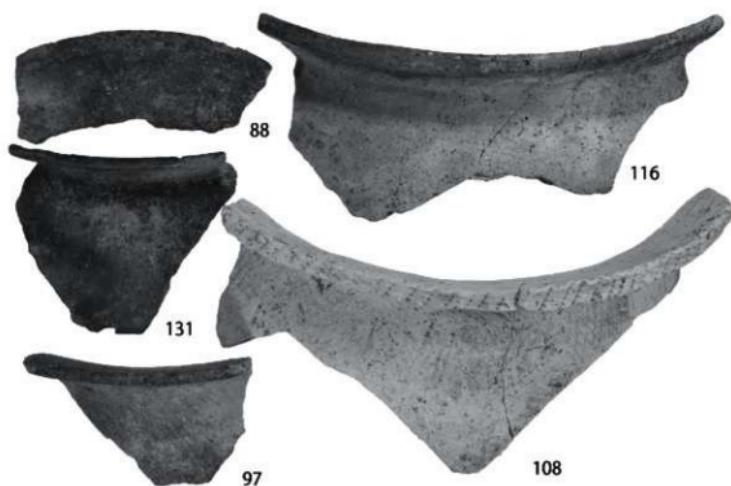
19-1 溝 01 (4・7・8・11・12)、溝 02 (19～22)、環濠 01 (54)



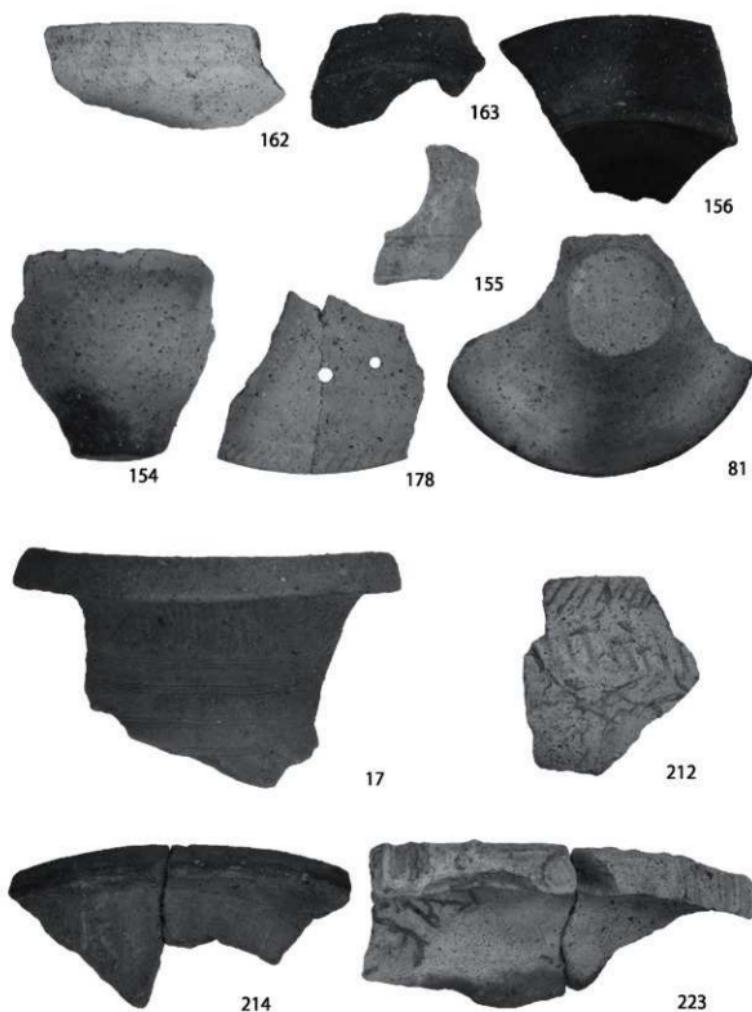
20-1 環濠 01 (23・26・28・36・52・57・61・65)



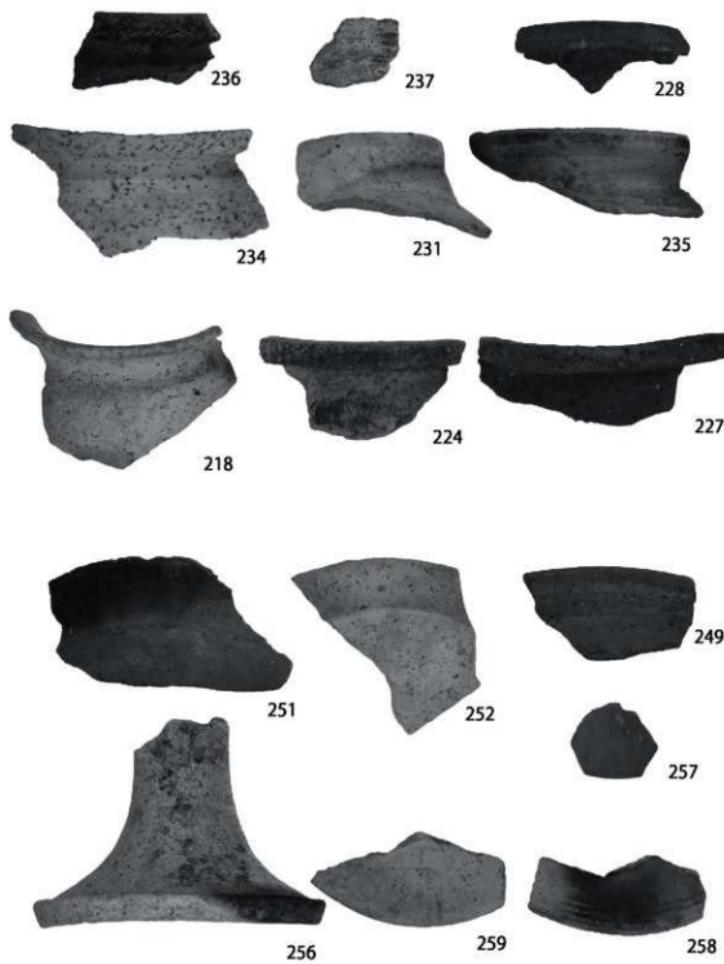
21-1 環濠 01 (47・64・68・69・75・78・80・84・85・118)



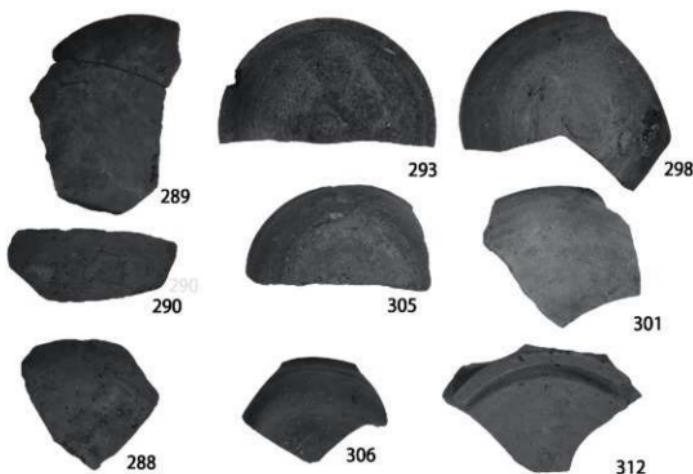
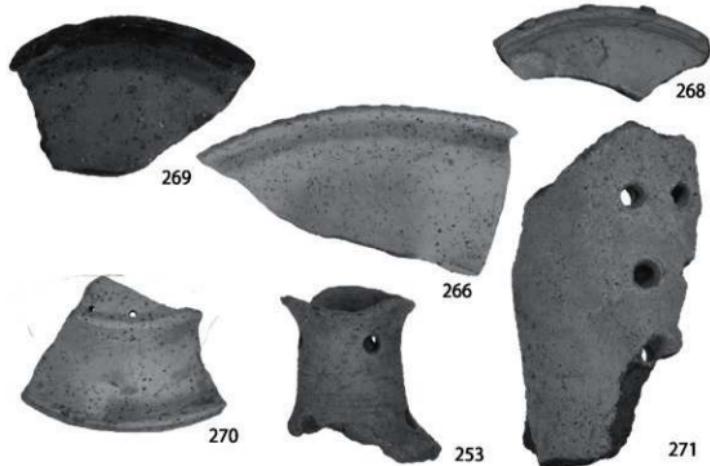
22-1 環濠 01 (88・97・108・111・116・123・131・143・145・150)



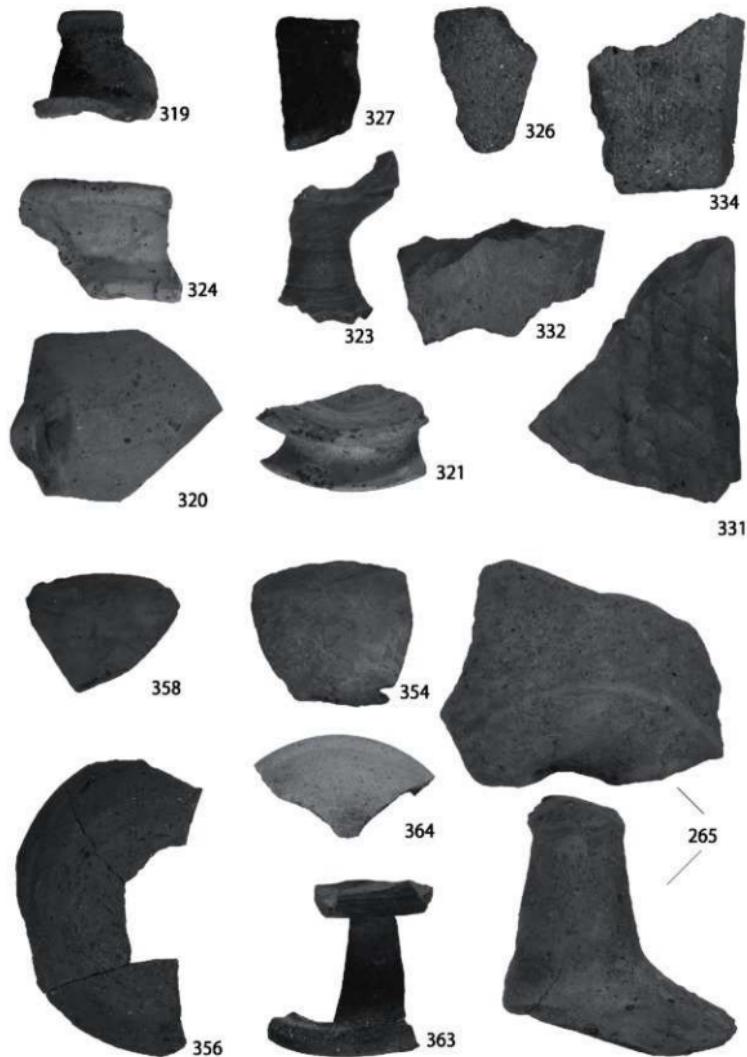
23-1 環濠 01 (81・154～156・162・163・178)、溝 02 (17)、自然流路 01 下層 (212・214・223)



24-1 自然路 01 下層 (218・224・227・228・231・234～237・249・251・252・256～259)



25-1 自然流路 01 下層 (253・266・268～271)、集石造構 01 (288～290・293・298・301・305・  
306・312)

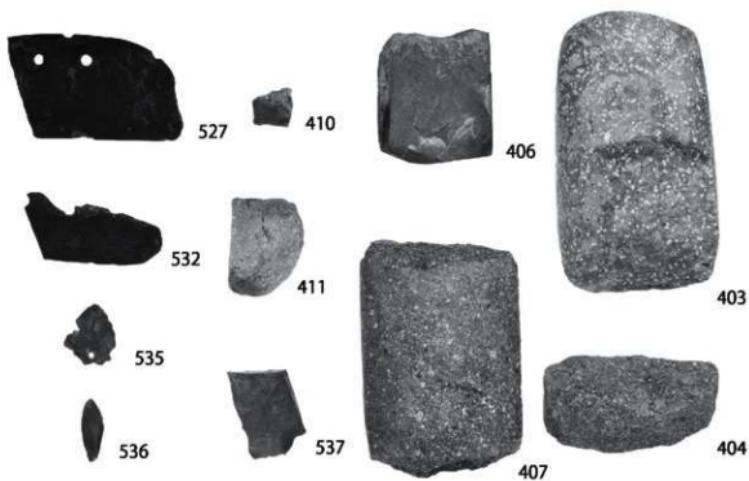


26-1 集石遺構 01 (319 ~ 321・323・324・326・327・331・332・334)、自然流路 01 下層 (265)、  
自然流路 01 上層 (354・356・358・363・364)

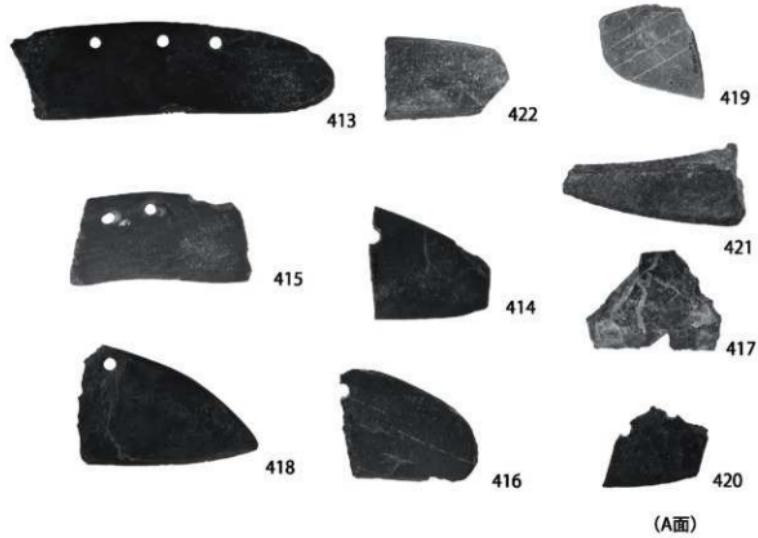


(A面)

(B面)

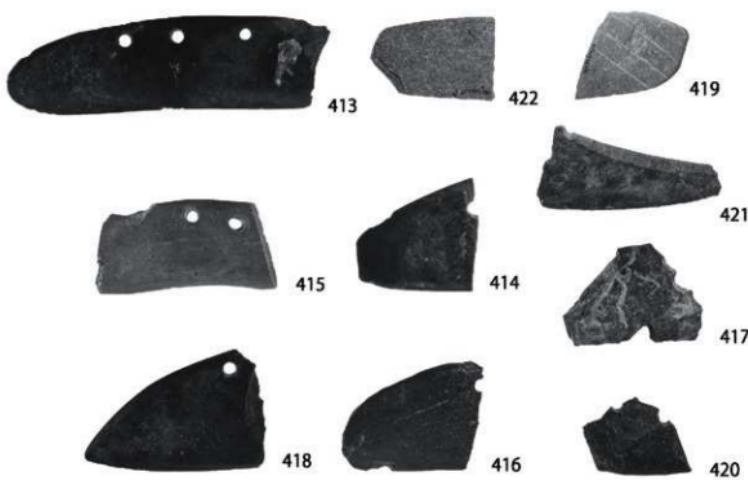


27-1 溝 01 (403・404)、溝 02 (406・407・410・411)、4-1・2 層／包含層 (527・532・535・536・537)



(A面)

(B面)



28-1 環濠 01 (413 ~ 422)

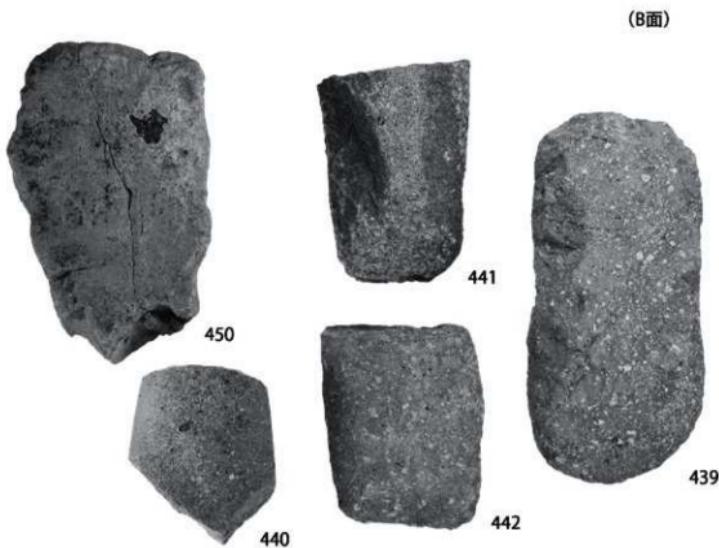
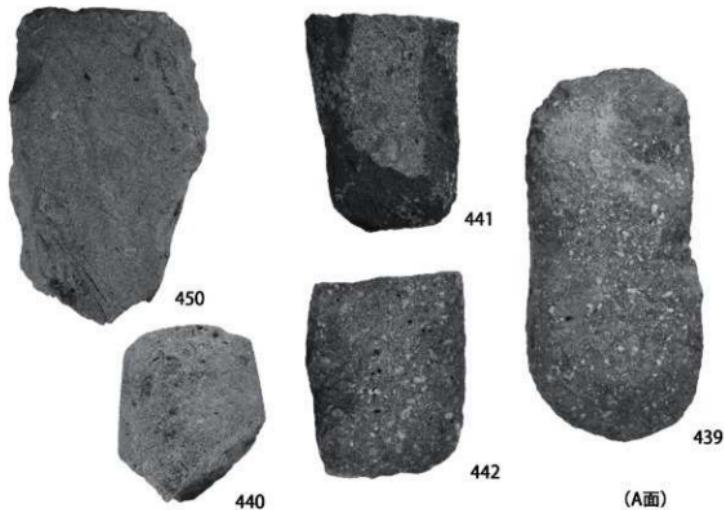


(A面)

(B面)



29-1 環濠 01 (432 ~ 436・446・448・471)



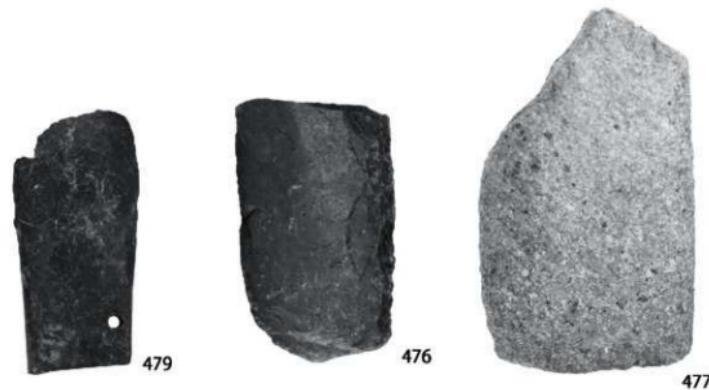
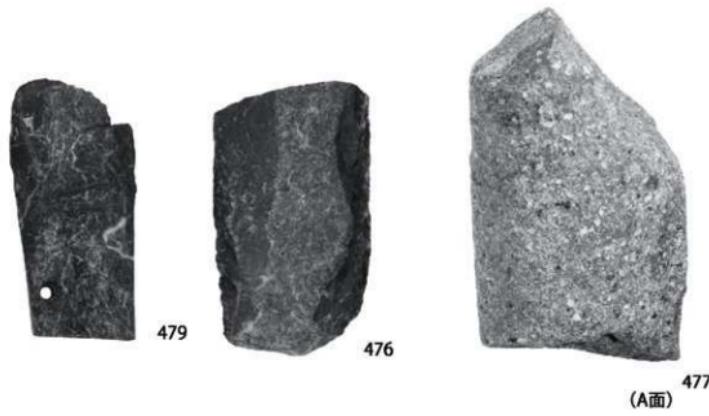
30-1 環濠 01 (439・440～442・450)



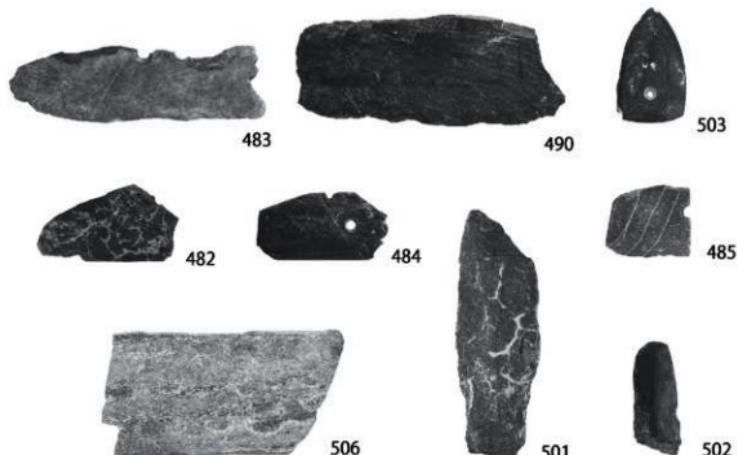
(B面)



31-1 環濠 01 (451 ~ 453・458 ~ 462)

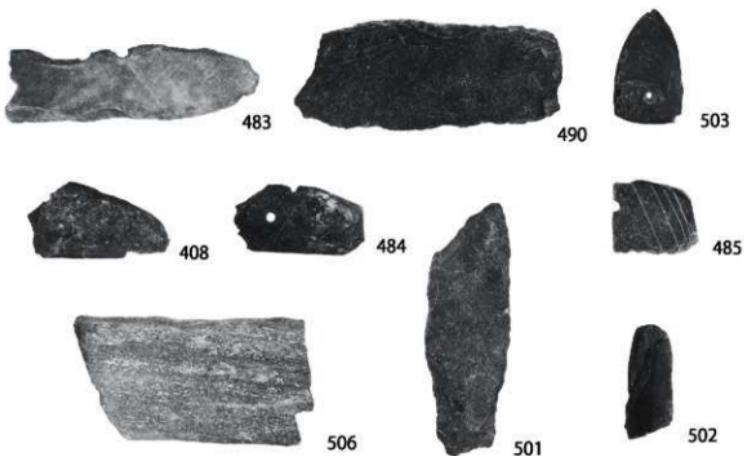


32-1 溝 03 (474・476～481)

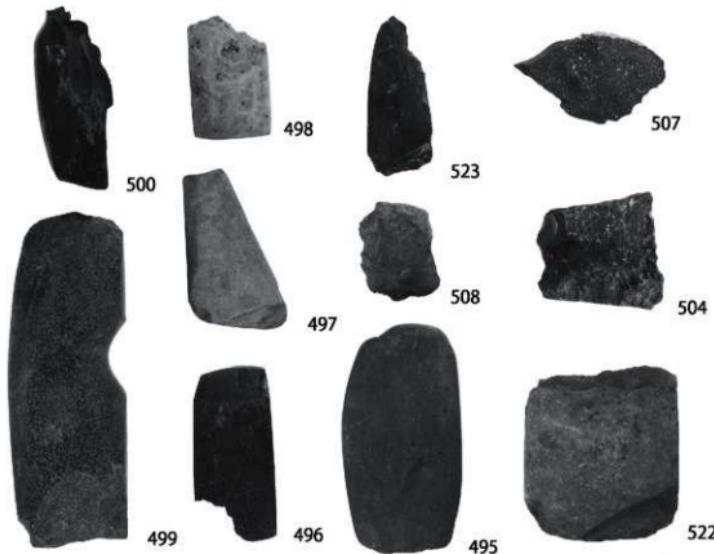


(A面)

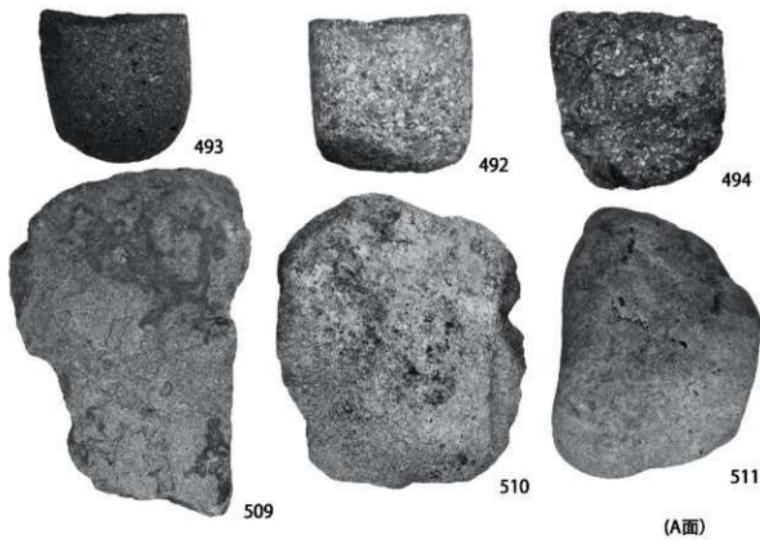
(B面)



33-1 自然流路 01 下層 (482 ~ 485 · 490 · 501 ~ 503 · 506)

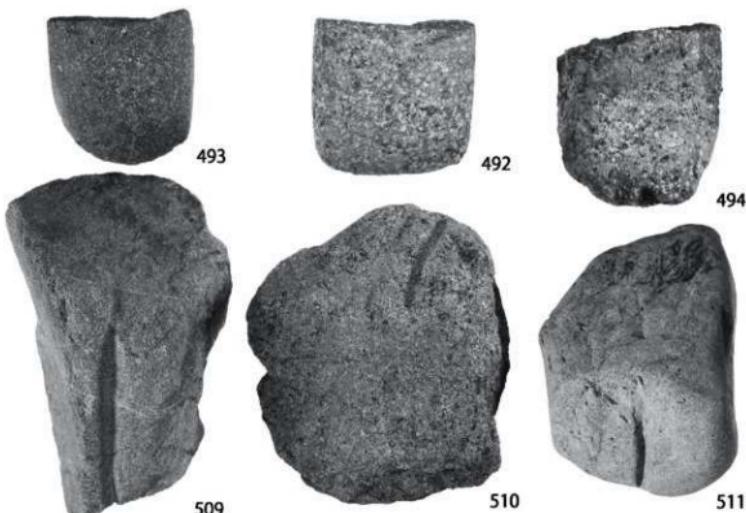


34-1 自然流路 01 下層 (495 ~ 500・504・507・508)、集石構造 01 (522・523)

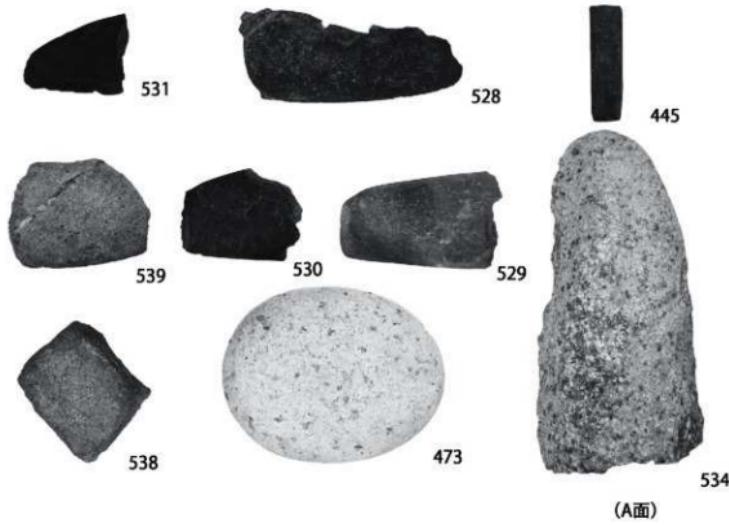


(A面)

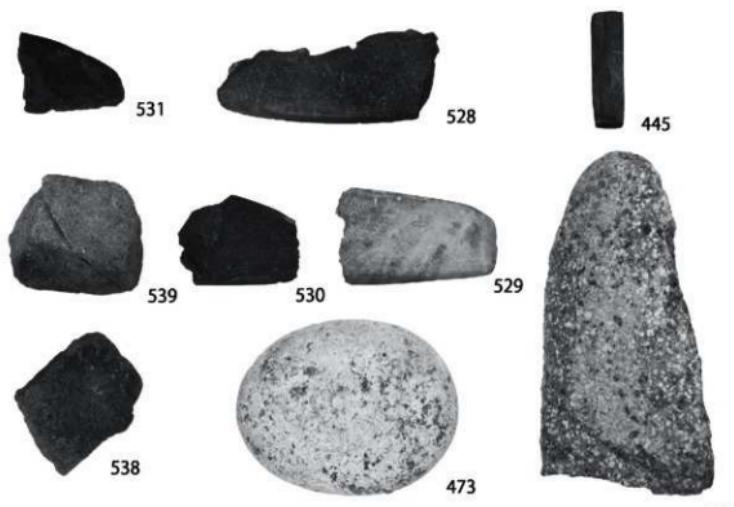
(B面)



35-1 自然流路 01 下層 (492 ~ 494 • 509 ~ 511)



(A面)



(B面)

36-1 環濠 01 (445)、土器棺墓 01 (473)、4-1・2 層／包含層 (528～531・534・538・539)

534

## 報告書抄録

|        |                                         |
|--------|-----------------------------------------|
| ふりがな   | へいあんきょううきょううろくじょうよんぼうななちゅうあと・にしきょうごくいせき |
| 書名     | 平安京右京六条四坊七町跡・西京極遺跡                      |
| 副書名    | 京都市右京区西院月双町155、154の一部の発掘調査              |
| シリーズ名  |                                         |
| シリーズ番号 |                                         |
| 編著者名   | 辻 広志（編）・千喜良淳・浜修・佐々木英二・中原尚正・竹原弘展         |
| 編集発行機関 | 株式会社 四門 西日本・中部支社 京都支店                   |
| 所在地    | 〒600-8119 京都市下京区富小路通五条下る本塙町558-8 昭栄ビル5F |
| 発行年月日  | 2019（平成31）年3月31日                        |

| 所収遺跡          | 所在地                           | コード   |          | 北緯                | 東経                 | 調査期間                                  | 調査面積<br>(m <sup>2</sup> ) | 調査原因        |
|---------------|-------------------------------|-------|----------|-------------------|--------------------|---------------------------------------|---------------------------|-------------|
|               |                               | 市町村   | 遺跡番号     |                   |                    |                                       |                           |             |
| 平安京跡<br>西京極遺跡 | 京都市右京区<br>西院月双町<br>155、154の一部 | 26100 | 1<br>931 | 34度<br>59分<br>49秒 | 135度<br>43分<br>20秒 | 2018年<br>4月23日<br>～<br>2018年<br>6月17日 | 420m <sup>2</sup>         | 老施設建<br>設工事 |

| 所収遺跡  | 種別  | 主な時代                  | 主な遺構                                            | 主な遺物                                    | 特記事項                  |
|-------|-----|-----------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------|
| 平安京跡  | 都城跡 | 弥生時代                  | 環濠、溝、土器棺墓、土坑、柱穴、自然流路                            | 弥生土器、石器関係の石材と加工具、玉作関係の石材と加工具            | 弥生時代中期・後期における石器・玉等の製作 |
| 西京極遺跡 | 集落跡 | 飛鳥～奈良時代<br>平安時代<br>中世 | 集石遺構、溝<br>道路、道路側溝、宅地割区画溝、掘立柱建物、掘立柱柵、土坑<br>素振り溝群 | 須恵器、土師器、瓦<br>須恵器、土師器、灰釉陶器<br>陶磁器、土師器、鐵滓 |                       |

## 平安京右京六条四坊七町跡・西京極遺跡

京都市右京区西院月双町 155、154 の一部の発掘調査

発行年月日／平成31（2019）年3月31日

編集・発行／株式会社四門 西日本・中部支社 京都支店

〒600-8119

京都市下京区富小路通五条下る本塩廻町558-8 昭栄ビル5F

TEL：075-353-0116 FAX：075-353-0117

印 刷／三星商事印刷株式会社

〒604-0093

京都市中京区新町通竹脇町下る奔財天町300

TEL：075-256-0961 FAX：075-231-7141